

西成差別 実態調査報告書

財団法人ヒューマンライツ教育財団

西成差別実態調査研究会

2002年3月

はじめに

1995年鳥取県米子市民が、娘の結婚相手が西成区に住んでいるという理由で西成区役所に身元調査を依頼するという「結婚身元調査依頼差別事件」が起きました。翌年の1996年には、少女雑誌「別冊フレンド」の連載漫画の中で、主人公が話す「西成」というセリフに注釈がつけられ、「大阪の地名。気の弱い人は近づかない方が無難なところ」という解説が発覚。発見した地元中学生や多くの区民が「西成区への差別を助長するものだ」と執筆者や関係者に抗議行動が行われた「別冊フレンド差別事件」が起きました。

こうした事件は、これらを起こした当事者にも問題はあるものの西成区が抱える人権問題、社会問題の実態を見事に露呈する事件でありました。西成区民が自分たちの手で「西成区民の人権宣言」を作ろうとしていた矢先の出来事でもありました。

西成区では、部落問題をはじめ、釜ヶ崎問題、野宿生活者問題、在日外国人問題などさまざまな人権問題や社会問題が複雑に絡み合い、社会に「西成差別」を生みだし、「西成区の発展」と「区民の自立と社会参加」を妨げてきました。

当財団では、すべての人々の尊厳が確保され、自己実現できる社会の実現をめざして事業を進めてきました。特に地元の西成区への差別が日常的に繰り返されている問題の解決にむけて、「西成差別」の実態把握と解決に向けた基礎資料を得ることを目的とした「西成差別実態調査事業」に取り組むことになりました。

さっそく、大阪市立大学をはじめ関係の行政機関等の協力を得て「西成差別実態調査研究会」を発足させ、調査票の作成・実施、データの収集・分析など一連の工程に取り組みました。作業はかなり骨のおれるものとなりましたが、この度、ようやく報告書として発刊する運びとなりました。本報告書が西成差別の解決のために関係者の方々に幅広く活用されることを期待しています。

最後に、調査の実施及び報告書の作成にあたり、大阪市立大学の福原・水内先生、院生の方々をはじめ、関係の行政機関、地元の部落解放同盟西成支部の皆様には多大なご尽力をいただきました。また、本調査にご協力いただいた多くの区民、市民の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

2002（平成14）年3月

（財）ヒューマンライツ教育財団

理事長 松岡 徹

—もくじ—

はじめに	1 ページ
序章 調査の概要	5 ページ
第1章 大阪市民の「西成」差別に対する認識	9 ページ
第1節 「西成」差別をめぐる市民一般の意識の特徴	
第2節 「西成」との関係の程度から見た「西成」差別の認識	
第3節 区別に見た「西成」差別の認識	
第2章 西成区在勤者の「西成」差別に対する認識	55 ページ
第1節 アンケート回答者の属性	
第2節 「西成」のイメージと認知度	
第3節 「西成」差別見聞経験	
第4節 「西成」のイメージや差別経験による態度の違い	
第5節 「西成」差別解消策	
第6節 まとめ	
第3章 西成区民の「西成」差別に対する認識	79 ページ
第1節 回答者の特徴	
第2節 西成区民の「西成」の認知構造	
第3節 西成区民の被差別体験の構造	
第4節 旅先で「西成」を言うことの抵抗感	
第5節 地元の事業や行事への参加度からみた「西成」認知の特徴	
第6節 「西成」に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事への参加意志	
第7節 あいりん地域のあり方と差別・偏見をなくす活動への参加意志	
第8節 まとめ	
第4章 「西成」をめぐる差別の構造（1）—大阪市民一般の場合—	107 ページ
第1節 大阪市民一般が持っている「西成」イメージと「西成」差別	
第2節 市民が提案する「西成」差別対策	
第3節 総括	
第5章 「西成」をめぐる差別の構造（2）—西成区民の場合—	121 ページ
第1節 区内地域の特徴、再論	
第2節 被差別経験の諸相	
第3節 西成区民の差別意識の内面化	
第4節 西成区内の「他者」への態度	
第5節 西成区民の提起する施策	
第6節 市民意識と区民意識—「西成」差別の構造	
第6章 西成区の歴史的特徴	137 ページ
第1節 「西成」という地名の起源	
第2節 戦前の地域社会：区勢の発達と西成区の成立	
第3節 多様な住民層の流入と定住	

第4節	戦後の地域社会	
第5節	1970年代以降の「西成」	
第6節	まとめ	
第7章	西成区の社会経済的特徴	……………149 ページ
第1節	西成区の人口特性	
第2節	産業構造の特徴	
第3節	労働力人口と就業構造の特徴	
第4節	所得水準と居住空間の特性	
第5節	西成区住民の社会的特性	
第6節	生活保護	
第7節	「西成」差別と地域の社会経済的特徴	
終章	「西成」差別の構造とその解消に向けて	……………167 ページ
第1節	アンケート調査から明らかになったこと	
第2節	「西成」差別の構造	
第3節	「西成」差別解消に向けて	
第4節	むすび	
資料編Ⅰ	アンケート調査票	……………177 ページ
1.	大阪市民アンケートⅠ	
2.	大阪市民アンケートⅡ	
3.	西成区就労者アンケート	
4.	西成区民アンケート	
資料編Ⅱ	アンケート調査、単純集計結果	……………209 ページ
1.	大阪市民アンケートⅠ・Ⅱ	
2.	西成区就労者アンケート	
3.	西成区民アンケート	

序章 調査の概要

(1) 調査の目的

1996年2月、少女向けマンガ雑誌『別冊フレンド』3月号のマンガの中で、主人公の少年のセリフ「家出してからずっと西成住んどるし…」の「西成」に脚注を付け、「大阪の地名。気の弱い人は近づかない方が無難なところ」と説明された。また、1995年には、鳥取県米子市民による「西成区には色々な人種がおられ、心配…」という問い合わせが行われ、身元調査差別事件が発覚した。これらの事例が示すように、「西成」そして西成区民に対して、直接あるいは間接の差別的な言説や実態がある。

こうした実態に対して、すでに西成区人権啓発推進会では『西成区民の人権宣言』（1995年11月）を策定するなど、取り組みを進めてきた。財団法人ヒューマンライツ教育財団は、大阪市・大阪市人権啓発推進協議会の協力を得て、西成差別実態調査を行うこととなり、そのもとに西成差別実態調査研究会を設置した。同研究会は、2000年4月より1年間にわたって、「西成差別」の実態について調査を行った。

この調査は、以下の四点を明らかにすることを目的としている。第一に、「西成」に対する差別とはどのような性格を持っているのか、またそれはどの程度広がりを見せているのか、第二に、それはどのような要因によって創り出されたのか、第三に、そうした差別によって西成区民がどのような不利益をこうむっているのか、そして最後に、この差別解消にあたってどのような施策が必要なのかである。

(2) 調査方法

これらの点を明らかにするために、大阪市民、西成区民に対しアンケート調査『西成差別』に関する市民意識調査アンケート」を実施した。市民意識調査では、地域的な遠近によって「西成」に対する理解度や認識に違いがあると考え、①西成区と近隣地域を除く大阪市民を対象とした「大阪市民アンケートⅠ」、②西成区の近隣地域（西成区境界線から周辺1.0キロメートルの範囲）を対象とした「大阪市民アンケートⅡ」、さらに、③西成区内で働く市民（西成区民を除く）の場合「西成」をより身近に感じているのではないかとこの視点から、「西成区就労者アンケート」を実施した。そして、④実際に西成区で暮らす区民を対象とした「西成区民アンケート」を実施した。これら四つの市民カテゴリーから「西成」差別の具体的、多面的な側面を明らかにすることをめざした。

各アンケートでは、以下の事項について設問を設けた。

①「大阪市民アンケートⅠ」：Ⅰ. 基本的属性（10項目）、Ⅱ. 「西成」に対するイメージとその根拠（3項目）、Ⅲ. 「西成」についての知識（5項目）、Ⅳ. 西成に行ったことがあるかどうか（2項目）、Ⅴ. 「西成」に対する差別をどう思うか（6項目）、Ⅵ. あなたが住んでいる区や地元に対する愛着度（5項目）、Ⅶ. 西成差別をなくしていくためのアクション（1項目）、Ⅷ. 自由記入欄。

②「大阪市民アンケートⅡ」：「大阪市民アンケート（一般地域）」の設問に、近隣に暮らしていることにもなっている事象に関連した項目を追加した。具体的には、「問1-9 仕事に就いている方にお聞きします。あなたの就労場所は、どこですか」、「問2-11 西成区が近くにあることで、あなたはどのようなメリット（好都合なこと）やデメリット（不都合なこと）を感じていますか」、「問2-24 西成に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事があれば、参加しますか」の三つである。

③「西成区就労者アンケート」：Ⅰ. 基本的属性（7項目）、Ⅱ. 西成区に就労したときのこと（3項目）、Ⅲ. 西成区での就労経験を経ての意見（3項目）、Ⅳ. 西成区で得た西成イメージ（4項目）、Ⅴ. 西成差別をどう感じているか（8項目）、Ⅵ. 西成差別をなくしていくためのアクション（2項目）、Ⅷ. 自由記入欄。

④「西成区民アンケート」：Ⅰ. 基本的属性（9項目）、Ⅱ. 西成区での暮らし（5項目）、Ⅲ. 「西成」に対するイメージとその根拠（7項目）、Ⅳ. 「西成」についての知識（2項目）、Ⅴ. あいりん地域に行ったことがあるかどうか（3項目）、Ⅵ. 被差別体験（5項目）、Ⅶ. 「西成」に対する差別をどう思うか（8項目）、Ⅷ. 区民としてのアイデンティティ（2項目）、Ⅸ. 西成差別をなくしていくためのアクション（2項目）、Ⅹ. 自由記入欄。

(3) 調査対象人口抽出方法と回収率

「大阪市民アンケートⅠ」、「大阪市民アンケートⅡ」そして「西成区民アンケート」では、調査対象者は、住民基本台帳から無差別に抽出するとともに、大阪市各区に配置されている人権啓発推進員の紹介を受けた市民を対象とし、さらに「西成区民アンケート」では、在日本朝鮮人総联合会と在日本大韓民国民団から紹介を受けた市民をこれに加えている。他方、「西成区就労者アンケート」では、企業同和問題推進連絡会ならびに大阪府部落解放企業連合会会員企業のなかで西成区内に事業所を持つ企業に依頼して、西成区内で働く従業員に対して、調査票を配布した。そのアンケート用紙の配布数と回収数は表0-1-1の通りである。

表0-1-1 アンケート配布数・返送数および返送率

アンケート 種類	大阪市民ア ンケートⅠ	大阪市民ア ンケートⅡ	西成区 就労者 アンケート	西成区民ア ンケート	内、在日韓 国・朝鮮人	合計
配布数	4,825	1,058	580	2,409	100	8,872
回収数	1,156	160	183	330	27	1,829
居住区名回答	1,144	158				
回収率	23.7%	14.9%	31.6%	13.7%	27.0%	20.6%

回収票の中には、居住区名が不適切なものや無回答のものもあり、これらを除いた有効回答票を分析の対象とした。その総サンプル数は、大阪市民アンケートⅠ 1,144 件、大阪市民アンケートⅡ 158 件、西成区就労者アンケート 183 件、西成区民（在日韓国・朝鮮人を含む）330 件で、合計 1,829 である。また、以下で検討する各設問においても、しばしば空欄や記入不備等が見られたため、設問に応じてサンプル数が異なる場合があることを予め明記しておく。

(4) 分析の視点

「西成」差別の実態を多面的に明らかにするために、いくつかの仮説にもとづいて、我々は調査研究を進めてきた。その第一は、「大阪市民」を一元的な存在として捉えるのではなく、「西成」との関わり方を考慮して、三つにグループ化して市民意識を多面的に捉えることをめざした点である。すなわち、大阪市内一般地域住民、西成区近隣地域住民そして西成区就労者（同区外での居住で）である。他方、一言で「西成区民」と言っても、その居住地域の歴史的伝統や居住者の特性によって、いくつかの異なった意識構造があると考え、西成区民を居住地区ごとにグループ化した。これによって、被差別の対象となる「西成区民」のなかにもいくつかの異なった意識があることが明らかになるだろう。

なお、「西成区近隣地域住民の意識は大阪市内一般地域住民のそれと若干異なったものがある」という仮説は、実際には実証されなかった。しかし、区単位に見ると、きわめて特徴的な傾向があることがわかった。したがって、実際の分析では、大阪一般地域住民と近隣地域住民の合計数値（1,144 人+158 人=1,302 人）を分析の対象とし大阪市民全体の意識を分析し、その後、区単位の住民意識の比較を検討することとした。

第二に、「西成」に対して偏見や差別意識を持つ市民の意識構造をより深く理解するには、設問回答結果の数量的分析はもちろんのこと、自由記述に書かれた“本音”をいかに分析するかが重要であると考えた。したがって、この自由記述内容をいくつかの分析視点からカテゴリー化するとともに、設問回答結果との関連性を追求することで、より立体的な差別意識の形成過程や構造を明らかにすることに努めた。同じことは、西成区民の意識（被差別体験を持つ人の意識、持たない人の意識という二区分には集約できない）についても、取り組んだ。

第三に、「西成」という言説を市民がどのように差別の対象として意識するようになってきたのか、その変遷を追うことに努めた。その結果、「西成」差別がきわめて現代的な現象であることが明らかとなった。これは、言い換えれば、「西成」差別は、歴史過程で社会的につくられたものであることを示している。

第四は、西成区には、同和地区住民、在日韓国・朝鮮人、建設業日雇労働者、野宿生活者などが多いといった住民特性をもつが、そのことが「西成」差別と深い関連を持っているという仮説についてである。もちろん、これらの人々は、本来的に差別されるべき人々ではない。しかし、現代の日本社会に暮らす市民の意識のなかでは、人々の多様な差異が差別・被差別の価値観によって捉えかえされる傾向がある。もちろん西

成区民においても、決して例外ではない。このような差別の対象になりがちな人々が西成区には相対的に多いことを明らかにするとともに、こうした人口・社会的特性と「西成」差別には一定の関連があると考えられる。したがって、西成区の人口・社会的特性の分析とともに、その視点から「西成」差別を考える必要があるだろう。

こうしたいくつかの視点を考慮することによって、「西成」差別の具体的な実態と差別の本質に迫ることができるものと確信している。

（５）報告書の構成

最後に、この報告書の構成についてふれておこう。

第１章では、大阪市民一般の「西成」差別についての認識を、設問回答結果の分析を通じて明らかにした。その全体的傾向を分析するとともに、西成区あるいは西成区民との関係性の程度により市民を区分し、その比較を行った。さらに、区単位の住民意識の比較検討を行った。

第２章では、西成区就労者の「西成」についての認識を分析した。第３章では、西成区民の「西成」差別についての認識を、同じく設問回答結果にもとづいて明らかにした。

第４章と第５章では、大阪市民一般と西成区民それぞれの自由記述の分析を通して、また設問回答結果との関連性を分析することで、差別構造のより立体的・多面的な分析を行った。第６章と第７章では、アンケート調査分析はひとまずおいて、「西成」の歴史的分析和西成区の人口、社会・経済的分析を行い、西成区民のおかれている社会・経済的現状と「西成」差別の背景などを明らかにした。

最後に、終章では、「西成」差別の実態を再度整理するとともに、その克服に向けた施策について検討した。施策についての大阪市民、西成区民の見解に分析を加えるとともに、現実には何を選択できるかを検討した。さらに、「西成」差別の実態分析をふまえて、「西成」差別の解決へ向けた政策にも言及した。

なお、報告書では、対象となる五つの市民グループについての表記を、以下のように簡略化した。①西成区とその周辺地域を除く大阪市民 1144 人：「一般地域住民」、②西成区境界線から周辺 1.0 キロメートルの範囲内の住民 158 人：「近隣地域住民」、③上記「一般地域住民」と「近隣地域住民」の合計、すなわち西成区を除く全大阪市の住民 1302 人：「大阪市民一般」、④西成区就労者（同区外居住）183 人：「在勤者」、⑤西成区内の住民 330 人：「西成区住民」である。また、表を簡略化するため、総回答数のうちの不明分は掲載していない。しかし、各項目のパーセンテージの合計は不明分を含めて 100% となるように算出したので、表中の各項目のパーセント数値の和が 100% にならない場合もあることを、前もって注意しておく。

アンケート調査票（四種類）ならびに単純集計結果は、末尾に『調査報告 資料編』として掲載した。

西成差別実態調査研究会メンバーと執筆分担

研究会メンバー	大阪市立大学大学院経済学研究科 教授	福原宏幸	（代表）
	大阪市立大学大学院文学研究科 助教授	水内俊雄	
	大阪市立大学大学院文学研究科 前期博士課程 終了	花野孝史	
	大阪市立大学大学院文学研究科 後期博士課程 大学院生	若松 司	
	大阪市立大学大学院文学研究科 後期博士課程 大学院生	原口 剛	

執筆分担	第 1 章	花野孝史
	第 2 章	花野孝史
	第 3 章	水内俊雄
	第 4 章	若松 司
	第 5 章	原口 剛
	第 6 章	原口 剛
	第 7 章	福原宏幸
	終章	福原宏幸

図の作成	第 7 章の 11 点	木村義成（大阪市立大学大学院文学研究科 前期博士課程修了）
------	-------------	-------------------------------

第1章 大阪市民の「西成」差別に対する認識

本章では『西成』差別に関する市民意識調査の「大阪市民アンケートⅠ」・「大阪市民アンケートⅡ」の結果をもとに、大阪市民の持つ「西成」差別についての認識の分析を行う。第1節では、これら2つのアンケート設問回答結果から「大阪市民一般」の全般的な認識傾向を分析する。第2節では、「西成区あるいは西成区民との関係の深さ」の視点から3つのグループに分け、分析を行う。そして第3節では、市内区単位の比較分析を行い区民別の特徴を明らかにするとともに、特に西成近隣区民に注目して分析を行いたい。なお、先にも指摘したように、表を簡略化するため各設問で回答の不明分は掲載していない。しかし、各項目のパーセンテージの合計は不明分を含めて100%となるように算出したので、表中の各項目のパーセント数値の和が100%にならない場合もあることを、前もって注意しておく。

第1節 「西成」差別をめぐる市民一般の意識の特徴

(1) アンケート回答者の属性

ここでは、大阪市内「一般地域住民」有効回答数1,144人と「近隣地域住民」有効回答数158人の合計、すなわち「大阪市民一般」1,302人について分析を行う。はじめにアンケート回答者の属性を示しておこう。

表1-1-1 「大阪市民一般」の年齢構成

計	16-30 歳	31-44 歳	45-64 歳	65 歳-
1,302	164	205	541	385
100.0%	12.6%	15.7%	41.6%	29.6%

表1-1-2 男女比

計	男	女
1,302	512	789
100.0%	39.3%	60.6%

(1-1-1・1-1-2：クロス表)

		男女別		
		計	男	女
年 齢 別	計	1,302 100.0%	512 39.3%	789 60.6%
	16-30 歳	164 100.0%	68 41.5%	96 58.5%
	31-44 歳	205 100.0%	98 47.8%	106 51.7%
	45-64 歳	541 100.0%	190 35.1%	351 64.9%
	65 歳-	385 100.0%	151 39.2%	234 60.8%

P 値:0.2127

注：P 値について

P 値とは母集団に対する仮説を検証する際に、その仮説が有意か否かを示す確率である。一般的な検定では、棄却率5%とされているので、P 値が0.05 以下の場合、その仮説は有意なものであると言える。今回設定した仮説は、男女や年齢、地域別という特定の要素において、さまざまに分類した母集団間でみられる数値の差異は統計的に有意なものか否かというものである。たとえば、上記のクロス表では、男女間の数値が大きく異なっているが、P 値は0.2127 となり、表面上の数値の差異は大きくても統計的には有意と言えない。逆に、表1-1-8 ではP 値が0.0000 であり、統計的には有意といえる。つまり、設問の回答内容を見かけの数値だけで解釈するのではなく、より深く分析するために、統計的な判断材料として用いた。

表 1-1-3 世帯類型

		世帯類型						
		計	単身	夫婦のみ	夫婦と子	親と同居	3世代	その他
年齢別	計	1,302 100.0%	170 13.1%	341 26.2%	451 34.6%	127 9.8%	105 8.1%	104 8.0%
	16-30 歳	164 100.0%	45 27.4%	16 9.8%	17 10.4%	76 46.3%	2 1.2%	8 4.9%
	31-44 歳	205 100.0%	23 11.2%	28 13.7%	102 49.8%	18 8.8%	24 11.7%	10 4.9%
	45-64 歳	541 100.0%	33 6.1%	116 21.4%	277 51.2%	23 4.3%	56 10.4%	34 6.3%
	65 歳-	385 100.0%	67 17.4%	179 46.5%	54 14.0%	9 2.3%	23 6.0%	51 13.2%

P 値 : 0.0089

年齢別 P 値 : 0.0000

表 1-1-1 のように回答者年齢階層構成は、65 歳以上が約 29.6%、45 歳-64 歳が 41.6%と、45 歳以上の中老年および 65 歳以上の高齢者層で約 70%を占めており、44 歳以下の壮年・若年層が少ない。男女比（表 1-1-2）は 4:6 の割合で女性が多く、世帯類型（表 1-1-3）を見ると全体的に約 80%が何らかの形で「家庭」を持っており、単身者からの回答は少ない。年齢別に見れば、16-30 歳の若年層の約半数は「親と同居」しており、彼らの親の世代にあたる 31-44 歳・45-64 歳の壮年・中年層では、「夫婦と子」が多い。これに対し、65 歳以上の高齢者層では「夫婦のみ」という回答が多くなっている。また、単身者は 13.1%を占め、とりわけ高齢者層では 17.4%を占めている点は注目してよいであろう。

表 1-1-4 は回答者の大阪市内居住年数であるが、全体的に 50 年以上が 1/3 で 25 年以上まで含めると約 70%となり、長期の居住者が多いことがわかる。また、年齢階層別に見ても中年・高齢者層はもちろん若年層においても長期居住者が多い。

表 1-1-5 の住居形態の状況では、半数が「持家一戸建」と答えている。これは、回答者の年齢が比較的高いことや、比較的若い世代においても親世代と同居し市内に根付いている人々が多いことが影響しているのであろう。

表 1-1-4 居住年数

		居住年数					
		計	0-4 年	5-9 年	10-24 年	25-49 年	50 年-
年齢別	計	1,302 100.0%	89 6.8%	52 4.0%	197 15.1%	533 40.9%	422 32.4%
	16-30 歳	164 100.0%	45 27.4%	20 12.2%	62 37.8%	36 22.0%	0 0.0%
	31-44 歳	205 100.0%	35 17.1%	19 9.3%	62 30.2%	89 43.4%	0 0.0%
	45-64 歳	541 100.0%	8 1.5%	11 2.0%	68 12.6%	287 53.0%	167 30.9%
	65 歳-	385 100.0%	1 0.3%	1 0.3%	5 1.3%	119 30.9%	252 65.5%

P 値 : 0.0018

年齢別 P 値 : 0.0000

表 1-1-5 住居形態

計	持家 一戸建	賃貸 一戸建	分譲 マンション	公営 住宅	賃貸 マンション	民間 アパート	社宅	寮・間借	その他
1302 100.0%	640 49.2%	57 4.4%	157 12.1%	122 9.4%	158 12.1%	42 3.2%	33 2.5%	16 1.2%	72 5.5%

職業構成（表 1-1-6）を見ると、男性は会社員・女性は主婦が多いという平均的な回答が得られた。所得（表 1-1-7）もそれを反映した結果であると言える。

表 1-1-6 職業

		職業										
		計	自営	家族 従業者	会社員	公務員	パート 等	日雇	学生	専業 主婦	無職	その他
男女別	計	1,302	176	69	298	25	146	4	29	250	222	60
		100.0%	13.5%	5.3%	22.9%	1.9%	11.2%	0.3%	2.2%	19.2%	17.1%	4.6%
	男	512	120	9	208	14	8	3	13	0	103	23
		100.0%	23.4%	1.8%	40.6%	2.7%	1.6%	0.6%	2.5%	0.0%	20.1%	4.5%
	女	789	55	60	90	11	138	1	16	250	119	37
		100.0%	7.0%	7.6%	11.4%	1.4%	17.5%	0.1%	2.0%	31.7%	15.1%	4.7%

P 値：0.0000

表 1-1-7 所得

		所得				
		計	300 万円未満	300-599 万円	600-899 万円	900 万円以上
男女別	計	1,302 100.0%	384 29.5%	229 17.6%	120 9.2%	53 4.1%
	男	512 100.0%	94 18.4%	150 29.3%	98 19.1%	49 9.6%
	女	789 100.0%	290 36.8%	78 9.9%	22 2.8%	4 0.5%

P 値：0.0000

表 1-1-8 では西成区内在住の親戚・知人の有無を尋ねている。これを見ると「いる」と回答した者が約 1/3 である。居住年数別では居住年数が長いほど「いる」の割合が高くなっている。しかし、表 1-1-9 のように高齢者になると知人がいる割合が低くなるという結果も出ている。

また、設問 2-7 の「西成区訪問経験」で「訪問経験あり」と回答した者を「訪問あり」、そうでない回答者（「訪問経験なし」もしくは未回答）を「訪問なし」と分類して見てみると、「知人いる」かつ「訪問あり」383 人（総数 1,302 人に対して 29.4%）、「知人いない」かつ「訪問あり」407 人（31.3%）、「知人いない」かつ「訪問なし」453（34.8%）となっている。これに対し、「知人いる」かつ「訪問なし」は 34 人と圧倒的に少ない。つまり、知人の有無は年齢よりも居住年数と一定の相関関係を持ち、また各個人の西成訪問経験と密接な関係があることが推測できる。これら 4 つのカテゴリーの内、前者 3 つは「西成」との近さ・親近度を示しているが、この視点からの分析は重要と考えられる。したがって、これについては、次の第 2 節で分析を進めたい。

さらに、その知人の属性を見ると訪問経験の有無に関係なく「友人」・「仕事関係」という順になっている。

表 1-1-8 西成区内在住知人の有無、居住年数別・訪問経験別

		知人の有無		
		計	いる	いない
居住年数別・ 訪問経験別	計	1,302 100.0%	417 32.0%	860 66.1%
	0-4 年	89 100.0%	21 23.6%	67 75.3%
	5-9 年	52 100.0%	16 30.8%	36 69.2%
	10-24 年	197 100.0%	53 26.9%	141 71.6%
	25-49 年	533 100.0%	175 32.8%	350 65.7%
	50 年-	422 100.0%	151 35.8%	261 61.8%
	訪問あり	800 100.0%	383 47.9%	407 50.9%
	訪問なし	502 100.0%	34 6.8%	453 90.2%

居住年数別 P 値：0.0000 訪問経験別 P 値：0.0000

表 1-1-9 西成区内在住知人の有無：年齢別

		知人の有無		
		計	いる	いない
年齢別	計	1,302 100.0%	417 32.0%	860 66.1%
	16-30 歳	164 100.0%	53 32.3%	110 67.1%
	31-44 歳	205 100.0%	73 35.6%	131 63.9%
	45-64 歳	541 100.0%	192 35.5%	341 63.0%
	65 歳-	385 100.0%	98 25.5%	272 70.6%

年齢別 P 値：0.0749

(2)「西成」のイメージと認知度

ここでは「西成」についても直感的イメージ、「西成」から連想する具体的イメージ、さらに「西成」に関わる事象等の認知度について見ていこう。

表 1-1-10 は、「西成」という言葉を聞いての直感的イメージである。注目すべきはプラス評価が皆無に等しいことである。特に若年層で評価が低くマイナスが半数以上と非常に目立つ。一方、訪問経験の有無で分類すると「訪問あり」の方がマイナスの割合が高い。これは「わからない」回答の大幅減と合わせて考えると、実際に触れた西成区での経験・見聞が、その直感的イメージに大きく現れたのではないだろうか。

＜設問 2-3＞で、その直感的イメージを象徴する事柄・感じた時期・きっかけをたずねた。そして、具体的な意見記述のあった者を「西成」訪問経験の有無別に整理した。その結果（表 1-1-11）、訪問経験の有無で明らかな差異が出ている。「訪問あり」は自身の経験を踏まえて思いをはっきり述べている人が多く、その反面「わからない」の回答は著しく低下し、マイナスイメージが強いという人が多い。これに対し「訪問なし」では、マイナスイメージを持つ者は 31.9%と相対的に低い、「わからない」も 30.7%と多い。

＜単純集計表：設問 2-3-3＞の回答結果では、その直感的イメージを抱き始めた時期が「わからない」という回答が 40%以上を占めている。実際には何らかの事柄やきっかけがあったとは思われるが、無意識のうちに、いつかわからないうちに、マイナスイメージを持ってしまったと考えているということなのだろうか。これについては、再度、第 4 章でふれることにする。

表 1-1-10 「西成」についての直感的イメージ

		直感的イメージ				
		計	プラス	どちらでもない	マイナス	わからない
年齢別・訪問経験別	計	1,302 100.0%	12 0.9%	454 34.9%	547 42.0%	233 17.9%
	16-30 歳	164 100.0%	1 0.6%	55 33.5%	83 50.6%	24 14.6%
	31-44 歳	205 100.0%	3 1.5%	69 33.7%	107 52.2%	23 11.2%
	45-64 歳	541 100.0%	5 0.9%	196 36.2%	241 44.5%	79 14.6%
	65 歳-	385 100.0%	3 0.8%	132 34.3%	115 29.9%	104 27.0%
	訪問あり	800 100.0%	11 1.4%	297 37.1%	387 48.4%	79 9.9%
	訪問なし	502 100.0%	1 0.2%	157 31.3%	160 31.9%	154 30.7%

年齢別 P 値：0.0000

訪問経験別 P 値：0.0000

表 1-1-1 直感的イメージを象徴する事柄、感じた時期・きっかけ

事柄	訪問経験別		
	回答数	あり	なし
回答数	580 100.0%	402 100.0%	144 100.0%
意見 記述あり	489 84.3% (100.0%)	364 90.5% (74.4%)	93 64.6% (19.0%)

時期	訪問経験別		
	回答数	あり	なし
回答数	541 100.0%	397 100.0%	141 100.0%
意見 記述あり	305 56.4% (100.0%)	251 63.2% (82.3%)	51 36.2% (16.7%)

きっかけ	訪問経験別		
	回答数	あり	なし
回答数	537 100.0%	388 100.0%	147 100.0%
意見 記述あり	420 78.2% (100.0%)	326 84.0% (77.6%)	97 66.0% (23.1%)

注：「回答数」は、自由記述欄に意見記入があった件数と「覚えていない」の選択者の合計。

「意見記述あり」は、自由記述として具体的な内容を書いた人数。

次に、「西成」についての具体的なイメージを 11 項目にわたって聞いた。「そう思う」回答の一覧が表 1-1-12 である。その結果から全体的に「庶民的」で「交通の便がよい」場所とされていることがわかる。しかし一方で、「豊か」・「安心して暮らせる」・「閑静なところ」の 3 項目はいずれも評価が低い。また、「こわいところ」28.9%、「老朽住宅が密集」28.6%は、11 項目の中では決して高い数値となっていないが、後で「大阪市民一般」の自分の居住区に対する具体的なイメージと比較した時、その数値が極端に高いことがわかるだろう。

男女別で見た場合の回答は、大きな差異が見られなかったのでここでは省略する。年齢別に見ると、「西成」差別の根源的要素と思われる項目「こわい」では、若年層で直感的なマイナスイメージを持つ者が多かったのと同様に、「こわい」回答が多いことが特徴的である。

また、訪問経験の有無別・男女別（表 1-1-13）では、「男性・訪問あり」では「こわい」評価は 28.6%と若干低くなっているが、他の項目では大きな差は無い。しかし、各項目の「そう思う」の割合を順位付けして比較すると、男女を問わず「訪問なし」の人は 2 番目に多くの人がこの「こわい」という項目を指摘している。「こわい」という感覚は「西成への訪問経験」によって、程度裏付けられるかどうかについては即断を許さないが、この結果は見逃せない点である。

表 1-1-14 では、「西成区」と聞いて思い浮かべる地域名を尋ねた。「訪問なし」での回答数は半数以下（41.6%）であった。具体的な地名の回答では、釜ヶ崎などの「あいりん地域」に関わるものは「回答された地域名総数」のうち 23.2%を占め、最も多かった。次いで天下茶屋が 10.7%、ほぼ同数で浪速区の「新世界」とその周辺（9.8%）、次いで「新今宮」（8.0%）となっている。つまり、西成区内の「玉出」や「岸里」という中部や南部の主要地名は各々 4%程度の回答しか得られなかったのに、「新今宮」を中心とした「あいりん地域」・「新世界」周辺地域だけで 40%以上の回答が得られている。これらのことから、多くの大阪市民は「西成区＝新今宮周辺の界隈」といったイメージを相当強く抱いていることが理解できよう。

表 1-1-12 「西成」についての具体的イメージ：そう思う

(複数回答)

		「西成」の具体的イメージ：そう思う											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気 ある	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅 密集	公園 緑が 多い	交通 便利	公共 サービス 充実
年齢別・ 訪問経験別	計	1,302 100.0%	778 59.8%	212 16.3%	297 22.8%	376 28.9%	27 2.1%	77 5.9%	24 1.8%	373 28.6%	71 5.5%	496 38.1%	141 10.8%
	16-30 歳	164 100.0%	72 43.9%	13 7.9%	33 20.1%	74 45.1%	2 1.2%	4 2.4%	4 2.4%	48 29.3%	12 7.3%	41 25.0%	12 7.3%
	31-44 歳	205 100.0%	123 60.0%	32 15.6%	39 19.0%	91 44.4%	5 2.4%	11 5.4%	4 2.0%	82 40.0%	15 7.3%	81 39.5%	24 11.7%
	45-64 歳	541 100.0%	355 65.6%	97 17.9%	154 28.5%	139 25.7%	10 1.8%	30 5.5%	12 2.2%	165 30.5%	26 4.8%	225 41.6%	53 9.8%
	65 歳-	385 100.0%	226 58.7%	69 17.9%	71 18.4%	71 18.4%	10 2.6%	32 8.3%	4 1.0%	77 20.0%	18 4.7%	149 38.7%	51 13.2%
	訪問あり	800 100.0%	559 69.9%	163 20.4%	221 27.6%	235 29.4%	19 2.4%	60 7.5%	18 2.3%	276 34.5%	45 5.6%	385 48.1%	106 13.3%
	訪問なし	502 100.0%	206 41.0%	47 9.4%	71 14.1%	135 26.9%	8 1.6%	16 3.2%	7 1.4%	86 17.1%	23 4.6%	107 21.3%	32 6.4%

年齢別：「公園や緑」以外の項目全てで P 値：0.0001 以下 訪問経験別 P 値：0.0000

表 1-1-13 訪問経験別・男女別具体的イメージ：そう思う (複数回答)

		訪問経験別具体的イメージ：そう思う			
		男・訪問あり	男・訪問なし	女・訪問あり	女・訪問なし
順位	1	庶民的 261/372 70.2%	庶民的 55/109 50.5%	庶民的 298/416 71.6%	庶民的 151/307 49.2%
	2	交通便利 193/370 52.2%	こわい 38/110 34.5%	交通便利 192/420 45.7%	こわい 97/306 31.7%
	3	老朽住宅密集 158/368 42.9%	老朽住宅密集 32/108 29.6%	こわい 129/415 31.1%	交通便利 75/300 25.0%
	4	こわい 106/370 28.6%	交通便利 32/111 28.8%	活気ある 125/410 30.5%	老朽住宅密集 54/300 18.0%
	5	活気ある 96/368 26.1%	活気ある 22/107 20.6%	老朽住宅密集 118/413 28.6%	活気ある 49/297 16.5%

表 1-1-14 「西成区」で思い浮かべる地域名 (複数回答)

地域名回答	訪問経験別		
	回答数	あり	なし
回答数	1,220 100.0%	782 100.0%	411 100.0%
地域名 記述あり	888 72.8% (100.0%)	705 90.2% (79.4%)	171 41.6% (19.3%)

回答総数：2099

釜ヶ崎・あいりん・ 三角公園等	486 23.2%
天下茶屋	225 10.7%
新世界・通天閣・ ジャンジャン町等	206 9.8%
新今宮	168 8.0%
玉出	86 4.1%
岸里	86 4.1%

注：「回答数」は、自由記述欄に地域名記入があった件数と「覚えていない」の選択者の合計。「地域名記述あり」は、自由記述として具体的な地域名を書いた人数。

表1-1-15では、「西成」関連事象7項目について、回答者がどの程度で認知しているかを聞いた。表では「よく知っている」と答えた割合のみを掲載しているが、全体的には「釜ヶ崎暴動」が45.9%と半数近くが「よく知っている」と答え、次いで、TV番組の「じゃりん子チエ」・「ふたりっ子」が約40%と、これら3つの項目の認知度が高くなっている。このような傾向は、表1-1-12に照らして言えば、前者は「こわいところ」という具体的なイメージに、後者は「庶民的」というイメージにつながるものと考えられる。他方、「フレンド事件」・「勝間なんきん」は認知度がきわめて低い。また「皮革産業」は、この地域の同和地区でかつて繁栄した産業であるが、今日でも依然として認知度が高いといっていよう。

一方、男女別に見ると、男性では「釜ヶ崎暴動」が、女性では「ふたりっ子」の認知度が高い。いずれもマスコミを通じて知る機会が多いと考えられるが、男女間の関心の持ち方の違いが示されているようで、非常に興味深い結果である。訪問経験の有無別に見ると、全体的に「訪問あり」の方が各項目をよく認知しているように思われる。

いずれにしろ、「釜ヶ崎暴動」の認知度が最も高いという点が、「西成」に対する直感的イメージ＝マイナスという大阪市民一般の認識と深く関わっていることをうかがわせる結果となった。

表1-1-15 「西成」関連事象：よく知っている (複数回答)

		「西成」関連事象：よく知っている							
		計	皮革産業	フレンド事件	てんのじ村	じゃりん子チエ	勝間なんきん	釜ヶ崎暴動	ふたりっ子
男女別・訪問経験別	計	1,302 100.0%	348 26.7%	37 2.8%	179 13.7%	551 42.3%	55 4.2%	598 45.9%	517 39.7%
	男	512 100.0%	172 33.6%	11 2.1%	79 15.4%	215 42.0%	20 3.9%	300 58.6%	154 30.1%
	女	789 100.0%	173 21.9%	26 3.3%	99 12.5%	334 42.3%	34 4.3%	296 37.5%	361 45.8%
	訪問あり	800 100.0%	286 35.8%	31 3.9%	142 17.8%	399 49.9%	46 5.8%	474 59.3%	364 45.5%
	訪問なし	502 100.0%	59 11.8%	4 0.8%	34 6.8%	145 28.9%	7 1.4%	119 23.7%	148 29.5%

男女別P値：0.0000

訪問経験別P値：0.0000

表1-1-16 社会的に立場の弱い人々についての認知 (複数回答)

		社会的に立場の弱い人々					
		回答者数	高齢者	韓国・朝鮮人	中国・東南アジア出身者	同和地区住民	沖縄出身者
訪問経験別	計	1,302 100.0%	434 33.3%	182 14.0%	29 2.2%	334 25.7%	7 0.5%
	訪問あり	800 100.0%	280 35.0%	109 13.6%	17 2.1%	213 26.6%	3 0.4%
	訪問なし	502 100.0%	154 30.7%	73 14.5%	12 2.4%	121 24.1%	4 0.8%

		社会的に立場の弱い人々				
		日雇労働者	ひとり親家庭	障害者	野宿生活者	零細商工業者
訪問経験別	計	953 73.2%	48 3.7%	115 8.8%	988 75.9%	184 14.1%
	訪問あり	614 76.8%	28 3.5%	81 10.1%	637 79.6%	125 15.6%
	訪問なし	339 67.5%	20 4.0%	34 6.8%	351 69.9%	59 11.8%

訪問別P値：0.9593

西成区に居住する「社会的に立場の弱い人々」については(表1-1-16)、なんといっても「野宿生活者」と「日雇労働者」を指摘する者が全体の75%程度と圧倒的に多く、それに「高齢者」33.3%が続いている。この後に「同和地区住民」25.7%が続くがこの数値の評価は難しい。訪問経験の有無別で見ると、その

経験によって認知の度合いが大きく異なっていることがわかる。

表1-1-17では、複数回答の組み合わせを見た。そうすると、「野宿生活者」と「日雇労働者」の2つを同時に選択している者が795人(61.1%)と相当多い。また、「高齢者」を選んだ人たち(434人)は、その内300人強が「野宿生活者」と「日雇労働者」を同時に選択している。このことは、「野宿生活者」・「日雇労働者」の大半が高齢者によって占められていることが比較的正確に認識されていることを示していると言える。

表1-1-17 社会的に立場の弱い人々についての認知の複数回答の組み合わせ

	ひとり親 家庭	沖縄 出身者	韓国・ 朝鮮人	高齢者	障害者	中国・東南 アジア 出身者	同和地区 住民	日雇 労働者	野宿 生活者	零細 商工業者
ひとり親	48									
沖縄	0	7								
韓国・朝鮮人	9	2	182							
高齢者	22	0	33	434						
障害者	14	0	16	59	115					
中国・東南ア	0	0	12	7	1	29				
同和地区	8	1	82	58	26	6	334			
日雇労働者	22	5	103	304	51	11	225	953		
野宿生活者	28	5	124	326	67	22	228	795	988	
零細業者	8	1	11	37	10	0	41	143	133	184

注：この組み合わせ表の見方は、縦の列と横の行の項目が同じものどうしが重なった枠(セル)内の数値、それが、その項目を「社会的に立場の弱い人々」として選択した回答数である。例えば、横1列目・縦1行目を見ると、「ひとり親家庭」=48人であり、それは上の表1-1-16のその項目の回答数と一致する。その他の項目についても同様である。

これら各項目の回答数の下および左に並んでいる数値は、その項目を選択した回答者が、他にどのような項目と一緒に選んだのか、その回答数を表している。例えば、縦1列目・横1行目「ひとり親家庭」と横1列目・縦3行目「韓国・朝鮮人」を見ると、「ひとり親家庭」を選んだ48人のうち、9人が「韓国・朝鮮人」を同じく社会的弱者として認識し同時に選択しているということを表している。

特に大きい数値のセルを説明すると、横9列目・縦9行目「野宿生活者」を選択した988人のうち、横8列目・縦9行目の795人が「日雇労働者」を社会的弱者として同時に挙げている。また、これを逆にみると、横8列目・縦8行目「日雇労働者」を選択した953人のうち、横8列目・縦9行目の795人が「野宿生活者」も一緒に選択している、このように読み取ることができる。

ただし、この表からわかるのは、上記のように2つの組み合わせのみであり、複数回答の設問ではあるが、「ひとり親家庭」や「韓国・朝鮮人」などのみを単独で回答した数、また、2組以上の組み合わせ、この設問は「3つ選択」の複数回答なので、例えば、「野宿生活者」・「日雇労働者」・「高齢者」の3つを選択した回答者数を明らかにすることはできない。なぜなら、上記の3項目を回答した者は、縦横それぞれの項目が重なるセル、つまり、「野宿生活者と日雇労働者」(横8列目・縦9行目)・「野宿生活者と高齢者」(横4列目・縦9行目)・「日雇労働者と高齢者」(横4列目・縦8行目)の数値に計上されているからである。

以上のように、この表からわかる組み合わせは限定的なものではあるが、ある程度の傾向はうかがい知ることが可能なので掲載した。また、以下の節や章にも、同様の組み合わせ表が掲載されているが、その見方は全て同じである。

(3)「西成」訪問経験および「西成」差別見聞経験

続いて、「西成」訪問経験および「西成」差別見聞経験について考察する。表1-1-18から全体的に訪問経験のある者は61.4%と多いことがわかる。性別では、男性は73.0%が「訪問あり」としているが、女性のそれは54%にまで下がる。また、年齢別では若年層と高齢者で「訪問あり」の割合が低くなっている。

その訪問先は表1-1-19aに示されているが、「天下茶屋」が212人(12.1%)と最多で、次いで、「花園」182人(10.4%)、「岸里」181人(10.3%)、「新今宮」178人(10.2%)、「玉出」129人(7.4%)となっている。表には示していないが、特徴的なことは、「大阪市民一般」から「近隣地域住民」を除いた「一般地域住民」の場合、浪速区の「新世界」・「通天閣」を「西成区の訪問先」として挙げた者が35人と、浪速区と

西成区を混同している場合が比較的多かった。

一方、「あいりん地域」関係への訪問数（表 1-1-19b）は、第 13 位の 44 件（2.5%）にすぎず、あいりん地域のその実態について直接訪問して知っている者はごくわずかに過ぎない。

表 1-1-18 「西成」訪問経験

	男女別・年齢別						
	計	男	女	16-30 歳	31-44 歳	46-64 歳	65 歳-
計	1,302 100.0%	512 100.0%	789 100.0%	164 100.0%	205 100.0%	541 100.0%	385 100.0%
訪問あり	800 61.4% (100.0%)	374 73.0% (46.8%)	426 54.0% (53.3%)	94 57.3% (11.8%)	143 69.8% (17.9%)	371 68.6% (46.4%)	193 50.1% (24.1%)

表 1-1-19a 「西成」訪問先（上位 10 地点）（複数回答）

回答総数：1751		
「西成」訪問先上位地名	天下茶屋	212 12.1%
	花園	182 10.4%
	岸里	181 10.3%
	新今宮	178 10.2%
	玉出	129 7.4%
	新世界 (ジャンジャン町・通天閣など)	102 5.8%
	津守 (北津守・南津守など)	100 5.7%
	動物園 (地下鉄駅・公園など)	66 3.8%
	鶴見橋	59 3.4%
	今宮	53 3.0%

表 1-1-19b 「西成」訪問先のうち、あいりん地域関係

「あいりん地域」回答総数：44		
地名	釜ヶ崎	17 38.6%
	あいりん	15 34.1%
	西成警察	7 15.9%
	三角公園	5 11.4%

また、「単純集計：問 2-9 の回答」では、西成区での居住経験を聞いたが、経験者は全体で約 6%とかなり少ない。また、かつて西成区に住んでいて他区へ転出した理由で最多のものは、「その他」で挙げられた「結婚」や「子供の時なので親の都合」などであった。

西成区「近隣地区住民」のみに聞いた設問に、「近隣居住で感じるメリット（よかったこと）・デメリット（困ったこと）」がある（表 1-1-20）。そこでは 6 項目について聞いたが、各項目の「そう思う」の回答者数を見てみよう。デメリットでは、「野宿生活者が増えた」が 52.9%と圧倒的にこれを選んだ人が多く、次いで「日雇労働者が増えた」となっている。これに対し、メリットとすることは全体的に評価が低く、「物価が安い」が最も高く 28.6%である。特に「訪問経験あり」の場合でその値が高くなっている。

なお、「西成区と間違えられる」ことを不利益と感じている人が 10.2%あることに注目しておきたい。特に西成区の訪問経験のない人でそのような気持ちを抱く人が多いようである。

表 1-1-20 「西成」近隣居住でのメリット・デメリット：そう思う

		「西成」近隣居住：そう思う					
		メリット			デメリット		
		物価が安い	福祉施設等が 利用しやすい	娯楽芸能に 触れやすい	野宿生活者が 増えた	日雇労働者が 増えた	西成区と 間違えられる
男女別 訪問経験別	計	42/145 28.6%	5/145 3.4%	14/155 9.0%	81/153 52.9%	50/149 33.6%	15/147 10.2%
	男	15/57 26.3%	1/59 1.7%	8/58 13.8%	35/60 58.3%	22/59 37.3%	8/59 13.6%
	女	27/90 30.0%	4/86 4.7%	6/97 6.2%	46/93 49.5%	28/90 31.1%	7/88 8.0%
	訪問あり	39/119 32.8%	4/117 3.4%	10/118 8.5%	66/123 53.7%	41/121 33.9%	12/119 10.1%
	訪問なし	3/22 13.6%	1/21 4.8%	3/21 14.3%	11/23 47.8%	7/21 33.3%	3/21 14.3%

表 1-1-21 では、「西成」に対する差別・偏見の見聞経験を聞いた。これによると、「大阪市民一般」の 46.9%の人が「見聞経験がある」と述べている。相当多いと言ってよいだろう。男女間では見聞経験に差はあまり無かったので表には示さなかったが、年齢別では若者層（16-30 歳）・壮年層（31-44 歳）に見聞経験者が多い。社会での活動の主たる担い手である壮年層、そして次に時代の担い手である若者層に、こうした見聞経験者が多いという状況は、このまま放置すれば、「西成」に対する差別・偏見がさらに広まる可能性を示していないだろうか。大いに危惧される数値である。また、訪問経験有無別では「訪問経験あり」の半数以上 55.9%の者が「見聞経験あり」と答えている。いずれにせよ、多くの人々が何らかの「西成」への差別・偏見を見聞しているのは特筆すべきことである。

表 1-1-21 「西成」差別の見聞経験

		差別・偏見の見聞経験			
		計	ある	ない	覚えていない
年齢別・ 訪問経験別	計	1,302 100.0%	611 46.9%	431 33.1%	204 15.7%
	16-30 歳	164 100.0%	87 53.0%	44 26.8%	31 18.9%
	31-44 歳	205 100.0%	116 56.6%	50 24.4%	36 17.6%
	45-64 歳	541 100.0%	257 47.5%	184 34.0%	83 15.3%
	65 歳-	385 100.0%	150 39.0%	150 39.0%	52 13.5%
	訪問あり	800 100.0%	447 55.9%	239 29.9%	103 12.9%
	訪問なし	502 100.0%	164 32.7%	192 38.2%	101 20.1%

年齢別 P 値：0.0008 訪問経験別 P 値：0.0000

次に、このような「西成」への差別・偏見を誰からあるいはどこで見聞きしたかを尋ねた（表 1-1-22）。全体的には、「マスコミから」が圧倒的に多く（55.5%）、これに「学校・職場の友人から聞いた」35.2%、「家族から聞いた」23.1%、「近所の人から聞いた」23.1%が続く。

男女別にみると、いずれも「マスコミから」が半数以上と多いが、男性では、それと匹敵するぐらいに「学校・職場の友人から」45.3%が多い。女性の場合も、2 位は同じ「学校・職場の友人から」28.3%であるが、相対的に「家族から」24.7%・「近所の人から」25.8%が多くなっている。訪問経験の有無別で特に目を引くのが、「訪問なし」のグループでは、他の項目と比べて「マスコミから」への集中度が高く（63.3%）、いかにマスコミの影響力が大きいかを表していることがわかる。

年齢別に見ると、若年層では、「マスコミから」43.0%よりも「学校・職場の友人から」50.0%の方が多い。壮年層では、「マスコミから」と「学校・職場から」が 50%弱でほぼ拮抗しつつ、次いで「家族から聞いた」が続くが、その割合は 35.3%と相対的に高くなっている。これら対し、中高年・高齢者層では、「マスコミ

から」が60%前後と圧倒的に多く、次いで「近所の人から」「学校・職場の友人から」が続く。年齢層ごとのこれらの特徴を関連づけて推測すると、次のように言えるかもしれない。中高年や高齢者の人たちは、かつてマスコミを通じて「西成」に対する偏見・差別意識を刷り込まれた経験を持ち、近年ではそうした傾向は弱まったが、これらの年代の人たち（家庭での親として、近所の一住民として、そして職場の上司として）が若者に伝達し、かつ若者の間でさらに拡散するという傾向が読みとれる。ただし、若者においても「マスコミから」とする者が43.0%と多いことも、忘れてはならない。

いずれにしろ、「マスコミから」の影響が最も大きく、差別意識の世代間の伝達の間となりがちな「学校・職場の友達」「家族」「近所の人」を通じて、差別意識が社会的に伝達されている構造がはっきりと示された。

表 1-1-22 「西成」差別の見聞経験、どこで・誰から (複数回答)

	回答数	どこで・誰から見聞							
		家族	親戚	近所の人	学校・職場の友達	マスコミ	学校先生 職場上司	公共の 場で	覚えて いない
回答数	614	142	59	142	216	341	56	51	58
	100.0%	23.1%	9.6%	23.1%	35.2%	55.5%	9.1%	8.3%	9.4%
男	245	50	22	47	111	136	35	23	20
	100.0%	20.4%	9.0%	19.2%	45.3%	53.9%	14.3%	9.4%	8.2%
女	368	91	37	95	104	205	21	28	38
	100.0%	24.7%	10.1%	25.8%	28.3%	55.7%	5.7%	7.6%	10.3%
訪問あり	460	125	50	110	185	248	46	42	38
	100.0%	27.2%	10.9%	23.9%	40.2%	53.9%	10.0%	9.1%	8.3%
訪問なし	150	18	9	27	31	95	8	8	22
	100.0%	12.0%	6.0%	18.0%	20.7%	63.3%	5.3%	5.3%	14.7%
16-30 歳	86	22	7	10	43	37	12	2	13
	100.0%	25.6%	8.1%	11.6%	50.0%	43.0%	14.0%	2.3%	15.1%
31-44 歳	116	41	13	21	56	57	16	7	12
	100.0%	35.3%	11.2%	18.1%	48.3%	49.1%	13.8%	6.0%	10.3%
45-64 歳	258	51	22	75	82	158	17	28	21
	100.0%	19.8%	8.5%	29.1%	31.8%	61.2%	6.6%	10.9%	8.1%
65 歳+	153	28	17	36	35	89	10	14	12
	100.0%	18.3%	11.1%	23.5%	22.9%	58.2%	6.5%	9.2%	7.8%

男女別 P 値：0.0290 訪問経験別 P 値：0.0028 年齢別 P 値：0.0018

注：この設問は上記の「差別・偏見の見聞経験」の有無を踏まえてのものであるが、この設問のみへの回答も多かったため、集計に加えることにした。よって表 1-1-21 の「差別・偏見の見聞経験」とは一致しない。なお下記の表 1-1-23 も同様である。

表 1-1-23 「西成」差別を見聞しての感想 (複数回答)

	回答数	感想							
		不愉快	腹が 立った	悲しく 思った	その 通りだ	やむを 得ない	反論 した	何とも 思わない	その他
回答数	605	208	70	231	56	173	40	25	81
	100.0%	34.4%	11.6%	38.2%	9.3%	28.6%	6.6%	4.1%	13.4%
男	248	84	33	91	31	78	24	13	18
	100.0%	33.9%	13.3%	36.7%	12.5%	31.5%	9.7%	5.2%	7.3%
女	354	125	38	142	26	96	18	12	58
	100.0%	35.3%	10.7%	40.1%	7.3%	27.1%	5.1%	3.4%	16.4%
訪問あり	453	162	61	169	48	126	34	25	61
	100.0%	35.8%	13.5%	37.3%	10.6%	27.8%	7.5%	5.5%	13.5%
訪問なし	137	43	9	61	6	36	5	0	21
	100.0%	31.4%	6.6%	44.5%	4.4%	26.3%	3.6%	0.0%	15.3%

男女別 P 値：0.0061 訪問経験別 P 値：0.0096

さらに、「西成」への差別・偏見を見聞しての感想（表 1-1-23）は、どのグループの場合も「悲しく思った」38.2%、「不愉快に思った」34.4%の順で、特に差異は見られない。注目すべきはこれらに次いで、消極的容認論の「やむを得ない」28.6%という回答が多いことである。さらに、差別・偏見の現状を強く肯定する「その通り」であるという回答が9.3%もあり、特に男性では12.5%と多くなっている。

回答の組み合わせを見た表1-1-24では、「その通り」だから「やむを得ない」という人はそれほど多くなく、「悲しい」・「不愉快」だが「やむを得ない」という組み合わせが多いという結果が出てきている。つまり、差別の存在は遺憾だが、それなりの理由があると認識しているということなのであろう。

表1-1-24 「西成」差別を見聞しての感想、複数回答の組み合わせ

	その他	その通りだ	反論した	やむを得ない	何とも思わず	悲しく思った	不愉快	腹が立った
その他	81							
その通りだ	1	56						
反論した	0	1	40					
やむを得ない	5	25	2	173				
何とも思わず	0	0	0	2	25			
悲しく思った	10	10	0	39	15	231		
不愉快	11	10	1	33	17	88	208	
腹が立った	6	2	0	6	13	45	53	70

「西成」での勤務や居住についてのためらいを聞いてみた(表1-1-25、表1-1-26)。回答者自身やその子供が「西成」で勤務することへの「ためらい(抵抗感)」の有無については、男女別や訪問経験別での顕著な差異は見られなかったが、年齢別では若年層に「ためらい」を感じる者が多かった。

同様に、結婚して「西成」に居住する場合の「ためらい」についても、若年層では「勤務」以上に「ためらい」が多かった。しかし、壮年層の回答を見ると、若年層以上の多くの人が「ためらい」を感じている。この年齢層は、結婚を控えた子供を抱えた人たちであるが、これも“ある種の親心”であろうか。

表1-1-25 「西成」勤務へのためらい

		勤務へのためらい				
		計	ある	なし	何とも 言えない	わからない
年齢別	計	1302 100.0%	158 12.1%	491 37.7%	402 30.9%	194 14.9%
	16-30歳	164 100.0%	28 17.1%	53 32.3%	51 31.1%	30 18.3%
	31-44歳	205 100.0%	24 11.7%	89 43.4%	64 31.2%	25 12.2%
	45-64歳	541 100.0%	62 11.5%	216 39.9%	188 34.8%	60 11.1%
	65歳-	385 100.0%	43 11.2%	131 34.0%	99 25.7%	77 20.0%

年齢別 P 値 : 0.0000

表1-1-26 「西成」居住へのためらい

		居住へのためらい				
		計	ある	なし	何とも 言えない	わからない
年齢別	計	1302 100.0%	234 18.0%	444 34.1%	396 30.4%	197 15.1%
	16-30歳	164 100.0%	37 22.6%	45 27.4%	51 31.1%	31 18.9%
	31-44歳	205 100.0%	52 25.4%	77 37.6%	53 25.9%	23 11.2%
	45-64歳	541 100.0%	95 17.6%	197 36.4%	176 32.5%	65 12.0%
	65歳-	385 100.0%	48 12.5%	123 31.9%	116 30.1%	75 19.5%

年齢別 P 値 : 0.0000

(4) 回答者の居住区への思い

西成区ならびに西成区民に対して、以上で見てきたような認識を持つ「大阪市民一般」は、自分の暮らす区についてどのような認識を持っているのだろうか。この回答は、もちろん各区によって異なった傾向がある。その詳しい分析は第3節に譲るとして、ここでは、全体的な傾向を把握しておこう。

まず、自分の居住区名を他人に抵抗無く話せるか否かについて(表1-1-27)は、全体的に88.7%の回答者は「抵抗なし」としている。第3章で西成区民の場合の数値を詳しく分析するが、その数値も示しておいた。西成区民の場合、大阪市民一般の約半数の47.2%にすぎず、きわめて低いことがわかる。また、男女差はほとんど無かったが、高齢者では若干低くなっている。さらに、「訪問なし」の場合でも「抵抗なし」の割合が若干低くなっている。

また、逆に、居住区名を話すことに抵抗がある(「話せない」・「ほとんど話せない」・「少し抵抗がある」の合計)大阪市民一般は、83名、6.4%にすぎないが、西成区民の場合では153名、47.8%に達している。いずれにしろ、西成区民の持つ、自らの居住区に対する複雑な思いを示す結果であった。

表1-1-27 居住区名を話すことができるか

		居住区名伝達					
		計	抵抗なく話せる	少し抵抗ある	ほとんど話せない	話せない	わからない
年齢別・訪問経験別	計	1,302	1155	67	6	10	36
		100.0%	88.7%	5.1%	0.5%	0.8%	2.8%
	16-30歳	164	152	4	1	1	4
		100.0%	92.7%	2.4%	0.6%	0.6%	2.4%
	31-45歳	205	190	8	1	2	4
		100.0%	92.7%	3.9%	0.5%	1.0%	2.0%
	46-64歳	541	488	31	2	4	11
		100.0%	90.2%	5.7%	0.4%	0.7%	2.0%
訪問経験別	65歳-	385	322	23	2	3	15
		100.0%	83.6%	6.0%	0.5%	0.8%	3.9%
	訪問あり	800	732	43	3	7	9
		100.0%	91.5%	5.4%	0.4%	0.9%	1.1%
	訪問なし	502	423	24	3	3	27
		100.0%	84.3%	4.8%	0.6%	0.6%	5.4%
西成区民		320	151	107	37	9	16
		100.0%	47.2%	33.4%	11.6%	2.8%	5.0%

年齢別P値 0.0019 訪問経験別P値 0.0000

表1-1-28は、「大阪市民一般」の「西成」についての具体的イメージ(表1-1-12)と同様に、11項目について居住区の具体的イメージを聞き、そこで得られた「そう思う」の回答の一覧である。「大阪市民一般」はほとんどが自分の暮らす居住区を、西成区と同じく「庶民的」で「交通の便がよい」区であると見る傾向がある。「庶民的である」の回答の多さはいわゆる“大阪らしさ”の現れであり、「交通の便がよい」は大阪市全体の交通インフラ整備が行き届いていることを示すものであると考えられる。

しかし、西成区に対する具体的イメージと大きく異なるのは、「こわい」の項目で「そう思う」回答が4.6%と非常に少なく、「豊か」・「安心」・「閑静」の3項目で「そう思う」回答が相当見られることである。このように、「大阪市民一般」は、自分の居住区に対するイメージに比べ、相当よくないイメージを西成区に対して抱いていることがわかる。

次に、地元で行われている各種行事への参加について見ていこう。これは、地元との関わりを知るうえで、重要と考えられる。表1-1-29で「よく参加する」という回答を見ると、「区民祭」や「町内会や校区などでの催し」への参加率は約36%に達し、参加の程度は高いと言えよう。しかし、男女別では男性の方が行事への積極的参加が少ないことが目立つ。これは仕事が忙しいなどの理由が考えられよう。一方、年齢別では年齢が上がるにつれ参加率も上がるという傾向が見られる。若年層はどの行事参加も少ないが、特に「ボランティア」や「人権学習会」の参加が少ない。先に見たように差別・偏見の見聞経験を多く持つ若年層でこそ、こうした学習会への参加が望まれるが、現実はそのとは大きく隔たっている。逆に高齢者でおおむね半数が積極的に参加しているのは、町内会などの地域コミュニティに責任を持つ立場で参加している人が多

いことの結果であろう。

表 1-1-28 居住区についての具体的イメージ：そう思う (複数回答)

		居住区についての具体的イメージ：そう思う											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気 ある	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅 密集	公園 緑が 多い	交通 便利	公共 サービス 充実
男女別・年齢別	計	1302 100.0%	925 71.0%	502 38.6%	391 30.0%	60 4.6%	210 16.1%	705 54.1%	333 25.6%	199 15.3%	412 31.6%	970 74.5%	308 23.7%
	男	512 100.0%	348 68.0%	196 38.3%	135 26.4%	31 6.1%	71 13.9%	260 50.8%	141 27.5%	102 19.9%	152 29.7%	369 72.1%	110 21.5%
	女	789 100.0%	584 74.0%	310 39.3%	256 32.4%	30 3.8%	142 18.0%	452 57.3%	197 25.0%	98 12.4%	264 33.5%	607 76.9%	199 25.2%
	16-30 歳	164 100.0%	105 64.0%	38 23.2%	47 28.7%	11 6.7%	30 18.3%	80 48.8%	44 26.8%	19 11.6%	44 26.8%	110 67.1%	22 13.4%
	31-44 歳	205 100.0%	139 67.8%	69 33.7%	65 31.7%	19 9.3%	33 16.1%	94 45.9%	56 27.3%	35 17.1%	64 31.2%	155 75.6%	28 13.7%
	45-64 歳	541 100.0%	403 74.5%	225 41.6%	165 30.5%	22 4.1%	87 16.1%	303 56.0%	138 25.5%	87 16.1%	176 32.5%	425 78.6%	128 23.7%
	65 歳-	385 100.0%	275 71.4%	168 43.6%	112 29.1%	8 2.1%	59 15.3%	227 59.0%	93 24.2%	57 14.8%	127 33.0%	278 72.2%	129 33.5%
『西成』イメージ		1302 100.0%	778 59.8%	212 16.3%	297 22.8%	376 28.9%	27 2.1%	77 5.9%	24 1.8%	373 28.6%	71 5.5%	496 38.1%	141 10.8%

男女別 P 値：0.0038

年齢別 P 値：「活気がある」・「豊か」・「閑静」・「公園や緑」以外の項目は 0.001 以下

表 1-1-29 行事参加：よく参加する (複数回答)

		行事参加：よく参加する						
		計	区民祭	伝統的 行事	町内会 催し	ボラン ティア活動	人権 学習会	その他
男女別・年齢別	計	1302 100.0%	471 36.2%	389 29.9%	479 36.8%	392 30.1%	375 28.8%	153 11.8%
	男	512 100.0%	139 27.1%	129 25.2%	159 31.1%	118 23.0%	110 21.5%	53 10.4%
	女	789 100.0%	334 42.3%	263 33.3%	323 40.9%	275 34.9%	267 33.8%	101 12.8%
	16-30 歳	164 100.0%	6 3.7%	11 6.7%	9 5.5%	3 1.8%	2 1.2%	1 0.6%
	31-44 歳	205 100.0%	24 11.7%	33 16.1%	38 18.5%	12 5.9%	7 3.4%	6 2.9%
	45-64 歳	541 100.0%	226 41.8%	170 31.4%	222 41.0%	183 33.8%	175 32.3%	77 14.2%
	65 歳-	385 100.0%	212 55.1%	173 44.9%	208 54.0%	192 49.9%	188 48.8%	68 17.7%

男女別 P 値：0.0001

年齢別 P 値：0.0000

ところで、こうした行事への参加、とりわけ「福祉などのボランティア」や「人権に関する学習会」への参加の有無によって、「西成」に対する認識も異なるものなのだろうか。この点を検証してみた。表 1-1-30 (a、b、c) の 3 つの表では、「区民祭」・「ボランティア活動」・「人権学習会」それぞれへの参加の有無と、『西成』イメージ：こわいとの相関関係を見た。すると、いずれの行事にもよく参加する人ほど『西成』イメージ：こわいという認識を持つ人の割合が低くなっている。同様に、「そう思わない」という認識を持つ人の割合も高くなっている。とりわけ、「ボランティア活動」や「人権学習会」への参加者では、「区民祭」参加者に比べ、その傾向がはっきりと出てきている。

表 1-1-30 a 区民祭参加経験と、「西成」イメージ：こわい

		「区民祭」参加経験			
		計	よく参加する	たまに参加する	参加したことない
イメージ「こわい」	計	1,302 100.0%	471 100.0%	379 100.0%	405 100.0%
	そう思う	376 28.9%	93 19.7%	137 36.1%	138 34.1%
	どちらともいえない	372 28.6%	136 28.9%	123 32.5%	106 26.2%
	そう思わない	279 21.4%	126 26.8%	64 16.9%	80 19.8%
	わからない	206 15.8%	92 19.5%	45 11.9%	62 15.3%

P 値：0.0000

表 1-1-30 b ボランティア参加経験と、「西成」イメージ：こわい

		「ボランティア」参加経験			
		計	よく参加する	たまに参加する	参加したことない
イメージ「こわい」	計	1,302 100.0%	392 100.0%	252 100.0%	586 100.0%
	そう思う	376 28.9%	81 20.7%	62 24.6%	223 38.1%
	どちらともいえない	372 28.6%	114 29.1%	92 36.5%	158 27.0%
	そう思わない	279 21.4%	105 26.8%	52 20.6%	111 18.9%
	わからない	206 15.8%	67 17.1%	44 17.5%	80 13.7%

P 値：0.0000

表 1-1-30 c 人権学習会参加経験と、「西成」イメージ：こわい

		「人権学習会」参加経験			
		計	よく参加する	たまに参加する	参加したことない
イメージ「こわい」	計	1,302 100.0%	375 100.0%	254 100.0%	609 100.0%
	そう思う	376 28.9%	77 20.5%	57 22.4%	234 38.4%
	どちらともいえない	372 28.6%	113 30.1%	82 32.3%	169 27.8%
	そう思わない	279 21.4%	100 26.7%	51 20.1%	118 19.4%
	わからない	206 15.8%	64 17.1%	56 22.0%	74 12.2%

P 値：0.0000

同様に、表 1-1-31 (a、b、c) でも、「区民祭」・「ボランティア活動」・「人権学習会」それぞれへの参加の有無と、「西成の直感的イメージ：マイナス」との相関関係を見た。すると、ここでも、「ボランティア活動」や「人権学習会」によく参加する者は、「区民祭」への参加者に比べ、「西成」に「マイナスイメージ」を持つ傾向が低くなっている。このように、ボランティアといった社会的活動や人権学習会の受講は、「西成」への偏見・差別（そして広く差別全般の）の解消に一定の効果があることが確認できる。

表 1-1-31a 区民祭参加経験と、「西成」直感的イメージ

	「区民祭」参加経験			
	計	よく参加する	たまに参加する	参加したことない
直感的イメージ				
計	1,302 100.0%	471 100.0%	379 100.0%	405 100.0%
プラス	12 0.9%	3 0.6%	2 0.5%	5 1.2%
どちらとも いえない	454 34.9%	169 35.9%	139 36.7%	134 33.1%
マイナス	547 42.0%	178 37.8%	183 48.3%	176 43.5%
わからない	233 17.9%	99 21.0%	47 12.4%	77 19.0%

P 値 : 0.1488

表 1-1-31b ボランティア参加経験と、「西成」直感的イメージ

	「ボランティア」参加経験			
	計	よく参加する	たまに参加する	参加したことない
直感的イメージ				
計	1,302 100.0%	392 100.0%	252 100.0%	586 100.0%
プラス	12 0.9%	5 1.3%	0 0.0%	6 1.0%
どちらとも いえない	454 34.9%	145 37.0%	91 36.1%	200 34.1%
マイナス	547 42.0%	150 38.3%	108 42.9%	274 46.8%
わからない	233 17.9%	77 19.6%	44 17.5%	91 15.5%

P 値 : 0.6018

表 1-1-31c 人権学習会参加経験と、「西成」直感的イメージ

	「人権学習会」参加経験			
	計	よく参加する	たまに参加する	参加したことない
直感的イメージ				
計	1,302 100.0%	375 100.0%	254 100.0%	609 100.0%
プラス	12 0.9%	3 0.8%	2 0.8%	5 0.8%
どちらとも いえない	454 34.9%	143 38.1%	90 35.4%	205 33.7%
マイナス	547 42.0%	133 35.5%	108 42.5%	290 47.6%
わからない	233 17.9%	81 21.6%	40 15.7%	97 15.9%

P 値 : 0.2801

ところで、それぞれの居住区に対する差別・冷やかしの経験(表 1-1-32)は、73.0%の者が「ない」と答えているが、「よくある」・「まれにある」という回答の合計、すなわち「何らかの差別」を経験した人は 16.8%も得られた。この値は意外と多いと言えるかもしれないが、各区で相当の違いがあるように思える。この点は本章第3節に譲ろう。

男女差・年齢差はあまり見られなかったが、これを居住区への具体的イメージ「こわいと思う」・「そう思わない」に分けてみていくと、「こわいと思っている」人では差別や冷やかしが「よくある」・「まれにある」と回答する者の比率が高くなっている。また、『西成』差別見聞経験の有無別に見ると、「見聞あり」の方が「見聞なし」と比べて居住区差別経験が多い。これらの結果は、自らの居住区への「こわい」イメージや「西成」差別の見聞と、自分の居住区への差別・冷やかしの経験に一定の相関関係があることを示している。すなわち、被差別的経験や他区への差別の見聞という一つの経験によって、他の差別事象に対していっそう敏

感に反応するようになることを示している。

表 1-1-3 2 居住区に対する差別・冷やかし経験

		差別・冷やかし経験				
		計	よくある	まれにある	ない	わからない
差別見聞経験別	計	1,302 100.0%	34 2.6%	185 14.2%	951 73.0%	105 8.1%
	こわいと思う	60 100.0%	4 6.7%	17 28.3%	33 55.0%	4 6.7%
	こわいと思わない	865 100.0%	19 2.2%	106 12.3%	681 78.7%	53 6.1%
	西成差別見聞あり	611 100.0%	24 3.9%	113 18.5%	417 68.2%	47 7.7%
	西成差別見聞なし	431 100.0%	3 0.7%	46 10.7%	352 81.7%	26 6.0%

「こわい」イメージ別 P 値：0.0002 見聞経験別 P 値：0.0000

(5)「西成」差別解消策

「西成」差別解消策についてたずねた結果（表 1-1-3 3）で、全体的に多いのが「日雇労働者居住地区施策」36.5%、「マスコミによる宣伝」34.2%であり、さらに「西成区民の自助努力」31.4%が続く。「西成」と聞いて多くの者が新今宮周辺の地域を想起し、「西成」差別見聞で「マスコミから聞いた」という回答が多かったが、前者 2 つの施策はこれらと直接に関連していると考えてよいだろう。

男女差・年齢差は顕著ではないので、表には示さなかった。他方、訪問経験の有無別で見ると、「訪問あり」の者は、全体の平均的な回答結果に比べ、多くの回答項目でさらに強くそれらの施策の実施を求める傾向があり、とりわけ「日雇労働者居住地区施策」では、平均値より 5%高くなっている。

注目すべきは、「区民の自助努力」を挙げているのが 31.4%と多いことである。表 1-1-3 1 の回答の組み合わせからも、「マスコミによる宣伝」とともに「まちづくり」・「日雇労働者居住地区施策」といった物理的改良が求められ、さらに「西成区民の自助努力」を求める声が多かった。ややもすると差別する側に立つことになる「大阪市民一般」自身の主体的な取り組みとしては、「差別の歴史・実態の学習」や「啓発活動の推進」があるが、これらの選択者は必ずしも多くない。このように、「西成」差別の解消には、マスコミ・行政の取り組みと当事者の自助努力を中心に進めるべきとの意見に集約できるのではないだろうか。

表 1-1-3 3 「西成」差別・偏見の解消策

(複数回答)

		差別・偏見の解消策					
		回答数	差別等の学習	マスコミでの宣伝	啓発推進	集客施設建設	自助努力
訪問経験別	計	1,302 100.0%	347 26.7%	445 34.2%	248 19.0%	138 10.6%	409 31.4%
	訪問あり	800 100.0%	216 27.0%	289 36.1%	156 19.5%	95 11.9%	259 32.4%
	訪問なし	502 100.0%	131 26.1%	156 31.1%	92 18.3%	43 8.6%	150 29.9%

		差別・偏見の解消策					
		まちづくり	弱者に優しい施策	日雇労働者地区施策	同和対策外国人施策	その他	わからない
訪問経験別	計	343 26.3%	308 23.7%	475 36.5%	146 11.2%	44 3.4%	258 19.8%
	訪問あり	230 28.8%	201 25.1%	334 41.8%	101 12.6%	37 4.6%	118 14.8%
	訪問なし	113 22.5%	107 21.3%	141 28.1%	45 9.0%	7 1.4%	140 27.9%

訪問経験別 P 値 0.0000

表 1-1-34 「西成」差別解消策についての複数回答の組み合わせ

	その他	マスコミでの宣伝	まちづくり	啓発推進	差別等の学習	自助努力	弱者に優しい施策	集客施設建設	同和対策外国人施策	日雇労働者地区施策	わからない
その他	44										
マスコミでの宣伝	12	445									
まちづくり	9	124	343								
啓発推進	5	90	63	248							
差別等の学習	8	128	68	113	347						
自助努力	13	152	91	89	133	409					
弱者に優しい施策	3	115	86	58	93	90	308				
集客施設建設	3	64	61	28	27	35	37	138			
同和対策等	3	40	34	30	51	50	61	11	146		
日雇労働者地区施策	10	175	153	93	117	156	142	56	82	475	
わからない	1	14	7	3	5	11	6	2	0	4	258

最後に、西成区の「近隣地域住民」のみを対象とした質問、すなわち「西成」差別解消活動に対しての参加の意思を問うた結果を見ておこう（表 1-1-35）。その結果、「積極的参加」の意思を示している回答者は少なくなっている。しかし、「機会があれば参加」の回答者 34.2%というのは、かなり高いと言ってよいだろう。特に高齢者層で「積極的参加」・「機会があれば参加」の意思が多く、若年層も「機会があれば」という回答が多い。その意味で、西成区民はもちろん周辺区住民と協力しつつ「西成」差別解消への取り組みを実施することは可能であるように思える。課題は、こうした多くの人たちが気軽に参加できる事業企画をいかに構築するかにあると言えよう。

表 1-1-35 「西成」差別・偏見の解消活動への参加

	参加意思					
	計	積極的に参加	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない
全体	152 100.0%	6 3.9%	52 34.2%	15 9.9%	26 17.1%	53 34.9%
年齢別・差別見聞別						
16-30 歳	20 100.0%	0 0.0%	7 35.0%	3 15.0%	4 20.0%	6 30.0%
31-45 歳	24 100.0%	1 4.2%	4 16.7%	2 8.3%	7 29.2%	10 41.7%
46-64 歳	64 100.0%	1 1.6%	18 28.1%	6 9.4%	12 18.8%	27 42.2%
65 歳-	43 100.0%	4 9.3%	22 51.2%	4 9.3%	3 7.0%	10 23.3%
見聞あり	80 100.0%	4 5.0%	31 38.8%	11 13.8%	18 22.5%	16 20.0%
見聞なし	49 100.0%	2 4.1%	13 26.5%	3 6.1%	5 10.2%	26 53.1%

年齢別 P 値 0.1786 見聞経験別 P 値 0.0261

(6) 小括

「大阪市民一般」の「西成」差別に関する意識を見てきたが、以上の結果から次のようなことが明らかとなった。

まず、「西成」と聞いての直感的イメージは、マイナス評価が非常に多くプラス評価は皆無に等しい。また、一般的に「西成」についての具体的イメージは「庶民的」で「交通の便が良い」と思っているが、他方で「こわい」と思う人が多く、これと反比例して「豊か」・「安心」・「閑静」と思わない人が多かった。このようなイメージが持たれていることがはっきりした。

第二に、このような直感的なマイナスイメージや「こわい」という具体的イメージがつくられたのは、回答者が西成区を訪問したという実体験だけによるものではないということである。なるほど、「訪問あり」の者の中では直感的なマイナスイメージを持つ者が多いが、「訪問なし」の者でもマイナスイメージを持つ者が

30%もある。したがって、「西成」に対するマイナスイメージは、実際に西成区に足を運んで訪問したか否かにかかわらず、別な要因によってつくられていることが明らかとなった。これに対する回答は、「西成」に対する偏見や差別の見聞経験にあると思われる。

ところで、第三に、「西成」に関する事象の認知度を見ると、訪問経験のある者は「西成」に関する事象をよく認知しており、また社会的弱者として「日雇労働者」・「野宿生活者」などを挙げる割合が相対的に高くなっている。その意味で、彼らは、西成区の抱える困難な問題について、比較的よく理解しているということになるだろう。

第四に、西成区内の地名についての回答結果を整理しておこう。「大阪市民一般」に「西成」と聞いて思い浮かべる地域名をたずねると、「あいりん地域」関連が23%と最も多く、天下茶屋が10%で続くが、玉出や岸里という主要地名は少なく、かえって浪速区の「新世界」近辺の地名が10%も挙げられている。合計すると新今宮周辺だけで40%以上となり、「西成＝新今宮・あいりん地域・新世界」というイメージがかなり強いことが明らかとなった。しかし、実際の訪問地では、天下茶屋を挙げる者が最も多く、次いで花園、岸里であった。4位に「新今宮」が入っているが、釜ヶ崎などの「あいりん地域」に関連する地名は少なく、特に女性はほとんど「あいりん地域」の訪問経験がない。つまり、マイナスのイメージにつながる地名はよく知っているが、現実には行ったことがないというギャップが明らかとなった。

第五に、「西成」に対する偏見・差別の見聞経験であるが、その経験者は46.9%と、ほぼ半数にのぼった。こうした見聞経験の多くが、「西成」に対するマイナスイメージを作り出していると言える。すでに指摘したように、西成区の訪問経験の有無にかかわらず、「西成」に対するマイナスイメージが強い。さらにあいりん地域に行ったことのある者はごくわずかであるにもかかわらず（あいりん地域の北辺にあたる新今宮からその地域の様子を垣間見ることはあるにしても）、「西成」と言えば「あいりん地域」を思い起こし、マイナスのイメージを抱いている。これらのことは、西成区あるいはあいりん地域の訪問の有無にかかわらず、多くの市民はマイナスイメージを持っていることを示している。したがって、その要因は、差別・偏見の見聞経験に求めざるを得ない。そして実際、約半数の人々がそうした見聞経験を持つ。

見聞先では、「マスコミから」という答えが55.5%と最も多い。もちろん「家族」という世代間交流や、「近所」・「学校」・「会社」などの社会的なつながりの場が一定の割合を占めていることは否めないが、「マスコミから」の影響力の大きさは無視できないものがある。特に「訪問なし」のグループでは、他の選択項目と比べて「マスコミから」を選択した者の割合は突出していた。これも、マスコミがいかに「西成」差別に影響を与えているかを示している。

第六に、「西成」差別を聞いての感想である。「悲しい」・「不愉快」が最も多かったが、同程度に「やむを得ない」、さらには「その通りである」という回答が一定数見られる。これは「直感的イメージ：マイナス」→「差別されて当然」という意識の現れかもしれない。

以上で見てきたように、「西成」に対するマイナスイメージ、「こわい」というイメージ、そして実際に「西成」に対して偏見・差別があることが確認されたが、こうした事柄にもとづいて西成区内での勤務や居住に対する忌避感を抱いている者も多いことがわかった。「居住区名伝達」で聞いた「ためらい」の選択者割合の、「大阪市民一般」と「西成区民」の比較を見ると、西成区民もまた、自らの区名を語ることに忌避感を抱いている者が多い。これは、自らが区名を語ることで、差別や冷やかしの言葉をかけられる可能性が大きいだけでなく、相手が忌避的態度を取ることがあり、それらを恐れてのことだろう。

第七に、市民がボランティアなどの社会的活動や人権学習会の受講などに参加することが、差別や偏見の解消に一定の効果があることもわかった。

最後に「西成」差別の解消策についてたずねたが、全体的に「日雇労働者居住地区施策」と「マスコミによる宣伝」という回答が多かった。これは、「西成」と聞いて直感的に思い浮かぶ地名が新今宮近辺（＝あいりん地域）であることと、差別見聞で「マスコミから」という回答が多かったことの反映であろう。その一方で、「（区画整理を含む）まちづくり」による街並みの物理的な改良や、西成区民が「自助努力」で変わっていくことも求めた回答も少なからず見られた。これらの相互関連性については、第4章の自由回答の分析でさらに詳しく検討していくことにしたい。

「社会的弱者」への適切な施策、「物理的改良」の必要性や展開方法の是非、求められている「自助努力」とは何かなど、「西成」差別解消に向けて様々なハードルが横たわっているが、西成区外の市民に対しては「マ

スコミ報道の在り方」の問題と、区外からの「西成」差別解消に向けた協力が必要となってくる。それについての参加意思は、「積極的」な者は少ないが、「機会があれば」または「側面援助」なら参加するというのが40%も見られる。とりわけ一般的に若年層は社会参加が少ないと言われ、それを証明するがごとく居住区での行事参加も低い割合となっているが、差別事象に関して言えば、それを感じ取る感覚・感性が鋭いことが差別見聞経験の多さからも推測できる。もちろん、見聞きした差別が「西成」に対する「予断や偏見」を生み忌避感を強めていることは否めないが、その感覚が今後の取り組みには欠かせないものになっていくのではないだろうか。

第2節 「西成」との関係の程度から見た「西成」差別の認識

(1) 「西成」との関係の程度からみたグループ分け

次に、「西成区あるいは西成区民との関係の深さ」の視点から、「大阪市民一般」を3つのグループに分け、それぞれのグループの「西成」差別に対する認識の違いを比較検討する。

表1-2-1は、西成区訪問経験の有無と西成区在住親戚・知人の有無との組み合わせを示している。これによると、有効回答者全員1302人に対して①「訪問あり、かつ知人等あり」の市民は383人で29.4%、②「訪問あり、しかし知人等なし」の市民は407人で31.3%、③「訪問なし、かつ知人等なし」の市民は453人で34.8%とほぼ3等分される。これに対し「訪問なし、かつ知人等あり」の市民は34人で2.6%とごくわずかであり、有意性を持たないために無視してよいだろう。したがって、①・②・③の3グループに注目して、以下では分析を進めることにする。

まず、これら3グループの位置付けであるが、①「訪問あり、かつ知人等あり」の市民は、西成区（一部の地域である可能性が高いが）をよく知り、人的交流もある。その意味で「西成」との関係が最も親密だと考えてよいだろう。これに対し、③「訪問なし、かつ知人等なし」の市民は、実際の西成区を全く知らず、当然ながら、そこに住んでいる人からも直接に話を聞く機会も持っていない。その意味で、「西成」との関係はきわめて希薄だと言ってよいだろう。そして、②「訪問あり、しかし知人等なし」の市民は、両者の中間にあると考えてよい。

以下では、①「訪問あり、かつ知人等あり」の市民を「関係性・強」グループ、②「訪問あり、しかし知人等なし」の市民を「関係性・中間」グループ、③「訪問なし、かつ知人等なし」の市民を「関係性・無」グループと略称で呼び、分析を進めていくことにしよう。

表1-2-1 西成区訪問経験の有無と西成区在住知人の有無からみたグループ分け

		知人の有無		
		あり	なし	計
訪問 経験 別	あり	383 47.9% (29.4%)	407 50.9% (31.3%)	800 100.0% (61.4%)
	なし	34 6.8% (2.6%)	453 90.2% (34.8%)	502 100.0% (38.6%)
	計	417 (32.0%)	860 (66.1%)	1,302 (100.0%)

P値：0.0000

なお、3つのグループの属性について、2点検討をしておこう。ひとつは、「関係性・強」グループと「関係性・中間」グループがどのような場所を実際に訪問しているのか、もうひとつは、過去に西成区で居住した経験があるかどうかについてである。

表1-2-2を見ると、「関係性・強」グループと、「関係性・中間」グループでは、明らかに訪問先の傾

向が異なる。前者では、天下茶屋をはじめ西成区内の中央部や南方面の訪問者が多い。ようやく 5 位に新今宮が入り、あいりん地域関連は 13 位であった。これに対し、後者は、第 1 位に新今宮が入り、5 位に浪速区の新世界、7 位に浪速区や天王寺区との境界線周辺の動物園周辺地域、そしてあいりん地域も 9 位に入った。このように、西成区や区民との関係性の強さ、すなわち西成区を訪問したといっても、知人がいるか否かによって訪問先が異なる傾向があった。そして、後者の「知人等がなくて訪れるだけだ」という人は、あいりん地域の周辺の娯楽施設や歓楽街への訪問が多い。このことが、彼らの「西成」に対するイメージや認識に微妙な相違を生むことになるのではないだろうか。

表 1-2-3 は西成区の居住経験をたずねているが、「訪問あり・知人あり」で高い。言うまでもなく、居住時に知人ができたのであろう。それよりも、奇妙なのは、「関係性・中間」グループにも居住経験有りが 15 人、3.7%存在するが、彼らはなぜ知人ができなかったのだろう。いずれにしろ、実際に居住したという経験は、全員が同じ傾向を示すわけではないが、「西成」を強く意識した回答をしていることが予測される。

表 1-2-2 「関係性・強」、「関係性・中間」グループの訪問先、上位 10 カ所＋あいりん地域（複数回答）

西成区訪問先上位地名	「関係性・強」総回答数 919		「関係性・中間」総回答数 818	
	天下茶屋	120 13.1%	新今宮	106 13.0%
	岸里	111 12.1%	天下茶屋	92 11.2%
	花園	109 11.9%	花園	73 8.9%
	玉出	80 8.7%	岸里	68 8.3%
	新今宮	67 7.3%	新世界 (ジャンジャン町・通天閣など)	63 7.7%
	津守 (北津守・南津守など)	61 6.6%	玉出	46 5.6%
	新世界 (ジャンジャン町・通天閣など)	37 4.0%	動物園 (地下鉄駅・公園など)	40 4.9%
	鶴見橋	37 4.0%	津守 (北津守・南津守など)	37 4.5%
	今池	30 3.3%	あいりん地域 (釜ヶ崎・三角公園など)	29 3.5%
	山王	26 2.8%	今宮	26 3.2%

地区等の名称	「関係性・強」 あいりん地域回答数 15 (1.6%)		「関係性・中間」 あいりん地域回答数 29 (3.5%)	
	釜ヶ崎	10 66.7%	あいりん	12 41.4%
	あいりん	3 20.0%	釜ヶ崎	7 24.1%
	西成警察	1 6.7%	西成警察	6 20.7%
	三角公園	1 6.7%	三角公園	4 13.8%

注：あいりん地域の回答数は「関係性・強」グループでは 13 位、「関係性・中間」グループでは 9 位。

表 1-2-3 西成区居住経験

		居住経験		
		計	あり	なし
グループ	関係性・強	383	56	326
		100.0%	14.6%	85.1%
	関係性・中間	407	15	390
		100.0%	3.7%	95.8%
	関係性・無	453	4	421
		100.0%	0.9%	92.9%

P 値：0.0000

(2)「西成」認知度の比較

はじめに、表1-2-4で、「西成」という言葉を聞いての直感的イメージをみてみよう。プラス評価はごく少数なので有意性に欠けるかもしれないが、関係性が強い方が多くなっている。他方、マイナス評価では、関係性が高いからといって低くなるわけではない。むしろ、約半数の人々がマイナス評価を明確にしていると言えそうだ。

他方、「関係性・無」グループで、「わからない」の回答者が30.2%と圧倒的に多く、「どちらとも言えない」もマイナス評価にほぼ匹敵する人数があることは、判断材料が充分でないということで、多くの人が回答を留保したことを示している。

表1-2-4 「西成」についての直感的イメージ

		直感的イメージ				
		計	プラス	どちらとも いえない	マイナス	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	8 2.1%	150 39.2%	186 48.6%	28 7.3%
	関係性・中間	407 100.0%	3 0.7%	146 35.9%	200 49.1%	49 12.0%
	関係性・無	453 100.0%	1 0.2%	144 31.8%	147 32.5%	137 30.2%

次に、「西成」に対する具体的イメージについて見ていこう。ここでは、第1節の表1-1-12で際だった結果が見られた「こわい」、「安心して暮らせる」、の2項目について、比較検討していこう。まず、イメージ「こわい」について見ると(表1-2-5)、「関係性・強」グループで「そう思う」が低く「そう思わない」が高いという傾向がはっきり出ている。これに対し、「関係性・無」グループでは、「わからない」の回答者が多い(26.9%)が、「こわい」=「そう思う」と「そう思わない」の回答者数を比較すると、「そう思う」の回答者数(136人)は、「そう思わない」の回答者数(66人)の2倍以上となっている。「西成」との関係が無い人は、一方で「わからない」と答える人が一定数いるとはいえ、「思う」「思わない」だけで見ると、「こわいと思っている」人が多いという結果になっている。「西成」と直接関係を持っていないが、それを「こわい」と思う傾向が読みとれる。では、何故なのかが問われるが、その前に、「西成」のイメージ「豊か」「安心して暮らせる」についても、同様に検討していこう。

表1-2-5 「西成」についての具体的イメージ：こわい

		具体的イメージ「こわい」				
		計	そう思う	どちらとも いえない	思わない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	92 24.0%	137 35.8%	117 30.5%	27 7.0%
	関係性・中間	407 100.0%	137 33.7%	131 32.2%	83 20.4%	44 10.8%
	関係性・無	453 100.0%	136 30.0%	93 20.5%	66 14.6%	122 26.9%

表1-2-6 「西成」についての具体的イメージ：安心して暮らせる

		具体的イメージ「安心して暮らせる」				
		計	そう思う	どちらとも いえない	思わない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	42 11.0%	155 40.5%	118 30.8%	55 14.4%
	関係性・中間	407 100.0%	16 3.9%	141 34.6%	156 38.3%	82 20.1%
	関係性・無	453 100.0%	15 3.3%	90 19.9%	129 28.5%	178 39.3%

表1-2-6では、「西成」について「安心して暮らせると思うかどうか」を聞いた。相変わらず「関係性・

無」グループでは、「わからない」の回答者が多い。他方、「安心して暮らせる」の回答者は、西成区との「関係性・強」グループで最も高くなっている。これは十分に予想できたことであるが、しかし、「そう思う」と回答した回答者の実数42人（11.0%）という数値は、あまり喜んではいけない値ではないだろうか。

「西成」関連事象7項目について「よく知っている」と答えた回答数を見る（表1-2-7）と、「関係性・強」グループでどの関連事項も認知度が高くなっている。とくに、「皮革産業」や「てんのじ村」というローカルな事象については、関係性の強弱によって大きな差がある。他方、「じゃりん子チエ」、「ふたりっ子」といったTV番組、また「釜ヶ崎暴動」についてもマスコミでよく取り上げられたため、広く知られている。

表1-2-7 「西成」関連事象：よく知っている (複数回答)

		「西成」関連事象：よく知っている							
		計	皮革産業	フレンド 事件	てんのじ村	じゃりん子 チエ	勝間 なんさん	釜ヶ崎 暴動	ふたりっ子
グループ	関係性・強	383 100.0%	150 39.2%	18 4.7%	76 19.8%	191 49.9%	31 8.1%	250 65.3%	183 47.8%
	関係性・中間	407 100.0%	131 32.2%	13 3.2%	65 16.0%	201 49.4%	15 3.7%	216 53.1%	177 43.5%
	関係性・無	453 100.0%	52 11.5%	4 0.9%	31 6.8%	127 28.0%	7 1.5%	108 23.8%	133 29.4%

さらに、「社会的に立場の弱い人々」についての認知を比較してみよう。表1-2-8（a、b、c）の3つは、それを示している。どのグループでも「野宿生活者」・「日雇労働者」が最も多く、次いで「高齢者」となっており大きな違いはみられない。このことは、西成区の抱える社会的な問題については、西成区との関係性の強弱に関係なく、比較的正確に多くの人に理解されているということを意味しているだろう。

表1-2-8 a 社会的に立場の弱い人々についての認知（1）
「関係性・強」グループの複数回答の組み合わせ

	ひとり親	沖縄出身者	韓国・朝鮮人	高齢者	障害者	中国 東南アジア 出身者	同和地区 住民	日雇 労働者	野宿 生活者	零細 商工業者
ひとり親	15									
沖縄出身者	0	1								
韓国・朝鮮人	2	1	55							
高齢者	5	0	13	131						
障害者	2	0	5	22	42					
中国・東南 アジア出身者	0	0	2	2	0	6				
同和地区住民	3	0	28	17	9	1	94			
日雇労働者	10	1	27	93	22	3	59	291		
野宿生活者	11	1	38	101	27	4	61	245	304	
零細商工業者	3	0	4	10	3	0	12	56	51	68

表1-2-8 b 社会的に立場の弱い人々についての認知（2）
「関係性・中間」グループの複数回答の組み合わせ

	ひとり親	沖縄出身者	韓国・朝鮮人	高齢者	障害者	中国 東南アジア 出身者	同和地区 住民	日雇 労働者	野宿 生活者	零細 商工業者
ひとり親	13									
沖縄出身者	0	2								
韓国・朝鮮人	4	0	54							
高齢者	6	0	14	148						
障害者	5	0	6	15	39					
中国・東南 アジア出身者	0	0	4	2	1	11				
同和地区住民	3	0	25	18	11	2	115			
日雇労働者	8	1	33	109	19	6	82	314		
野宿生活者	9	1	34	116	27	9	81	267	325	
零細商工業者	2	1	5	15	4	0	15	39	39	56

表 1-2-8 c 社会的に立場の弱い人々についての認知 (3)
「関係性・無」グループの複数回答の組み合わせ

	ひとり親	沖縄出身者	韓国・朝鮮人	高齢者	障害者	中国・東南アジア出身者	同和地区住民	日雇労働者	野宿生活者	零細商工業者
ひとり親	18									
沖縄出身者	0	4								
韓国・朝鮮人	3	1	68							
高齢者	9	0	6	132						
障害者	6	0	4	19	30					
中国・東南アジア出身者	0	0	6	2	0	11				
同和地区住民	2	1	27	20	5	3	112			
日雇労働者	4	3	40	90	9	2	76	312		
野宿生活者	8	3	49	96	12	9	78	254	323	
零細商工業者	2	0	2	10	3	0	12	43	39	53

(3) 「西成」差別見聞経験の比較

次に「西成」に対する差別・偏見の見聞経験を、3グループ間で比較してみよう(表1-2-9)。西成区との「関係性・強」グループと「関係性・中間」グループでは、いずれも約55%程度の人々が差別・偏見の見聞経験を持つと回答し、かなり高い値を示した。これに対し、「関係性・無」グループは、「覚えていない」が21.2%と高く、しっかり意識的に受け止めていない人の割合が高くなっている。また、「あり」は32.5%に過ぎず、「なし」の者よりも少なかった。

このように、「西成」への差別・偏見の見聞経験の有無は、西成区との関係性の強弱によって大きく影響され異なった結果をもたらしていることがわかる。

表 1-2-9 「西成」差別の見聞経験

		差別・偏見の見聞経験			
		計	あり	なし	覚えていない
グループ	関係性・強	383 100.0%	217 56.7%	119 31.1%	43 11.2%
	関係性・中間	407 100.0%	224 55.0%	118 29.0%	58 14.3%
	関係性・無	453 100.0%	147 32.5%	169 37.3%	96 21.2%

P値: 0.0000

表 1-2-10 「西成」差別の見聞経験、どこで誰から (複数回答)

		どこで・誰から見聞							
		計	家族	親戚	近所の人	学校・職場の友達	マスコミ	学校先生 職場上司	公共の場で
グループ	関係性・強	220 100.0%	61 27.7%	32 14.5%	58 26.4%	95 43.2%	110 50.0%	28 12.7%	27 12.3%
	関係性・中間	226 100.0%	62 27.4%	18 8.0%	50 22.1%	86 38.1%	130 57.5%	18 8.0%	15 6.6%
	関係性・無	146 100.0%	15 10.3%	8 5.5%	29 19.9%	32 21.9%	91 62.3%	9 6.2%	9 6.2%

P値: 0.0001

注: この設問は上記の「差別・偏見の見聞経験」の有無を踏まえてのものであるが、この設問のみの回答および未回答が多かったため、記入された回答は全て集計に加えることにした。よって表1-2-10の「差別・偏見の見聞経験」とは一致しない。なお下記の表1-2-11も同様である。

表1-2-10は、「西成」への偏見・差別をどこであるいは誰から聞いたかを示している。いずれのグループも「マスコミから」という回答が最も多い。しかし、「関係性・強」グループと「関係性・中間」グループ

ブでは、「友達」・「家族」・「近所」からというのも相当挙げられている。これに対し、「関係性・無」では「マスコミから」回答への集中度が際だっている。

差別を見聞しての感想（表1-2-11）は、「悲しい」・「不愉快」が多いが、「やむをえない」という回答も一定の大きさがある。しかし、それぞれのグループ間で何が最も強く感じられるかについては、微妙な相違が見られる。

「関係性・強」グループでは、「不愉快に思った」が「悲しく思った」より多く、これは同じ感情表現とはいえ「悲しい」という内向的なものより「不愉快」という外向的な志向が示されている。これがさらに強くなった感情「腹が立った」は、3グループの中で最も多い。

「関係性・中間」グループでは、「悲しく思った」の次に「やむを得ない」と「不愉快に思った」の回答が来ている。相対的に「やむを得ない」の回答が多いのだが、これは実際に訪問して見聞きしつつも、「西成」との人的な関係性がないことからある程度突き放しつつ醒めた見方をしていることの結果ではないだろうか。

「関係性・無」グループでは、「悲しく思った」が最も多いが、一般的に差別的事象を見聞きして最初に感じるものが「悲しい」であると思われるが、そんな素直な気持ちを示した結果ではないだろうか。

表1-2-11 「西成」差別を見聞しての感想（複数回答）

		感想								
		計	不愉快	腹が立 った	悲しく 思った	その 通りだ	やむを 得ない	反論 した	何とも思 わない	その他
グ ル ー プ	関係性・強	216 100.0%	87 40.3%	33 15.3%	79 36.6%	25 11.6%	56 25.9%	14 6.5%	14 6.5%	28 13.0%
	関係性・中間	223 100.0%	74 33.2%	27 12.1%	85 38.1%	22 9.9%	74 33.2%	18 8.1%	11 4.9%	29 13.0%
	関係性・無	133 100.0%	39 29.3%	9 6.8%	58 43.6%	8 6.0%	37 27.8%	8 6.0%	0 0.0%	18 13.5%

P値：0.1585

次に、西成区で勤務すること、そして居住することへのためらいを聞いた（表1-2-12、表1-2-13）。いずれの場合も、極めてよく似た傾向が示された。すなわち、西成区との関係性が強いほど、勤務ならびに居住へのためらい感がないとする者の割合が高くなっている。特に、「関係性・強」グループでは、勤務・居住いずれの場合も「ためらい感なし」と回答した者が50%を超えていることの意味は大きい。

表1-2-12 「西成」勤務へのためらい

		勤務へのためらい				
		計	あり	なし	何とも言えない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	34 8.9%	203 53.0%	110 28.7%	27 7.0%
	関係性・中間	407 100.0%	54 13.3%	154 37.8%	149 36.6%	44 10.8%
	関係性・無	453 100.0%	67 14.8%	115 25.4%	131 28.9%	104 23.0%

P値：0.0000

表1-2-13 「西成」居住へのためらい

		居住へのためらい				
		計	あり	なし	何とも言えない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	56 14.6%	194 50.7%	99 25.8%	30 7.8%
	関係性・中間	407 100.0%	89 21.9%	127 31.2%	144 35.4%	43 10.6%
	関係性・無	453 100.0%	83 18.3%	104 23.0%	138 30.5%	110 24.3%

P値：0.0000

(4) 回答者の居住区への思い

さて、次に回答者自身の居住区についてどのような思いを抱いているか、「西成」の場合と比較してみよう。まずは、自分の居住区名を話すことができるかどうかである（表1-2-14）。西成区を除く大阪市民は、一般的に居住区名伝達に抵抗を持つ者は少ない。しかし、西成区との関係性の強弱の違いで、若干だが相違が見られる。すなわち、「関係性・無」のグループでは、「抵抗なく話せる」と断言する者の割合が他の2グループに比べ低くなっている。

この理由は即断できないが、以下のように考えることも可能ではないだろうか。西成区に強い関係を持っている者は、自分の居住区を考える“鏡”として西成区を見る。そうすると、「西成区に比べれば、人前で話すのに恥ずかしさは感じない」といった意識を持つからと考えられないだろうか。

表1-2-14 居住区名を話すことができるか

		居住区名伝達					
		計	抵抗なく 話せる	少し 抵抗がある	ほとんど 話せない	話せない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	356 93.0%	21 5.5%	1 0.3%	2 0.5%	2 0.5%
	関係性・中間	407 100.0%	368 90.4%	21 5.2%	2 0.5%	5 1.2%	7 1.7%
	関係性・無	453 100.0%	389 85.9%	21 4.6%	2 0.4%	3 0.7%	19 4.2%

P 値 : 0.0929

次に、自分の居住区についての具体的イメージ、ここでは「こわい」・「豊か」・「安心して暮らせる」そして「閑静なところ」の4項目について比較してみよう（表1-2-15、表1-2-16、表1-2-17、表1-2-18）。

表1-2-15 居住区についての具体的イメージ：こわい

		具体的イメージ「こわい」				
		計	そう思う	どちらとも いえない	思わない	わからない
グループ	関係性・強	383	18	78	263	6
		100.0%	4.7%	20.4%	68.7%	1.6%
	関係性・中間	407	13	78	284	15
		100.0%	3.2%	19.2%	69.8%	3.7%
	関係性・無	453	26	75	284	24
		100.0%	5.7%	16.6%	62.7%	5.3%

P 値 : 0.0748

表1-2-16 居住区についての具体的イメージ：豊か

		具体的イメージ「豊か」				
		計	そう思う	どちらとも いえない	思わない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	64 16.7%	192 50.1%	92 24.0%	16 4.2%
	関係性・中間	407 100.0%	54 13.3%	217 53.3%	83 20.4%	39 9.6%
	関係性・無	453 100.0%	81 17.9%	206 45.5%	78 17.2%	46 10.2%

P 値 : 0.0078

表 1-2-17 居住区についての具体的イメージ：安心して暮らせる

		具体的イメージ「安心して暮らせる」				
		計	そう思う	どちらとも いえない	思わない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	205 53.5%	123 32.1%	35 9.1%	9 2.3%
	関係性・中間	407 100.0%	231 56.8%	127 31.2%	30 7.4%	11 2.7%
	関係性・無	453 100.0%	236 52.1%	122 26.9%	33 7.3%	27 6.0%

P 値：0.1168

表 1-2-18 居住区についての具体的イメージ：閑静

		具体的イメージ「閑静」				
		計	そう思う	どちらとも いえない	思わない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	120 31.3%	125 32.6%	117 30.5%	6 1.6%
	関係性・中間	407 100.0%	116 28.5%	131 32.2%	138 33.9%	10 2.5%
	関係性・無	453 100.0%	85 18.8%	156 34.4%	145 32.0%	21 4.6%

P 値：0.0048

すると、「こわいと思う」・「豊かと思う」・「安心して暮らせると思う」では、必ずしも明確な傾向は出てこなかった。しかし、「閑静なところ」をたずねた表 1-2-18 では、一定の傾向が示された。すなわち、西成区と関係性の強い者は、決して閑静とは言えない西成区を訪れたことがあり、そことの比較で見れば、自分の居住区の方が閑静だと考える者が多いのではないだろうか。自己の推測を含まず、純粋に見た目の客観性だけで比較可能なものが「閑静さ」だとすれば、西成との関係性の強無の差によって、そこに明確な結論が示されたということであろう。これは、逆に言えば、他の項目は西成区を見た純粋な客観的判断だけではなく、勝手な推測や根拠の無い予断に基づく判断を混ざっている可能性を示すものである。

次に、居住区に対する差別・冷やかしの経験の有無を聞いた（表 1-2-19）。「よくある」と「まれにある」の合計を示すと、「関係性・強」グループ：18.3%、「関係性・中間」グループ：19.2%、「関係性・無」グループ：13.6%となる。すなわち、「西成」を訪問したことのある者の方が、その経験が多いということである。これは、西成区の訪問や西成区民との関わりによって差別や冷やかしに敏感になり、そのひとつの結果として、自分の居住区について言われた差別や冷やかしに敏感になるということを示しているのかもしれない。

表 1-2-19 居住区に対する差別・冷やかしの経験

		差別・冷やかしの経験				
		計	よくある	まれにある	ない	わからない
グループ	関係性・強	383 100.0%	15 3.9%	55 14.4%	288 75.2%	20 5.2%
	関係性・中間	407 100.0%	11 2.7%	67 16.5%	294 72.2%	30 7.4%
	関係性・無	453 100.0%	7 1.5%	55 12.1%	331 73.1%	47 10.4%

P 値：0.0662

（５）「西成」差別解消策

「西成」差別の解消策を 11 項目から選んでもらう（表 1-2-20）と、全体的に多いのが「日雇労働者居住地区施策」・「マスコミによる宣伝」・「西成区民の自助努力」・「区画整理などのよるまちづくり」であった。これらの組み合わせが 3 つのケースでどう変わってくるか見ると、まず、「関係性・強」グループでは「日

雇労働者居住地区施策」を中心に「マスコミによる宣伝」・「西成区民の自助努力」・「区画整理などによるまちづくり」の順となっている。一方、「関係性・中間」グループと「関係性・無」グループでは「日雇労働者居住地区施策」から「マスコミによる宣伝」・「西成区民の自助努力」という順で「高齢者等への施策」の併用も高い値を示している。また、後者では「わからない」という回答の多さも目立っている。

これらのことから、西成区を実際に訪問したことがあり、知人もいる「関係性・強」グループでは、相対的に「日雇労働者居住地区政策」や「まちづくり」といったハード面の環境改善を図る意見が強く示された。これに対し、「知人なし」の後者2つのグループでは、同じく「日雇労働者居住地区施策」を進めつつ、「西成区民の自助努力」という当事者の取り組みや「マスコミによる宣伝」と「差別の歴史の学習」といった市民意識の改革に重点を置いているように思える。

表 1-2-20 「西成」差別解消策 (複数回答)

		差別解消策					
		計	差別の歴史の学習	マスコミによる宣伝	啓発推進	集客施設建設	西成区民の自助努力
グループ	関係性・強	378 100.0%	96 25.4%	137 36.2%	63 16.7%	46 12.2%	122 32.3%
	関係性・中間	403 100.0%	115 28.5%	150 37.2%	89 22.1%	47 11.7%	136 33.7%
	関係性・無	437 100.0%	124 28.4%	146 33.4%	86 19.7%	36 8.2%	141 32.3%

		差別解消策					
		まちづくり	高齢者等への施策	日雇労働者居住地区施策	同和問題・外国人施策	その他	わからない
グループ	関係性・強	118 31.2%	82 21.7%	157 41.5%	48 12.7%	20 5.3%	58 15.3%
	関係性・中間	110 27.3%	118 29.3%	174 43.2%	53 13.2%	16 4.0%	58 14.4%
	関係性・無	105 24.0%	102 23.3%	130 29.7%	40 9.2%	6 1.4%	118 27.0%

P 値 : 0.0000

(6) 小括

以上、「大阪市民一般」を西成区や西成区民との関係性の程度の視点から3グループに分けて、分析を進めてきた。その結果を要約すると以下ようになる。

第一に、「西成」に対する直感的イメージでは、「訪問経験あり、知人等あり」のように西成区との「関係性・強」グループで、マイナスのイメージが低くなるわけではない。むしろ、約半数の人々がマイナス評価を明確にしている。しかし、このことは「西成」の具体的イメージ＝「こわい」に直ちにつながるものではなく、「関係性・強」グループでは「思わない」が高いという傾向が出ていた。

これに対し「関係性・無」グループでは、直感的イメージで「わからない」・「どちらともいえない」・「マイナスのイメージがある」に、回答者がほぼ3等分された。しかし、西成の具体的イメージ＝「こわい」に対しては、「わからない」の回答者が多いとはいえ、「そう思う」の回答者数は「そう思わない」の回答者数の2倍以上となっている。

この現象は、西成区を実際に訪れ、そして西成区居住の知人や親戚との交流を通じて、「西成」の抱える具体的な問題を知り、それが直感的なマイナスイメージを強くしているのだと考えられるが、だからといって、そのマイナスイメージは、直接的に「こわい」という具体的イメージにはあまりつながらないことを示している。むしろ、「西成」の現実を直接に知らない者の方が、他人やマスコミからの情報によって、「こわい」ところと推測しがちであることが示された。

第二に、偏見・差別の見聞先を聞いてみると、関係性の強い「訪問あり」の人々は「マスコミ」からという回答も多いが、「友達」・「家族」・「近所」からというのも相当挙げられている。これは、単に一方的な情報受信だけでなく、自分からもそれに対して情報・意見を知らず知らずのうちに発信していることを示していないだろうか。これに対し、関係性を持たない「訪問なし、知人等なし」の人々では「マスコミから」という

回答の比重が高い。これでは、一方的に偏見・差別感が助長されかねない。

事実、西成区との関係性が強いほど、「西成」勤務ならびに居住へのためらいがないとする者の割合が高くなっており、関係性のないグループでは、マスコミ等の情報をもとに「西成」へのイメージは「わからない」・「何ともいえない」と回答する者が多いにも関わらず、西成区での勤務や居住という自己に直接の利害が大きく絡む問題になると、ためらいを強くもつ人が相対的に多くなっている。「こわい」という具体的イメージと同様に、ここでも、実際に西成区の街に触れ、区民と交流を持たない人々が、推測によって「勤務しない方が無難」・「居住は止した方がよい」と考える傾向が示されている。

第三に、西成差別解消施策について整理しておこう。西成との関係性が強い人々は、「日雇労働者居住地区施策」を軸に「区画整理等まちづくり」が最も多く、その後に「マスコミによる宣伝」・「西成区民の自助努力」となっている。これに対し、関係性のないグループでは、同じく「日雇労働者居住地区施策」を重視しつつも、「区民の自助努力」と「マスコミによる宣伝」となっていた。すなわち、西成との関係性が強いグループでは、市民の意識改革を推進する以前に、現状で「問題」とされているハード面の改善が必要であると考え人が多い。

いずれにしても、この節の分析では、「西成」に対する偏見・差別の解消には、西成区のまちに実際に触れ、この街に暮らす人々との交流の場を設けることが重要であることが明らかとなった。

第3節 区別に見た「西成」差別の認識

(1) 区別アンケート回答数と回答者の属性

「大阪市民一般」を構成する2つのグループ、「一般地域住民」と「近隣地域住民」の各区別の回答数の内訳は、表1-3-1のとおりである。参考として2000年10月に実施された国勢調査の速報値の各区別人口

表1-3-1 「大阪市民一般」に含まれる各区別の回答数

	一般地域		近隣地域	人口比		一般地域		近隣地域	人口比
	人数	割合				人数	割合		
区名	計	1,147 100.0%	159 100.0%			浪速区	13 1.1%	22 13.8%	1.9%
	旭区	46 4.0%		3.8%		西区	39 3.4%		2.4%
	阿倍野区	35 3.1%	45 28.3%	4.0%		西成区	2 0.2%		
	生野区	68 5.9%	2 1.3%	5.5%		西淀川区	39 3.4%		3.6%
	北区	55 4.8%		3.5%		東住吉区	87 7.6%		5.4%
	此花区	35 3.1%		2.5%		東成区	42 3.7%		3.0%
	城東区	75 6.5%		6.1%		東淀川区	63 5.5%		7.1%
	住之江区	34 3.0%	33 20.8%	5.2%		平野区	83 7.2%		7.8%
	住吉区	78 6.8%	24 15.1%	6.2%		福島区	43 3.7%		2.1%
	大正区	18 1.6%	29 18.2%	2.9%		港区	39 3.4%		3.4%
	中央区	42 3.7%		2.1%		都島区	53 4.6%		3.7%
	鶴見区	43 3.7%		3.9%		淀川区	74 6.5%		6.3%
	天王寺区	40 3.5%	3 1.9%	2.3%					

注：アンケート返送数は1,316人（一般地域住民1,156人＋近隣地域住民160人）。このうち、居住区が書かれていなかった者を除くと、回答者総数は1,306人（1,147人＋159人）であった。ここからさらに、対象地区外居住者4人（西成区2人、大阪市内在住者2人）を除く1,302名が、今回の分析における有効回答者となる。

比率を併記した。区別の回答数は、各区の返送率に相当な差があったために、ばらつきが大きい。しかし、各区の傾向を知るには、ひとまず有効な数値であると考えられる。また、「近隣地域住民」は、阿倍野区・住之江区・住吉区・大正区・浪速区の5区を対象としてアンケートを実施したが、実際に返送された回答者の中には生野区2名、天王寺区3名が含まれていた。これらは最近の転居の結果と考えられるが、区名が記されていたため有効回答票としてカウントした。この他に、西成区在住者2人、大阪市外在住者2人の計4名の回答も見られたが、これらは分析からは除外した。以下、各設問についての回答の上位5区を表に挙げて、その結果の原因や理由を考えていく。

まず、各区居住者の基本的属性として、長期居住者の多い区を示しておこう（表1-3-2）。すでに指摘したように、「大阪市民一般」では、長期居住者が多かったが、その中でも特に周辺区かつ東西に位置する区に多いように思われる。表には無いが、最近の人口回帰現象の影響が都心部で0-4年の回答が多い。

表1-3-2 居住年数：25年以上の長期居住者

		長期在住者（1）	
		計	居住 25-49 年
区名	大正区	47 100.0%	25 53.2%
	港区	39 100.0%	20 51.3%
	生野区	70 100.0%	35 50.0%
	城東区	75 100.0%	35 46.7%
	阿倍野区	80 100.0%	37 46.3%

		長期在住者（2）	
		計	居住 50 年-
東成区	42 100.0%	19 45.2%	
鶴見区	43 100.0%	19 44.2%	
此花区	35 100.0%	15 42.9%	
北区	55 100.0%	22 40.0%	
浪速区	35 100.0%	14 40.0%	

注：23区平均 40.9%

注：23区平均 32.4%

西成区在住知人の有無を見る（表1-3-3）と、「知人がいる」割合が高いのは「西成」近隣の各区である。大正区の場合は、木津川を挟んだ対岸ということもあって、決して多くなかった。こうした親戚・知人の多い区では、以下の質問項目への回答においても、他の区とは異なった一定の傾向が見いだされるだろう。

表1-3-3 西成区在住知人の有無

		知人の有無		
		計	いる	いない
区名	住之江区	67 100.0%	41 61.2%	26 38.8%
	阿倍野区	80 100.0%	46 57.5%	32 40.0%
	浪速区	35 100.0%	19 54.3%	16 45.7%
	住吉区	102 100.0%	55 53.9%	43 42.2%
	西区	39 100.0%	18 46.2%	21 53.8%

注：「いる」者の23区平均 32.0%

（2）「西成」のイメージと認知度

はじめに、「西成」に対する直感的イメージを検討しておこう（表1-3-4）。プラス評価はわずかだが、臨海部と近隣の各区で見られるという傾向がある。しかし、実際の選択数は1~2名程度であるため、このように語ってしまうことが有意であるとは言えないかもしれない。

他方、マイナスのイメージを強く抱いている区民は、西区・西淀川区で60%を超える高い値を示しているとともに、近隣区の阿倍野区や住吉区でも高くなっている。

表 1-3-4 「西成」についての直感的イメージ

		直感的イメージ	
		計	プラス
区名	大正区	47 100.0%	2 4.3%
	住之江区	67 100.0%	2 3.0%
	浪速区	35 100.0%	1 2.9%
	此花区	35 100.0%	1 2.9%
	淀川区	74 100.0%	2 2.7%

注：23 区平均 0.9%

		直感的イメージ	
		計	マイナス
区名	西区	39 100.0%	24 61.5%
	西淀川区	39 100.0%	24 61.5%
	阿倍野区	80 100.0%	45 56.3%
	住吉区	102 100.0%	54 52.9%
	都島区	53 100.0%	26 49.1%

注：23 区平均 42.0%

「西成」の具体的イメージの全体的傾向の分析はすでに本章第 1 節でおこなったので、ここではとりわけ特徴的であった「こわいと思う」・「安心して暮らせる」についてに検討しておこう。

「こわいと思う」(表 1-3-5)は西区・東淀川区・此花区などに多いが、この回答には何らかの規則性が見られるわけではない。そして、表 1-3-6 のように「差別見聞あり」の人限定して聞いてみると、また異なった区が上位にきている。これに対し、「そう思わない」との回答では浪速区・住之江区などいくつかの近隣区が上位にきている。

表 1-3-5 「西成」についての具体的イメージ：こわい

		イメージ「こわい」	
		計	思う
区名	西区	39 100.0%	18 46.2%
	東淀川区	63 100.0%	24 38.1%
	此花区	35 100.0%	13 37.1%
	阿倍野区	80 100.0%	28 35.0%
	東成区	42 100.0%	14 33.3%
	西淀川区	39 100.0%	13 33.3%

注：23 区平均 28.9%

		イメージ「こわい」	
		計	思わない
区名	浪速区	35 100.0%	14 40.0%
	住之江区	67 100.0%	22 32.8%
	旭区	46 100.0%	13 28.3%
	住吉区	102 100.0%	28 27.5%
	生野区	70 100.0%	19 27.1%

注：23 区平均 21.4%

表 1-3-6 「西成」についての具体的イメージ：こわいと、「西成」差別見聞経験あり

		見聞あり・イメージ「こわい」	
		回答数	思う
区名	都島区	21 100.0%	12 57.1%
	東成区	18 100.0%	10 55.6%
	西区	23 100.0%	12 52.2%
	東淀川区	22 100.0%	10 45.5%
	浪速区	10 100.0%	4 40.0%

注：23 区平均 34.5%

		見聞あり・イメージ「こわい」	
		回答数	思わない
区名	住之江区	39 100.0%	14 35.9%
	東住吉区	39 100.0%	13 33.3%
	此花区	18 100.0%	6 33.3%
	鶴見区	22 100.0%	7 31.8%
	生野区	32 100.0%	10 31.3%

注：23 区平均 24.1%

次に、「安心して暮らせる」について見ると(表 1-3-7、表 1-3-8)、近隣区で「そう思う」との回答が多い。しかし、浪速区・阿倍野区だけは同時に「そう思わない」の回答者も多く、同じ区民の中でも相反した意識をしっかりと持っている住民がいることがわかる。これに対し、西成区から離れた区では、表

には示さなかったが「わからない」という回答が40%以上という場合もあった。

表1-3-7 「西成」についての具体的イメージ：安心

		イメージ「安心」	
		計	思う
区名	浪速区	35 100.0%	8 22.9%
	大正区	47 100.0%	6 12.8%
	住之江区	67 100.0%	6 9.0%
	西淀川区	39 100.0%	3 7.7%
	阿倍野区	80 100.0%	6 7.5%
	阿倍野区	80 100.0%	36 45.0%
	西区	39 100.0%	17 43.6%
	天王寺区	43 100.0%	18 41.9%
	福島区	43 100.0%	17 39.5%
	浪速区	35 100.0%	13 37.1%

注：23区平均5.9%

注：23区平均31.8%

表1-3-8 「西成」についての具体的イメージ：安心と、「西成」差別見聞経験あり

		見聞あり・イメージ「安心」	
		回答数	思う
区名	大正区	25 100.0%	3 12.0%
	中央区	17 100.0%	2 11.8%
	阿倍野区	44 100.0%	5 11.4%
	西淀川区	20 100.0%	2 10.0%
	生野区	32 100.0%	3 9.4%
	都島区	21 100.0%	11 52.4%
	天王寺区	21 100.0%	11 52.4%
	西区	23 100.0%	12 52.2%
	阿倍野区	44 100.0%	21 47.7%
	北区	26 100.0%	12 46.2%

注：23区平均5.9%

注：23区平均38.0%

「西成」関連事象の認識について、本章第1節の分析でとりわけ特徴的な傾向を示していた5項目を取り上げよう。まず、地場産業である「皮革産業」の認知度（表1-3-9）は、西成近隣区で高く、遠方の区になるにつれ「知らない」という回答が増える傾向がある。また、表には示さなかったが「てんのじ村」・「勝間なんきん」のような西成区のローカルかつ過去の事象でも同様である。

そして、「西成」差別に関わる「フレンド事件」の認知度（表1-3-10）は全体的に低い、臨海部の各区で値が高くなっている。ただし、絶対数でいえば住之江区・住吉区という近隣区が多くなっている。

表1-3-9 「西成」関連事象：皮革産業

		皮革産業	
		計	知っている
区名	浪速区	35 100.0%	16 45.7%
	港区	39 100.0%	15 38.5%
	住之江区	67 100.0%	25 37.3%
	住吉区	102 100.0%	37 36.3%
	北区	55 100.0%	19 34.5%
	西淀川区	39 100.0%	23 59.0%
	都島区	53 100.0%	30 56.6%
	淀川区	74 100.0%	41 55.4%
	旭区	46 100.0%	22 47.8%
	鶴見区	43 100.0%	20 46.5%

注：23区平均26.5%

注：23区平均36.6%

表 1-3-10 「西成」関連事象：フレンド事件

		フレンド事件	
		計	知っている
区名	住之江区	67 100.0%	6 9.0%
	此花区	35 100.0%	2 5.7%
	城東区	75 100.0%	4 5.3%
	港区	39 100.0%	2 5.1%
	住吉区	102 100.0%	5 4.9%

		フレンド事件	
		計	知らない
	西淀川区	39 100.0%	36 92.3%
	西区	39 100.0%	34 87.2%
	天王寺区	43 100.0%	36 83.7%
	中央区	42 100.0%	35 83.3%
	東住吉区	87 100.0%	72 82.8%

注：23 区平均 2.7%

注：23 区平均 76.8%

「じゃりん子チエ」と「ふたりっ子」という西成区の情景が描かれた 2 つのテレビ番組は、TV メディアというその性質柄、距離の有無に関わらず知られているものと思われる（表 1-3-11、表 1-3-12）。事実、「じゃりん子チエ」に関しては「知っている」の上位に近隣の阿倍野区が入ってはいるが、その他の区名を見る限りばらつきが見られる。一方、「ふたりっ子」は近隣各区でよく知られている。ドラマの中で見慣れた景色や街並みが見られたためであろう。

表 1-3-11 「西成」関連事象：じゃりん子チエ

		じゃりん子チエ	
		計	知っている
区名	西区	39	21
		100.0%	53.8%
	西淀川区	39	21
		100.0%	53.8%
	阿倍野区	80	41
		100.0%	51.2%
	東住吉区	87	43
		100.0%	49.4%
	天王寺区	43	21
		100.0%	48.8%

		じゃりん子チエ	
		計	知らない
	中央区	42	12
		100.0%	28.6%
	東成区	42	11
		100.0%	26.2%
	城東区	75	17
		100.0%	22.7%
	都島区	53	12
		100.0%	22.6%
	東淀川区	63	14
		100.0%	22.2%

注：23 区平均 41.8%

注：23 区平均 17.4%

表 1-3-12 「西成」関連事象：ふたりっ子

		ふたりっ子	
		計	知っている
区名	浪速区	35	22
		100.0%	62.9%
	天王寺区	43	23
		100.0%	53.5%
	平野区	83	41
		100.0%	49.4%
	阿倍野区	80	39
		100.0%	48.8%
	住吉区	102	47
		100.0%	46.1%

		ふたりっ子	
		計	知らない
	東淀川区	63	22
		100.0%	34.9%
	此花区	35	12
		100.0%	34.3%
	大正区	47	15
		100.0%	31.9%
	中央区	42	13
		100.0%	31.0%
	旭区	46	14
		100.0%	30.4%

注：23 区平均 39.3%

注：23 区平均 20.4%

「釜ヶ崎暴動」についての認知度（表 1-3-13）は、やはり実際に近所で起こったことから近隣各区が上位を占めている。逆に「知らない」と答えたのは比較的距離が遠いところである。

表 1-3-13 「西成」関連事象：釜ヶ崎暴動

		釜ヶ崎暴動	
		計	知っている
区名	阿倍野区	80 100.0%	48 60.0%
	住之江区	67 100.0%	39 58.2%
	住吉区	102 100.0%	56 54.9%
	浪速区	35 100.0%	19 54.3%
	平野区	83 100.0%	45 54.2%

		釜ヶ崎暴動	
		計	知らない
	東淀川区	63 100.0%	19 30.2%
	東住吉区	87 100.0%	18 20.7%
	淀川区	74 100.0%	15 20.3%
	中央区	42 100.0%	8 19.0%
	鶴見区	43 100.0%	8 18.6%

注：23 区平均 45.5%

注：23 区平均 14.7%

西成区の「社会的に立場の弱い人々」についての意見を見ていこう。特に多くの市民が選んだ「日雇労働者」「野宿生活者」、そして西成区に特徴的な項目である「在日韓国・朝鮮人」「同和地区住民」をここでは取り上げる。

まず、「日雇労働者」と「野宿生活者」について検討していこう（表 1-3-14）。「日雇労働者」の選択者では、近隣区は住吉区が 4 位にきているのみで釜ヶ崎に隣接する阿倍野区・浪速区や天王寺区を見ても、際だって多い値を示しているわけではない。それに対し、「野宿生活者」では天王寺区・阿倍野区が上位なのは、それぞれの区内にある天王寺公園・四天王寺、そして天王寺駅周辺で見かけることが多いからであろう。また、野宿生活者の多い大阪城公園や長居公園近辺の区でも、比較的多く「野宿生活者」を挙げている（中央区 76.2%、城東区 77.3%、東住吉区 75.9%）。あいりん地域と JR 環状線を挟んで隣接し、野宿生活者が多い浪速区が上位にきていないのは、この区の住民にとっては、日常よく見かける“見慣れた人々”として、あえて「社会的に弱い立場」とは認識されていないのかもしれない。

表 1-3-14 社会的に立場の弱い人々の認知：日雇労働者、野宿生活者

		日雇労働者	
		計	選択数
区名	生野区	70 100.0%	57 81.4%
	此花区	35 100.0%	28 80.0%
	福島区	43 100.0%	34 79.1%
	住吉区	102 100.0%	79 77.5%
	城東区	75 100.0%	58 77.3%

		野宿生活者	
		計	選択数
天王寺区	43 100.0%	38 88.4%	
阿倍野区	80 100.0%	66 82.5%	
西淀川区	39 100.0%	32 82.1%	
此花区	35 100.0%	28 80.0%	
福島区	43 100.0%	34 79.1%	

注：23 区平均 73.2%

注：23 区平均 75.9%

表 1-3-15 社会的に立場の弱い人々の認知：在日韓国・朝鮮人、同和地区住民

		在日韓国・朝鮮人	
		計	選択数
区名	福島区	43 100.0%	10 23.3%
	西区	39 100.0%	9 23.1%
	住之江区	67 100.0%	14 20.9%
	鶴見区	43 100.0%	8 18.6%
	北区	55 100.0%	10 18.2%

		同和地区住民	
		計	選択数
	此花区	35 100.0%	15 42.9%
	北区	55 100.0%	20 36.4%
	中央区	42 100.0%	15 35.7%
	鶴見区	43 100.0%	15 34.9%
	西区	39 100.0%	13 33.3%
	港区	39 100.0%	13 33.3%

注：23 区平均 14.0%

注：23 区平均 25.7%

次に、「在日韓国・朝鮮人」・「同和地区住民」を多く挙げた区を見ていこう（表１－３－１５）。「在日韓国・朝鮮人」を挙げたのが全体平均で 14.0％であるが、福島区や西区では、23％もの人々が挙げている。これに対し、在日韓国・朝鮮人人口の多い生野区と東成区の 2 区では、それぞれ 1.4％・4.8％と極端に低い値を示している。また、「同和地区住民」を弱者として挙げたのは、実際に同和地区を抱えている区では少なく、区内に同和地区が存在しない都心部の区や、その周辺の区で高いという傾向が見られた。

（３）「西成」訪問経験および「西成」差別見聞経験

西成区訪問経験では（表１－３－１６）、「訪問経験がある」と答えた者が多いのは近隣区である。特に住之江区では 90％以上が「訪問経験がある」としている。これは、大阪の都心部へ向かうには、多くの場合、西成区を通過していくことになるためかもしれない。逆に、訪問経験が最も少なかったのは旭区の 39.1％であった。

また、「居住経験がある」という回答（表１－３－１６）は、近隣 4 区ではいずれも平均値の約 2 倍、10％を超えている。

表 1-3-16 西成区訪問経験および西成区居住経験

		訪問経験				居住経験	
		計	あり			計	あり
区名	住之江区	67 100.0%	61 91.0%		住之江区	67 100.0%	11 16.4%
	阿倍野区	80 100.0%	68 85.0%		阿倍野区	80 100.0%	13 16.2%
	住吉区	102 100.0%	81 79.4%		住吉区	102 100.0%	14 13.7%
	浪速区	35 100.0%	27 77.1%		浪速区	35 100.0%	4 11.4%
	西区	39 100.0%	29 74.4%		旭区	46 100.0%	4 8.7%
	福島区	43 100.0%	32 74.4%				

注：23 区平均 61.4％

注：23 区平均 5.9％

次に、「西成」に対する差別・偏見の見聞経験を見ると（表１－３－１７）、福島区・西区・大正区といった都心に近い大阪市西部の各区と、「西成」近隣の住之江区・阿倍野区で、「見聞あり」の回答者が多い。

「見聞経験なし」では、全体的に大阪市東部各区で比率が高い。一般に隣接区では、こうした見聞は多いと考えられるが、西成区の北に位置し釜ヶ崎や同和地区に隣接している浪速区で、「見聞なし」が最も高くなっている。この点には注目しておく必要があるが、その理由は必ずしも定かではない。

西成区「訪問経験あり」の人に限定して、「見聞あり」の回答者の各区分構成を見る（表１－３－１８）と、臨海部と近隣区で高い。しかし、「見聞なし」は、全体傾向とほぼ同じである。

表 1-3-17 「西成」差別の見聞経験

		差別・偏見の見聞経験				差別・偏見の見聞経験	
		計	あり			計	なし
区名	福島区	43 100.0%	26 60.5%		浪速区	35 100.0%	21 60.0%
	西区	39 100.0%	23 59.0%		旭区	46 100.0%	25 54.3%
	住之江区	67 100.0%	39 58.2%		城東区	75 100.0%	34 45.3%
	阿倍野区	80 100.0%	44 55.0%		平野区	83 100.0%	33 39.8%
	大正区	47 100.0%	25 53.2%		都島区	53 100.0%	20 37.7%

注：23 区平均 46.9％

注：23 区平均 33.1％

表 1-3-18 「西成」差別の見聞経験と、「西成」訪問経験あり。

		訪問あり・見聞あり	
		回答数	見聞あり
区名	此花区	19 100.0%	14 73.7%
	福島区	32 100.0%	21 65.6%
	大正区	34 100.0%	22 64.7%
	住之江区	61 100.0%	39 63.9%
	北区	24 100.0%	15 62.5%

		訪問あり・見聞なし	
		回答数	見聞なし
	浪速区	27 100.0%	17 63.0%
	城東区	50 100.0%	25 50.0%
	東淀川区	24 100.0%	11 45.8%
	旭区	18 100.0%	8 44.4%
	平野区	51 100.0%	18 35.3%

注：23 区平均 55.9%

注：23 区平均 29.9%

「西成」差別の見聞経験者に対して、「誰から」あるいは「どこで」見聞きしたか問うた結果を区別に見てみよう（表 1-3-19、表 1-3-20）。まず「家族から」という回答者は、天王寺区や阿倍野区という近隣区が上位に入り、「近所から」という回答は圧倒的に近隣区で多い。同じく、「学校や職場の友達」というのも遠距離の区も入っているが近隣区で多いことは確かである。

これに対して、「マスコミで知った」を選択した回答者が多かったが、区別に、見ると、それは一転して西成区から離れた各区の値が高くなる。これらの区では「西成」訪問の経験割合も低いことから、実際には「西成」をよく知らずに、一方的なメディア等の情報によって間接的に判断し、それが差別や偏見の意識を持つ原因になっていることが推測できる。「学校の先生や職場の上司など」という回答は、全体的に多くはないが、大阪市東部の各区でよく見受けられるような感じである。

表 1-3-19 「西成」差別の見聞経験、「家族」、「近所の人」、「友達」から見聞

(複数回答)

		家族から	
		見聞経験あり	選択数
区名	天王寺区	21 100.0%	9 42.9%
	旭区	14 100.0%	5 35.7%
	西区	23 100.0%	8 34.8%
	都島区	22 100.0%	7 31.8%
	阿倍野区	47 100.0%	14 31.1%

		近所の人から	
		見聞経験あり	選択数
	浪速区	10 100.0%	4 40.0%
	住之江区	42 100.0%	15 35.7%
	阿倍野区	45 100.0%	15 33.3%
	大正区	25 100.0%	8 32.0%
	港区	16 100.0%	5 31.3%

		友達から	
		見聞経験あり	選択数
	浪速区	10 100.0%	5 50.0%
	西区	23 100.0%	11 47.8%
	東淀川区	22 100.0%	10 45.5%
	天王寺区	21 100.0%	9 42.9%
	住之江区	42 100.0%	17 40.5%

注：23 区平均 23.0%

注：23 区平均 23.0%

注：23 区平均 35.0%

表 1-3-20 「西成」差別の見聞経験、

「マスコミ」、「先生・上司」から見聞 (複数回答)

		マスコミから	
		見聞経験あり	選択数
区名	平野区	39 100.0%	28 71.8%
	鶴見区	23 100.0%	16 69.6%
	港区	16 100.0%	11 68.8%
	天王寺区	21 100.0%	14 66.7%
	此花区	18 100.0%	12 66.7%
	東淀川区	22 100.0%	14 63.6%

		先生・上司から	
		見聞経験あり	選択数
	旭区	14 100.0%	4 28.6%
	浪速区	10 100.0%	2 20.0%
	城東区	29 100.0%	5 17.2%
	生野区	32 100.0%	5 15.6%
	平野区	39 100.0%	6 15.4%

注：23 区平均 55.2%

注：23 区平均 9.1%

次の表１－３－２１と表１－３－２２は、「西成」差別を見聞しての感想である。まず差別を否定する感情では、「不愉快」という回答は天王寺区や住吉区という西成区に近い区と、大阪市臨海部と東部の区で多く見られた。その他の近隣区でも阿倍野区・住之江区がそれぞれ 40.0%・36.6%と全市平均よりも割合が高くなっているのは、差別を身近なこととして不愉快に感じたからであろう。しかし、同じ近隣区であっても、浪速区の場合は 10.0%と著しく低い結果となっている。

そして、見聞きして「腹が立った」という回答では近隣区で上位は大正区のみで、「不愉快」とは大きく異なった結果が出ている。その他の近隣区は平均以下であり、浪速区では選択した者が誰もいなかった。

続いて「悲しく思う」という回答は、都心部の区名が挙がり西成区に比較的近い区では天王寺区が上位に入っている。同じく近隣区は平均値以下で、浪速区の値は 20.0%とかなり低くなっている。

以上のことから、「西成」差別に対する各区民の態度は、いくつかの類型に分けられる。住吉区・阿倍野区そして住之江区の近隣 3 区では「不愉快」という、きっぱりした意思表示がなされつつも、感情移入型の回答「腹が立った」や「悲しく思う」は少ない。これに対し、この感情移入型の 2 つの回答項目は、比較的「西成」から遠距離の区の市民の意見に多く見られた。また、特異な位置を占めているのが浪速区である。浪速区では、いずれの回答項目も選択する者の割合は少なくなっている。

表 1-3-21 「西成」差別を見聞しての感想、「不愉快」、「腹が立った」、「悲しく思った」（複数回答）

		不愉快	
		見聞経験あり	選択数
区名	此花区	18 100.0%	11 61.1%
	天王寺区	21 100.0%	11 52.4%
	城東区	27 100.0%	12 44.4%
	住吉区	55 100.0%	24 43.6%
	旭区	14 100.0%	6 42.9%

		腹が立った	
		見聞経験あり	選択数
旭区	14 100.0%	5 35.7%	
此花区	18 100.0%	4 22.2%	
大正区	25 100.0%	5 20.0%	
鶴見区	23 100.0%	4 17.4%	
北区	26 100.0%	4 15.4%	
福島区	26 100.0%	4 15.4%	

		悲しく思う	
		見聞経験あり	選択数
中央区	17 100.0%	10 58.8%	
都島区	21 100.0%	12 57.1%	
天王寺区	21 100.0%	11 52.4%	
平野区	40 100.0%	20 50.0%	
北区	26 100.0%	13 50.0%	
城東区	27 100.0%	13 48.1%	

注：23 区平均 33.7%

注：23 区平均 11.3%

注：23 区平均 37.4%

表 1-3-22 「西成」差別を見聞しての感想、「その通りである」、「やむを得ない」、「何とも思わない」（複数回答）

		その通り				やむを得ない				何とも思わない	
		見聞経験あり	選択数			見聞経験あり	選択数			見聞経験あり	選択数
区名	東成区	18	6	旭区	14	7	浪速区	10	3		
		100.0%	33.3%		100.0%	50.0%		100.0%	30.0%		
	此花区	18	4	浪速区	10	5	鶴見区	23	3		
		100.0%	22.2%		100.0%	50.0%		100.0%	13.0%		
	浪速区	10	2	東成区	18	8	東住吉区	39	5		
		100.0%	20.0%		100.0%	44.4%		100.0%	12.8%		
	城東区	27	4	西区	23	10	福島区	26	3		
		100.0%	14.8%		100.0%	43.5%		100.0%	11.5%		
生野区	32	4	天王寺区	21	9	淀川区	38	4			
	100.0%	12.5%		100.0%	42.9%		100.0%	10.5%			
平野区	40	5	阿倍野区	45	17						
	100.0%	12.5%		100.0%	37.8%						
港区	16	2									
	100.0%	12.5%									

注：23 区平均 9.1%

注：23 区平均 28.0%

注：23 区平均 6.5%

次に、「西成」差別を容認する意識を見ていこう（表 1-3-22）。「その通りである」は全体的に選択は少なかったが、この中で東成区が著しく高くなっている。浪速区も上位 3 位に入っているが、回答者はわず

か2人である。消極的容認論の「やむを得ない」では、天王寺区・阿倍野区が上位に入り、40%前後と割合も高くなっている。これに対し、表には示さなかったが、住吉区・住之江区の割合は平均以下であった。また、無関心派である「何とも思わない」を選択した者は、全体的にごくわずかであるため一概に評価することは難しいが、浪速区が最も高い割合を示した。

回答者自身やその子供の西成区での勤務に対する「ためらい（抵抗感）」（表1-2-23a）は、ばらつきがあり一定の傾向は見出せない。西淀川区・福島区のように「ためらいあり」・「なし」の両方の上位に入っている区があることも考えると、西成区との距離や各区の固有の事情というのでは無く、あくまでも個人的感情や理由に依存するようである。

表1-3-23a 「西成」勤務へのためらい

		勤務へのためらい	
		計	あり
区名	西淀川区	39 100.0%	8 20.5%
	中央区	42 100.0%	8 19.0%
	東成区	42 100.0%	7 16.7%
	福島区	43 100.0%	7 16.3%
	天王寺区	43 100.0%	7 16.3%

注：23区平均 12.1%

		勤務へのためらい	
		計	なし
	住之江区	67 100.0%	36 53.7%
	西淀川区	39 100.0%	19 48.7%
	生野区	70 100.0%	31 44.3%
	福島区	43 100.0%	19 44.2%
	城東区	75 100.0%	32 42.7%

注：23区平均 37.7%

表1-3-23b 「西成」勤務へのためらいと、「西成」訪問経験あり

		訪問あり・勤務ためらい	
		回答者数	ためらいあり
区名	中央区	23 100.0%	6 26.1%
	東成区	22 100.0%	4 18.2%
	平野区	51 100.0%	9 17.6%
	阿倍野区	68 100.0%	12 17.6%
	東淀川区	24 100.0%	4 16.7%
	西淀川区	18 100.0%	3 16.7%

注：23区平均 11.1%

表1-3-23c 「西成」勤務へのためらいと、「西成」差別見聞経験あり

		見聞あり・勤務ためらい	
		回答者数	ためらいあり
区名	西淀川区	20 100.0%	6 30.0%
	中央区	17 100.0%	5 29.4%
	平野区	39 100.0%	9 23.1%
	東住吉区	39 100.0%	9 23.1%
	阿倍野区	44 100.0%	10 22.7%

注：23区平均 17.3%

そして、「訪問経験あり」の人に限定してみる（表1-3-23b）と、「ためらいあり」では阿倍野区が入ってくる。また、「差別見聞あり」の人の限定してみても（表1-3-23c）、同様である。表には示さなか

ったが、「勤務へのためらいなし」が半数以上を占め最も多くの割合を示した住之江区は、「訪問経験あり」に限っても 57.4%、「差別見聞あり」に限っても 59.0%という結果で、「ためらいなし」が高い値を示している。これは、住之江区が西成区南部と隣接しているという地理的要因によるせいかもしれない。

引き続き、西成区での居住についての「ためらい（抵抗感）」の有無をたずねた（表 1-3-24）。都心部で高い抵抗値を示しているが、天王寺区・阿倍野区が「ためらいあり」の回答者が多く、これに対し住之江区・住吉区が「ためらいなし」の上位に入っている。中でも住之江区は半数以上が「抵抗なし」と答えている。こちら「訪問経験あり」と「差別見聞あり」に限って回答者の内訳を示したが、いずれも天王寺区・阿倍野区が「ためらいあり」の上位に入り、表には無いが「勤務ためらい」と同様に住之江区は「ためらいなし」がさらに強く（「訪問経験あり」57.4%、「差別見聞あり」59.0%）示された。また、住吉区も「訪問経験あり」で「ためらいなし」上位に入っている。

表 1-3-24a 「西成」居住へのためらい

		居住へのためらい	
		計	あり
区名	天王寺区	43 100.0%	14 32.6%
	福島区	43 100.0%	12 27.9%
	中央区	42 100.0%	11 26.2%
	西区	39 100.0%	10 25.6%
	阿倍野区	80 100.0%	19 23.7%

注：23 区平均 18.0%

		居住へのためらい	
		計	なし
区名	住之江区	67 100.0%	36 53.7%
	生野区	70 100.0%	29 41.4%
	住吉区	102 100.0%	42 41.2%
	城東区	75 100.0%	30 40.0%
	東住吉区	87 100.0%	34 39.1%

注：23 区平均 34.1%

表 1-3-24b 「西成」居住へのためらいと、「西成」訪問経験あり

		訪問あり・居住ためらい	
		回答者数	ためらいあり
区名	天王寺区	30 100.0%	10 33.3%
	平野区	51 100.0%	13 25.5%
	阿倍野区	68 100.0%	17 25.0%
	淀川区	33 100.0%	8 24.2%
	西区	29 100.0%	7 24.1%

注：23 区平均 18.3%

表 1-3-24c 「西成」居住へのためらいと、「西成」差別見聞経験あり

		見聞あり・居住ためらい	
		回答者数	ためらいあり
区名	中央区	17 100.0%	7 41.2%
	西区	23 100.0%	8 34.8%
	都島区	21 100.0%	7 33.3%
	天王寺区	21 100.0%	7 33.3%
	阿倍野区	44 100.0%	14 31.8%

注：23 区平均 24.4%

以上の結果から近隣区の特徴を見ると、大正区は顕著な傾向が見られないが、浪速区・阿倍野区および「西

成」隣接区ではないが比較的近い位置にある天王寺区の3区と、住吉区・住之江区の2区の間で大きな認識の差異があることがわかった。

その要因について考えると、各区民が想定している「西成」像が違うのではないかという推測に行き当たる。そこで、これら5区について、区別に「思い浮かべる（想定する）地名」と「実際に行った訪問先」の上位3つを抽出してみた（表1-3-25）。まず、「思い浮かべる地名」のトップはいずれも「あいりん地域（および関連する地名）」で一致し、共通地名として西成区北部の天下茶屋や新今宮が出てくるが、浪速区・阿倍野区・天王寺区の特徴として「新世界（および関連する地名）」を思い浮かべることが多く、これに対し住之江区では西成区南部の岸里・玉出が上位に挙げられている。また、実際の訪問先を見ると、おしなべて「天下茶屋」の回答者が多いが、浪速区・阿倍野区では西成区北部の花園が、天王寺区では新今宮・新世界など「あいりん地域」近辺が上位に来ている。しかし、住之江区・住吉区では西成区南部の岸里・玉出・花園が多くな

表1-3-25 5区区民（浪速区・阿倍野区・天王寺区・住之江区・住吉区）が
思い浮かべる「西成」地名と、「西成」訪問経験者の訪問先との差異

浪速区（回答数 65）			浪速区（回答数 64）			阿倍野区（回答数 171）			阿倍野区（回答数 70）		
思い浮かべる地名		選択数	訪問経験者訪問先		選択数	思い浮かべる地名		選択数	訪問経験者訪問先		選択数
地名	あいりん地域	10 15.4%	天下茶屋	9 14.1%	あいりん地域	47 27.5%	天下茶屋	26 15.3%			
	天下茶屋	10 15.4%	花園	9 14.1%	天下茶屋	21 12.3%	岸里	23 13.5%			
	新世界	5 7.7%	岸里	8 12.5%	新世界	11 6.4%	花園	18 10.6%			
	新今宮	5 7.7%	鶴見橋	8 12.5%	新今宮	11 6.4%					
	飛田	5 7.7%									
天王寺区（回答数 76）			天王寺区（回答数 55）			住之江区（回答数 144）			住之江区（回答数 160）		
思い浮かべる地名		選択数	訪問経験者訪問先		選択数	思い浮かべる地名		選択数	訪問経験者訪問先		選択数
区名	あいりん地域	22 28.9%	新今宮	8 14.5%	あいりん地域	33 22.9%	岸里	27 16.9%			
	新世界	8 10.5%	天下茶屋	7 12.7%	天下茶屋	15 10.4%	玉出	26 16.3%			
	新今宮	6 7.9%	新世界	5 9.1%	玉出	15 10.4%	花園	25 15.6%			
	天下茶屋	6 7.9%	玉出	5 9.1%	岸里	11 7.6%	津守	16 10.0%			
						花園 11 7.6%					
住吉区（回答数 197）			住吉区（回答数 193）								
思い浮かべる地名		選択数	訪問経験者訪問先		選択数						
区名	あいりん地域	45 22.8%	天下茶屋	28 14.5%							
	天下茶屋	20 10.2%	岸里	25 13.0%							
	新今宮	14 7.1%	玉出	17 8.8%							
			花園	17 8.8%							
			津守	14 7.3%							

っている。したがって、浪速区・阿倍野区・天王寺区の回答者は主に西成区北部周辺「あいりん地域」・「新世界」などの雰囲気、住之江区・住吉区の回答者は西成区南部の「岸里」・「玉出」近辺を念頭においての回答がなされている。これらのことが、結果として、各区民の抱く「西成」像に相違をもたらしていると考えられる。

(4) 回答者の居住区への思い

「大阪市民一般」では、自分の居住区名を話すのに抵抗がないのは全体の約 90%で、「話せない」・「ほとんど話せない」はごくわずかであった。これに対し「少し抵抗ある」は全体平均でも 5.1%と少しまとまった値を示した。ここでは、これら3つの回答者の合計に注目していきたい(表1-3-26)。この合計値では、生野区の回答数が飛び抜けて高く、近隣区では大正区・浪速区が上位に入っている。生野区には在日韓国・朝鮮人が多く、こうした区内事情を反映したものであろうか。しかし、同じ事情は東成区にも言えるはずであるが、東成区は上位に顔を出してはいない。

表1-3-26では、西成区民の回答数も示したが、生野区民と西成区民を比較してみると、「少し抵抗ある」ではほぼ同値だが、「ほとんど話せない」・「話せない」では西成区民が他を圧倒している。つまり、「西成」という区名・地名に対する忌避感、他の区名よりも著しく高くなっていることがわかる。

表1-3-26 居住区名を話すことができるか、「話せない」程度に応じた回答比較

		話せない	
		計数	選択数
区名	中央区	42 100.0%	2 4.8%
	福島区	43 100.0%	2 4.7%
	淀川区	74 100.0%	2 2.7%
	大正区	47 100.0%	1 2.1%
	北区	55 100.0%	1 1.8%
西成区		320 100.0%	9 2.8%

注：23区平均 0.8%

		殆ど話せない	
		計数	選択数
区名	西区	39 100.0%	2 5.1%
	中央区	42 100.0%	1 2.4%
	東淀川区	63 100.0%	1 1.6%
	住之江区	67 100.0%	1 1.5%
	生野区	70 100.0%	1 1.4%
西成区		320 100.0%	37 11.6%

注：23区平均 0.5%

		少し抵抗ある	
		計	選択数
区名	生野区	70 100.0%	23 32.9%
	浪速区	35 100.0%	4 11.4%
	旭区	46 100.0%	5 10.9%
	大正区	47 100.0%	5 10.6%
	此花区	35 100.0%	3 8.6%
西成区		320 100.0%	107 33.4%

注：23区平均 5.1%

		合計	
		計	選択数
区名	生野区	70 100.0%	24 34.3%
	大正区	47 100.0%	6 12.8%
	浪速区	35 100.0%	4 11.4%
	旭区	46 100.0%	5 10.9%
	此花区	35 100.0%	3 8.6%
西成区		320 100.0%	153 47.8%

注：23区平均 6.4%

西成区民に対するのと同様に、回答者自身の居住区についての具体的イメージについても答えてもらった(表1-3-27)。特に西成区民との比較するために「こわい」と「安心して暮らせる」の2項目について、「そう思う」とした回答を見ていきたい。すると、「こわい」＝「そう思う」と「安心して暮らせる」＝「そう思わない」に着目して見れば、浪速区を除いてばらつきがあることがわかる。また、浪速区の回答選択数も

わずかなので、これが有意かどうかは判断しかねるところがある。

他方、「こわい」＝「そう思わない」と「安心して暮らせる」＝「そう思う」に着目すると、西淀川区・鶴見区・城東区がいずれにも出ている。これらの区民は地域での暮らしを相当の安心感を持って過ごしているということになるだろう。他方、西成区近隣区では、阿倍野区は「安心して」暮らしていると考えられる者が多いが、他の近隣区はここには出てこない。

表 1-3-27 居住区についての具体的イメージ：「こわい」、「安心」

		イメージ「こわい」	
		計	思う
区名	平野区	83 100.0%	9 10.8%
	東淀川区	63 100.0%	6 9.5%
	浪速区	35 100.0%	3 8.6%
	北区	55 100.0%	4 7.3%
	東住吉区	87 100.0%	6 6.9%

注：23区平均 4.6%

		イメージ「こわい」	
		計	思わない
	西淀川区	39 100.0%	32 82.1%
	鶴見区	43 100.0%	35 81.4%
	福島区	43 100.0%	34 79.1%
	西区	39 100.0%	30 76.9%
	城東区	75 100.0%	56 74.7%

注：23区平均 66.4%

		イメージ「安心」	
		計	思う
区名	阿倍野区	80 100.0%	59 73.8%
	西淀川区	39 100.0%	28 71.8%
	鶴見区	43 100.0%	29 67.4%
	大正区	47 100.0%	31 66.0%
	城東区	75 100.0%	48 64.0%

注：23区平均 54.1%

		イメージ「安心」	
		計	思わない
	生野区	70 100.0%	11 15.7%
	住之江区	67 100.0%	10 14.9%
	淀川区	74 100.0%	9 12.2%
	福島区	43 100.0%	5 11.6%
	浪速区	35 100.0%	4 11.4%

注：23区平均 7.8%

注：西成区民の場合、自分の居住区について「こわいところである。そう思う」28.9%、

「そう思わない」21.4%。「安心して暮らせるところである。そう思う」5.9%、「そう思わない」31.8%であった。

表 1-3-28 居住区に対する差別・冷やかしの経験

		よくある	
		計	選択数
区名	生野区	70 100.0%	12 17.1%
	平野区	83 100.0%	4 4.8%
	東住吉区	87 100.0%	4 4.6%
	東淀川区	63 100.0%	2 3.2%
	浪速区	35 100.0%	1 2.9%
	住吉区	102 100.0%	3 2.9%
	此花区	35 100.0%	1 2.9%

注：23区平均 2.6%

		まれにある	
		計	選択数
	生野区	70 100.0%	32 45.7%
	西淀川区	39 100.0%	12 30.8%
	此花区	35 100.0%	9 25.7%
	東淀川区	63 100.0%	15 23.8%
	浪速区	35 100.0%	8 22.9%

注：23区平均 14.2%

		合計	
		計	選択数
	生野区	70 100.0%	44 62.9%
	西淀川区	39 100.0%	12 30.8%
	此花区	35 100.0%	10 28.6%
	東淀川区	63 100.0%	17 27.0%
	浪速区	35 100.0%	9 25.7%

注：23区平均 16.8%

では、西成区以外の区でも、それぞれの区民が暮らしている居住区に対する差別・冷やかしはあるのだろうか。表1-3-28は、そうした経験の多い区を示している。これによると、生野区が圧倒的に多く、「よくある」「まれにある」の合計を見ると60%以上となっている。生野区は、表1-2-26の「自分の居住区名を話せるか」という質問に対しても、何らかのためらいのある区民が最も多かった。そのほか、浪速区と此花区でも、これら2つの設問で上位5位内に入っている。浪速区にも、野宿生活者が相対的に多いとか、同和地区があるといったことが関連しているのかもしれない。しかし、此花区がなぜ上位を占めているのかについては、定かでない。

（５）「西成」差別解消策

最後に、「西成」差別解消策を検討していこう。ここでは、それぞれの選択項目について、選択者の割合の多い上位5区を選んでみた。表1-3-29は、回答項目の中で、意識改革にかかわる3つの設問を挙げている。必ずしも、同じ区が3つの選択項目で上位を占めているわけではなく、かなりばらつきがある。しかし、全体的に「西成」から比較的距離のある区で多くの区民がこれらを選択した。

表1-3-29 「西成」差別解消策、「差別学習」、「マスコミ宣伝」、「市民啓発」 (複数回答)

		差別の歴史の学習				マスコミ宣伝				市民啓発	
		計	選択数			計	選択数			計	選択数
区名	鶴見区	43	19	淀川区	74	35	中央区	42	13		
		100.0%	44.2%		100.0%	47.3%		100.0%	31.0%		
	港区	39	14	此花区	35	16	北区	55	15		
		100.0%	35.9%		100.0%	45.7%		100.0%	27.3%		
	生野区	70	23	西区	39	16	港区	39	10		
		100.0%	32.9%		100.0%	41.0%		100.0%	25.6%		
	西淀川区	39	12	生野区	70	27	東淀川	63	16		
		100.0%	30.8%		100.0%	38.6%		100.0%	25.4%		
	住吉区	102	30	北区	55	21	東住吉	87	20		
		100.0%	29.4%		100.0%	38.2%		100.0%	23.0%		

注：23区平均26.6%

注：23区平均34.1%

注：23区平均19.0%

表1-3-30は、ハード面の改革の「大型集客施設の建設」・「区画整理などのまちづくり」と西成区民の主体性を問う「自助努力」を示した。

「大規模集客施設の建設」で浪速区・住之江区が上位にあるのは、新世界や南港での集客施設の建設（フェスティバルゲートやATC・WTC）が行われ、一定の成果が上がっているという評価に基づいてのことだろうか。また、「まちづくり」は西成区に比較的近い天王寺区や近隣の浪速区・住之江区で多く選択されている。いずれにしろ、ハード面の整備推進の意見は中央区をはじめ、浪速区・住之江区に多い。

「西成区民の自助努力」は比較的遠方の区が多く、大正区を例外として近隣区ではない。

表1-3-30 「西成」差別解消策、「集客施設建設」、「自助努力」、「まちづくり」 (複数回答)

		大規模集客施設建設				西成区民の自助努力				区画整理等まちづくり	
		計	選択数			計	選択数			計	選択数
区名	中央区	42	8	此花区	35	18	中央区	42	18		
		100.0%	19.0%		100.0%	51.4%		100.0%	42.9%		
	西区	39	7	大正区	47	20	天王寺区	42	17		
		100.0%	17.9%		100.0%	42.6%		100.0%	40.5%		
	浪速区	35	6	西区	39	16	浪速区	35	13		
		100.0%	17.1%		100.0%	41.0%		100.0%	37.1%		
	都島区	53	8	生野区	70	28	住之江区	67	22		
		100.0%	15.1%		100.0%	40.0%		100.0%	32.8%		
	住之江区	67	10	北区	55	21	福島区	43	14		
		100.0%	14.9%		100.0%	38.2%		100.0%	32.6%		

注：23区平均10.6%

注：23区平均31.4%

注：23区平均26.3%

表1-3-31は、社会的に弱い立場にある人々への施策の実施を、たくさんの人が選んだ区を示した。「高齢者・障害者・低所得者等への施策」は、近隣区では住之江区・住吉区が上位に入った。「日雇労働者居住地区施策」では阿倍野区がトップであった。やはり天王寺駅・新今宮駅近辺で多くの高齢日雇労働者や野宿生活者を見かけることが多いからであろうか。あとは臨海部と大阪市東部の工業地帯でブルーカラー労働者が多いと思われる区が上位を占めている。しかし、表1-3-14で、社会的に弱い立場にある人々として、日雇労働者と野宿生活者を多く挙げた区を示したが、両方の表に共通して顔を出す区は生野区と城東区だけである。必ずしも一貫した回答とはなっていないことに注意が必要であろう。

「同和地区・外国籍住民施策」を多く選んだのは、大正区・天王寺区を除けば遠方区である。ここでも、「社会的に立場の弱い人々」として「在日韓国・朝鮮人」と「同和地区住民」を多くの区民が挙げた区と比較すると、重なっているのは鶴見区だけである。それ以外は、きわめてばらつきが見られる。

表1-3-31 「西成」差別解消策、「弱者施策」、「日雇対策」、「同和・外国人施策」 (複数回答)

		高齢者・障害者・ 低所得者施策				日雇労働者 居住地区施策				同和対策・ 外国籍住民施策	
		計	選択数			計	選択数			計	選択数
区名	城東区	75 100.0%	23 30.7%	阿倍野区	80 100.0%	38 47.5%	港区	39 100.0%	10 25.6%		
	平野区	83 100.0%	25 30.1%	大正区	47 100.0%	22 46.8%	鶴見区	43 100.0%	8 18.6%		
	住之江区	67 100.0%	19 28.4%	城東区	75 100.0%	33 44.0%	大正区	47 100.0%	8 17.0%		
	住吉区	102 100.0%	29 28.4%	生野区	70 100.0%	30 42.9%	天王寺区	42 100.0%	7 16.7%		
	西区	39 100.0%	11 28.2%	港区	39 100.0%	16 41.0%	西淀川区	39 100.0%	6 15.4%		

注：23区平均 23.7%

注：23区平均 36.5%

注：23区平均 11.2%

「西成」近隣地域住民の「西成」差別解消活動への参加意思については先に見たが、ここではそれを区別に分けて検討しよう(表1-3-32)。まず、住之江区は「積極的参加」が相対的に多い。住吉区は、「積極的参加」は皆無であるが、半数以上が「機会があれば」参加してもよいとしている。阿倍野区も「積極的参加」は皆無だが「機会があれば」と「側面援助」が多い。浪速区では40%が「機会があれば」参加してもよいと答えているが、他方で「参加せず」も22.7%と多い。最後に大正区は「積極的参加」と「参加せず」にほぼ意見が分かれている。

このように、一口に近隣区と言っても、西成区そして「西成」差別のとらえ方や関わり方は多様性を帯びている。

表1-3-32 「西成」差別解消活動への参加

	参加意思					
	計	積極的に参加	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない
計	160 100.0%	6 3.8%	52 32.5%	15 9.4%	26 16.2%	53 33.1%
大正区	29 100.0%	2 6.9%	2 13.9%	3 10.3%	9 31.0%	11 37.9%
住吉区	24 100.0%	0 0.0%	13 54.2%	1 4.2%	0 0.0%	10 41.7%
阿倍野区	45 100.0%	0 0.0%	14 31.1%	8 17.8%	6 13.3%	14 31.1%
浪速区	22 100.0%	0 0.0%	9 40.9%	1 4.5%	5 22.7%	7 31.8%
住之江区	33 100.0%	2 6.1%	12 36.4%	1 3.0%	4 12.1%	11 33.3%

(6) 小括

ここでは各区別にアンケート結果を見てきたが、西成区からの距離という地理的な理由や「西成」近隣区居住者に「西成」在住の親戚・知人が多いことに伴って、「西成」近隣区民とそれ以外の区の住民との間には、「西成」に対する見方に一定の相違が見られることが明らかとなった。しかし、それにとどまらず、「西成」近隣区相互間でも大きな差異が見られた。以下、それらの点をまとめておこう。

まず、直感的ならびに具体的イメージでは、同じ区民のなかでも相反する意識を持つ場合が多いとはいえ、近隣区住民の方が他の区に比べてマイナスイメージ、悪いイメージを持つ者が少ないことがわかった。また、「西成」に関連する事象についても、それらの知名度は他の区民よりも高くなっている。これらの結果は「西成」の訪問経験者が多いことや居住経験者が多いことが、その要因だと考えられる。

第二に、「西成」差別については、近隣各区で「差別見聞あり」とする者が多かったが、西成区に隣接する浪速区で「差別見聞なし」とする回答者が非常に多かったことが目を引いた。その差別の見聞ルートは様々であるが、「西成」から距離のある区で「マスコミから」という回答が多かったというのは、「マスコミ」が「西成」差別に与える影響が大きいことを示している。また、「西成」差別を見聞しての感想は近隣の各区で差異が見られた。身近な区での出来事に対してきっぱりと「不愉快」意思表示をするのは、比較的距離の近い天王寺区を含む近隣各区で割合が高く、感情論的な「腹立ち」や「悲しみ」には流されないという結果が得られた。だが、ここでも浪速区民の選択数値が低く「腹が立った」という項目を選んだ回答者は皆無であった。一方、差別は致し方ないという意識の回答を見ると、西成区北部に接する阿倍野区・天王寺区、そして浪速区の3区と、西成区南部に接する住之江区・住吉区の2区との間で大きな意識の差が見られる。それは「西成」差別だけでなく、西成区勤務や居住についての意見でも同様であった。

この2つのグループの差異は、回答時に想定している「西成」像の違いに由来するものではないかと仮定し、「思い浮かべる地名」と「実際の訪問地」を分析した。その結果、西成区北部に接する各区は「あいりん」・「新世界」等の雰囲気、同じく南部に接する各区は「岸里」・「玉出」等を意識しており、それが「西成」像の違いを生んだと考えられる。また、浪速区の回答者が「西成」差別について無関心でいられる（あるいは装っている）のは、自由回答欄で「ごく一部の事である」・「浪速区も同様のことがある」など、「西成」差別は「西成特有のもの」ではないという認識が強いためかもしれない。しかし、自由回答数がわずかなため、あくまでもこれは推測の域を出るものではない。

第三に、居住区名の伝達では、生野区がかなりの拒否反応を示してはいるものの、西成区よりも低い値であった。また、居住区的具体イメージでも「こわい」や「安心して暮らせない」の上位に入った区でも、西成区のそれと比べれば何分の1かの値でしかない。これと関連して、居住区差別の有無では生野区が60%以上、浪速区が20%以上、それぞれ何らかの差別感を感じていると回答している。これらは、「西成」差別よりは値が低いとはいえ一定のボリュームがあるので、無視することはできない事象ではないだろうか。

第四に、「西成」差別の解消策については、ここでも市内各区と近隣各区、および近隣各区間で意見の相違が見られた。西成区から距離が離れた区では「差別学習」・「マスコミ宣伝」・「市民啓発」といった抽象的で市民意識の改善を目指す内容が多かったが、近隣区ではもっと具体的な「集客施設建設」や「まちづくり」、そして「日雇労働者居住地区施策」や「弱者施策」といったハード面の改良や行政の積極的・直接的介入を求める意見がたくさん見られた。特に前者はフェスティバルゲートやベイエリア開発で一定の実績のある浪速区や住之江区からの回答が多く、後者はあいりん地域に接する阿倍野区や天王寺区、さらに住之江区・住吉区での割合が高かった。

最後に、近隣区に居住する回答者の「西成」差別解消活動への参加について尋ねたが、住之江区・住吉区の参加意思が高いことから、西成区外からこの両区民が活動して貰うことは大きな力となるであろう。それだけでなく、相対的に意識に差がある阿倍野区や浪速区でも「機会があれば」や「側面支援」なら参加可能という回答が40~50%あるので、あまり負担をかけずに活動に参加できるようにすれば、周辺各区での幅広い活動、ひいては全市規模での取り組みが可能となるのではないだろうか。

第2章 西成区在勤者の「西成」差別に対する認識

本章では西成区内で勤務している市民＝「西成在勤者」を対象にしたアンケートの結果から、西成区外に居住する市民が西成区内で勤務することで感じられる意識や、実際に体験した「西成」差別について検討していく。なお65歳以上の者の回答については母数が極端に少ないので、年齢層ごとの比較に際しては有意性を持たないと思われるが、数値はそのまま示した。また、各設問で回答が不明のものは表に掲載していないが、各項目のパーセンテージは不明を含めて算出したので、割合の和が必ずしも100%になるとは限らないことを、前もって注意しておく。

第1節 アンケート回答者の属性

まず、有効回答数183人の属性について見ておこう。表2-1-1において、性別では男性の回答が75%と圧倒的に多く、年齢別では44歳以下の比較的若い回答者で約半数を占めている。これらの点は、「大阪市民一般」の回答者属性とは大きく異なっている。また、男女の年齢別構成を見ると、女性の場合30歳以下が40%以上を占めるという特徴が見られ、他方、男性は中高年層（45-64歳）が半数以上を占めている。

表2-1-1 年齢構成と男女比

		年齢別				
		計	16-30歳	31-44歳	45-64歳	65歳-
性別	計	183 100.0%	40 21.9%	50 27.3%	85 46.4%	6 3.3%
	男	138 100.0%	21 15.2%	40 29.0%	71 51.4%	5 3.6%
	女	44 100.0%	19 43.2%	10 22.7%	14 31.8%	1 2.3%

男性：75.4% 女性24.0% P値：0.0540

世帯類型を見ると（表2-1-2）、男性の場合は「夫婦と子」の割合が半数近くを占めた。女性は若年層（16-30歳）の回答が多かったことから、「親と同居」が多い。年齢別で見れば若年層で「単身」と「親と同居」が多いが、注目すべきは高齢層（65歳以上）で「夫婦のみ」の割合が高くなっていることである。また、「単純集計結果」に示してあるが、回答者の大阪府下居住年数では、おしなべて各年代とも長期居住者が多く、特に壮年層（31-44歳）では6割以上が25年以上居住という回答が得られた。

表2-1-2 世帯類型

		世帯類型						
		計	単身	夫婦のみ	夫婦と子	親と同居	3世代	その他
男女別・年齢別	計	183	17	31	71	38	16	9
		100.0%	9.3%	16.9%	38.8%	20.8%	8.7%	4.9%
	男	138	12	25	67	17	13	4
		100.0%	8.7%	18.1%	48.6%	12.3%	9.4%	2.9%
	女	44	5	6	4	21	3	5
		100.0%	11.4%	13.6%	9.1%	47.7%	6.8%	11.4%
	16-30 歳	40	9	4	3	24	0	0
		100.0%	22.5%	10.0%	7.5%	60.0%	0.0%	0.0%
	31-44 歳	50	3	8	22	10	4	3
		100.0%	6.0%	16.0%	44.0%	20.0%	8.0%	6.0%
45-64 歳	85	4	13	46	4	12	6	
	100.0%	4.7%	15.3%	54.1%	4.7%	14.1%	7.1%	
65 歳-	6	1	5	0	0	0	0	
	100.0%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

男女別P値：0.0001 年齢別P値：0.0000

回答者の職業・職種（表 2-1-3）は、ほとんどがホワイトカラーで、特に女性 70%が事務職員である。工場従業員などのブルーカラー労働者からの回答は非常に少ない。

表 2-1-3 職業・職種

		職業・職種					
		計	事業主	商店店員	営業社員	飲食業社員	工場従業員
男女別	計	183 100.0%	2 1.1%	2 1.1%	22 12.0%	0 0.0%	6 3.3%
	男	138 100.0%	2 1.4%	2 1.4%	22 15.9%	0 0.0%	4 2.9%
	女	44 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.5%

		職業・職種					
		金融業社員	事務職員	サービス業務員	公務員	教員	その他
男女別	計	1 0.5%	111 60.7%	12 6.6%	3 1.6%	1 0.5%	21 11.5%
	男	1 0.7%	80 58.0%	9 6.5%	2 1.4%	1 0.7%	14 10.1%
	女	0 0.0%	31 70.5%	3 6.8%	1 2.3%	0 0.0%	7 15.9%

P 値 : 0.9422

次に、西成区内での勤続年数を見ると（表 2-1-4）、おおよそ男性の 1/3、女性の 1/2 が 5 年未満と短い。しかし、男女とも 10 年以上勤続と比較的長期の回答者も多く、男性では 25 年以上勤続との回答も 13% もある。

表 2-1-4 西成区内勤続年数

		勤続年数				
		計	0-4 年	5-9 年	10-24 年	25-49 年
男女別	計	183 100.0%	66 36.1%	35 19.1%	61 33.3%	18 9.8%
	男	138 100.0%	46 33.3%	28 20.3%	45 32.6%	18 13.0%
	女	44 100.0%	20 45.5%	7 15.9%	16 36.4%	0 0.0%

P 値 : 0.4732

第 2 節 「西成」のイメージと認知度

西成区での勤務が決まった時の感想（表 2-2-1）では、「気にしなかった」の回答者が 43.2%、「何も思わなかった」42.1%で、約 85%の回答者は西成区での勤務決定に対して特別な感情を抱いていたわけではなかった。しかし、特に女性で 20.5%が、そして若年層において「大変な地区で働くことになった」という思いを持っているのは注目すべきであろう。また、この「大変な地区で働くことになった」の回答者に対して、現在の思いを尋ねたところ、58.3%が「今はそう思っていない」としているが、33.3%は「今も当時と同程度に…」という思いが残っている。そして、1 名だが「よりいっそう強く思う」という回答も見られた。

表 2-2-1 西成区勤務開始時の感想

		勤務開始時の感想				
		計	大変な地区で働くことになった	仕事のやりがいのある地区で働くことになった	気にしなかった	何も思わなかった
男女別・年齢別	計	183 100.0%	24 13.1%	2 1.1%	79 43.2%	77 42.1%
	男	138 100.0%	15 10.9%	2 1.4%	61 44.2%	60 43.5%
	女	44 100.0%	9 20.5%	0 0.0%	18 40.9%	17 38.6%
	16-30 歳	40 100.0%	8 20.0%	0 0.0%	14 35.0%	18 45.0%
	31-44 歳	50 100.0%	7 14.0%	1 2.0%	24 48.0%	18 36.0%
	45-64 歳	85 100.0%	9 10.6%	0 0.0%	37 43.5%	39 45.9%
	65 歳-	6 100.0%	0 0.0%	1 16.7%	4 66.7%	1 16.7%

男女別 P 値 : 0.9187 年齢別 P 値 : 0.1791

表 2-2-2 西成区勤務開始時の感想

	現在の思い				
	回答者数	今はそう 思っていない	今も当時と 同程度に そう思っている	いっそう強く そういう思いを 持っている	よく わからない
回答者数	24 100.0%	14 58.3%	8 33.3%	1 4.2%	1 4.2%

注：この設問は表 2-2-1 で「大変な地区で働くことになった」と答えた者が対象である。

西成区での勤務が決まった時に、周囲の家族や親戚・友人から何か言われたかを問うた結果（表 2-2-3）は、男性は「何も言われなかった」が 90%以上を占めているが、これに反して女性では約 40%が「大変な所だから気を付けるように」と言われたと回答している。また年齢別に見ても若年層でその割合が高くなっているが、これはこの世代の女性からの回答が多いことが影響しているのではないと思われる。

表 2-2-3 西成区勤務開始時の周囲の反応

		勤務開始時に言われたこと				
		計	大変な所だからと激励された	大変な所だから気を付けるように言われた	勤めるのを辞めたらどうかと言われた	何も言われなかった
男女別・年齢別	計	183 100.0%	5 2.7%	24 13.1%	2 1.1%	151 82.5%
	男	138 100.0%	5 3.6%	6 4.3%	2 1.4%	125 90.6%
	女	44 100.0%	0 0.0%	18 40.9%	0 0.0%	26 59.1%
	16-30 歳	40 100.0%	1 2.5%	14 35.0%	1 2.5%	24 60.0%
	31-44 歳	50 100.0%	3 6.0%	6 12.0%	1 2.0%	40 80.0%
	45-64 歳	85 100.0%	1 1.2%	4 4.7%	0 0.0%	80 94.1%
	65 歳-	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%

男女別 P 値 : 0.0000 年齢別 P 値 : 0.0245

西成区での勤務開始以前の西成区との関わり（表２－２－４）で最も多かったものは、「通過のみ」で、若年層の半数以上がそのように回答している。男性や中高年層で「仕事で来た」というのも多い。また、「全く知らなかった」というのも男女別・年齢別で20%以上と、一定の割合を占めている。

表２－２－４ 西成区勤務開始以前の西成区との関わり

		勤務開始以前の関わり						
		計	仕事で 来た	通学 していた	親戚・友人 を訪ねた	遊び・買物 で来た	通過のみ	全く 知らなかった
男女別・ 年齢別	計	183 100.0%	34 18.6%	9 4.9%	22 12.0%	13 7.1%	60 32.8%	39 21.3%
	男	138 100.0%	30 21.7%	8 5.8%	14 10.1%	9 6.5%	42 30.4%	30 21.7%
	女	44 100.0%	4 9.1%	1 2.3%	8 18.2%	4 9.1%	18 40.9%	9 20.5%
	16-30 歳	40 100.0%	1 2.5%	0 0.0%	2 5.0%	1 2.5%	22 55.0%	11 27.5%
	31-44 歳	50 100.0%	9 18.0%	3 6.0%	5 10.0%	6 12.0%	16 32.0%	11 22.0%
	45-64 歳	85 100.0%	20 23.5%	5 5.9%	13 15.3%	6 7.1%	22 25.9%	17 20.0%
	65 歳-	6 100.0%	4 66.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

男女別 P 値：0.8676 年齢別 P 値：0.0638

「西成」についての11項目の具体的なイメージ（表２－２－５）では、一般市民と同様の結果が見られた。すなわち「庶民的」で「交通便利」な所とは思いうが、「こわい」ところで「豊か」でなく、「安心」して暮らすことができず、「閑静」とは思えないということが明らかとなった。これらのイメージが西成区内で働いている人々のものであるということは、単なる想像や思い込みのレベルを超え、日常の勤務活動の中で感じられることが多いのではないかと推測できる。

男女別・年齢別に詳しく見ると、女性が「こわい」と思うことが多いようだが、その他の項目では男女差はさほど顕著なものではない。また、年齢別では、一般的傾向として若い年齢層ほど「西成」に対する評価が低くなっている。特に若年層では、プラスイメージとも取れる「庶民的」・「交通便利」の項目においても、他の年齢層と比べ大きく値を下げており、「豊か」と思う・「安心」して暮らせると思うではゼロ回答となっている。

表２－２－５ 「西成」についての具体的なイメージ：そう思う

（複数回答）

		「西成」の具体的なイメージ：そう思う											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気 ある	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅 密集	公園 緑が 多い	交通 便利	公共 サービス 充実
男女別・ 年齢別	計	183 100.0%	132 72.1%	34 18.6%	30 16.4%	36 19.7%	5 2.7%	6 3.3%	5 2.7%	90 49.2%	13 7.1%	97 53.0%	13 7.1%
	男	138 100.0%	98 71.0%	25 18.1%	22 15.9%	24 17.4%	4 2.9%	6 4.3%	5 3.6%	71 51.4%	11 8.0%	75 54.3%	9 6.5%
	女	44 100.0%	34 77.3%	9 20.5%	8 18.2%	12 27.3%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	19 43.2%	1 2.3%	21 47.7%	3 6.8%
	16-30 歳	40 100.0%	26 65.0%	4 10.0%	4 10.0%	16 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.0%	19 47.5%	2 5.0%	12 30.0%	0 0.0%
	31-44 歳	50 100.0%	36 72.0%	10 20.0%	10 20.0%	10 20.0%	2 4.0%	1 2.0%	1 2.0%	28 56.0%	4 8.0%	32 64.0%	6 12.0%
	45-64 歳	85 100.0%	63 74.1%	17 20.0%	14 16.5%	10 11.8%	2 2.4%	3 3.5%	2 2.4%	39 45.9%	5 5.9%	47 55.3%	5 5.9%
	65 歳-	6 100.0%	6 100.0%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%	4 66.7%	1 16.7%

男女別 P 値：0.9971 年齢別 P 値：0.3574

上記の 11 項目の具体的イメージで特に強く「そう思うもの」と「そう思わないもの」を各 2 項目ずつ挙げてもらい、それをいつから感じていたのかを分類した（表 2-2-6）。

まず「特に強くそう思うもの a」は第一番目に選択された回答の集計結果である。「特に強くそう思うもの b」は、第二番目に選択された回答の集計結果である。これらを見ると、「庶民的」・「こわい」という項目は、「西成」勤務開始以前からそう思われていたことが多く、「老朽住宅密集」や「交通便利」は勤務開始後にそう感じているという傾向が見られる。前者はイメージ先行、後者は実体験によるものと推測される。

一方、「特にそう思わない c」・「特にそう思わない d」も、同じように集計したものである。ここでは、「豊か」・「安心」・「閑静」の 3 つの項目の値が高いが、順序付けから見て先に「特にそう思わない」と挙げた「c」の場合では、「豊か」・「閑静」は勤務開始後に感じたという回答が多くなっているが、「d」では逆に以前からという方が多くなっている。「安心」については両方とも勤務開始以前からの回答が多い。

これらの回答の組み合わせから、「安心」については「こわい」というイメージの影響もあるのか、勤務開始以前からよく「安心して暮らせない」と思われており、「豊か」・「閑静」については、元々は「豊か」ではない・「閑静」なところではない、と思っていなかった者も、勤務開始後には思いが変化してしまった場合もあることがうかがえる。

表 2-2-6 特に強く感じられる具体的イメージと、それを感じ始めた時期

		特に強く「そう思う」もの a											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅	公園 や緑	交通 の便	公共 サービス
いつから	計	183	100	1	1	22	0	0	0	13	2	11	33
		100.0%	54.6%	0.5%	0.5%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	1.1%	6.0%	18.0%
	以前から	60	42	0	0	12	0	0	0	3	0	3	0
		100.0%	70.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%
いつから	勤務開始後	88	55	1	1	10	0	0	0	10	2	8	1
		100.0%	62.5%	1.1%	1.1%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%	11.4%	2.3%	9.1%	1.1%
	わからない	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

P 値：0.0493

		特に強く「そう思う」もの b											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅	公園 や緑	交通 の便	公共 サービス
いつから	計	183	7	9	8	8	3	0	0	42	1	33	1
		100.0%	3.8%	4.9%	4.4%	4.4%	1.6%	0.0%	0.0%	23.0%	0.5%	18.0%	0.5%
	以前から	33	2	3	2	7	3	0	0	8	1	7	0
		100.0%	6.1%	9.1%	6.1%	21.2%	9.1%	0.0%	0.0%	24.2%	3.0%	21.2%	0.0%
いつから	勤務開始後	76	3	5	6	1	0	0	0	33	0	25	1
		100.0%	3.9%	6.6%	7.9%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	43.4%	0.0%	32.9%	1.3%
	わからない	4	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
		100.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%

P 値：0.0214

		特に強く「そう思わない」もの c											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅	公園 や緑	交通 の便	公共 サービス
いつから	計	183	0	13	20	20	37	20	20	1	6	2	2
		100.0%	0.0%	7.1%	10.9%	10.9%	20.2%	10.9%	10.9%	0.5%	3.3%	1.1%	1.1%
	以前から	53	0	4	9	9	12	12	5	0	1	1	0
		100.0%	0.0%	7.5%	17.0%	17.0%	22.6%	22.6%	9.4%	0.0%	1.9%	1.9%	0.0%
いつから	勤務開始後	82	0	8	10	10	23	7	15	1	5	1	1
		100.0%	0.0%	9.8%	12.2%	12.2%	28.0%	8.5%	18.3%	1.2%	6.1%	1.2%	1.2%
	わからない	4	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

P 値：0.9674

		特に強く「そう思わない」ものd											
		計	庶民的	歴史や 伝統	活気	こわい	豊か	安心	閑静	老朽 住宅	公園 や緑	交通 の便	公共 サービス
いつから	計	183 100.0%	0 0.0%	1 0.5%	5 2.7%	2 1.1%	10 5.5%	18 9.8%	38 20.8%	4 2.2%	27 14.8%	7 3.8%	11 6.0%
	以前から	42 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	6 14.3%	7 16.7%	15 35.7%	1 2.4%	9 21.4%	0 0.0%	3 7.1%
	勤務開始後	73 100.0%	0 0.0%	1 1.4%	4 5.5%	0 0.0%	4 5.5%	10 13.7%	19 26.0%	2 2.7%	18 24.7%	7 9.6%	7 9.6%
	わからない	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%

P値：0.5443

注：「特に強く思う/思わないもの」を回答し「いつから」を未回答のものも集計しているため、合計数が合わない場合がある。

西成区在勤者という立場から見て、西成区の勤務環境、すなわち仕事をする上で「どのようなところなのか」についてたずねた（表2-2-7）。その結果、「他の区と変わらない」という回答者が48.6%であった。特に、女性では男性に比べ、「会社からみて仕事のしやすい」・「個人的にみて仕事が楽しくやれる」・「他の区と変わらない」が多かった。年齢別では若年層で「会社から見て…」・「個人的に見て…」・「仕事が大変なところ」の値が低く、「他の区と変わらない」が最も高くなっているため、回答からは「西成」に対して特別に感じることはないようなイメージが見られる。また、壮年層では「会社から見て仕事がしやすい」とは思っているが「仕事が大変なところ」という認識が非常に高いようだ。その影響か「他の区と変わらない」の割合も大きく減少している。

表2-2-7 西成区の勤務環境：そう思う

		勤務環境：そう思う				
		計	会社からみて 仕事のしやすい	個人的にみて 仕事が楽しくやれる	仕事が大変なところ	他の区と 変わらない
男女別・年齢別	計	183 100.0%	42 23.0%	22 12.0%	26 14.2%	89 48.6%
	男	138 100.0%	30 21.7%	15 10.9%	19 13.8%	65 47.1%
	女	44 100.0%	11 25.0%	7 15.9%	6 13.6%	24 54.5%
	16-30歳	40 100.0%	4 10.0%	4 10.0%	2 5.0%	23 57.5%
	31-44歳	50 100.0%	14 28.0%	6 12.0%	12 24.0%	17 34.0%
	45-64歳	85 100.0%	20 23.5%	10 11.8%	9 10.6%	45 52.9%
	65歳-	6 100.0%	3 50.0%	2 33.3%	2 33.3%	3 50.0%

男女別P値：0.9992 年齢別P値：0.4127

注：この表は、それぞれの設問について、「そう思う」・「どちらともいえない」・「そう思わない」・「わからない」の中から1つを選んでもらう形式である。ここでは、それぞれの設問から「そう思う」の回答者だけを抽出した。したがって、合計値は「回答者数」と一致しない。

西成区での勤務の継続についての回答者の考えを問うた（表2-2-8）。全体的に67.8%が「就労の場所はどこでも構わない」という回答で、「今すぐ違う場所で就労したい」というものはゼロであった。これは現在の不況・深刻な雇用状況を如実に表した結果ではないだろうか。

しかし、仔細に検討すると大きな差異が存在している。男女別に比較すると、「ずっと就労したい」・「ずっと就労したいとは思わない」の両方で女性が高くなっている。また、「どこでも構わない」の値も低くなっている。このように分かれたのは、西成区というよりも職場個々の事情によるものであるかもしれない。年齢別では、若年層での「西成」忌避感が高くなっており「ずっと就労したい」という回答は1名にしかすぎない。

表 2-2-8 西成区勤務の継続

		勤務の継続					
		計	ずっと 就労したい	どこでも 構わない	ずっと就労したい とは思わない	今すぐ違う場所 で就労したい	わからない
男女別・年齢別	計	183 100.0%	18 9.8%	124 67.8%	21 11.5%	0 0.0%	19 10.4%
	男	138 100.0%	12 8.7%	98 71.0%	14 10.1%	0 0.0%	13 9.4%
	女	44 100.0%	6 13.6%	25 56.8%	7 15.9%	0 0.0%	6 13.6%
	16-30 歳	40 100.0%	1 2.5%	25 62.5%	7 17.5%	0 0.0%	6 15.0%
	31-44 歳	50 100.0%	5 10.0%	31 62.0%	9 18.0%	0 0.0%	5 10.0%
	45-64 歳	85 100.0%	9 10.6%	63 74.1%	5 5.9%	0 0.0%	8 9.4%
	65 歳-	6 100.0%	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

男女別 P 値 : 0.9108 年齢別 P 値 : 0.1861

次に、設問に掲げられた西成区内の地名についての認知度を聞いた（表 2-2-9）。全体的に「よく知っている（よく行く）」とした地名の上位は、天下茶屋・花園町・岸里・玉出・新今宮であり、これは先に見た一般市民の回答と変わり無く、いずれも区内のターミナルや駅名が挙げられている。男性は全体の傾向と同じだが、女性では津守・今宮・新今宮の回答が男性に比べかなり低くなっている。年齢別では若年層のみで認知度が著しく低くなっている地名がいくつかある。例えば鶴見橋やあいりん（釜ヶ崎）・今宮等である。

表 2-2-9 西成区内地名認知度

		地名認知度：よく知っている（よく行く）								
		計	津守	鶴見橋	あいりん	天下茶屋	岸里	花園町	今宮	山王
男女別・年齢別	計	183 100.0%	54 29.5%	52 28.4%	45 24.6%	99 54.1%	91 49.7%	98 53.6%	42 23.0%	18 9.8%
	男	138 100.0%	47 34.1%	40 29.0%	34 24.6%	77 55.8%	72 52.2%	74 53.6%	37 26.8%	15 10.9%
	女	44 100.0%	7 15.9%	12 27.3%	10 22.7%	22 50.0%	19 43.2%	24 54.5%	5 11.4%	3 6.8%
	16-30 歳	40 100.0%	5 12.5%	3 7.5%	2 5.0%	18 45.0%	14 35.0%	15 37.5%	3 7.5%	0 0.0%
	31-44 歳	50 100.0%	17 34.0%	17 34.0%	16 32.0%	32 64.0%	26 52.0%	29 58.0%	17 34.0%	7 14.0%
	45-64 歳	84 100.0%	28 33.3%	28 32.9%	22 25.9%	45 52.9%	47 55.3%	50 58.8%	18 21.2%	10 11.8%
	65 歳-	6 100.0%	4 66.7%	4 66.7%	4 66.7%	3 50.0%	3 50.0%	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%

		地名認知度：よく知っている・よく行く							
		玉出	新今宮	聖天坂	飛田	長橋	千本	天神ノ森	梅南
男女別・年齢別	計	82 44.8%	81 44.3%	19 10.4%	16 8.7%	31 16.9%	33 18.0%	15 8.2%	33 18.0%
	男	65 47.1%	66 47.8%	15 10.9%	12 8.7%	23 16.7%	25 18.1%	11 8.0%	28 20.3%
	女	17 38.6%	15 34.1%	4 9.1%	4 9.1%	8 18.2%	8 18.2%	4 9.1%	5 11.4%
	16-30 歳	19 47.5%	14 35.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.0%	4 10.0%	0 0.0%	4 10.0%
	31-44 歳	21 42.0%	28 56.0%	7 14.0%	6 12.0%	11 22.0%	9 18.0%	6 12.0%	10 20.0%
	45-64 歳	39 45.9%	35 41.2%	11 12.9%	9 10.6%	16 18.8%	19 22.4%	9 10.6%	19 22.4%
	65 歳-	2 33.3%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%

男女別 P 値 : 1.0000 年齢別 P 値 : 0.8150

そして、天下茶屋や花園町といった認知度の高い地名でさえ、他の年齢層と比べれば相対的に低くなっている。このことは、若年層については勤務先が西成区にあるだけで、その周囲のことはあまり認知していないことを示している。

表 2-2-10 「西成」関連事象：よく知っている (複数回答)

		「西成」関連事象：よく知っている							
		計	皮革産業	フレンド 事件	てんのじ村	じやりん子 チエ	勝間 なんさん	釜ヶ崎 暴動	ふたりっ子
男女別・年齢別	計	183 100.0%	68 37.2%	29 15.8%	29 15.8%	102 55.7%	12 6.6%	99 54.1%	76 41.5%
	男	138 100.0%	49 35.5%	26 18.8%	20 14.5%	74 53.6%	11 8.0%	83 60.1%	50 36.2%
	女	44 100.0%	18 40.9%	3 6.8%	8 18.2%	28 63.6%	1 2.3%	15 34.1%	26 59.1%
	16-30 歳	40 100.0%	6 15.0%	2 5.0%	0 0.0%	27 67.5%	0 0.0%	13 32.5%	13 32.5%
	31-44 歳	50 100.0%	20 40.0%	9 18.0%	6 12.0%	34 68.0%	2 4.0%	23 46.0%	20 40.0%
	45-64 歳	85 100.0%	38 44.7%	14 16.5%	18 21.2%	40 47.1%	9 10.6%	58 68.2%	41 48.2%
	65 歳-	6 100.0%	3 50.0%	3 50.0%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%

男女別 P 値：0.4289 年齢別 P 値：0.0524

表 2-2-11 社会的に立場の弱い人々についての認知 (複数回答)

		社会的に立場の弱い人々					
		計	高齢者	韓国・ 朝鮮人	中国・東南 アジア出身者	沖縄 出身者	同和地区 住民
男女別・年齢別	計	183 100.0%	68 37.2%	26 14.2%	9 4.9%	0 0.0%	43 23.5%
	男	138 100.0%	47 34.1%	22 15.9%	6 4.3%	0 0.0%	32 23.2%
	女	44 100.0%	20 45.5%	4 9.1%	3 6.8%	0 0.0%	11 25.0%
	16-30 歳	40 100.0%	13 32.5%	4 10.0%	4 10.0%	0 0.0%	12 30.0%
	31-44 歳	50 100.0%	23 46.0%	8 16.0%	2 4.0%	0 0.0%	13 26.0%
	45-64 歳	85 100.0%	29 34.1%	13 15.3%	3 3.5%	0 0.0%	16 18.8%
	65 歳-	6 100.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%

		社会的に立場の弱い人々				
		日雇 労働者	ひとり親 家庭	障害者	野宿 生活者	零細 商工業者
男女別・年齢別	計	111 60.7%	5 2.7%	21 11.5%	150 82.0%	35 19.1%
	男	82 59.4%	3 2.2%	16 11.6%	110 79.7%	30 21.7%
	女	29 65.9%	1 2.3%	4 9.1%	40 90.9%	5 11.4%
	16-30 歳	19 47.5%	0 0.0%	5 12.5%	31 77.5%	4 10.0%
	31-44 歳	31 62.0%	2 4.0%	5 10.0%	43 86.0%	2 4.0%
	45-64 歳	57 67.1%	2 2.4%	9 10.6%	70 82.4%	27 31.8%
	65 歳-	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%	5 83.3%	1 16.7%

男女別 P 値：0.9981 年齢別 P 値：0.9131

「西成」関連事象7項目について「よく知っている」との回答（表2-2-10）を見ていこう。ここで注目すべきは、「フレンド事件をよく知っている」者の割合が15.8%と高くなっていることである。一般市民の平均は2.8%であったが、実に約6倍である。これは、区内事業所向けの啓発活動による結果であろう。このほか特徴的な点は、「フレンド事件」・「釜ヶ崎暴動」は女性・若年層での認知度が低いことである。

西成区に居住する「社会的に立場の弱い人々」についての認知について聞いた（表2-2-11）。最も多くの指摘があったのは「野宿生活者」82.0%であり、これに「日雇労働者」・「高齢者が」続くという一般市民の回答と同じ傾向であった。この3つの項目については女性の方が割合が高くなっている。また年齢別では、若年層で「中国・東南アジア出身者」や「同和地区住民」、壮年層では「高齢者」、中高年層では「日雇労働者」・「零細商工業者」の値が高くなっている。これは若年層については近年の同和啓発やアジア系ニューカマーの影響、壮年層では回答者自身の親世代のことを、中高年層では自身と同世代の労働者や事業主のことを考えて回答したのであろう。

第3節 「西成」差別見聞経験

回答者の西成区での勤務について冷やかされた経験、また、西成区の地域や人々に対する差別や偏見（「西成」差別）を見聞きした経験を尋ねた（表2-3-1）。その結果によると、「冷やかされた」経験は19.1%、「西成」差別の見聞経験は41.5%が「ある」という回答が得られた。

「西成」差別の見聞経験は、「大阪市民一般」（46.9%）よりも若干低くなっている。「大阪市民一般」の場合、若年層、壮年層で「経験あり」の者が50%を超えていたが、「西成在勤者」全体の年齢が相対的に若いことを考えれば、かなり低い値である。その理由は定かではないが、考えられることは、日常の仕事場所が西成区であることから、そこでは「西成」差別は存在しえないということの結果ではないだろうか。

他方、冷やかされた経験を持つ者の割合は、他の区ではこうしたことを言われることがまれであることから、「かなり多い」と言ってよいだろう。

表2-3-1 西成区勤務を冷やかされた経験、「西成」差別の見聞経験

		冷やかされた経験				差別・偏見の見聞経験			
		計	ある	ない	覚えていない	計	ある	ない	覚えていない
男女別・年齢別	計	183 100.0%	35 19.1%	135 73.8%	12 6.6%	183 100.0%	76 41.5%	89 48.6%	17 9.3%
	男	138 100.0%	26 18.8%	104 75.4%	7 5.1%	138 100.0%	54 39.1%	70 50.7%	13 9.4%
	女	44 100.0%	9 20.5%	30 68.2%	5 11.4%	44 100.0%	21 47.7%	19 43.2%	4 9.1%
	16-30歳	40 100.0%	7 17.5%	27 67.5%	6 15.0%	40 100.0%	18 45.0%	16 40.0%	6 15.0%
	31-44歳	50 100.0%	12 24.0%	34 68.0%	4 8.0%	50 100.0%	19 38.0%	23 46.0%	8 16.0%
	45-64歳	85 100.0%	15 17.6%	68 80.0%	2 2.4%	85 100.0%	35 41.2%	47 55.3%	3 3.5%
	65歳-	6 100.0%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%

男女別P値：0.8920

年齢別P値：0.7204

男女別P値：0.9860

年齢別P値：0.6620

では、これら2つのうち、まず、西成区勤務について冷やかされた経験について、もう少し深く見ていくことにしよう。まず、それは「どこであるいは誰からなのか」を聞いた（表2-3-2）。冷やかされた経験は、「友人」からという答えが最も多かった。特に壮年層では2割以上を占める大きな値となっている。男女差で顕著なものは男性で「営業取引先」・女性で「職場仲間や上司」であった。このように、仕事にかかわる世界で「西成」への偏見や差別が広められつつあることがわかる。

表 2-3-2 西成区勤務を冷やかされた経験、どこであるいは誰から (複数回答)

		どこで・誰から冷やかし							
		回答数	友人	学校の先生	職場仲間 や上司	営業 取引先	サークル 活動	自宅周囲	その他
男女別・年齢別	回答数	54 100.0%	29 53.7%	2 3.7%	7 13.0%	7 13.0%	2 3.7%	5 9.3%	2 3.7%
	男	40 100.0%	22 55.0%	1 2.5%	3 7.5%	7 17.5%	1 2.5%	5 12.5%	1 2.5%
	女	14 100.0%	7 50.0%	1 7.1%	4 28.6%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%
	16-30 歳	10 100.0%	7 70.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%
	31-44 歳	20 100.0%	11 55.0%	1 5.0%	3 15.0%	3 15.0%	0 0.0%	1 5.0%	1 5.0%
	45-64 歳	23 100.0%	10 43.5%	1 4.3%	3 13.0%	3 13.0%	2 8.7%	3 13.0%	1 4.3%
	65 歳-	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

男女別 P 値：0.7587 年齢別 P 値：0.9999

注：「行政機関・窓口」、「冠婚葬祭の場」、「宗教行事など」の回答は無い。また、この設問は上記の「冷やかされた経験」の有無を踏まえてのものであるが、この設問のみの回答および未回答が多かったので、記入された回答は全て集計に加えることにした。よって、表 2-3-1 の「冷やかされた経験あり」とは一致しない。なお、下記の表 2-3-3・表 2-3-4 も同様である。

西成区勤務について冷やかされたことへの感想（表 2-3-3）で最も多かったのが「やむを得ない」であり、それに「不愉快」・「悲しく思った」が続いている。特に壮年層と女性で「やむを得ない」という回答が多くなっている。また、掲載はしていないが複数回答の組み合わせを検討すると、「やむを得ない」とは思っているが「不愉快」に感じている場合が、「不愉快」かつ「腹立ち」や、「不愉快」かつ「悲しく思った」よりも多いので、冷やかしを受けて気持ちの悪いものではないが、それに強く反論するだけの材料が無いというのが現状ではないだろうか。

表 2-3-3 西成区勤務を冷やかされたことへの感想 (複数回答)

		感想								
		回答数	不愉快	腹が 立った	悲しく 思った	当然だ	やむを 得ない	反論した	何とも 思わない	その他
男女別・年齢別	回答数	54 100.0%	12 53.7%	4 3.7%	5 13.0%	1 0.5%	20 10.9%	2 1.1%	4 2.2%	4 2.2%
	男	138 100.0%	10 7.2%	2 1.4%	5 3.6%	1 0.7%	14 10.1%	1 0.7%	4 2.9%	2 1.4%
	女	44 100.0%	2 4.5%	2 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 13.6%	1 2.3%	0 0.0%	2 4.5%
	16-30 歳	40 100.0%	2 5.0%	0 0.0%	2 5.0%	0 0.0%	5 12.5%	1 2.5%	0 0.0%	1 2.5%
	31-44 歳	50 100.0%	3 6.0%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%	7 14.0%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%
	45-64 歳	85 100.0%	7 8.2%	3 3.5%	2 2.4%	0 0.0%	7 8.2%	0 0.0%	3 3.5%	2 2.4%
	65 歳-	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

男女別 P 値：0.9614 年齢別 P 値：0.9997

さらに、冷やかされた後の対処（表 2-3-4）を尋ねると、「何もしなかった」というのがトップで、女性に全ての回答がそれであった。そして、何らかの相談をしたというケースや抗議をしたという回答は非常に少なかった。

表 2-3-4 西成区勤務について冷やかされたことへの対処 (複数回答)

		対処				
		回答者数	行政に相談	相手に抗議	何も しなかった	その他
男女別・年齢別	回答者数	35 100.0%	1 2.9%	4 11.4%	28 80.0%	3 8.6%
	男	27 100.00%	1 3.7%	4 14.8%	20 74.1%	3 11.1%
	女	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%
	16-30 歳	7 100.0%	0 0.0%	1 14.3%	6 85.7%	1 14.3%
	31-44 歳	12 100.0%	1 8.3%	2 16.7%	8 66.7%	0 0.0%
	45-64 歳	15 100.0%	0 0.0%	1 6.7%	14 93.3%	1 6.7%
	65 歳-	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%

男女別 P 値 : 0.9397 年齢別 P 値 : 0.6093

注 : 「家族や親戚に相談」・「友人に相談」・「人権擁護活動家に相談」との回答は無い。

続いて「西成」への偏見・差別の見聞経験についても同様に見ていこう。まず、どこであるいは誰からそれらを見聞したのかを尋ねる(表 2-3-5)と、「マスコミ」が最も多く、次いで「学校・職場の友達」となった。

詳細を見ると、男性では「マスコミ」という回答が最も多く、次いで「学校・職場の友達」、女性では「学校・職場の友達」という回答が最も多く、次いで「マスコミ」と男性に比べ順位が逆転している。また、「家族」や「学校の先生や職場の上司」も多かった。

年齢別では、若い人たちは「学校・職場の友達」が最も多いのに対し、中高年層では「マスコミ」が最も多いという結果であった。

表 2-3-5 「西成」差別の見聞経験、どこで・誰から (複数回答)

		どこで・誰から見聞								
		回答数	家族	親戚	近所 の人	学校・職場 の友達	マスコミ	学校先生 職場上司	公共の 場で	覚えて いない
男女別・年齢別	回答数	68 100.0%	10 14.7%	5 7.4%	10 14.7%	24 35.3%	30 44.1%	9 13.2%	10 14.7%	11 16.2%
	男	48 100.0%	6 12.5%	4 8.3%	9 18.8%	16 33.3%	25 52.1%	4 8.3%	8 16.7%	8 16.7%
	女	20 100.0%	4 20.0%	1 5.0%	1 5.0%	8 40.0%	5 25.0%	4 20.0%	2 10.0%	3 15.0%
	16-30 歳	30 100.0%	1 3.3%	1 3.3%	0 0.0%	7 23.3%	6 20.0%	1 3.3%	0 0.0%	3 10.0%
	31-44 歳	14 100.0%	5 35.7%	2 14.3%	3 21.4%	8 57.1%	5 35.7%	2 14.3%	1 7.1%	6 42.9%
	45-64 歳	23 100.0%	4 17.4%	2 8.7%	7 30.4%	9 39.1%	18 78.3%	5 21.7%	9 39.1%	2 8.7%
	65 歳-	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

年齢別 P 値 : 0.9721 年齢別 P 値 : 0.2064

注 : この設問は前記の「差別・偏見の見聞経験」の有無を踏まえてのものであるが、この設問のみの回答および未回答が多かったため、記入された回答は全て集計に加えることにした。よって、表 2-3-1 の「差別・偏見の見聞経験」とは一致しない。なお、下記の表 2-3-6・表 2-3-7 も同様である。

差別を見聞しての感想(表 2-3-6)で最も多いのは、西成区勤務を冷やかされた感想と同じく「やむを得ない」であった。しかし、ほぼ同じ程度で「不愉快」があり、次いで「悲しく思う」となった。性別での違いはあまりない。年齢別を見ると中高年層で「不愉快」と「やむを得ない」が多く、逆に若年層では、

「不愉快」が少なく「何とも思わない」が多くなっており、醒めた眼差しを持つ者が比較的多いようだ。

表 2-3-6 「西成」差別を見聞しての感想

(複数回答)

		感想								
		回答数	不愉快	腹が 立った	悲しく 思った	当然だ	やむを 得ない	反論した	何とも 思わない	その他
男女別・年齢別	回答数	69 100.0%	25 36.2%	9 13.0%	17 24.6%	2 2.9%	27 39.1%	2 2.9%	11 15.9%	5 7.2%
	男	48 100.0%	18 37.5%	7 14.6%	13 27.1%	2 4.2%	20 41.7%	1 2.1%	7 14.6%	1 2.1%
	女	20 100.0%	7 35.0%	2 10.0%	3 15.0%	0 0.0%	7 35.0%	1 5.0%	4 20.0%	4 20.0%
	16-30 歳	15 100.0%	3 20.0%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%	5 33.3%	1 6.7%	6 40.0%	2 13.3%
	31-44 歳	17 100.0%	6 35.3%	3 17.6%	5 29.4%	0 0.0%	7 41.2%	0 0.0%	2 11.8%	1 5.9%
	45-64 歳	18 100.0%	15 83.3%	5 27.8%	9 50.0%	1 5.6%	15 83.3%	1 5.6%	3 16.7%	2 11.1%
	65 歳-	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

男女別 P 値 : 0.9114 年齢別 P 値 : 0.7981

「西成」差別を見聞しての対処 (表 2-3-7) では、「何もしなかった」という回答が飛び抜けて多い。特に若年層ではその傾向が際だっている。

表 2-3-7 「西成」差別を見聞しての対処

(複数回答)

		対処							
		計	家族に 相談	友人に 相談	人権擁護 活動家に相談	行政に 相談	相手に 抗議	何も しなかった	その他
男女別・ 年齢別	回答数	71 100.0%	1 1.4%	5 7.0%	1 1.4%	2 2.8%	3 4.2%	55 77.5%	8 11.3%
	男	50 100.0%	0 0.0%	2 4.0%	0 0.0%	2 4.0%	2 4.0%	42 84.0%	4 8.0%
	女	20 100.0%	1 5.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	13 65.0%	4 20.0%
	16-30 歳	16 100.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 87.5%	1 6.3%
	31-44 歳	17 100.0%	1 5.9%	2 11.8%	0 0.0%	1 5.9%	2 11.8%	13 76.5%	1 5.9%
	45-64 歳	35 100.0%	0 0.0%	2 5.7%	0 0.0%	1 2.9%	1 2.9%	28 80.0%	4 11.4%
	65 歳-	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%

男女別 P 値 : 0.8223 年齢別 P 値 : 0.5949

注 : 「人権活動家相談」は性別・年齢とも不明の回答者からである。

西成区在勤者には、西成区勤務について冷やかされた経験を聞くとともに、「西成」差別が広く社会に流布していると思うかどうか尋ねた (表 2-3-8)。最も多かった答えは「わからない」45.9%であるが、全体的に 24.6%の回答者が「流布している」と回答している。特に女性で 30%以上、若年層にいたっては 40%もがそのように思っている。一方、中高年層は「流布している」との回答は相対的に少なくなっている。

表 2-3-8 「西成」差別の流布

		流布していると思うか			
		計	はい	いいえ	わからない
男女別・年齢別	計	183 100.0%	45 24.6%	47 25.7%	84 45.9%
	男	138 100.0%	30 21.7%	41 29.7%	63 45.7%
	女	44 100.0%	15 34.1%	5 11.4%	21 47.7%
	16-30 歳	40 100.0%	16 40.0%	9 22.5%	10 25.0%
	31-44 歳	50 100.0%	14 28.0%	9 18.0%	27 54.0%
	45-64 歳	85 100.0%	12 14.1%	26 30.6%	45 52.9%
	65 歳-	6 100.0%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%

男女別 P 値：0.3639 年齢別 P 値：0.1089

回答者の子供が就職して「西成」で働くことになった場合に何らかの「ためらい（抵抗感）」を感じるについて（表 2-3-9）は、トータルでは約 60%が「いいえ」としている。しかし、女性は 10%以上が「ためらいがある」と回答していることが目立っている。また、回答者自身やその子供が「西成」に居住することについて見ると、一転して抵抗感が増えていることがわかる。特に女性や若年層では 3 割程度が「ためらいがある」としており、その数値は平均の約 2 倍になっている。

表 2-3-9 「西成」勤務（回答者の子供）・居住へのためらい

		勤務へのためらい					居住へのためらい				
		計	はい	いいえ	何とも 言えない	わから ない	計	はい	いいえ	何とも 言えない	わから ない
男女別・年齢別	計	183 100.0%	10 5.5%	109 59.6%	50 27.3%	13 7.1%	183 100.0%	29 15.8%	86 47.0%	49 26.8%	18 9.8%
	男	138 100.0%	5 3.6%	87 63.0%	35 25.4%	10 7.2%	138 100.0%	17 12.3%	68 49.3%	39 28.3%	13 9.4%
	女	44 100.0%	5 11.4%	21 47.7%	15 34.1%	3 6.8%	44 100.0%	12 27.3%	17 38.6%	10 22.7%	5 11.4%
	16-30 歳	40 100.0%	3 7.5%	19 47.5%	15 37.5%	3 7.5%	40 100.0%	12 30.0%	13 32.5%	11 27.5%	4 10.0%
	31-44 歳	50 100.0%	4 8.0%	26 52.0%	16 32.0%	4 8.0%	50 100.0%	11 22.0%	20 40.0%	13 26.0%	6 12.0%
	45-64 歳	85 100.0%	3 3.5%	57 67.1%	18 21.2%	6 7.1%	85 100.0%	6 7.1%	48 56.5%	23 27.1%	7 8.2%
	65 歳-	6 100.0%	0 0.0%	5 83.3%	1 16.7%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%

男女別 P 値：0.6595

年齢別 P 値：0.9352

男女別 P 値：0.6472

年齢別 P 値：0.4470

これまでの「西成」経験を踏まえて、改めて回答者に「西成」への居住意思を尋ねてみた。最も多い答えは「わからない」であり、「住んでみたい」という回答は少ない。面白いことに女性で「住んでみたい」という値が平均値よりも高くなってはいるが、逆に「住みたくない」という値も同時にかなり高くなっており、男性よりも回答者個々の意思表示がはっきりと表れ出ている。

表 2-3-10 「西成」居住意思

		居住意思			
		計	住んでみたい	住みたくない	わからない
男女別・年齢別	計	183 100.0%	16 8.7%	72 39.3%	94 51.4%
	男	138 100.0%	10 7.2%	46 33.3%	81 58.7%
	女	44 100.0%	6 13.6%	26 59.1%	12 27.3%
	16-30 歳	40 100.0%	2 5.0%	18 45.0%	20 50.0%
	31-44 歳	50 100.0%	3 6.0%	23 46.0%	24 48.0%
	45-64 歳	85 100.0%	8 9.4%	30 35.3%	46 54.1%
	65 歳-	6 100.0%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%

男女別 P 値 : 0.0348

年齢別 P 値 : 0.2243

第 4 節 「西成」のイメージや差別経験による態度の違い

一般市民で見てきたのと同様に、「西成」に関する意識が、イメージや差別経験によってどのような差異が表れるのかを、各結果をクロスさせて関連を見ていく。

(1) 西成区勤務開始以前の西成区との関わり

回答者の西成区勤務開始以前の西成区との関わりと具体的イメージ「こわい」をクロスさせて見ると、以前より「仕事」・「通学」で「西成」にきたことがある者の方が「こわい」とは思わないとしており、逆に「こわい」と思っている者は「全く知らなかった」とする場合が多い。つまり、個人的な「西成」経験の有無が「こわい」イメージに大きく影響していると言えよう。

表 2-4-1 西成区勤務開始以前の西成区との関わりと、「西成」イメージ：こわい

		勤務開始以前の関わり						
		計	仕事で 来た	通学 していた	親戚・友人 を訪ねた	遊び・買物 で来た	通過のみ	全く 知らなかった
イメージ「こわい」	計	183 100.0%	34 18.6%	9 4.9%	22 12.0%	13 7.1%	60 32.8%	39 21.3%
	そう思う	36 100.0%	3 8.3%	1 2.8%	3 8.3%	1 2.8%	13 36.1%	14 38.9%
	どちらとも いえない	78 100.0%	16 20.5%	1 1.3%	11 14.1%	6 7.7%	31 39.7%	12 15.4%
	そう思わない	53 100.0%	14 26.4%	6 11.3%	7 13.2%	5 9.4%	12 22.6%	7 13.2%
	わからない	12 100.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	6 50.0%

P 値 : 0.1149

西成区勤務を冷やかされた経験については、「全く知らなかった」との回答者に「冷やかし経験あり」とする場合が多い。また、表には無いが「西成」差別見聞経験についても冷やかし経験と似た傾向が見られたが、冷やかしとは異なり「差別見聞経験の有無」の間の数値の差異は相対的に小さいものであった。

表 2-4-2 西成区勤務開始以前の西成区との関わりと、西成区勤務冷やかし経験

		勤務開始以前の関わり						
		計	仕事で 来た	通学 していた	親戚・友人 を訪ねた	遊び・買物 で来た	通過のみ	全く 知らなかった
冷 や か し 経 験	計	183 100.0%	34 18.6%	9 4.9%	22 12.0%	13 7.1%	60 32.8%	39 21.3%
	ある	35 100.0%	4 11.4%	3 8.6%	2 5.7%	3 8.6%	10 28.6%	13 37.1%
	ない	135 100.0%	28 20.7%	6 4.4%	19 14.1%	9 6.7%	43 31.9%	24 17.8%
	覚えていない	12 100.0%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	7 58.3%	2 16.7%

P 値 : 0.7956

勤務へのためらいは、関わり「通過のみ」・「全く知らなかった」での回答者の多くが感じている。一方、「全く知らない」が最も少なく「仕事で来た」という値が多くても、抵抗感「どちらともいえない」という結果となっているので、以前より自分自身に「西成」との関わりがあっても子供の「西成」勤務には良い思いを持たない場合が多いようである。それは、表には無いが居住へのためらいについてもほぼ同様の結果が見られた。

表 2-4-3 西成区勤務開始以前の西成区との関わりと、「西成」勤務へのためらい

		勤務開始以前の関わり						
		計	仕事で 来た	通学 していた	親戚・友人 を訪ねた	遊び・買物 で来た	通過のみ	全く 知らなかった
勤 務 へ の た め ら い	計	183 100.0%	34 18.6%	9 4.9%	22 12.0%	13 7.1%	60 32.8%	39 21.3%
	はい	10 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	4 40.0%	5 50.0%
	いいえ	109 100.0%	19 17.4%	9 8.3%	16 14.7%	9 8.3%	28 25.7%	22 20.2%
	なんとも いえない	50 100.0%	11 22.0%	0 0.0%	2 4.0%	4 8.0%	25 50.0%	8 16.0%
	わからない	13 100.0%	4 30.8%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	3 23.1%	4 30.8%

P 値 : 0.3426

居住意思について見ると、「住みたくない」・「わからない」の場合で関わり「通過のみ」・「全く知らなかった」が多いように、関わりがさほど無い場合で居住意思が少ない事が多い。しかも、全般的に見ても「住んでみたい」と答えることは少ないようである。

表 2-4-4 西成区勤務開始以前の西成区との関わりと、「西成」居住意思

		勤務開始以前の関わり						
		計	仕事で 来た	通学 していた	親戚・友人 を訪ねた	遊び・買物 で来た	通過のみ	全く 知らなかった
居 住 意 思	計	183 100.0%	34 18.6%	9 4.9%	22 12.0%	13 7.1%	60 32.8%	39 21.3%
	住んでみたい	16 100.0%	2 12.5%	6 37.5%	3 18.8%	2 12.5%	2 12.5%	1 6.3%
	住みたくない	72 100.0%	16 22.2%	1 1.4%	7 9.7%	5 6.9%	22 30.6%	21 29.2%
	わからない	94 100.0%	16 17.0%	2 2.1%	11 11.7%	6 6.4%	36 38.3%	17 18.1%

P 値 : 0.0004

差別解消活動への参加は、西成区への関わりに比例して活動への参加意思も薄くなるという傾向である。

表 2-4-5 西成区勤務以前の西成区との関わりと、差別解消活動への参加

		勤務開始以前の関わり					
		計	仕事で 来た	通学 していた	親戚・友人 を訪ねた	遊び・買物 で来た	通過のみ 全く 知らなかった
参加 意思	計	183 100.0%	34 18.6%	9 4.9%	22 12.0%	13 7.1%	60 32.8%
	積極的に参加	7 100.0%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%
	機会があれば	65 100.0%	14 21.5%	5 7.7%	11 16.9%	3 4.6%	16 24.6%
	側面援助	24 100.0%	4 16.7%	0 0.0%	1 4.2%	3 12.5%	12 50.0%
	参加しない	44 100.0%	7 15.9%	2 4.5%	5 11.4%	2 4.5%	14 31.8%
	わからない	39 100.0%	7 17.9%	1 2.6%	4 10.3%	3 7.7%	15 38.5%

P 値：0.9713

(2) 「西成」の具体的イメージ：こわい

西成区勤務を冷やかされた経験がある者には、「こわい」イメージを抱えている者がわずかながら多い。しかし、表には無いが「西成」差別見聞経験では、「差別見聞経験の有無」の間の差異は冷やかし経験よりも小さい。つまり、「こわい」イメージの別に関係なく、「西成」差別は広く見聞されているということが推測できる。

表 2-4-6 「西成」の具体的イメージ：こわいと、西成区勤務冷やかし経験

		「西成」イメージ：こわい				
		計	そう 思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
冷 や か し 経 験	計	183 100.0%	36 19.7%	78 42.6%	53 29.0%	12 6.6%
	ある	35 100.0%	8 22.9%	13 37.1%	11 31.4%	2 5.7%
	ない	135 100.0%	25 18.5%	58 43.0%	40 29.6%	9 6.7%
	覚えていない	12 100.0%	3 25.0%	7 58.3%	1 8.3%	1 8.3%

P 値：0.9929

「西成」勤務へのためらいは、「こわい」イメージを持っているほど抵抗感が強いという結果が出ている。それは居住抵抗についても同様である。

表 2-4-7 「西成」の具体的イメージ：こわいと、「西成」勤務・居住へのためらい

		「西成」イメージ：こわい				
		計	そう 思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
勤 務 へ の た め ら い	計	183 100.0%	36 19.7%	78 42.6%	53 29.0%	12 6.6%
	はい	10 100.0%	6 60.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%
	いいえ	109 100.0%	14 12.8%	43 39.4%	43 39.4%	5 4.6%
	なんとも いえない	50 100.0%	15 30.0%	25 50.0%	8 16.0%	2 4.0%
	わからない	13 100.0%	1 7.7%	7 53.8%	1 7.7%	4 30.8%

P 値：0.0006

		「西成」イメージ：こわい				
		計	そう 思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
居住 への ため らい	計	183 100.0%	36 19.7%	78 42.6%	53 29.0%	12 6.6%
	はい	29 100.0%	13 44.8%	11 37.9%	3 10.3%	2 6.9%
	いいえ	86 100.0%	9 10.5%	30 34.9%	39 45.3%	4 4.7%
	なんとも いえない	49 100.0%	13 26.5%	25 51.0%	9 18.4%	2 4.1%
	わからない	18 100.0%	1 5.6%	12 66.7%	1 5.6%	4 22.2%

P 値：0.0001

「西成」の具体的イメージが「こわい」と「住みたくない」という当然の結果となっているが、イメージが「こわく」なくても居住意思が「わからない」という場合も多い。

表 2-4-8 「西成」の具体的イメージ：こわいと、「西成」居住意思

		「西成」イメージ：こわい				
		計	そう 思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
居住 意思	計	183 100.0%	36 19.7%	78 42.6%	53 29.0%	12 6.6%
	住んでみたい	16 100.0%	3 18.8%	4 25.0%	7 43.8%	0 0.0%
	住みたくない	72 100.0%	22 30.6%	31 43.1%	13 18.1%	5 6.9%
	わからない	94 100.0%	11 11.7%	43 45.7%	32 34.0%	7 7.4%

P 値：0.2424

「西成」イメージが「こわい」と解消活動には「参加しない」、そして、イメージが「こわくない」と活動に「参加してもよい」という、極めて対照的な結果が出てきた。

表 2-4-9 「西成」の具体的イメージ：こわいと、「西成」差別解消活動への参加

		「西成」イメージ：こわい				
		計	そう 思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
参加 意思	計	183 100.0%	36 19.7%	78 42.6%	53 29.0%	12 6.6%
	積極的に参加	7 100.0%	0 0.0%	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%
	機会があれば	65 100.0%	9 13.8%	32 49.2%	23 35.4%	0 0.0%
	側面援助	24 100.0%	4 16.7%	10 41.7%	8 33.3%	2 8.3%
	参加しない	44 100.0%	15 34.1%	18 40.9%	7 15.9%	4 9.1%
	わからない	39 100.0%	7 17.9%	16 41.0%	10 25.6%	6 15.4%

P 値：0.2437

(3) 西成区勤務を冷やかされた経験

西成区勤務を冷やかされた経験（直接差別経験）と「西成」に対する差別・偏見を見聞した経験（間接差別経験）の関係性は、「差別見聞経験あり」の場合で約 1/3 が「冷やかし経験あり」としているが、「差別見

聞経験なし」だと「冷やかし経験なし」が90%以上となる。これらから、在勤者自身が西成区勤務を冷やかされた経験があると他の差別も見聞きすることが多いことがわかり、それだけ差別的事象に関して敏感になっているのではないかと推測できる。

表 2-4-10 西成区勤務冷やかし経験と、「西成」差別見聞経験

		冷やかし経験			
		計	ある	ない	覚えていない
差別見聞経験	計	183 100.0%	35 19.1%	135 73.8%	12 6.6%
	ある	76 100.0%	27 35.5%	46 60.5%	3 3.9%
	ない	89 100.0%	6 6.7%	81 91.0%	2 2.2%
	覚えていない	17 100.0%	2 11.8%	8 47.1%	7 41.2%

P 値 : 0.0000

回答者の子供の「西成」勤務へのためらい、そして、「西成」居住へのためらいは、両方ともほぼ同程度の割合で、西成区勤務冷やかし経験があれば、それらの抵抗感があるという結果が出た。

表 2-4-11 西成区勤務冷やかし経験と、「西成」勤務・居住へのためらい

		冷やかし経験			
		計	ある	ない	覚えていない
勤務へのためらい	計	183 100.0%	35 19.1%	135 73.8%	12 6.6%
	はい	10 100.0%	4 40.0%	5 50.0%	1 10.0%
	いいえ	109 100.0%	20 18.3%	85 78.0%	3 2.8%
	なんともいえない	50 100.0%	10 20.0%	35 70.0%	5 10.0%
	わからない	13 100.0%	1 7.7%	10 76.9%	2 15.4%
居住へのためらい	計	183 100.0%	35 19.1%	135 73.8%	12 6.6%
	はい	29 100.0%	12 41.4%	13 44.8%	4 13.8%
	いいえ	86 100.0%	15 17.4%	70 81.4%	1 1.2%
	なんともいえない	49 100.0%	7 14.3%	38 77.6%	3 6.1%
	わからない	18 100.0%	1 5.6%	14 77.8%	3 16.7%

P 値 : 0.6567

P 値 : 0.0257

西成区勤務への冷やかしを受ければ「住みたくない」という答えとなっている。しかし、冷やかし経験が無くとも居住意思は「わからない」というのが多く、度数的に「積極的に住んでみたい」という意思是数少なくなっている。なお、冷やかし経験と「西成」差別解消活動への参加意思については、その経験と参加の度合いの関係で目立った特徴的差異は見られなかった。

表 2-4-12 西成区勤務冷やかし経験と、「西成」居住意思

		冷やかし経験			
		計	ある	ない	覚えていない
居住意思	計	183 100.0%	35 19.1%	135 73.8%	12 6.6%
	住んでみたい	16 100.0%	3 18.8%	12 75.0%	0 0.0%
	住みたくない	72 100.0%	18 25.0%	50 69.4%	4 5.6%
	わからない	94 100.0%	14 14.9%	73 77.7%	7 7.4%

P 値 : 0.9223

(4) 「西成」差別や偏見の見聞経験

「西成」差別や偏見の見聞経験と回答者の子供の「西成」勤務へのためらいは、「西成」勤務冷やかし経験に比べるとあまり各ケース間の差異は見られないようだ。しかし、居住へのためらいになると、やはり「差別見聞経験あり」の方が抵抗感は大いそうだ。また、表には無いが居住意思を見ると「住んでみたい」・「住みたくない」とも「差別見聞経験の有無」はほぼ同率で、両者の間での差異はほとんど見られなかった。

表 2-4-13 「西成」差別見聞経験と、「西成」勤務・居住へのためらい

		差別・偏見の見聞経験			
		計	ある	ない	覚えていない
勤務へのためらい	計	183	76	89	17
		100.0%	41.5%	48.6%	9.3%
	はい	10	4	4	2
		100.0%	40.0%	40.0%	20.0%
	いいえ	109	48	54	6
		100.0%	44.0%	49.5%	5.5%
居住へのためらい	なんとかいえない	50	18	24	8
		100.0%	36.0%	48.0%	16.0%
	わからない	13	6	6	1
		100.0%	46.2%	46.2%	7.7%

P 値：0.9086

		差別・偏見の見聞経験			
		計	ある	ない	覚えていない
勤務へのためらい	計	183	76	89	17
		100.0%	41.5%	48.6%	9.3%
	はい	29	18	6	5
		100.0%	62.1%	20.7%	17.2%
	いいえ	86	36	47	3
		100.0%	41.9%	54.7%	3.5%
居住へのためらい	なんとかいえない	49	15	25	8
		100.0%	30.6%	51.0%	16.30%
	わからない	18	7	10	1
		100.0%	38.9%	55.6%	5.6%

P 値：0.1202

「西成」差別見聞経験があれば差別解消活動への参加意思も高くなる傾向にある。

表 2-4-14 「西成」差別見聞経験と、「西成」差別解消活動への参加

		差別・偏見の見聞経験			
		計	ある	ない	覚えていない
参加意思	計	183	76	89	17
		100.0%	41.5%	48.6%	9.3%
	積極的に参加	7	6	1	0
		100.0%	85.7%	14.3%	0.0%
	機会があれば	65	30	30	4
		100.0%	46.2%	46.2%	6.2%
	側面援助	24	11	8	5
		100.0%	45.8%	33.3%	20.8%
参加しない		44	16	26	2
		100.0%	36.4%	59.1%	4.5%
	わからない	39	12	21	6
		100.0%	30.8%	53.8%	15.4%

P 値：0.3458

(5) 「西成」勤務へのためらい

回答者の子供の「西成」勤務へのためらいがあれば、「西成」居住へのためらいもあるという傾向、そして「西成」勤務へのためらいが「なんとかいえない」であっても、居住へのためらいは明らかに「ある」という傾向がある。逆に言えば、「西成」勤務へのためらいが無ければ「西成」居住へのためらいも無いということが、はっきりと表れている。また、「西成」居住意思については「わからない」という答えが最も多かったが、「西成」勤務へのためらいが「なんとかいえない」でも「住みたくない」場合が多いので、居住に関しては勤務すること以上に抵抗感が大いことがわかる。

表 2-4-15 「西成」勤務へのためらいと、「西成」居住へのためらい・居住意思

		勤務へのためらい				
		計	はい	いいえ	なんとも いえない	わから ない
居住 への ため らい	計	183 100.0%	10 5.5%	109 59.6%	50 27.3%	13 7.1%
	はい	29 100.0%	9 31.0%	5 17.2%	14 48.3%	1 3.4%
	いいえ	86 100.0%	0 0.0%	83 96.5%	3 3.5%	0 0.0%
	なんとも いえない	49 100.0%	1 2.0%	17 34.7%	31 63.3%	0 0.0%
	わからない	18 100.0%	0 0.0%	4 22.2%	2 11.1%	12 66.7%

P 値 : 0.0000

		勤務へのためらい				
		計	はい	いいえ	なんとも いえない	わから ない
居住 意思	計	183 100.0%	10 5.5%	109 59.6%	50 27.3%	13 7.1%
	住んでみたい	16 100.0%	0 0.0%	16 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	住みたくない	72 100.0%	9 12.5%	27 37.5%	30 41.7%	6 8.3%
	わからない	94 100.0%	1 1.1%	66 70.2%	20 21.3%	7 7.4%

P 値 : 0.0005

「西成」勤務へのためらいが無ければ、「西成」差別解消活動への参加意思も高くなっている。

表 2-4-16 「西成」勤務へのためらいと、「西成」差別解消活動への参加

		勤務へのためらい				
		計	はい	いいえ	なんとも いえない	わから ない
参加 意思	計	183 100.0%	10 5.5%	109 59.6%	50 27.3%	13 7.1%
	積極的に参加	7 100.0%	0 0.0%	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	機会があれば	65 100.0%	4 6.2%	41 63.1%	13 20.0%	7 10.8%
	側面援助	24 100.0%	1 4.2%	13 54.2%	8 33.3%	2 8.3%
	参加しない	44 100.0%	4 9.1%	21 47.7%	18 40.9%	1 2.3%
	わからない	39 100.0%	1 2.6%	24 61.5%	11 28.2%	3 7.7%

P 値 : 0.7778

(6) 「西成」居住へのためらい

これまで見てきたように「西成」居住については、はっきりとした傾向が表れている。つまり、勤務等への抵抗感（ためらい）が無ければ「住んでみたい」ことが多く、逆に抵抗感があれば「住みたくない」が多いということである。

表 2-4-17 「西成」居住へのためらいと、「西成」居住意思

		居住へのためらい				
		計	はい	いいえ	なんとも いえない	わからない
居住 意思	計	183 100.0%	29 15.8%	86 47.0%	49 26.8%	18 9.8%
	住んでみたい	16 100.0%	0 0.0%	15 93.8%	1 6.3%	0 0.0%
	住みたくない	72 100.0%	26 36.1%	15 20.8%	23 31.9%	8 11.1%
	わからない	94 100.0%	3 3.2%	56 59.6%	25 26.6%	10 10.6%

P 値 : 0.0000

「西成」差別解消活動への参加は、「西成」勤務へのためらいと似た傾向を示している。相違点は活動に「参加しない」かつ勤務へのためらいが「なんともいえない」が40%あったが、居住へのためらいはそれが少なく、逆に活動への参加意思が「側面援助」場合でその値が高くなっていることである。これは勤務と居住では「西成」への関わり方が違うこと、すなわち、住んでいる（住むことになる）街ならば自分の手で少しでも良くして行こうという「わが街」意識の表れではないだろうか。

表 2-4-18 「西成」居住へのためらいと、「西成」差別解消活動への参加

		居住へのためらい				
		計	はい	いいえ	なんとも いえない	わからない
参加 意思	計	183 100.0%	29 15.8%	86 47.0%	49 26.8%	18 9.8%
	積極的に参加	7 100.0%	0 0.0%	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	機会があれば	65 100.0%	9 13.8%	32 49.2%	17 26.2%	7 10.8%
	側面援助	24 100.0%	3 12.5%	10 41.7%	9 37.5%	2 8.3%
	参加しない	44 100.0%	14 31.8%	14 31.8%	13 29.5%	3 6.8%
	わからない	39 100.0%	3 7.7%	20 51.3%	10 25.6%	6 15.4%

P 値 : 0.3314

(7) 「西成」居住意思

西成区に「住んでみたい」と思えば積極的に街の改善活動にコミットし、「住みたくない」のなら関わりたくない、上記の「西成」勤務と居住へのためらいの分析のなかで「西成」への関わり方が違うと結論付けたが、この表からもさらに明らかになるのではなかろうか。ただし、「西成」居住意思・「西成」差別解消活動参加意思の両方とも、現段階においてはあくまでも「仮定の話」であり想像でしか答えようがないので、「わからない」という回答が多い結果とはなっている。

表 2-4-19 「西成」居住意思と、「西成」差別解消活動への参加

		居住意思			
		計	住んでみたい	住みたくない	わからない
参加意思	計	183 100.0%	16 8.7%	72 39.3%	94 51.4%
	積極的に参加	7 100.0%	3 42.9%	0 0.0%	4 57.1%
	機会があれば	65 100.0%	9 13.8%	23 35.4%	33 50.8%
	側面援助	24 100.0%	0 0.0%	10 41.7%	14 58.3%
	参加しない	44 100.0%	3 6.8%	27 61.4%	14 31.8%
	わからない	39 100.0%	0 0.0%	12 30.8%	27 69.2%

P 値 : 0.0059

第 5 節 「西成」差別解消策

「西成」差別解消策について、以下の 11 項目から有効だと思われるものを複数回答で選んでもらった。その結果、割合の多いものから「区画整理などによるまちづくり」・「日雇労働者施策」・「マスコミ宣伝」という順になった。これは老朽住宅の多さと公園や緑の少なさ、日雇労働者の失業・野宿者化、マスコミによる「西成」差別の伝播という問題をそのまま表した結果と言えよう。回答パターンからもハード面として街並改良、ソフト面として各種弱者への施策、外部への宣伝効果としてマスコミの偏重報道の是正、この 3 つを中心に「西成」の改善を図るのみならず、対象となる住民の「自助努力」を求める回答も比較的多くなっている。詳細に見ていくと、女性と若年層で特徴的な回答、例えば女性は「マスコミ宣伝」と「弱者施策」、若年層は「まちづくり」・「日雇施策」・「同和地区・外国籍住民施策」を挙げているが、若年層は「マスコミ宣伝」と、女性とともに「啓発推進」には消極的な答えが出てきている。これらの回答パターンから若年層は「西成」外部に対する宣伝（イメージ戦略）よりも、現実問題として「西成」内部の改良・改善をすべきであるという意思を持っているようである。

表 2-5-1 「西成」差別解消策

(複数回答)

		差別解消策											
		計	差別学習	マスコミ 宣伝	啓発推進	集客施設 建設	自助努力	まち づくり	弱者施策	日雇施策	同和 外国人施策	その他	わから ない
男女別・ 年齢別	計	183 100.0%	29 15.8%	45 24.6%	23 12.6%	28 15.3%	42 23.0%	67 36.6%	34 18.6%	61 33.3%	23 12.6%	11 6.0%	41 22.4%
	男	138 100.0%	25 18.1%	32 23.2%	20 14.5%	22 15.9%	31 22.5%	54 39.1%	23 16.7%	46 33.3%	16 11.6%	7 5.1%	33 23.9%
	女	44 100.0%	4 9.1%	13 29.5%	3 6.8%	6 13.6%	11 25.0%	13 29.5%	11 25.0%	15 34.1%	7 15.9%	4 9.1%	8 18.2%
	16-30 歳	40 100.0%	6 15.0%	6 15.0%	3 7.5%	7 17.5%	9 22.5%	16 40.0%	6 15.0%	18 45.0%	9 22.5%	4 10.0%	5 12.5%
	31-44 歳	50 100.0%	6 12.0%	15 30.0%	8 16.0%	5 10.0%	9 18.0%	18 36.0%	11 22.0%	19 38.0%	8 16.0%	2 4.0%	13 26.0%
	45-64 歳	85 100.0%	14 16.5%	23 27.1%	10 11.8%	15 17.6%	23 27.1%	30 35.3%	15 17.6%	23 27.1%	6 7.1%	4 4.7%	21 24.7%
	65 歳-	6 100.0%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%

男女別 P 値 : 0.9971 年齢別 P 値 : 0.9686

表 2-5-2 「西成」差別解消策の複数回答の組み合わせ

	その他	マスコミ 宣伝	まち づくり	啓発推進	差別の歴史の学習	自助努力	弱者施策	集客施設	同和問題 外国人施策	日雇労働者 居住地域施策	わからない
その他	11										
マスコミ	1	45									
まちづくり	1	17	67								
啓発推進	1	7	7	23							
差別学習	3	5	7	11	29						
自助努力	2	10	17	8	10	42					
弱者施策	2	10	14	3	6	8	34				
集客施設	3	10	14	3	6	4	4	28			
同和外国	0	3	9	5	4	7	6	4	23		
日雇施策	1	15	28	7	8	11	16	8	12	61	
わからない	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	41

最後に「西成」差別解消活動への参加意思をたずねてみた。「積極的に参加」というのは少ないが「機会があれば参加」・「側面から援助」という回答が約半数得られた。男性や中高年層で「積極的に参加」・「機会があれば参加」が多かったが、女性や若年層では逆に「参加しない」という回答が30%以上見られた。これらは一般市民と似通った結果である。

表 2-5-3 「西成」差別解消活動への参加

		参加意思					
		計	積極的に 参加	機会が あれば	側面援助	参加 しない	わから ない
男女別・ 年齢別	計	183 100.0%	7 3.8%	65 35.5%	24 13.1%	44 24.0%	39 21.3%
	男	138 100.0%	7 5.1%	51 37.0%	19 13.8%	29 21.0%	30 21.7%
	女	44 100.0%	0 0.0%	14 31.8%	5 11.4%	15 34.1%	9 20.5%
	16-30 歳	40 100.0%	0 0.0%	11 27.5%	5 12.5%	12 30.0%	12 30.0%
	31-44 歳	50 100.0%	1 2.0%	16 32.0%	8 16.0%	16 32.0%	9 18.0%
	45-64 歳	85 100.0%	4 4.7%	34 40.0%	11 12.9%	16 18.8%	17 20.0%
	65 歳-	6 100.0%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%

男女別 P 値：0.8893 年齢別 P 値：0.2254

第 6 節 まとめ

西成区在勤者の「西成」および「西成」差別に関しての意見を見てきた。一般市民とは異なり男性や若年層という属性の回答者が多かったのが特徴的で、勤続年数が短いホワイトカラー層に偏ってはいるが、その回答を分析した結果、明らかになったのは次のようなことである。

まず、西成区勤務が決まった時の感想であるが、約 80%は特別の感情を抱いてはいないが女性や若年層で「大変なところで…」という思いを持つ割合が高く、勤務開始時には周囲から「気を付けるように」と言われたという。また、勤務開始以前の「西成」との関係は「通過のみ」というものが最も多かった。

「西成」の具体的イメージは一般市民と同様の結果が出た。しかも、年齢が下がるほど評価が低くなっているところまで同じである。このイメージを細かく見ると、「庶民的」・「こわい」は勤務開始以前から、「老朽住宅」や「交通の便」は勤務開始後に「そう思った」という結果で、前者の「西成」イメージはかなり世間に流布していることがわかる。そして、「西成」の勤務環境は「他の区と変らない」とするものが半数で、「西成」を特別に感じていることはなさそうである。また、西成区での勤務の継続については、現在の経済

状況の影響もあるのか全体的には「就労場所はどこでもかまわない」としているものが多いが、若年層で「ずっと就労したいとは思わない」という割合が高くなっている。

次に「西成」の各事柄についての質問では、地名の認知度は一般市民の回答と変らず区内ターミナル・駅名が良く知られている。特徴は女性や若年層で「今宮」・「新今宮」・「あいりん」等の認知度がかなり低く、その他主要地名認知度も比較的低く、勤務先以外の「西成」はあまり認知していないことが表れ出ている。また、「西成」関連事象では、「フレンド事件」の割合が一般市民の約6倍の高率で知られていることが特徴的である。これは区内事業所向けの啓発活動によると思われる。しかし、全体を通して見ると、ここでも若年層の認知度が低い。そして社会的弱者については一般市民と同様、「野宿生活者」・「日雇労働者」・「高齢者」を3大弱者として挙げている。

差別経験については、自身の西成区勤務を冷やかされた「直接差別」と「西成」への差別や偏見の見聞という「間接差別」の両方をたずねてみた。すると前者は20%、後者は40%が、それらの経験があるという結果が出てきた。まず、冷やかされた経験について見ると、「友人から受けた」とするものが多く、男性で「営業取引先」・女性で「職場仲間・上司」という職場関係での差別再生産が展開されている回答であった。そして、冷やかしを受けての感想で最も多かったのが「やむを得ない」であった。しかし、「不愉快」という感情がその裏側にあることは決して忘れてはならない。一方、「西成」差別の見聞については「マスコミから」・「学校や職場の友人から」、この2つから見聞きしたというのが多かった。ここでも「マスコミ」が差別感を伝達する大きな手段となっていることがわかる。特徴的だったのは女性からの回答で「学校の先生や職場の上司」・「家族」からという割合が高かった。これは西成区勤務への冷やかしを「職場仲間や上司」から受けたリ、西成区勤務に当たって周囲から意見されたりすることが多いからであろう。見聞しての感想は中高年層で「不愉快」だが「やむを得ない」としているが、若年層では「何とも思わなかった」が増えており、「西成」の現状に対しては醒めた眼を持っているようである。また、これらの差別経験後の対処は冷やかし・差別見聞のいずれも「何もしなかった」という回答がほとんどであった。

これまで見たような「西成」差別が社会に流布しているかたずねると全体の20%、女性の30%、若年層の40%が「流布している」と答えたことは驚くべきことである。また、回答者の子供の「西成」勤務へのためらいについては60%が「ためらいはない」としているが、居住へのためらい抵抗については抵抗感が増加していることは一般市民と同様である。そして、これまでの勤務経験を踏まえて改めて「西成」居住意思を尋ねてみると、「住んでみたい」というものは10%程度と少なかった。

最後に「西成」差別解消策と「西成」差別解消活動への参加意思を問うた。解消策では、老朽住宅の多さと街の緑の少なさ、日雇労働者の失業・野宿者化、マスコミによる「西成」差別の流布ということの改善を求めた結果がそのまま表れ出ている。回答パターンもハード面の改善（まちづくり）・ソフト面の充実（弱者施策）・外部への宣伝（マスコミ）の3者の組み合わせと、対象住民の「自助努力」を求める回答が多くなっている。そして、「西成」差別解消活動への参加については、「積極的に参加する」としている者は非常に少ないが、何らかの形で参加しても良いという回答が約半数得られた。ここでも一般市民と同様に若年層での「参加しない」という割合が高くなっている。

第3章 西成区民の「西成」差別に対する認識

第1節 回答者の特徴

西成区内の中でも地区の違いがあることを考慮して、本調査では、以下のように5地区、北東、北西、西、中央、南に分けている。地区差が見られる場合には、この分類も付加しながら分析を進める。回答者の年齢は、表3-1-1のように、65歳以上で3分の1、45歳以上となると3分の2ということで、どちらかというと高齢者にかたより気味である。回答者の男女比はほぼ半々であるが、女性はどちらかというと若い世代に、男性は年寄りの世代に回答数が多い。世帯類型（表3-1-2）では、4分の3が二世帯以上の世帯となっており、単身者の回答は17.5%となっている。いずれも表は掲載していないが区内地区差はほとんどない。

- 北東地区： 山王、太子、天下茶屋、天下茶屋東、萩之茶屋、花園、花園北、花園南の各町丁
- 北西地区： 旭、北津守、鶴見橋、出城、長橋、中開、南開
- 中地区： 潮路、橘、梅南、松
- 西地区： 津守、南津守
- 南地区： 岸里、岸里東、聖天下、千本北、千本中、千本南、玉出、玉出中、玉出東、天神ノ森

表3-1-1 年齢と男女比

	全体	16-30歳	31-45歳	46-64歳	65歳以上
全体	320 100.0%	39 12.2%	65 20.3%	99 30.9%	108 33.8%
男	155 100.0%	12 7.7%	26 16.8%	50 32.3%	63 40.6%
女	164 100.0%	27 16.5%	39 23.8%	48 29.3%	45 27.4%

男女比P値 0.024

表3-1-2 世帯類型

	全体	ひとり暮らし	夫婦二人だけ	夫婦と子ども	親と同居	三世大家族	その他
全体	320 100.0%	56 17.5%	75 23.4%	96 30.0%	41 12.8%	25 7.8%	24 7.5%

P値 0.2396

表3-1-3 区内・区外生まれ

	全体	区内生まれ	区外生まれ	一戸建て	賃貸一戸建て	分譲マンション	公営住宅	民間賃貸マンション	民間アパート
全体	319 100.0%	91 28.5%	226 70.8%	149 46.6%	18 5.6%	17 5.3%	28 8.7%	26 8.1%	49 15.3%
北東地区	67 100.0%	14 20.9%	53 79.1%	28 41.8%	4 6.0%	5 7.5%	1 1.5%	6 9.0%	13 19.4%
北西地区	90 100.0%	30 33.3%	58 64.4%	30 33.0%	7 7.7%	4 4.4%	22 24.2%	1 1.1%	17 18.7%
中央地区	41 100.0%	18 43.9%	23 56.1%	28 68.3%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	4 9.8%	5 12.2%
西地区	40 100.0%	6 15.0%	34 85.0%	18 45.0%	2 5.0%	3 7.5%	4 10.0%	4 10.0%	6 15.0%
南地区	81 100.0%	23 28.4%	58 71.6%	45 55.6%	5 6.2%	4 4.9%	1 1.2%	11 13.6%	8 9.9%

P値 0.0416

一方、西成区生まれであるかについては、地区差が大きい。表3-1-3のように、西地区、北東地区では区内生まれは2割前後だが、北西地区や中央地区では3分の1以上になり、住宅状況も、区内の地区ごとに差が明瞭になっ

ている。一戸建ては中央地区と南地区に多く、公営住宅は北西地区、民間アパートは北東地区、北西地区に多い。

区民の職業別構成（表3-1-4）は、地区別の差はないが、無職、自営、会社員、主婦の順で回答が多くなっている。

表3-1-4 回答者の職業状況

	全体	自営	家族従業	会社員	公務員	パート、バイト	日雇、臨時	学生	専業主婦	無職	その他
全体	320 100.0%	58 18.1%	15 4.7%	54 16.9%	8 2.5%	32 10.0%	6 1.9%	11 3.4%	36 11.2%	79 24.7%	19 5.9%

勤務先（表3-1-5）については、北西地区、北東地区で区内就労が高く、南地区では区外就労が高く、勤務先も区内の地区でかなり異なった傾向を見ている。その他の回答者の特徴については単純集計を見て欲しい。

表3-1-5 地区別にみた回答者区民の勤務先

	区内就労	西成区以外 の大阪市	大阪市外	合計
北東地区	25 61.0	11 26.8	5 12.2	41 100.0
北西地区	29 65.9	12 27.3	3 6.8	44 100.0
中央地区	11 47.8	11 47.8	1 4.3	23 100.0
西地区	10 45.5	10 45.5	2 9.1	22 100.0
南地区	15 38.5	20 51.3	4 10.3	39 100.0
合計	90 53.3	64 37.9	15 8.9	169 100.0

P 値 0.2309

以上のことをまとめると、西成区の人口実態（2000年国勢調査では、男性57.3%、女性42.7%）に比して、回答者では男女比はほぼ均衡していた。男性は比較的高齢者、女性は比較若齢者の回答が多いが、全体としては高齢者の回答数割合（33.8%）は人口実態（同じく2000年国勢調査では65歳以上の高齢者人口は23.2%）より高いこと、区内地区別の社会的経済的相違がかなりある。これらを念頭に置いて、以下では具体的な分析を進めよう。

第2節 西成区民の「西成」の認知構造

まず大阪市民一般との比較を行なってみよう。「西成」にどのような直感的イメージを持っているかの回答（表3-2-1）については、西成区民のほうのマイナス度が高く、それも区民の半数以上53.6%がそう思っている。そして大阪市民一般も42%が「西成」をマイナスイメージを持って見ていることは、予想されたとはいえ、深刻な数字である。この問いに関して、西成区内の地区別にその直感的イメージを問うたが、地区別の相違はほとんど見られず、区内まんべんなく、マイナスイメージを区民はいだいていることがわかった。

表3-2-1 「西成」についての直感的イメージ

	全体	プラス	どちらでも	マイナス	わからない
西成区民	319 100.0%	9 2.8%	99 31.0%	171 53.6%	27 8.5%
大阪市民一般	1302 100.0%	12 0.9%	454 34.9%	547 42.0%	233 17.9%

表3-2-2では、「西成」の具体的なイメージをたずねた。大阪市民一般が持つイメージに比べ、西成区民では、「庶民的」80.9%、「交通の便がよい」71.2%というイメージが圧倒的に高く、その次に「老朽住宅が多い」52.8%となる。大阪市民一般では、「庶民的である」59.8%の次は、「交通の便がよい」38.1%であるが、西成区民に比べ値そのものは低い。その次に「こわい」28.9%というイメージが登場する。

西成区民の認識と大阪市民一般の認識が大きく異なるのは、区民は「交通の便がよい」と思い、「老朽住宅も多い」と思っているが、市民はそういうイメージをあまり「西成」に対して持っていない。また「安心である」というイメージを区民は25.6%の人が持っているのに比べ、大阪市民一般ではわずかに5.9%であり、逆に「西成がこわい」というイメージを大阪市民一般は28.9%も持っている。

より衝撃的な数字は、大阪市民一般の自区への具体的なイメージに比べ、西成区民の自区に対するそのイメージではマイナスの傾向が著しく強く出ていることである。2倍以上の大きな差は、「老朽住宅が密集」（西成区民52.8%、大阪市民自区15.3%で3.5倍）、「安心して暮らせる」（西成区民25.6%、大阪市民自区54.1%で0.47倍）、「こわい」（西成区民18.8%、大阪市民自区4.6%で4.1倍）、「公園・緑が多い」（西成12.2%、大阪市民自区31.6%で0.39倍）、「閑静」（西成9.7%、大阪市民自区25.6%で0.38倍）、「豊か」（西成区民5.0%、大阪市民自区16.1%で0.31倍）に見られ、これらは市内他区に比べ著しく突出した数値であり、このことは「西成」問題を極めて鮮明に反映していることを強調しておきたい。

また、西成区内5地区別の「西成」の具体的なイメージにも注目しておかねばならない。「老朽住宅が密集」や「公園・緑が多い」のイメージ差も非常に大きく気になるが、「こわい」「安心して暮らせる」のイメージでは、かなり差が大きい。特に「こわい」というイメージは、北東地区では「そう思う」との回答が3分の1の32.8%に達するのに比べて、南地区ではわずか7.4%である。また、表には示さなかったが、中央地区では43.9%が「わからない」と判断保留しており、逆に西地区では47.5%が「そう思わない」と答えている。区内でもこのイメージに関しては、東西地区、南北地区の間で大きな違いがある。

表3-2-2 西成区民、大阪市民一般、西成区内地区別の「西成」の具体的なイメージ：「そう思う」の%

(複数回答)

(複数回答)												
そう思う	庶民的である	交通の便がよい	老朽住宅が密集	安心して暮らせる	活気がある	歴史や伝統がある	こわい	公共の施設サービス	公園・緑が多い	閑静である	豊かである	
西成区民の「西成」イメージ	259 80.9%	228 71.2%	169 52.8%	82 25.6%	80 25.0%	66 20.6%	60 18.8%	51 15.9%	39 12.2%	31 9.7%	16 5.0%	
大阪市民一般の「西成」イメージ	778 59.8%	496 38.1%	373 28.6%	77 5.9%	297 22.8%	212 16.3%	376 28.9%	141 10.8%	71 5.5%	24 1.8%	27 2.1%	
大阪市民一般の自区イメージ	925 71.0%	970 74.5%	199 15.3%	705 54.1%	391 30.0%	502 38.6%	60 4.6%	308 23.7%	412 31.6%	333 25.6%	210 16.1%	
西成区内各地区住民の「西成」イメージ	北東地区	55 82.1%	57 85.1%	34 50.7%	12 17.9%	12 17.9%	17 25.4%	22 32.8%	7 10.4%	4 6.0%	10 14.9%	1 1.5%
	北西地区	69 75.8%	52 57.1%	56 61.5%	28 30.8%	23 25.3%	12 13.2%	17 18.7%	18 19.8%	12 13.2%	7 7.7%	7 7.7%
	中央地区	35 85.4%	34 82.9%	22 53.7%	10 24.4%	13 31.7%	8 19.5%	8 19.5%	8 19.5%	2 4.9%	1 2.4%	3 7.3%
	西地区	33 82.5%	15 37.5%	16 40.0%	9 22.5%	6 15.0%	5 12.5%	7 17.5%	4 10.0%	10 25.0%	3 7.5%	0 0.0%
	南地区	67 82.7%	70 86.4%	41 50.6%	23 28.4%	26 32.1%	24 29.6%	6 7.4%	14 17.3%	11 13.6%	10 12.3%	5 6.2%
	P値	0.5832	0.0000	0.3440	0.1268	0.0804	0.2944	0.0131	0.1781	0.0045	0.1952	0.2680

年齢階層別に見ると（表3-2-3）、「活気がある」と若い世代が判断するのに対して、高年齢層はそう判断していない。また「安心して暮らせる」では、壮年層で低く、高年齢層で高いという傾向が見られる。その他の項目ではあまり差は見られない。なお表として載せていないが、男女別の「西成」のイメージについては、男女間にほとんど差はみられなかった。

表 3-2-3 年齢階層別にみた西成区民の「西成」の具体的イメージ：「そう思う」の% (複数回答)

	庶民的である	歴史や伝統がある	活気がある	こわい	豊かである	安心して暮らせる	閑静である	老朽住宅が密集	公園・緑が多い	交通の便がよい	公共の施設サービス
16-30 歳	28 73.7%	5 13.2%	20 51.3%	11 28.2%	1 2.6%	11 28.2%	3 7.7%	23 59.0%	4 10.3%	29 74.4%	1 2.6%
31-45 歳	57 87.7%	11 16.9%	23 35.4%	18 27.7%	6 9.2%	11 16.9%	3 4.6%	39 60.9%	6 9.2%	50 76.9%	11 16.9%
46-64 歳	84 89.4%	22 23.9%	19 20.7%	17 18.7%	4 4.3%	21 22.3%	6 6.6%	55 60.4%	9 9.6%	75 79.8%	18 19.4%
65 歳以上	85 86.7%	26 28.6%	17 18.3%	14 14.9%	5 5.3%	37 38.9%	18 18.9%	48 48.5%	19 19.4%	70 70.7%	21 21.6%
全体	259 85.8%	66 22.5%	80 27.0%	60 20.3%	16 5.4%	82 27.3%	31 10.4%	169 56.3%	39 12.9%	228 75.0%	51 16.9%
P 値	0.392	0.096	0.001	0.254	0.314	0.068	0.030	0.256	0.511	0.271	0.243

次に「西成」に関する出来事や事項についてどれだけの認知度があるかを検討してみよう（表 3-2-4）。これだけ狭い行政区でその地域を表象する出来事・事象の多いことがきわめて特徴的であるが、またその認知度が区内各地区ごとに異なっていることも西成区内の地区分化を物語っていて興味深い。たとえば北西地区の「皮革産業」、北東地区の「てんのじ村」、南地区の「勝間なんきん」といったローカルな事象には極めて地区的な違いがある。しかし、そうした傾向の中にあっても、「皮革産業」は西成区民の半数以上が知っているという事実も興味深い。「じゃりん子チエ」や「ふたりっ子」も半数以上が「よく知っている」と答え、これらは「西成」を代表する事象である。そして、何よりも「釜ヶ崎暴動」は西成区民全体で最も認知度が高い事象であり、しかもいずれの地区でも最も高く認知されていることは、記憶にとどめておきたい。

参考のために大阪市民一般の認知度を見ておくと、西成区民に比べ「釜ヶ崎暴動」、「皮革産業」の認知が、かなり低いことも特徴的である。しかし、大阪市民一般にとっては他区のことであることを考慮すれば、この数字はよく知られていることを示していると言ってよいだろう。

ところで、この認知構造が「西成」のイメージとどのように関わるであろうか。大阪市民一般はもちろん西成区民でも、「釜ヶ崎暴動」を知っているのと知らないのとで、「西成」に対する直感的ならびに具体的イメージは異なってくるのではないだろうか。

表 3-2-4 西成区内地区別にみた「西成」関連事象の認知：「よく知っている」の% (複数回答)

西成区事象 地区別	全体	釜ヶ崎暴動	ふたりっ子	皮革産業	じゃりん子チエ	てんのじ村	勝間なんきん	フレンド事件
西成区民 全体	320 100.0%	237 74.1%	183 57.2%	168 52.5%	163 50.9%	78 24.4%	76 23.7%	47 14.7%
大阪市民 一般	1302 100.0%	593 45.5%	512 39.3%	345 26.5%	544 41.8%	176 13.5%	53 4.1%	35 2.7%
北東地区	67 100.0%	58 86.6%	40 59.7%	32 47.8%	36 53.7%	33 49.3%	14 20.9%	7 10.4%
北西地区	91 100.0%	66 72.5%	45 49.5%	65 71.4%	45 49.5%	15 16.5%	16 17.6%	18 19.8%
中央地区	41 100.0%	32 78.0%	31 75.6%	25 61.0%	26 63.4%	7 17.1%	10 24.4%	7 17.1%
西地区	40 100.0%	28 70.0%	18 45.0%	18 45.0%	18 45.0%	9 22.5%	8 20.0%	5 12.5%
南地区	81 100.0%	53 65.4%	49 60.5%	28 34.6%	38 46.9%	14 17.3%	28 34.6%	10 12.3%
P 値		0.264	0.066	0.000	0.576	0.000	0.104	0.657

表 3-2-5 は、年齢階層別にみた「西成」関連事象の認知度である。驚くべきことは、「フレンド事件」の認知をのぞき、各項目の認知に大きな違いが見られることである。基本的には若年層と 45 歳以上の認知構造に対照的な違いがあり、「じゃりん子チエ」以外は、すべて 45 歳以上の層で認知度が高い。「釜ヶ崎暴動」については、30 歳以下は半数しか知らないということにも注意しておかねばならないであろう。

表3-2-5 年齢階層別にみた「西成」関連事象の認知：「よく知っている」の%

(複数回答)

西成区事象 年齢別	全体	釜ヶ崎暴動	ふたり子	皮革産業	じやりん子チエ	てんのじ村	勝間なんさん	フレンド事件
16-30 歳	39	20	21	13	33	2	3	10
%	100.0%	51.3%	53.8%	33.3%	84.6%	5.1%	7.7%	25.6%
31-45 歳	65	51	44	37	53	16	12	10
%	100.0%	78.5%	68.8%	57.8%	84.1%	25.8%	19.0%	15.6%
46-64 歳	99	77	67	61	46	29	30	14
%	100.0%	81.1%	71.3%	65.6%	51.1%	31.2%	33.3%	16.1%
65 歳以上	108	82	47	54	30	30	30	12
%	100.0%	83.7%	51.1%	58.7%	34.5%	33.3%	32.6%	13.6%
全体	320	237	183	168	163	78	76	47
%	100.0%	78.0%	61.8%	56.9%	57.0%	26.8%	26.1%	16.5%
P 値		0.000	0.000	0.090	0.000	0.000	0.000	0.385

次に、西成区において「どのような人たちが社会的に立場の弱い人々にあたるか」についての認識を聞いた（表3-2-6）。まず、大阪市民一般と西成区民の認識を比較すると、「野宿生活者」が弱者であるという高い認識は両者に共通しているが、「高齢者」に関しては西成区民の多くが、「日雇労働者」については大阪市民一般の多くが弱者として認識し、かなりの相違がある。この西成区民による「日雇労働者」についての弱者認識の低さは、あいりん地域を抱えているだけに、意外な数値であった。

他方、西成区内各地区住民のこの問題に関する認識を見ると、差が非常に大きくことがわかる。あいりん地域を含む北東地区では、「日雇労働者」の弱者認識は高いが、隣の北西地区では非常に低くなっている。逆に、「同和地区住民」を立場の弱い人々と捉える認識は北東地区で非常に低いのに比べ、北西地区は高くなっている。「在日韓国・朝鮮人」への弱者認知に関しても北西地区と北東地区で、「障害者」に関しては、西地区・北西地区と北東地区・中央地区の間で、非常に対照的な値が出ている。「高齢者」に関しても、北東地区の64.2%、南地区の42.0%の間の差は小さい。

表3-2-6 社会的に立場の弱い人々についての認知、西成区民、大阪市民一般、西成区各地区別比較（複数回答）

西成の弱者 認知 地区別	全体	野宿生活者	高齢者	日雇労働者	同和地区住民	在日韓国・朝鮮人	零細商工業者	障害者	ひとり親家族	中国・東南アジア人	沖縄出身者
西成区民	320	244	177	169	76	61	58	32	19	10	3
	100.0%	76.3%	55.3%	52.8%	23.8%	19.1%	18.1%	10.0%	5.9%	3.1%	0.9%
大阪市民一般	1302	989	434	955	334	183	184	115	48	29	7
	100.0%	76.0%	33.3%	73.3%	25.7%	14.1%	14.1%	8.8%	3.7%	2.2%	0.5%
北東地区	67	59	43	49	10	8	12	1	4	2	0
	100.0%	88.1%	64.2%	73.1%	14.9%	11.9%	17.9%	1.5%	6.0%	3.0%	0.0%
北西地区	91	68	57	31	30	29	25	14	4	3	2
	100.0%	74.7%	62.6%	34.1%	33.0%	31.9%	27.5%	15.4%	4.4%	3.3%	2.2%
中央地区	41	32	23	23	12	7	6	1	2	1	0
	100.0%	78.0%	56.1%	56.1%	29.3%	17.1%	14.6%	2.4%	4.9%	2.4%	0.0%
西地区	40	31	20	24	9	8	9	8	4	2	0
	100.0%	77.5%	50.0%	60.0%	22.5%	20.0%	22.5%	20.0%	10.0%	5.0%	0.0%
南地区	81	65	34	47	17	9	16	9	6	2	0
	100.0%	80.2%	42.0%	58.0%	21.0%	11.1%	19.8%	11.1%	7.4%	2.5%	0.0%

P 値 0.0195

年齢階層別に弱者認識構造をみると（表3-2-7）、「零細商工業者」への弱者認識をのぞいて、あまり差がないという結果がでている。しかしながら強いて指摘すると、「野宿生活者」「日雇労働者」や「同和地区住民」に対しては、若い層のほうが弱者認識が強く、「高齢者」「零細商工業者」については、高年齢層の方が弱者認識が強くなる。

「野宿生活者」については、若年層の92.3%に対し老年層は74.1%、「日雇労働者」については、それぞれ、64.1%、45.4%となっていることからもうかがえように、若い世代のほうが、「野宿生活者」や「日雇労働者」問題をより深刻に認識していると思われる。

表3-2-7 社会的に立場の弱い人々についての認知、年齢別構成

(複数回答)

西成の弱者 認知 年齢別	全体	高齢者	韓国・朝鮮人	中国人・東南アジア出身者	沖縄出身者	同和地区住民	日雇労働者	ひとり親家族	障害者	野宿生活者	零細商工業者
16-30 歳	39 100.0%	18 46.2%	7 17.9%	3 7.7%	0 0.0%	12 30.8%	25 64.1%	2 5.1%	4 10.3%	36 92.3%	3 7.7%
31-45 歳	65 100.0%	31 47.7%	7 10.8%	3 4.6%	0 0.0%	17 26.2%	43 66.2%	2 3.1%	8 12.3%	54 83.1%	8 12.3%
46-64 歳	99 100.0%	53 53.5%	23 23.2%	3 3.0%	0 0.0%	23 23.2%	52 52.5%	6 6.1%	10 10.1%	81 81.8%	28 28.3%
65 歳以上	108 100.0%	70 64.8%	24 22.2%	1 0.9%	2 1.9%	23 21.3%	49 45.4%	9 8.3%	8 7.4%	80 74.1%	27 25.0%
合計	320 100.0%	177 55.3%	61 19.1%	10 3.1%	3 0.9%	78 24.4%	174 54.4%	20 6.3%	33 10.3%	256 80.0%	68 21.3%

P 値 0.3113

西成区民のこれらの人々に対する認知の組み合わせを示したのが、表3-2-8である。この表で明らかなように、「野宿生活者」を軸に、「日雇労働者」か「高齢者」という大きく二つの弱者認知構造が西成区民にあり、その次に「日雇労働者」―「高齢者」への弱者認知が続く。「同和地区住民」への弱者認知構造は、その次に「野宿生活者」―「同和地区住民」のペアに現われる。

表3-2-8 社会的に立場の弱い人々についての認知、複数回答の組み合わせ

	高齢者	在日韓国・朝鮮人	中国人・東南アジア出身者	沖縄出身者	同和地区住民	日雇労働者	ひとり親家族	障害者	野宿生活者	零細商工業者
高齢者	177									
在日韓国・朝鮮人	32	61								
中国人・東南アジア出身者	4	1	10							
沖縄出身者	3	2	0	3						
同和地区住民	24	30	1	1	78					
日雇労働者	88	23	4	1	43	174				
ひとり親家族	13	4	0	0	1	4	20			
障害者	22	1	2	1	3	4	6	33		
野宿生活者	136	42	8	2	59	155	11	20	256	
零細商工業者	35	11	2	1	15	29	7	5	53	68

表3-2-9 西成区民の考える「西成」の誇り：年齢階層別

誇りに思う こと 年齢別	庶民的下町	芸能文化を育んできた	地場、伝統産業	歴史的遺産や史跡	多様な人々の違いを認め合った生活文化	ない	全体
16-30 歳	18 46.2%	3 7.7%	3 7.7%	3 7.7%	9 23.1%	10 25.6%	39 100.0%
31-45 歳	46 70.8%	7 10.8%	7 10.8%	9 13.8%	24 36.9%	14 21.5%	65 100.0%
46-64 歳	63 63.6%	17 17.2%	10 10.1%	17 17.2%	35 35.4%	23 23.2%	99 100.0%
65 歳以上	73 67.6%	16 14.8%	14 13.0%	16 14.8%	35 32.4%	19 17.6%	108 100.0%
全体	205 64.1%	43 13.4%	34 10.6%	46 14.4%	104 32.5%	68 21.3%	320 100.0%

P 値 0.9710

では、このような認知構造を知ったうえで、西成区民はどのような「西成」に対する誇りを持っているのであろうか。表3-2-9を見ると、全体的には、3分の2に近い回答が、「庶民的下町である」ことに誇りを持っていると答

え、32.5%の人々が、「多様な人々の違いを認め合った生活文化を有したところ」を誇りと認識している。しかし、他方で「誇りが無い」と明言した回答者が 21.3%いることにも注意しておかねばならない。未記入も含めると、3 割以上の割合になっている。

年齢階層別には、有意差は統計的には出ていないが、強いて指摘すれば、16-30 歳層で、総じて誇りに関しては低い認知率である。特に「庶民的下町である」「多様な人々の違いを認め合った生活文化を有した」点に誇りもつ若者は相対的に少ないようである。

これをさらに、区内地区別に見てみよう（表 3-2-10）。すると、年齢階層別と違って大きな相異が出てくる。「庶民的下町」「多様な人々の違いを認め合った生活文化」という誇りに関しては、ほとんど違いがない。しかし、「芸能文化を育んできた」「地場・伝統産業がある」「歴史的遺産や史跡」などに地区別の違いが出ている。それぞれの地区内で、その地区が有する誇りに高い回答率を有している構造が見て取れる。しかし、こうした動向の中で、西地区だけは異なった傾向を示しており、いずれの項目に対しても低い値をとり、「誇りが無い」という回答は 3 分の 1 にも達している。

表 3-2-10 西成区民の考える「西成」の誇り：西成区内地区別

誇りに思うこと 区内地区別	庶民的下町	芸能文化を育んできた	地場、伝統産業	歴史的遺産や史跡	多様な人々の違いを認め合った生活文化	ない	全体
北東地区	46 68.7%	16 23.9%	4 6.0%	10 14.9%	20 29.9%	11 16.4%	67 100.0%
北西地区	55 61.1%	4 4.4%	17 18.9%	5 5.6%	33 36.7%	19 21.1%	90 100.0%
中央地区	28 68.3%	5 12.2%	4 9.8%	7 17.1%	14 34.1%	9 22.0%	41 100.0%
西地区	22 55.0%	3 7.5%	2 5.0%	2 5.0%	12 30.0%	13 32.5%	40 100.0%
南地区	54 66.7%	15 18.5%	7 8.6%	22 27.2%	25 30.9%	16 19.8%	81 100.0%
全体	205 64.1%	43 13.4%	34 10.6%	46 14.4%	104 32.5%	68 21.3%	320 100.0%

P 値 0.0029

以上の点をまとめると、次のように整理できる。

まず、「西成」についての直感的ならびに具体的イメージは——西成区民が見たものであれ大阪市民一般が見たものであれ——、大阪市民一般が自区に対して見たそれらに比べ、際だった特徴を持つことが、数値の上でも明瞭に確認された。同時に、これらのイメージは、区内地区間でも大きな差をもって認識されていることがわかった。

西成区民ならびに大阪市民一般の「西成」についての直感的ならびに具体的イメージの特異な特徴は、「西成」差別の存在を裏付けるものであるとしても、きわめて高い数値が示されたことから、大阪市民の多くから、そしてまた西成区民からも「西成」に対してステイグマ（不名誉感、恥辱）を引き起こすようなレッテルを張られていることが明らかになった。

また、区内各地区民のさまざまな認知度の差については、西成各地区が有する特徴や、その地区にある事象があげられたため、当然の結果であろう。しかし、逆に各地区で際立った違いのある事象が西成区内の中に込められているということも、西成区の大きな特色として指摘できよう。

「じゃりん子チエ」や「ふたりっ子」のように、メディアが西成区に「大阪の下町」としての格好の場所を求めたことにより、「庶民的下町」というイメージが色濃く投影され、多くの認知を得た。しかし、他方で、「高齢者」「野宿生活者」「日雇労働者」が多い、「釜ヶ崎暴動」というイメージが、強く認知される構造となっている。「同和地区住民」への認知は相対的に低いのに対し、あいりん地域の問題が、「西成」の認知にきわめて大きな位置を占めていることも確認された。しかも、野宿生活者の認知度と日雇労働者の認知を比較すると、両者が至近の関係にもかかわらず、野宿生活者の方が若干高くなっている。この差は、目に見える「困窮状態」により高い注視が注がれやすいためであろうか。

第3節 西成区民の被差別体験の構造

本節では、西成区民の被差別体験の状況、差別に対する対応、差別の要因などを探ってみたい。

まず、表3-3-1を見ると、「差別を直接受けた」という回答が22.8%である。この数値は異常に高いと言ってよいだろう。西成区内地区別では、あいりん地域をかかえる北東地区が最高で28.4%、最低は西地区で15.0%となっている。また、南地区も17.3%と低い。あいりん地域からの距離感が反映されているように思える。

一方、「西成」差別の見聞きした経験では、58.1%と一挙に数値は上がる。大阪市民一般ではこの値は46.9%であったが、いずれにしても西成区民、大阪市民を問わず、「西成」に関する差別の見聞きはきわめて高率である。これを、西成区内地区別で見ると、最高が西地区の70.0%であり、最低が南地区の50.6%であり、統計的な有意な差は区内地区別には出ていない。

いずれにしろ、かなり高い割合で「西成」への差別が広範に広がっていることが、これらの数値から明らかとなった。

表3-3-1 差別を直接受けた経験、「西成」差別見聞の経験：地区別

直接差別	全体	受けた	ない	覚えていない	差別見聞	全体	見聞きした	ない	覚えていない
全体	320	73	204	22	全体	320	186	101	17
	100.0%	22.8%	63.7%	6.9%		100.0%	58.1%	31.6%	5.3%
北東地区	67	19	40	6	北東地区	67	41	20	3
	100.0%	28.4%	59.7%	9.0%		100.0%	61.2%	29.9%	4.5%
北西地区	91	23	56	4	北西地区	91	52	25	7
	100.0%	25.3%	61.5%	4.4%		100.0%	57.1%	27.5%	7.7%
中央地区	41	11	25	3	中央地区	41	24	13	3
	100.0%	26.8%	61.0%	7.3%		100.0%	58.5%	31.7%	7.3%
西地区	40	6	25	6	西地区	40	28	8	3
	100.0%	15.0%	62.5%	15.0%		100.0%	70.0%	20.0%	7.5%
南地区	81	14	58	3	南地区	81	41	35	1
	100.0%	17.3%	71.6%	3.7%		100.0%	50.6%	43.2%	1.2%
P値 0.2114					大阪市民一般	1302	611	431	204
						100.0%	46.9%	33.1%	15.7%

P値 0.1656

表3-3-2 西成区民が直接差別を受けたのはどのような場面においてか：年齢階層別構成 (複数回答)

回答者数	友人から	学校などの先生から	行政機関や窓口で	職場の仲間や上司から	営業取引などの中で	冠婚葬祭の場で	サークル的な活動の中で	宗教行事などで	自宅の周りで	その他(具体的に)
78	45	14	12	34	7	7	13	2	9	16
100.0%	57.7%	17.9%	15.4%	43.6%	9.0%	9.0%	16.7%	2.6%	11.5%	20.5%
16-30歳 (12.2%)	12	5		6						2
	27.9%	41.7%		18.8%						11.8%
31-45歳 (20.3%)	11	2	1	14	1		6		1	5
	25.6%	16.7%	14.3%	43.8%	16.7%		46.2%		14.3%	29.4%
46-64歳 (30.9%)	13	2	3	8	5	3	5		3	4
	30.2%	16.7%	42.9%	25.0%	83.3%	60.0%	38.5%		42.9%	23.5%
65歳以上 (33.8%)	5	1	3	4		2	2	2	2	6
	11.6%	8.3%	42.9%	12.5%		40.0%	15.4%	100.0%	28.6%	35.3%
合計	43	12	7	32	6	5	13	2	7	17
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

では、どのような場面でそうした差別を受け、あるいは見聞きしたのであろうか。まず、表3-3-2は、直接差別を受けた区民から得た回答で、差別を受けた場所や相手の内訳を示している。「友人から」が57.7%で圧倒的に高

く、その次に「職場の仲間や上司から」が43.6%と続く。さらに数値は大きく落ちるが、「学校などの先生から」17.9%、「サークル的な活動の中で」16.7%、「行政機関やその窓口で」15.4%となる。

年齢階層別にみると、表3-3-11で後述するように、65歳以上ではそもそも直接差別体験者の割合が低いこともあり、具体的な場面について答える者が少なかった。これと対照的に30歳以下では圧倒的に「学校の先生や友人から」という回答が高くなり、31-45歳の年齢層では、「職場の仲間や上司から」となっており、若い時は学校、そして経年すれば職場でと移り変わり、日常の生活空間での身近な人との出会いの中で差別を受けることが明らかとなった。すなわち、差別的な言説は、決して特殊な人々から投げかけられるものではないことが明らかとなった。

表3-3-3では、こうした差別を受けてどのように思ったかをたずねた結果である。62.5%は「不愉快に思い」、「腹が立った」「悲しく思った」がいずれも42.5%、そして「やむを得ないと思った」という消極的容認論の回答が37.5%もあった。表には掲げていないが、北東地区では「このやむを得ない」という回答に58.8%と、非常に高い値を示したことも衝撃的な数字である。

差別に対してその場でなんからのアクションを起こしたのは、「問いただして反論した」と、「その他」の回答者中の幾人かにとどまり、15%前後となっている。参考までに「差別を見聞きした時の思い」と比べると、「不愉快に思った」は同じ程度でトップであったが、「腹が立った」は42.5%から26.4%に下がり、「相手を問いただしたりするケース」もかなり減っている。

表3-3-3 直接差別をうけてどのように思ったか

(複数回答)

回答者数	不愉快に思った	腹が立った	悲しく思った	その通りだと思った	やむを得ないと思った	相手を問いただして反論した	何も思わなかった	その他(具体的に)
80	50	34	34	13	30	11	3	8
100.0%	62.5%	42.5%	42.5%	16.3%	37.5%	13.8%	3.8%	10.0%

「差別を見聞きした時に思い」結果(後掲、表3-3-6より)

178	109	47	69	20	59	8	11	18
100.0%	61.2%	26.4%	38.8%	11.2%	33.1%	4.5%	6.2%	10.1%

差別を受けてどのように対処したか(表3-3-4)については、事後に「何もしなかった」が55.7%と最も多くなっているが、それ以外は何んらかの形で相談したり、話し合ったりしていることがわかる。相談者に関しては、際立って多い傾向はないが、「直接差別した人に抗議し、話し合った」ケースが19.0%あることに注目しておきたい。

表3-3-4 直接差別をうけてどのように対処したか

(複数回答)

回答者数	家族や親戚に相談した	友人に相談した	人権擁護活動家に相談した	行政に相談(連絡)した	差別した人に抗議し、話し合った	何もしなかった	その他(具体的に)
79	5	6	2	4	15	44	15
100.0%	6.3%	7.6%	2.5%	5.1%	19.0%	55.7%	19.0%

西成区民が「西成」差別を見聞きした場面を、大阪市民一般の場合を参照しつつみてみよう(表3-3-5)。西成区民と大阪市民一般では見聞きの場面は異なる。西成区民の場合は、「学校・職場の友人から聞いた」「マスコミから聞いた」「近所の人から聞いた」が40%前後である。これに対し、大阪市民一般の場合には「マスコミから」が55.7%とずば抜けて多く、以下、「学校・職場の友人から」35.0%という順になっている。また、西成区民の場合、「公共の場で他人の話から聞いた」という回答が20.2%と、大阪市民一般に比べ高くなっていることにも注目しておきたい。

「マスコミ」や「公共の場で」というのは、広い意味で「公共性」が常に問われる手段・空間である。西成区民の場合は、「マスコミから」と「公共の場」の選択者の合計は、60%近くになる。大阪市民一般の場合でも「マスコミ」だけで半数以上の値を取るということで、やはり公の機関の影響力が大きいと言わざるを得ないであろう。

次に、同じ表3-3-5で、「西成」差別を見聞きした西成区民を年齢階層別にみると、若い30歳以下の世代では、「学校・職場の友達から聞いた」「家族から聞いた」という回答が高く、31-45歳世代では、「職場の友人や上司」という回答が高くなる。46歳以上になると、「親戚」や「近所」、「公共の場で」という回答が高くなっていく。65歳

以上になると、強いてあげられる場面は見い出せない。また「マスコミから」という回答については、若い世代でやや低く、46-64歳世代でかなり高くなっていることが見て取れよう。また「家族から」という回答は、各年齢層にまんべんなく回答されている。しかし「親戚から」というのは、やや高年齢層に高い回答率が見られる。

表3-3-5 「西成」差別を見聞きしたのはどのような場面においてか

	回答者数(マルチ回答)	家族から聞いた	親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	学校・職場の友達から聞いた	マスコミから聞いた	学校の先生や職場の上司から聞いた	公共の場で他人の話を聞いた	はっきり覚えていない
西成区民	173 100.0%	46 26.6%	31 17.9%	65 37.6%	70 40.5%	67 38.7%	18 10.4%	35 20.2%	8 4.6%
市民	625 100.0%	145 23.2%	59 9.4%	143 22.9%	219 35.0%	348 55.7%	55 8.8%	51 8.2%	60 9.6%
西成区民・年齢階層別	16-30歳 (12.2%)	12 26.7%	5 16.7%	5 7.8%	16 22.9%	10 15.2%	5 27.8%	2 5.6%	2 25.0%
	31-45歳 (20.3%)	11 24.4%	5 16.7%	12 18.8%	27 38.6%	17 25.8%	10 55.6%	8 22.2%	1 12.5%
	46-64歳 (30.9%)	12 26.7%	11 36.7%	25 39.1%	19 27.1%	25 37.9%	1 5.6%	17 47.2%	2 25.0%
	65歳以上 (33.8%)	9 20.0%	9 30.0%	17 26.6%	6 8.6%	13 19.7%	1 5.6%	7 19.4%	3 37.5%
	合計 (100.0%)	45 100.0%	30 100.0%	64 100.0%	70 100.0%	66 100.0%	18 100.0%	36 100.0%	8 100.0%

P値 0.0000 (市民と西成区民)

「西成」差別を見聞きした時の思いについて(表3-3-6)は、これも西成区民と大阪市民一般では、その思いが違うという結果が出ている。とくに、「不愉快に思った」「腹が立った」において、西成区民の方が約2倍前後の数値が示されている。これらは、西成区民が当事者であることから当然であろう。しかし、「やむを得ない」になると、西成区民が33.1%、大阪市民一般も29.3%がそう思っていることに関しては、充分な注意を払っておかねばならない。表には示していないが、とくに北東地区では50.0%が「やむを得ない」と思っていることも注記しておく。

表3-3-6 「西成」差別を見聞きしてどのように思ったか

(複数回答)

	回答者数	不愉快に思った	腹が立った	悲しく思った	その通りだと思った	やむを得ないと思った	相手を問いただし反論した	何とも思わなかった	その他(具体的に)
西成区民	178 100.0%	109 61.2%	47 26.4%	69 38.8%	20 11.2%	59 33.1%	8 4.5%	11 6.2%	18 10.1%
大阪市民一般	605 100.0%	209 34.5%	71 11.7%	234 38.7%	57 9.4%	177 29.3%	42 6.9%	25 4.1%	82 13.6%

P値 0.0002

では、「西成」差別を見聞きしてどのように対処したかであるが(表3-3-7)、「何もしなかった」という回答が3分の2となっており、直接に差別を体験した場合に比べ、10ポイントほど増えている。各種の相談については、かならずしも差別見聞のほうで少ないというわけでもない。

表3-3-7 差別を見聞きしてどのように対処したか(西成区民)

(複数回答)

	回答者数(複数回答)	家族や親戚に相談した	友人に相談した	人権擁護活動家に相談した	行政に相談(連絡)した	差別した人に抗議し、話し合った	何もしなかった	その他(具体的に)
西成区民	172 100.0%	16 9.3%	17 9.9%	4 2.3%	5 2.9%	12 7.0%	114 66.3%	22 12.8%
再掲:直接差別時の対処	79 100.0%	5 6.3%	6 7.6%	2 2.5%	4 5.1%	15 19.0%	44 55.7%	15 19.0%

P値 0.0899

次に、西成区での住み心地や転出意志について聞いてみた（表3-3-8）が、これは差別体験により左右されている。直接の差別体験があると、「住み心地が悪い」と考える者が増え、また「転出したい」と考える者の割合もが増える。

表3-3-8 直接差別の有無と、住み心地／居住意志

住み心地 直接差別	全体	よい	なんともいえない	やや悪い	わからない	居住意志 直接差別	全体	住み続ける	転出した い	どちらでも	わからない
全体	320	159	96	48	4	全体	320	143	50	91	24
	100.0%	49.7%	30.0%	15.0%	1.3%		100.0%	44.7%	15.6%	28.4%	7.5%
あり	73	29	23	20	1	あり	73	25	20	20	6
	100.0%	39.7%	31.5%	27.4%	1.4%		100.0%	34.2%	27.4%	27.4%	8.2%
なし	204	111	61	22	2	なし	204	97	25	60	16
	100.0%	54.4%	29.9%	10.8%	1.0%		100.0%	47.5%	12.3%	29.4%	7.8%
覚えていない	22	9	9	4	0	覚えていない	22	9	5	6	2
	100.0%	40.9%	40.9%	18.2%	0.0%		100.0%	40.9%	22.7%	27.3%	9.1%

P値 0.0392

P値 0.1158

同じように、表3-3-9のように、「西成」差別を見聞きした経験のある者は、「住み心地が悪い」という回答が多くなり、「転居したい」人も増える傾向にある。

表3-3-9 差別見聞きの有無と、住み心地／居住意志

住み心地 差別見聞	全体	よい	なんともいえない	やや悪い	わからない	居住意志 差別見聞	全体	住み続ける	転出した い	どちらでも	わからない
全体	320	159	96	48	4	全体	320	143	50	91	24
	100.0%	49.7%	30.0%	15.0%	1.3%		100.0%	44.7%	15.6%	28.4%	7.5%
あり	186	90	56	35	2	あり	186	76	38	52	15
	100.0%	48.4%	30.1%	18.8%	1.1%		100.0%	40.9%	20.4%	28.0%	8.1%
なし	101	54	34	8	0	なし	101	52	6	32	9
	100.0%	53.5%	33.7%	7.9%	0.0%		100.0%	51.5%	5.9%	31.7%	8.9%
覚えていない	17	10	2	4	1	覚えていない	17	9	5	3	0
	100.0%	58.8%	11.8%	23.5%	5.9%		100.0%	52.9%	29.4%	17.6%	0.0%

P値 0.0339

P値 0.0217

では、西成区民のこれらの差別体験と「西成がこわい」という具体的イメージには、一定の相関関係があるのだろうか。表3-3-10では、この点に注目した。直接的な差別体験、差別の見聞き体験いずれを問わず、体験がある場合には「こわい」というイメージが強くなっている。西成区民でありながら、差別体験の有無が「西成＝こわい」というイメージの強弱に大きく影響している。

表3-3-10 「西成」差別の直接的体験や見聞体験の有無と「西成」＝「こわい」という具体的イメージの関係

こわい 直接差別	全体	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	わからない	こわい 差別見聞	全体	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	わからない
全体	320	60	101	122	13	全体	320	60	101	122	13
	100.0%	18.8%	31.6%	38.1%	4.1%		100.0%	18.8%	31.6%	38.1%	4.1%
あり	73	23	25	17	4	あり	186	42	66	63	7
	100.0%	31.5%	34.2%	23.3%	5.5%		100.0%	22.6%	35.5%	33.9%	3.8%
なし	204	28	65	91	9	なし	101	13	30	47	3
	100.0%	13.7%	31.9%	44.6%	4.4%		100.0%	12.9%	29.7%	46.5%	3.0%
覚えていない	22	4	7	11	0	覚えていない	17	2	3	10	2
	6.9%	6.7%	6.9%	9.0%	0.0%		100.0%	11.8%	17.6%	58.8%	11.8%

P値 0.0085

P値 0.0509

年齢階層別に直接的な差別体験や見聞きの体験の違いを見ておこう（表3-3-11）。まず言えることは、高齢者の差別体験の割合が低いことが非常に特徴的である。直接の差別体験は、30歳以下では35.9%にのぼるに比し、年齢層が上がるにしたがい経験者比率は低下する。そして、65歳以上では12.0%に下がる。「西成」差別の見聞きでは、65歳以下の各階層はおしなべて3分の2以上の人々が経験を持つが、65歳以上になると一挙に下がって39.8%となる。こうした年齢階層別の違いは、どのような要因で生じたのだろうか。仮説ではあるが、いくつかの点が考えられる。一つは、若年層のほうが差別に敏感に反応しているからではないだろうか。また、もう一つ考えられることは、若者の方が、交際の範囲が広く、したがってまた差別と出会う機会も多いということである。さらに、これらとは逆説的であるが、若者の間では差別的言説を無自覚に語る者が増えてきているからとも言える。いずれが妥当であるかは、今回の調査では明らかではないが、興味深い問題である。

表3-3-11 「西成」差別の直接的体験や見聞体験の有無：年齢階層別相異

年齢	直接差別	全体	あり	なし	覚えていない	年齢	差別見聞	全体	あり	なし	覚えていない
全体		320	73	204	22	全体		320	186	101	17
		100.0%	22.8%	63.8%	6.9%			100.0%	58.1%	31.6%	5.3%
16-30歳		39	14	19	5	16-30歳		39	27	7	4
		100.0%	35.9%	48.7%	12.8%			100.0%	69.2%	17.9%	10.3%
31-45歳		65	20	39	5	31-45歳		65	44	18	1
		100.0%	30.8%	60.0%	7.7%			100.0%	67.7%	27.7%	1.5%
46-64歳		99	23	65	7	46-64歳		99	67	21	8
		100.0%	23.2%	65.7%	7.1%			100.0%	67.7%	21.2%	8.1%
65歳以上		108	13	76	5	65歳以上		108	43	52	4
		100.0%	12.0%	70.4%	4.6%			100.0%	39.8%	48.1%	3.7%

P値 0.0220

P値 0.0000

調査では、差別体験や西成差別について、自由に記述してもらうことにした。その記述者数の結果を示しておこう（表3-3-12）。当然のことではあるが、直接であれ見聞であれ差別経験のある者は、自由意見回答に積極的に答えている。この自由記述内容の分析については、第4章に譲りたい。

表3-3-12 差別体験の有無と意見記述の有無の関係

意見記述	直接差別	全体	記述あり	記述なし	意見記述	差別見聞	全体	あり	なし
全体		320	123	197	全体		320	123	197
		100.0%	38.4%	61.6%			100.0%	38.4%	61.6%
あり		73	36	37	あり		186	87	99
		100.0%	49.3%	50.7%			100.0%	46.8%	53.2%
なし		204	74	130	なし		101	33	68
		100.0%	36.3%	63.7%			100.0%	32.7%	67.3%
覚えていない		22	9	13	覚えていない		17	1	16
		100.0%	40.9%	59.1%			100.0%	5.9%	94.1%

P値 0.1475

P値 0.0070

では、こうした「西成」に関する偏見や差別は流布しているのだろうか。この間に対する西成区民の回答は、表3-3-13、表3-3-14に示した。全体的には、46.9%と約半数が「西成」差別が流布していると考えている。とくに「していない」と思っている者は16.7%と少ないことが、流布していることをいっそう強く印象づけている。

年齢階層別にはわずかに、31-45歳代で60.3%と「流布している」という認識が高く出ているが、全体的にはあまり差はない。また区内地区別にみると、この結果は見事であるが、西成差別が流布しているかどうかについては、ほとんど地区差が見られない。すなわち、「西成」差別が流布しているという認識は、世代、地区を問わず西成区民の間ではまんべんなく持たれているようである。

表3-3-13 「西成」差別の年齢階層別にみた
流布認識

西成差別 年齢	流布して いる	してい ない	わから ない	合計
16-30 歳	18 48.6%	4 10.8%	15 40.5%	37 100.0%
31-45 歳	35 60.3%	8 13.8%	15 25.9%	58 100.0%
46-64 歳	40 43.5%	15 16.3%	37 40.2%	92 100.0%
65 歳以上	39 41.9%	19 20.4%	35 37.6%	93 100.0%
全体	135 46.9%	48 16.7%	105 36.5%	288 100.0%

P 値 0.467

表3-3-14 「西成」差別の地区別にみた
流布認識

西成差別 区内地区	流布して いる	してい ない	わから ない	合計
北東地区	28 43.1%	11 16.9%	26 40.0%	65 100.0%
北西地区	35 43.2%	15 18.5%	31 38.3%	81 100.0%
西地区	17 50.0%	5 14.7%	12 35.3%	34 100.0%
中央地区	21 55.3%	4 10.5%	13 34.2%	38 100.0%
南地区	34 48.6%	13 18.6%	23 32.9%	70 100.0%
全体	135 46.9%	48 16.7%	105 36.5%	288 100.0%

P 値 0.935

本節では、西成区民の被差別体験の実態を明らかにしてきた。ここで明らかになった点を、整理しておこう。第一に明らかとなった点は、「西成」をめぐる偏見や差別は、相当の広がりをもって進んでいるということである。第二に、「西成」差別の体験は区内地区別にはあまり相違がないという事実からは、西成区という空間的範囲の中に一旦入ってしまえば、等しく差別を受けてしまうという実態が明らかとなった。第三に、年齢階層別に見た場合、比較的若い世代の方に被差別状況が多いということ、第四に、差別を受けたり見聞きした場合、「不愉快」や「腹立たしさ」、「悲しみ」を感じるのは当然であるが、「やむを得ない」という消極的容認の姿勢が一定割合の西成区民からも示されたことはショッキングなことであった。第五に、差別の見聞きでは大阪市民一般との対比が可能であったが、その経路は大阪市民一般の場合には「マスコミから」が高かったのに対し、西成区民の場合の経路である「友人」や「近所」、そして「マスコミ」と多様であり、やや異なっていた。なお、若い世代では「学校や職場の友人」で、そして中高年では「親戚」「近所」あるいは「マスコミから」という経路が特徴的である。最後に、被差別経験があると、西成区での居住意思や住み心地、「こわい」というイメージなどに大きく影響することも明らかになった。

第4節 旅先で「西成」を言うことの抵抗感

第三節で明らかにしてきたように、「西成」に対する偏見や差別がたしかに存在する。こうした状況は、西成区民の日常の生活にどのような影を落としているのだろうか。ここでは、その一例として、旅先で他人に対して自分の居住区名を言うことを取り上げ、その影の一端を明らかにしていこう。

大阪市民一般では自分の区名を言うことに抵抗のない者の割合が88.7%にも達するのに対して、西成区民の場合は大きく減少して半分近くの47.2%になる。また、何らかの抵抗感を持つ者は、大阪市民一般ではわずか6.4%であるのに対し、西成区民では47.8%にのぼっている。これは無視できない重大な相違といわざるを得ない。

ところで、旅先で区名を言うことの抵抗感の有無は、いくつかの項目との関係を問うことで、有意性を見いだすことができる。以下では、こうした視点からさらに分析を進めていこう。

表3-4-1は、差別体験の有無との関係で、旅先で区名を言うことの抵抗感を示した。抵抗のある人は、直接差別の経験が高いと言える。直接の差別を体験し、かつ旅先で区名を言うのに何らかの抵抗感を持つ回答が、64.3%にも達する。直接差別体験のない場合には、この値は、40.6%に下がる。しかし直接差別体験があっても、抵抗なくいえる人も35.6%ある。差別を見聞きした体験者についても、抵抗感を有する回答が、59.2%、これが差別の見聞きのない場合には、33.7%に下がっている。直接差別の経験と同様に、差別の見聞きのある場合にも、抵抗感が増す傾向がある。

表3-4-1 旅先で区名を言うことの抵抗感と差別体験の有無

旅先で区名を言うこと	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない	旅先で区名を言うこと	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない
直接差別						差別見聞					
全体	320 100.0%	151 47.2%	107 33.4%	37 11.6%	9 2.8%	全体	320 100.0%	151 47.2%	107 33.4%	37 11.6%	9 2.8%
あり	73 100.0%	26 35.6%	30 41.1%	15 20.5%	2 2.7%	あり	186 100.0%	75 40.3%	77 41.4%	28 15.1%	5 2.7%
なし	204 100.0%	116 56.9%	58 28.4%	18 8.8%	7 3.4%	なし	101 100.0%	63 62.4%	23 22.8%	7 6.9%	4 4.0%
覚えていない	22 100.0%	5 22.7%	14 63.6%	2 9.1%	0 0.0%	覚えていない	17 100.0%	10 58.8%	6 35.3%	0 0.0%	0 0.0%
P値 0.0001						大阪市民一般	1302 100.0%	1155 88.7%	67 5.1%	6 0.5%	10 0.8%

P値 0.0025

西成区の地区別に見ると（表3-4-2）、「西成」を旅先で言うのに抵抗があるという回答では、やや北東地区が55.2%と高いことをのぞいて地区差はあまりない（北西地区は47.3%、中央地区41.4%、西地区50.0%、南地区44.4%）ということは、西成という地名に、区民全体にスティグマ（恥辱感）が浸透しているということになるのではないだろうか。

表3-4-2 旅先で区名を言うことの抵抗感の地区別の相異

旅先で区名を言うこと	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない
区内地区					
全体	320 100.0%	151 47.2%	107 33.4%	37 11.6%	9 2.8%
北東地区	67 100.0%	27 40.3%	26 38.8%	11 16.4%	0 0.0%
北西地区	91 100.0%	44 48.4%	29 31.9%	10 11.0%	4 4.4%
中央地区	41 100.0%	23 56.1%	13 31.7%	3 7.3%	1 2.4%
西地区	40 100.0%	16 40.0%	13 32.5%	4 10.0%	3 7.5%
南地区	81 100.0%	41 50.6%	26 32.1%	9 11.1%	1 1.2%

P値 0.4913

表3-4-3 旅先で区名を言うことの抵抗感と年齢階層別相異

旅先で区名を言うこと	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない
年齢					
全体	320 100.0%	151 47.2%	107 33.4%	37 11.6%	9 2.8%
16-30 歳	39 100.0%	22 56.4%	9 23.1%	5 12.8%	2 5.1%
31-45 歳	65 100.0%	30 46.2%	30 46.2%	5 7.7%	0 0.0%
46-64 歳	99 100.0%	46 46.5%	33 33.3%	15 15.2%	2 2.0%
65 歳以上	108 100.0%	51 47.2%	32 29.6%	12 11.1%	2 1.9%

P値 0.3568

次に、表3-4-3で、年齢階層別にみていこう。「西成」を旅先で言うのに抵抗あるという回答に年齢差はそう多くみられないが、やや中壮年から老年層に抵抗感がやや高いといえる。

次に表3-4-4では、「こわい」という具体的なイメージを持つ者が、旅先で区名をいうことに抵抗感を幾分大きい。「こわい」と思う者では58.3%がなんらかの抵抗感を持つが、そう思わない者は、抵抗感は33.5%に減っている。

表3-4-4 旅先で区名を言うことの抵抗感と「こわい」イメージとの関係

旅先で区名を言うこと 「こわい」イメージ	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない
全体	320 100.0%	151 47.2%	107 33.4%	37 11.6%	9 2.8%
そう思う	60 100.0%	24 40.0%	18 30.0%	15 25.0%	2 3.3%
どちらとも言えない	101 100.0%	40 39.6%	46 45.5%	12 11.9%	2 2.0%
そう思わない	122 100.0%	75 61.5%	33 27.0%	6 4.9%	2 1.6%
わからない	13 100.0%	5 38.5%	6 46.2%	1 7.7%	1 7.7%

P値 0.0005

同様に、「西成」にマイナスの直感的イメージを持った人が旅先で区名を言うことの抵抗感は、67.8%となり、「どちらでもない」という回答者の28.0%を圧倒的に上回る（表3-4-5）。

表3-4-5 旅先で区名を言うことの抵抗感と「西成」の直感的イメージの関係

旅先で区名を言うこと 西成イメージ	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない
全体	320 100.0%	151 47.2%	107 33.4%	37 11.6%	9 2.8%
プラス	9 100.0%	9 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
どちらでも	100 100.0%	67 67.0%	23 23.0%	1 1.0%	4 4.0%
マイナス	171 100.0%	52 30.4%	78 45.6%	34 19.9%	4 2.3%
わからない	27 100.0%	19 70.4%	4 14.8%	1 3.7%	1 3.7%

P値 0.0000

これも見事な結果であるが、「西成差別が流布している」と考える回答者は、旅先での抵抗は比較的高く、63.4%にも達し、流布していないとする人は、それが29.1%に下がっている（表3-4-6）。

表3-4-6 旅先で区名を言うことの抵抗感と西成差別の流布との関係

旅先で区名を言うこと 「西成」差別流布	全体	抵抗なし	少し抵抗ある	殆ど話せない	話せない
流布している	134 100.0	49 36.6	56 41.8	27 20.1	2 1.5
流布していない	48 100.0	32 66.7	10 20.8	4 8.3	2 4.2
わからない	105 100.0	58 55.2	36 34.3	6 5.7	5 4.8
合計	287 100.0	139 48.4	102 35.5	37 12.9	9 3.1

P値 0.0000

以上のことをまとめると、旅先で区名をいうことに抵抗感を感じる人は、被差別体験があり、また「西成」差別の見聞経験のある人など、差別問題に敏感な人であることが判明した。いずれにしても、旅先での区名を言うことへの抵抗感は、差別を体験することを通じて、西成区民がかなり感じており、それがいろんな意味でマイナス評価につながっているようである。とにかく大阪市民一般の平均の7倍もの「抵抗感」を有するという凄まじい状況であることも確認された。

第5節 地元の事業や行事への参加度からみた「西成」認知の特徴

では、地元でおこなわれている事業や行事に参加したことがあるかどうかの問い（表3-5-1）に関して、総じて行事への積極的参加者（「よく参加する」）は4分の1以下となっているが、なかでも福祉などのボランティア、人権に関する学習会などは低く10%台にとどまっている。「よく参加する」と「たまに参加する」の合計では、「区民祭り」「伝統的な地域の祭りや行事」「町内会や校区などでの催し」では半数以上、「福祉などのボランティア活動」「人権に関する学習会」では3割前後となる。なお男女間に参加度の相違はみられない。

表3-5-1 区内の事業や行事への不参加度

	区民祭り	伝統的な地域の祭りや行事	町内会や校区などでの催し	福祉などのボランティア活動	人権に関する学習会
よく参加する	67 23.0%	75 26.7%	66 23.2%	38 14.2%	27 10.0%
たまに参加する	95 32.6%	84 29.9%	104 36.6%	43 16.1%	48 17.8%
参加したことがない	129 44.3%	122 43.4%	114 40.1%	186 69.7%	195 72.2%
合計	291 100.0%	281 100.0%	284 100.0%	267 100.0%	270 100.0%
回答なし	29	39	36	53	50

表3-5-2は、各種行事への不参加を年齢階層別に示している。これをみると、参加しない割合だけを記載しているが、45歳以下の参加度は低く、45歳以上、特に65歳以上になると、参加度はかなり上がることが見て取れよう。特に福祉ボランティアや人権学習についての参加度は、45歳以下では非常に低い値になっている。表には掲げていないが、西成区内地区別にはほとんど参加度に差を見出すことはできなかった。また男女別にみても、際立った相違はみられない。

表3-5-2 年齢階層別にみた各種行事への不参加度

参加したことがない 年齢別	区民祭り	伝統的な地域の祭りや行事	町内会や校区などでの催し	福祉などのボランティア活動	人権に関する学習会	合計
16-30歳	21 53.8%	16 41.0%	21 53.8%	29 74.4%	30 76.9%	39 100.0%
31-45歳	30 46.2%	21 32.3%	26 40.0%	50 76.9%	49 75.4%	65 100.0%
46-64歳	42 42.4%	45 45.5%	36 36.4%	59 59.6%	62 62.6%	99 100.0%
65歳以上	33 30.6%	37 34.3%	28 25.9%	42 38.9%	49 45.4%	108 100.0%
全体	129 40.3%	122 38.1%	114 35.6%	186 58.1%	195 60.9%	320 100.0%
P値	0.003	0.007	0.002	0.000	0.000	

では、以下ではいくつかの行事などへの参加度が、「西成」認知にどのように影響を及ぼしているのか、検討してみたい。まず、人権学習への参加度を軸に検討してみよう。表3-5-3では、「西成がこわい」という具体的なイメージに関して、人権学習の参加度が高いほど、「そう思わない」という率が顕著に高まっていることがうかがえる。表には載せていないが、「安心である」と思うかどうかという設問に関しても、人権学習の参加度が高いほど、「そう思う」という傾向が指摘できる。同様に町内校区の活動や福祉ボランティアに参画する人のほうが、「こわい」というイメージは相対的に弱くなっていることがわかる。

表3-5-3 「人権学習への参加度」などと「こわい」イメージとの関係

「こわい」イメージ	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	わからない	合計
人権学習 よく参加する	0 0.0	9 37.5	15 62.5	0 0.0	24 100.0
人権学習 たまに参加する	6 13.0	15 32.6	23 50.0	2 4.3	46 100.0
人権学習 参加したことがない	48 25.7	67 35.8	62 33.2	10 5.3	187 100.0
合計	54 21.0	91 35.4	100 38.9	12 4.7	257 100.0
					P値 0.012
町内校区の行事 よく参加する	8 13.1	21 34.4	31 50.8	1 1.6	61 100.0
福祉ボランティア活動 よく参加する	2 5.6	12 33.3	20 55.6	2 5.6	36 100.0
					P値 0.234

表3-5-4では、人権学習への参加度と「西成」事象の認知度との関係を示している。ここでも非常にクリアな傾向が見られる。特に人権学習への参加度が高いほど、「皮革産業」「勝間なんきん」「フレンド事件」「てんのじ村」に対する認知度が極めて高くなっている。逆にメジャーな事象である「釜ヶ崎暴動」や「ふたりっ子」にはそれほど目立った相違はうかがえない。また「じゃりん子チエ」に関しては、人権学習への参加度と関係しない。

一方、町内校区の行事によく参加する人は、やはり比較的事象認知度は高いが、「フレンド事件」に関してはあまり知っていないという回答となる。福祉ボランティア活動に関しては、町内校区に見られるほどの「フレンド事件」に関する認知度の低下は見られないが、総じて認知度の高いことがうかがえる。福祉ボランティア活動や人権学習に参画する人の「西成」事象の認知はかなり高く、ついで町内校区の参加度の高い人が続く構造になっている。

表3-5-4 人権学習などの参加度からみた「西成」事象認知の特徴

よく知っている	皮革産業	フレンド事件	てんのじ村	じゃりん子チエ	勝間なんきん	暴動	ふたり子
人権学習 よく参加する	19 76.0	12 50.0	14 56.0	10 45.5	14 56.0	22 81.5	20 80.0
人権学習 たまに参加する	30 65.2	12 26.7	16 34.8	32 71.1	15 32.6	37 80.4	31 70.5
人権学習 参加したことがない	97 51.9	18 9.9	35 19.1	96 69.6	33 17.9	143 74.9	112 59.6
合計	146 56.6	42 16.7	65 25.6	138 55.2	62 24.3	202 76.5	163 63.4
P値	0.061	0.000	0.001	0.017	0.000	0.695	0.228
町内校区 よく参加する	41 67.2	14 23.3	30 48.4	35 60.3	30 48.4	55 85.9	43 70.5
P値	0.006	0.002	0.000	0.385	0.000	0.290	0.353
福祉ボランティア活動 よく参加する	25 71.4	13 38.2	20 55.6	18 54.5	20 57.1	33 89.2	25 71.4
P値	0.147	0.001	0.000	0.589	0.000	0.216	0.296

人権学習への参加度の違いで「社会的に弱い立場にある人々」の認知が異なる（表3-5-5）。まず、参加の有無にかかわらず、全体として「野宿生活者」「高齢者」の認知度が高い。また、「野宿生活者」や「高齢者」、「同和地区住民」については、参加の有無によって相違はほとんど見出せない。それに対し、「日雇労働者」については、参加度の高い人の方がその認知が低く、逆に「零細商工業者」の認知度が高くなっている。

町内校区の行事によく参加する人の場合には、人権学習に参加する人の場合より、「韓国・朝鮮人」を「社会的に弱い立場にある人々」と多くが認知し、そして「日雇労働者」に対しても同様の傾向がみられるが、後者はそれでも平均以下となっている。その代わりに「零細商工業者」への認知が低くなっている。その他はよく似た数値となっている。福祉ボランティアに参加する人は、人権学習の場合とほとんど差はみられない。ここにおいても「日雇労働者」の「社会的立場の弱い人々」としての認知度は低めである。

表3-5-5 人権学習などの参加度からみた「社会的に弱い立場の人々」認知の特徴

弱者認知	高齢者	韓国・朝鮮人	中国人・東南アジア出身者	沖縄出身者	同和地区住民	日雇労働者	ひとり親家族	障害者	野宿生活者	零細商工業者	合計
人権学習 よく参加する	17 63.0%	5 18.5%	1 3.7%	0 0.0%	6 22.2%	9 33.3%	2 7.4%	2 7.4%	22 81.5%	11 40.7%	27 100.0%
人権学習 たまに参加する	27 56.3%	8 16.7%	2 4.2%	0 0.0%	14 29.2%	28 58.3%	4 8.3%	6 12.5%	42 87.5%	10 20.8%	48 100.0%
人権学習 参加したことがない	100 51.3%	36 18.5%	5 2.6%	1 0.5%	46 23.6%	119 61.0%	8 4.1%	20 10.3%	158 81.0%	34 17.4%	195 100.0%
全体	177 55.3%	61 19.1%	10 3.1%	3 0.9%	78 24.4%	174 54.4%	20 6.3%	33 10.3%	256 80.0%	68 21.3%	320 100.0%
町内校区 よく参加する	41 62.1%	20 30.3%	2 3.0%	1 1.5%	16 24.2%	31 47.0%	6 9.1%	5 7.6%	51 77.3%	19 28.8%	66 100.0%
福祉ボランティア活動 よく参加する	25 65.8%	8 21.1%	1 2.6%	0 0.0%	8 21.1%	15 39.5%	4 10.5%	0 0.0%	34 89.5%	16 42.1%	38 100.0%

以上、西成区内の5つの事業や行事への参加度の視点から分析を進めてきた。これをまとめると以下になるだろう。これらの事業・行事の中で、人権学習への参加者がさまざまな取り組みに対する積極的姿勢や、「西成」事象の認知度は高くなっている。その次に、福祉ボランティアへの参加者がこうした意志や事象認知の高さを示している。しかし、具体的にどのような方向性を打ち出したらいいかという点から見ると、行事の参加度の違いからはあまり相違を見つけ出すことはできない。ただ、人権学習への参加度の高い人においても、日雇労働者への施策に関しては優先度はあまり与えられていないことは注目せねばならないであろう。

第6節 「西成」に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事への参加意志

次に、「西成」に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事への参加意志の特徴を検討していこう。

表3-6-1は西成区民に対し、差別・偏見をなくす取り組みへの参加意志を問いている。年齢階層別にみると、45歳以上に参加度が比較高く見られるが、「参加しない」「わからない」という態度保留が、年齢に関わらず一定数（全体平均41.8%）存在する。「機会があれば参加する」という条件も加えると、「参加する」というのが45歳以上で50%を越えている。

これを差別体験の有無別でみてみよう（表3-6-2）。直接の差別体験のある人の参加意志表明が53.4%、ない人が40.2%である。偏見・差別見聞きのある人の参加意志が46.3%、ない人が36.7%である。統計的には有意差はでていないと判定されている。特に差別の見聞きの有無と参加意志の有無との関係はほとんどないようである。また表には載せていないが、旅先での抵抗感を感じる度合いと、参加意志にも明瞭な関係は見出せない。

表3-6-1 「差別・偏見解消活動への参加意志」と年齢階層の関係

取り組み参加 年齢	積極的に参加する	機会があれば参加する	側面援助	参加しない	わからない	合計
16-30 歳	1 2.6%	13 33.3%	7 17.9%	6 15.4%	12 30.8%	39 100.0%
31-45 歳	0 0.0%	22 33.8%	11 16.9%	13 20.0%	19 29.2%	65 100.0%
46-64 歳	3 3.2%	45 48.4%	9 9.7%	12 12.9%	24 25.8%	93 100.0%
65 歳-	15 16.0%	33 35.1%	12 12.8%	11 11.7%	23 24.5%	94 100.0%
合計	20 6.7%	115 38.5%	39 13.0%	43 14.4%	82 27.4%	299 100.0%

P値 0.0063

表3-6-2 差別体験の有無からみた「差別・偏見解消活動への参加意志」

参加意志	全体	積極的に	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない	参加意志	全体	積極的に	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない
直接差別経験							差別の見聞						
全体	320	20	115	39	43	82	全体	320	20	115	39	43	82
	100.0%	6.3%	35.9%	12.2%	13.4%	25.6%		100.0%	6.3%	35.9%	12.2%	13.4%	25.6%
あり	73	6	33	5	10	14	あり	186	12	74	21	26	44
	100.0%	8.2%	45.2%	6.8%	13.7%	19.2%		100.0%	6.5%	39.8%	11.3%	14.0%	23.7%
なし	204	10	72	26	31	56	なし	101	4	33	14	13	31
	100.0%	4.9%	35.3%	12.7%	15.2%	27.5%		100.0%	4.0%	32.7%	13.9%	12.9%	30.7%
覚えていない	22	0	5	5	2	9	覚えていない	17	1	6	2	3	5
	100.0%	0.0%	22.7%	22.7%	9.1%	40.9%		100.0%	5.9%	35.3%	11.8%	17.6%	29.4%

P値 0.1204

P値 0.8994

次に、「西成」の誇りととの関係をみてみよう（表3-6-3）。「積極的に参加」「機会があれば参加」「側面的援助」を選んだ人々は、それぞれ70%以上が「西成」を「庶民的下町」と評価し、また40%以上は「多様な人々の違いを認め合った生活文化」を選んでいいる。これに対し、「参加しない」と述べた人々は、約半数が「ほこりがない」を選んでいいる。このように、参加意志のある人は、生活やまちの人間関係に関わる2つの項目「庶民的下町」「多様な人々の違いを認め合った生活文化」を誇りに思っている人の中に多いという結果がみられた。

表3-6-3 「西成」の誇りと「差別・偏見解消活動への参加意思」との関係

誇りに思うこと	庶民的下町	芸能文化を育んできた	地場、伝統産業	歴史的遺産や史跡	多様な人々の違いを認め合った生活文化	ない	全体
参加意志							
積極的に参加	14	4	4	3	9	2	20
	70.0%	20.0%	20.0%	15.0%	45.0%	10.0%	100.0%
機会があれば参加	81	18	16	22	47	20	115
	70.4%	15.7%	13.9%	19.1%	40.9%	17.4%	100.0%
側面援助	30	4	4	5	19	4	39
	76.9%	10.3%	10.3%	12.8%	48.7%	10.3%	100.0%
参加しない	20	5	4	4	9	21	43
	46.5%	11.6%	9.3%	9.3%	20.9%	48.8%	100.0%
わからない	48	8	3	9	16	20	62
	77.4%	12.9%	4.8%	14.5%	25.8%	32.3%	100.0%
合計	193	39	31	43	100	67	320
	60.3%	12.2%	9.7%	13.4%	31.3%	20.9%	100.0%

P値 0.0052

表3-6-4は、今後、「西成」に対する差別や偏見をなくしていくには、どのようなことをすればよいか

を聞いた質問への回答である。西成区民全体が選択した必要な解消策は、「マスコミでの宣伝」が41.3%、「弱者に優しい政策」が40.6%と、上位を占めた。その次に、33.1%で「まちづくり」と「日雇労働者地区施策」が続いた。その後に「自助努力」「差別等の学習」が続き、「自己啓発」「集客施設建設」「同和対策・外国人施策」などが低位の回答であった。

しかし、地区別に見ると、かなりの相異が見られる。南地区が総じて、西成区全体の平均値に近い値をとるが、北東地区では平均よりも総じて要求度合いの割合が高まり（とくに、「マスコミでの宣伝」「弱者に優しい施策」「まちづくり」「日雇労働者地区施策」）、北西地区では「弱者に優しい施策」「自助努力」「マスコミでの宣伝」について、北東地区とはかなり異なる回答パターンを見せるとともに、西成平均ともかなり異なっている。日雇労働者地区施策については、北西地区・西地区では低く、それ以外地区は高く、全く逆のパターンが同和地区などへの対策にみられる。

表3-6-4 「西成」差別・偏見の解消策：地区別

(複数回答)

	差別等の学習	マスコミでの宣伝	啓発推進	集客施設建設	自助努力	まちづくり	弱者に優しい施策	日雇労働者地区施策	同和地区外国人施策	全体
北東地区	14 20.9%	35 52.2%	11 16.4%	14 20.9%	12 17.9%	29 43.3%	32 47.8%	27 40.3%	6 9.0%	67 100.0%
北西地区	25 27.5%	28 30.8%	11 12.1%	13 14.3%	29 31.9%	30 33.0%	37 40.7%	21 23.1%	18 19.8%	91 100.0%
中央地区	8 19.5%	18 43.9%	13 31.7%	10 24.4%	12 29.3%	10 24.4%	12 29.3%	16 39.0%	9 22.0%	41 100.0%
西地区	6 15.0%	14 35.0%	9 22.5%	5 12.5%	11 27.5%	13 32.5%	16 40.0%	10 25.0%	3 7.5%	40 100.0%
南地区	13 16.0%	37 45.7%	14 17.3%	12 14.8%	21 25.9%	24 29.6%	33 40.7%	32 39.5%	12 14.8%	81 100.0%
全体	66 20.6%	132 41.3%	58 18.1%	54 16.9%	85 26.6%	106 33.1%	130 40.6%	106 33.1%	48 15.0%	320 100.0%

P値 0.3525

表3-6-5は、「西成」差別・偏見解消策の複数回答の組み合わせを示している。これに関しては、圧倒的に支持される政策の組み合わせは見られず、「マスコミでの宣伝」かつ「弱者に優しい施策」、「弱者に優しい施策」かつ「日雇労働者地区施策」、「マスコミでの宣伝」かつ「まちづくり」、そして「弱者に優しい施策」かつ「自助努力」、「日雇労働者地区施策」と「マスコミによる宣伝」という組み合わせが選択されている。

表3-6-5 「西成」差別・偏見の解消策の回答組み合わせ

	差別等の学習	マスコミでの宣伝	啓発推進	集客施設建設	自助努力	まちづくり	弱者優しい施策	日雇労働者地区施策	同和対策外国人施策
差別等の学習	66								
マスコミでの宣伝	32	132							
啓発推進	21	34	58						
集客施設建設	13	31	12	54					
自助努力	30	39	22	13	85				
まちづくり	17	48	18	31	24	106			
弱者優しい施策	28	62	32	24	48	43	130		
日雇労働者地区施策	24	47	24	24	30	42	56	106	
同和対策外国人施策	18	18	14	12	19	18	31	24	48

では差別体験の有無が、西成差別解消をめざす方向にどのような意見の違いとなるであろうか。表3-6-6、表3-6-7では、この点をみていこう。直接差別を経験した者は、経験なしの者に比べ、「同和対策・外国人施策」の割合がとくに高く、これ以外でも「啓発推進」「集客施設建設」「自助努力」「弱者に優しい施策」などでも高くなっている。しかし、「マスコミでの宣伝」は、全体的に多くの支持を得ているが、経験なしの者の方が高くなっている。

差別・偏見の見聞経験については、経験のある者となない者の差は、縮まる。「弱者に優しい施策」を求める回答者に差別・偏見の見聞体験者が相対的に低く、「同和対策・外国人施策」回答者に差別・偏見の見聞体験者が相対的に多いことが指摘できるくらいである。

表3-6-6 直接差別体験と「西成」差別・偏見解消策の関係

解消施策 直接差別経験	差別等の 学習	マスコミで の宣伝	啓発推進	集客施設 建設	自助努力	まちづくり	弱者に優 しい施策	日雇労働 者地区施 策	同和対策 外国人施 策	全体
あり	17 23.3%	28 38.4%	16 21.9%	16 21.9%	23 31.5%	27 37.0%	36 49.3%	27 37.0%	21 28.8%	73 100.0%
なし	43 21.1%	87 42.6%	31 15.2%	26 12.7%	51 25.0%	67 32.8%	84 41.2%	66 32.4%	18 8.8%	204 100.0%
覚えていない	3 13.6%	11 50.0%	5 22.7%	6 27.3%	5 22.7%	9 40.9%	4 18.2%	6 27.3%	3 13.6%	22 100.0%
合計	63 21.1%	126 42.1%	52 17.4%	48 16.1%	79 26.4%	103 34.4%	124 41.5%	99 33.1%	42 14.0%	299 100.0%

P値 0.1858

表3-6-7 差別・偏見の見聞経験と「西成」差別・偏見の解消策の関係

解消施策 差別の見聞	差別等の 学習	マスコミで の宣伝	啓発推進	集客施設 建設	自助努力	まちづくり	弱者に優 しい施策	日雇労働 者地区施 策	同和対策 外国人施 策	全体
あり	43 23.1%	81 43.5%	38 20.4%	36 19.4%	55 29.6%	66 35.5%	70 37.6%	68 36.6%	37 19.9%	186 100.0%
なし	16 15.8%	41 40.6%	15 14.9%	11 10.9%	24 23.8%	32 31.7%	48 47.5%	30 29.7%	7 6.9%	101 100.0%
覚えていない	5 29.4%	7 41.2%	1 5.9%	3 17.6%	4 23.5%	6 35.3%	8 47.1%	4 23.5%	2 11.8%	17 100.0%
合計	64 20.4%	129 41.1%	54 17.2%	50 15.9%	83 26.4%	104 33.1%	126 40.1%	102 32.5%	46 14.6%	314 100.0%

P値 0.5139

地元での事業や行事への参加度から、差別・偏見解消策への参加意思の相異をみてみよう。表3-6-8はそれを示している。差別・偏見解消策への参加意志は、「人権学習」参加者に積極性がうかがえる。その次に「福祉ボランティア」が続く。「町内校区の行事」「区民祭り」「伝統的な祭りや行事」への参加者には、わからないという保留回答がやや多く見られることと、積極的参加がやや低いことから、相対的に参加度がやや低いといえよう。

表3-6-9は、人権学習、町内校区の行事や福祉ボランティアへの参加の程度と、「西成」差別・偏見解消策との関係を示しているが、かなり異なる傾向が指摘できる。まず、人権学習については、その参加度により、差別・偏見解消策の重点の置き方がかなり異なっている。

人権学習については、学習や啓発に重きをおく意見が目立つ。しかし積極的回答者が少ないことを考えると、「たまに参加する」と「参加したことがない」の間の意見の相異は、あまり見られない。「日雇労働者地区施策」に関しては、意見の相異は全く見られなことも付記しておく。

後二者については、その参加度の違いがまちづくりの今後の考え方にそう大きな影響を及ぼさない傾向が見られる。

表3-6-8 事業や行事への参加度と「差別・偏見解消活動への参加意思」との関係

取り組み参加	積極的	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない	何らかの参加意志	合計
人権学習 よく参加する	9 36.0%	13 52.0%	1 4.0%	0 0.0%	2 8.0%	23 92.0%	25 100.0%
人権学習 たまに参加する	2 4.2%	25 52.1%	11 22.9%	2 4.2%	8 16.7%	38 79.2%	48 100.0%
人権学習 参加したことがない	6 3.2%	66 35.7%	24 13.0%	34 18.4%	55 29.7%	96 51.9%	185 100.0%
合計	17 6.6%	104 40.3%	36 14.0%	36 14.0%	65 25.2%	155 60.1%	258 100.0%
取り組み参加	積極的	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない	何らかの参加意志	合計
町内校区の行事 よく参加する	12 18.8%	28 43.8%	10 15.6%	4 6.3%	10 15.6%	50 78.1%	64 100.0%
町内校区の行事 たまに参加する	4 4.0%	41 41.0%	9 9.0%	18 18.0%	28 28.0%	54 54.0%	100 100.0%
町内校区の行事 参加したことがない	2 1.9%	38 35.5%	18 16.8%	18 16.8%	31 29.0%	58 55.2%	107 100.0%
合計	18 6.6%	107 39.5%	37 13.7%	40 14.8%	69 25.5%	162 59.8%	271 100.0%
取り組み参加	積極的	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない	何らかの参加意志	合計
福祉ボランティア よく参加する	8 22.2%	15 41.7%	5 13.9%	3 8.3%	5 13.9%	28 77.8%	36 100.0%
福祉ボランティア たまに参加する	2 4.8%	23 54.8%	7 16.7%	4 9.5%	6 14.3%	32 76.2%	42 100.0%
福祉ボランティア 参加したことがない	5 2.8%	63 35.4%	26 14.6%	30 16.9%	54 30.3%	94 52.8%	178 100.0%
合計	15 5.9%	101 39.5%	38 14.8%	37 14.5%	65 25.4%	154 60.2%	256 100.0%
取り組み参加	積極的	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない	何らかの参加意志	合計
区民祭り よく参加する	12 18.8%	31 48.4%	5 7.8%	8 12.5%	8 12.5%	47 73.4%	64 100.0%
区民祭り たまに参加する	5 5.6%	33 37.1%	16 18.0%	10 11.2%	25 28.1%	54 60.7%	89 100.0%
区民祭り 参加したことがない	1 0.8%	46 37.7%	17 13.9%	21 17.2%	37 30.3%	64 52.5%	122 100.0%
合計	18 6.5%	110 40.0%	38 13.8%	39 14.2%	70 25.5%	165 60.0%	275 100.0%
取り組み参加	積極的	機会があれば	側面援助	参加しない	わからない	何らかの参加意志	合計
伝統的な祭りや行事 よく参加する	14 19.7%	27 38.0%	11 15.5%	8 11.3%	11 15.5%	52 73.2%	71 100.0%
伝統的な祭りや行事 たまに参加する	2 2.4%	35 42.7%	10 12.2%	11 13.4%	24 29.3%	47 57.3%	82 100.0%
伝統的な祭りや行事 参加したことがない	3 2.6%	43 37.4%	16 13.9%	20 17.4%	33 28.7%	59 51.3%	115 100.0%
合計	19 7.1%	105 39.2%	37 13.85%	39 14.6%	68 25.4%	158 59.1%	268 100.0%

人権学習:P値 0.000 町内校区:P値 0.003 福祉ボランティア:P値 0.002

区民祭り:P値 0.001 伝統的祭りや行事:P値 0.002

表3-6-9 事業や行事への参加度からみた「西成」差別・偏見の解消策の選択

	差別等の 学習	マスコミ での宣伝	啓発推 進	集客施 設建設	自助努 力	まちづく り	弱者に優 しい施策	日雇労働者地 区施策	同和对 策外国人施策	合計
人権学習 よく参加する	12 44.4%	15 55.6%	10 37.0%	5 18.5%	7 25.9%	7 25.9%	10 37.0%	9 33.3%	3 11.1%	27 100.0%
人権学習 たまに参加する	10 20.8%	25 52.1%	7 14.6%	7 14.6%	19 39.6%	19 39.6%	27 56.3%	16 33.3%	16 33.3%	48 100.0%
人権学習 参加したことがない	34 17.4%	72 36.9%	33 16.9%	35 17.9%	48 24.6%	71 36.4%	79 40.5%	66 33.8%	20 10.3%	195 100.0%
合計	56 20.7%	112 41.5%	50 18.5%	47 17.4%	74 27.4%	97 35.9%	116 43.0%	91 33.7%	39 14.4%	270 100.0%
町内校区の行事 よく参加する	18 27.3%	38 57.6%	19 28.8%	14 21.2%	19 28.8%	23 34.8%	26 39.4%	21 31.8%	10 15.2%	66 100.0%
福祉ボランティア活動 よく参加する	11 28.9%	20 52.6%	9 23.7%	6 15.8%	12 31.6%	12 31.6%	15 39.5%	11 28.9%	4 10.5%	38 100.0%

人権学習:P値 0.0507 町内校区:P値 0.6801 福祉ボランティア:P値 0.8200

以上、西成区内の5つの事業や行事への参加度の視点から分析を進めてきた。これをまとめると以下になるだろう。今後の参加意志やその方向性については、基本的に高齢者は関心が高い構図になっている。そして、その参加意志の高低に被差別体験の多寡にほとんど関係しないことも注目しておくべきことかと思われる。基本的には、「マスコミによる宣伝」をし、「弱者に優しい施策」という上位回答のあとに、「まちづくり」と「日雇労働者地区施策」が続くが、区内地区別によりかなり異なり、特に「日雇労働者地区」や「同和地区」などを抱える当該地区では、それに対する施策の重視が強く打ち出され、地区によって違うことを指摘しておかねばならない。また参加意志は、「人権学習」や「福祉ボランティア」の経験を積んだ人に比較的高く見られる。

第7節 あいりん地域のあり方と差別・偏見をなくす活動への参加意志

あいりん地域についての設問(表3-7-1)では、まず具体的イメージでは「汚い」が59.4%、ついで「異質な街」が27.2%と続く。今後の必要な施策としては、「野宿生活の人権と生活を守る施策の実施」55.0%、「日雇労働者の街としての再生」が47.8%と高く、排他的な意見「他所に移転してほしい」はわずか16.6%にすぎなかった。このように、現状に対するイメージは否定的だが、だからといってそれが今後の施策において排他的なものにつながることなく、当事者の人権や生活・仕事の確保に配慮した方向性を打ち出していることに、注目しておきたい。ただし、地区ごとには、それぞれの選択傾向に大きな相違があることに注目する必要があるだろう。

表3-7-2は、年齢階層別にみたあいりん地域の具体的イメージと施策についての回答である。全体として「汚い」というイメージが強くもたれているが、特に壮年層(31-45歳)と中年層(46-64歳)で高くなっている。「庶民的」は高齢者になるにつれ高くなっている。「異質な人々の街」は若年層、壮年層に多い。

施策では、若年層は、施策それ自体への選択志向が低い。これに対し、中高齢者層になると、こうした選択志向が高くなる。そして、いずれの年齢階層でも「日雇労働者の街としての再生」や「野宿生活者の人権と生活を守る施策の実施」を強く求める傾向にある。

表3-7-3は、「西成」に対する差別・偏見をなくする取り組みへの参加意志の違いからみたあいりん地域の具体的イメージなどをみたものである。当たり前の結果かもしれないが、参加意志の低い人は、あいりん地域に対するイメージや今後の施策いずれにおいても醒めた態度をはっきり示しており、非常に特徴的である。特に「参加しない」と回答した人が、「汚い」イメージを強く持ち「庶民的」とは思わない。そして、「他所への移転」への期待を強く持ち、日雇労働者や野宿生活者の人権・生活・仕事を守る施策への志向性がきわめて低くなっている。

表3-7-1 地区別にみたあいりん地域の具体的イメージと必要な施策 (複数回答)

	あいりん地域のイメージ				必要な施策			全体
	汚い	活気がある	庶民的	異質な人々の街	他所に移転してほしい	日雇労働者の街として再生してほしい	野宿生活者の人権と生活を守る政策の実施	
北東地区	45 67.2%	7 10.4%	23 34.3%	17 25.4%	14 20.9%	38 56.7%	36 53.7%	67 100.0%
北西地区	56 61.5%	5 5.5%	15 16.5%	16 17.6%	20 22.0%	40 44.0%	46 50.5%	91 100.0%
中央地区	24 58.5%	2 4.9%	4 9.8%	18 43.9%	6 14.6%	22 53.7%	22 53.7%	41 100.0%
西地区	21 52.5%	2 5.0%	7 17.5%	9 22.5%	5 12.5%	18 45.0%	25 62.5%	40 100.0%
南地区	44 54.3%	10 12.3%	20 24.7%	27 33.3%	8 9.9%	35 43.2%	47 58.0%	81 100.0%
全体	190 59.4%	26 8.1%	69 21.6%	87 27.2%	53 16.6%	153 47.8%	176 55.0%	320 100.0%

P値 0.3150

表3-7-2 年齢階層別にみたあいりん地域の具体的イメージと必要な施策 (複数回答)

	あいりん地域のイメージ				必要な施策			合計
	汚い	活気がある	庶民的	異質な人々の街	他所に移転してほしい	日雇労働者の街として再生してほしい	野宿生活者の人権と生活を守る政策の実施	
16-30 歳	25 64.1%	4 10.3%	4 10.3%	13 33.3%	4 10.3%	14 35.9%	16 41.0%	39 100.0%
31-45 歳	51 78.5%	3 4.6%	10 15.4%	23 35.4%	11 16.9%	32 49.2%	36 55.4%	65 100.0%
46-64 歳	64 68.8%	8 8.6%	21 22.6%	23 24.7%	20 21.5%	47 50.5%	55 59.1%	93 100.0%
65 歳+	44 46.8%	11 11.7%	32 34.0%	27 28.7%	16 17.0%	58 61.7%	65 69.1%	94 100.0%
全体	190 63.5%	26 8.7%	69 23.1%	87 29.1%	53 17.7%	153 51.2%	176 58.9%	299 100.0%

P値 0.1071

表3-7-3 「西成」差別・偏見をなくする取り組みへの参加意志とあいりん地域の具体的イメージ (複数回答)

参加意思	全体	あいりん地域のイメージ				必要な施策		
		汚い	活気がある	庶民的	異質な人々の街	他所に移転してほしい	日雇労働者の街として再生してほしい	野宿生活者の人権と生活を守る政策の実施
全体	320 100.0%	190 59.4%	26 8.1%	69 21.6%	87 27.2%	53 16.6%	153 47.8%	176 55.0%
積極的	20 100.0%	7 35.0%	2 10.0%	6 30.0%	2 10.0%	2 10.0%	11 55.0%	11 55.0%
機会があれば	115 100.0%	72 62.6%	10 8.7%	30 26.1%	37 32.2%	19 16.5%	64 55.7%	71 61.7%
側面援助	39 100.0%	27 69.2%	2 5.1%	7 17.9%	13 33.3%	4 10.3%	23 59.0%	31 79.5%
参加しない	43 100.0%	31 72.1%	1 2.3%	4 9.3%	13 30.2%	14 32.6%	10 23.3%	12 27.9%
わからない	82 100.0%	48 58.5%	8 9.8%	16 19.5%	20 24.4%	12 14.6%	32 39.0%	39 47.6%
不明	21 100.0%	5 23.8%	3 14.3%	6 28.6%	2 9.5%	2 9.5%	13 61.9%	12 57.1%

P値 0.2331

次に、被差別体験の有無別にあいりん地域の具体的イメージと今後の施策について検討してみた。その結果は表3-7-4である。これをみると、それほど大きなイメージや意見に相違があるわけではない。

表3-7-4 直接の被差別体験の有無別にみたあいりん地域の具体的イメージと今後の施策 (複数回答)

直接差別	全体	あいりん地域のイメージ				必要な施策		
		汚い	活気がある	庶民的	異質な人々の街	他所に移転してほしい	日雇労働者の街として再生してほしい	野宿生活者の人権と生活を守る政策の実施
全体	320 100.0%	190 59.4%	26 8.1%	69 21.6%	87 27.2%	53 16.6%	153 47.8%	176 55.0%
ある	73 100.0%	56 76.7%	7 9.6%	18 24.7%	24 32.9%	17 23.3%	33 45.2%	47 64.4%
ない	204 100.0%	114 55.9%	14 6.9%	42 20.6%	59 28.9%	30 14.7%	100 49.0%	109 53.4%
覚えていない	22 100.0%	16 72.7%	4 18.2%	6 27.3%	3 13.6%	5 22.7%	9 40.9%	11 50.0%

P値 0.7573

表3-7-5は、地域での行事や事業への参加度の違いから、あいりん地域の具体的イメージと今後の施策についての意見を聞いたものである。第5節でみたように、行事や事業への参加度合いの違いによって「西成」事象の認知にはきわめて大きな違いがあった。しかし、あいりん地域のイメージや今後の施策への意見になると、今までの参加経験に関係なく意見が示されている。

表3-7-5 行事や事業への参加度からみたあいりん地域の具体的イメージと今後の施策 (複数回答)

	あいりん地域のイメージ				必要な施策			合計
	汚い	活気がある	庶民的	異質な人々の街	他所に移転してほしい	日雇労働者の街として再生してほしい	野宿生活者の人権と生活を守る政策の実施	
人権学習 よく参加する	13 48.1%	2 7.4%	7 25.9%	5 18.5%	5 18.5%	16 59.3%	18 66.7%	27 100.0%
人権学習 たまに参加する	27 56.3%	4 8.3%	10 20.8%	14 29.2%	3 6.3%	31 64.6%	32 66.7%	48 100.0%
人権学習 参加したことがない	129 66.2%	16 8.2%	41 21.0%	59 30.3%	40 20.5%	86 44.1%	106 54.4%	195 100.0%
合計	190 59.4%	26 8.1%	69 21.6%	87 27.2%	53 16.6%	153 47.8%	176 55.0%	320 100.0%
町内校区の行事 よく参加する	32 48.5%	6 9.1%	19 28.8%	17 25.8%	9 13.6%	35 53.0%	40 60.6%	66 100.0%
福祉ボランティア活動 よく参加する	20 52.6%	4 10.5%	10 26.3%	8 21.1%	4 10.5%	21 55.3%	25 65.8%	38 100.0%

人権学習：P値 0.4035

町内校区：P値 0.7452

福祉ボランティア：P値 0.9012

表3-7-6は、あいりん地域の具体的イメージと今後の政策の複数回答の組み合わせであるが、これをみると、「汚い」というイメージは一概に高いが、それを理由に「異質である」とか「どこかに移転してほしい」と突き放してしまふよりは、「野宿生活者の人権や生活を守ってほしい」と「日雇労働者の街としての再生」などのという意見が最も多くなっている。

表3-7-6 あいりん地域の具体的イメージと今後の施策についての意見の組み合わせ (複数回答)

		あいりん地域のイメージ				必要な施策		
		汚い	活気がある	庶民的	異質な人々の街	他所に移転してほしい	日雇労働者の街として再生してほしい	野宿生活者の人権と生活を守る政策の実施
あいりん地域のイメージ	汚い	190						
	活気ある	17	26					
	庶民的	40	17	69				
	異質な人々	66	7	8	87			
必要な施策	移転を希望	47	1	4	28	53		
	日雇労働者の街	85	18	47	36	9	153	
	野宿生活者政策	112	19	48	50	23	102	176

以上のことから、あいりん地域の具体的イメージや今後の施策についての意見をまとめてみよう。被差別体験が、あいりん地域のイメージや今後の施策への志向に影響を与えているわけではない。他方、「西成」差別解消の取り組みへの参加意志の低い人はあいりん地域に対して醒めた態度を強く持っているのが、非常に特徴的であった。また、若い世代も比較的冷淡な見方をしているようである。地区内の事業や行事の参加度もあいりん地域の今後の必要な施策に対しては、あまり違いを与えていない。全体として、「異質な人々の街」であり「移転すべき」であるといういわゆる突き放した強硬意見は少なく、「野宿生活者への人権や生活を守る政策」を進めながら、あいりん地域を「日雇労働者の街として再生」することをあわせて取り組むという意見が優勢であった。

第8節 まとめ

西成区民の「西成」差別に対する認識や意見を多面的に分析してきた。これらを最後に、再度整理しておこう。

第一に、一言に西成区民と言っても、その居住地区ごとに地域住民の属性は大きく異なることがわかった。

第二に、西成区民が見たものであれば大阪市民一般が見たものであれ、「西成」に対する直感的ならびに具体的イメージは、大阪市民一般が自区に対して見たそれらに比べ、際だった特徴を持つことが、数値の上でも明瞭に確認された。同時に、これらのイメージは、西成区内地区間では、大きな差をもって認識されていることがわかった。また、「じゃりん子チエ」や「ふたりっ子」のように、メディアが西成区に大阪の下町としての格好の場所を求めたことにより、ひとつの「庶民的な町」というイメージが色濃く投影され、多くの認知を得た。しかし、他方で、「高齢者」「野宿生活者」「日雇労働者」が多い、「釜ヶ崎暴動」というイメージが、強く認知される構造となっている。「同和地区住民」への認知は相対的に低いのに対し、あいりん地域の問題が、「西成」の認知にきわめて大きな位置を占めていることも確認された。

第三に、西成区民の被差別体験であるが、「差別を直接受けた」という回答が22.8%と、異常に高かった。また、「西成」差別の見聞きした経験では、58.1%と一挙に数値は上がる。大阪市民一般ではこの値は46.9%であったが、いずれにしても西成区民、大阪市民を問わず、「西成」に関する差別の見聞きはきわめて高率であった。

これと関連して第四に、旅先での区名を言うことへの抵抗感が強い。これは、差別を体験することを通じて、西成区民がかなり感じており、それがいろいろな意味でマイナス評価につながっているようである。とにかく大阪市民一般の平均の7倍もの「抵抗感」を有するという凄まじい状況がある。

第五に、西成区内での事業や行事への参加との関連である。人権学習への参加者が「西成」差別解消へのさまざまな取り組みに対する積極的姿勢や、「西成」事象の認知度は高くなっている。その次に、福祉ボランティアへの参加者がこうした意志や事象認知の高さを示している。

第六に、「西成」差別解消の施策について聞いた。ここでは、「マスコミによって西成区のよい面を積極的に宣伝すること」、「弱者に優しい施策を」という上位回答のあとに、「まちづくり」と「日雇労働者地区施策」が続いた。

最後に、あいりん地域との関連について聞いた。その結果、全体的に「異質な人々の街」であり「移転すべき」

であるといういわゆる突き放した強硬意見は少なく、「野宿生活者への人権や生活を守る政策」を進めながら、あいりん地域を「日雇労働者の街として再生」することをあわせて取り組むという意見が優勢であった。

ただし、ここでは詳しくは繰り返さないが、西成区内の地区ごとの意見・認識の相違にも注目しておきたい。

第4章 「西成」をめぐる差別の構造（1）

—大阪市民一般の場合—

第1節 大阪市民一般が持っている「西成」イメージと「西成」差別

この節では自由記入欄の回答に示された大阪市民一般がもつ「西成」イメージと「西成」差別との関連を集計結果にもとづいて分析する。自由回答は、①「西成」差別を持つきっかけについて、②見聞きした「西成」差別の内容について、③「西成」差別の解決についての三種類である。分析に入る前にこれら自由回答の回答者たちが「西成」という言葉にどのような直感的イメージを抱いているかを簡単に示しておこう。次の表4-1-1は、①②③の自由回答のいずれかに答えた回答者たちの設問2-3（1）『「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはどれですか。』に対する回答結果である。

表4-1-1 「西成」という言葉の直感的イメージ（大阪市民一般・自由回答記入者）

プラス	マイナス	どちらとも	わからない	計
12	1608	460	368	2448
0.5%	65.7%	18.8%	15.0%	100.0%

この結果から、過半数を越える回答者が「西成」という言葉に対して直感的にマイナスイメージをもっていること、そしてプラスイメージをもっている者がほとんどいないことがわかる。また「どちらとも言えない」「わからない」を合わせると33.8%になるが、このことから「西成」の直感的イメージにはある程度の曖昧さを伴っていることにも留意しておかなければならない。これらの結果は、以下に示される大阪市民一般の持つ「西成」への直感的イメージの全体的な傾向を端的に示しているだろう。

（1）差別意識のきっかけとして市民がもっている「西成」の直感的イメージ

ここで扱うのは、「西成」の言葉の直感的イメージをたずねた問2-3（1）で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を回答した人が、設問2-3（4）「そのように感じられるようになったきっかけは何でしょうか。自由に記入してください。よくわからない場合は、「2. わからない」に○をつけてください。」に対して答えた回答である。また、マイナスイメージを持った回答者を対象に分析を進める。

分析のためにこれらの回答を、①いつ、直感的なマイナスイメージをもつようになったのか、②きっかけとなった内容がどのような状況・経路で受容されたのか、③その内容において対象がどのような様態でどのように感じられたのか、に注目して分類表を作成した。

まず、①きっかけの時期について言及しよう。図4-1-1にあるように、きっかけの時期を「～1950年」「1951～60年」「1961～70年」「1971～80年」「1981～90年」の5階層を設け、そしてそれぞれについて回答者の年齢構成を示した。各時期の回答数は順に19件、36件、99件、44件、52件、37件という結果になった。この他に「おぼえていない」という回答が236件、回答されているものの時期を特定できなかったものが19件あり、総計542件であった。

とりわけ注目されるのは、1961～70年の回答数99件と極端に多いことである。この結果は、この時期がちょうど釜ヶ崎での暴動が幾度か起こり、マスコミでも大々的に報道された時期に当たることによると考えられる。また、この時期にマイナスイメージを持ったのは45～64歳の回答者が最も多く（71件）、その当時彼らは20歳±5歳ぐらいの年齢だったと思われる。当時の世相を示しているようで興味深い。

続いて状況・経路について言及しよう。表4-1-2はそれを示している。回答者が直接的に体験したのか、間接的なものかによって、またその対象は何なのかによって分類した。前者はさらに分類され、直接的なものには「被害の当事者」「通過などの経験」「車窓からの眺め」「暴動」「その他」の項目を設けた。こ

れらは体験としての強度あるいは対象との距離によって分類された。なお、「暴動」は特別な経験として別に設けた。間接的なものには「伝聞」「大人」「マスコミ」「学習」「その他」の項目が設けられた。これらは直感的イメージを持つに至った経路によって分類した。また、対象は「釜ヶ崎」「飛田」「同和地区」「西成」あるいは対象なし（以下「西成」と略記）に分類した。最後の項目を「その他」とはせずこのようにしたのは、質問文からもわかるように、この質問項目では「西成」が対象となっていることが前提となっているがゆえに、対象を明示していないものの「西成」が対象となっていると思われる回答が相当数あったからである。

図 4-1-1 直感的イメージを持ったきっかけ、①「いつ」類型

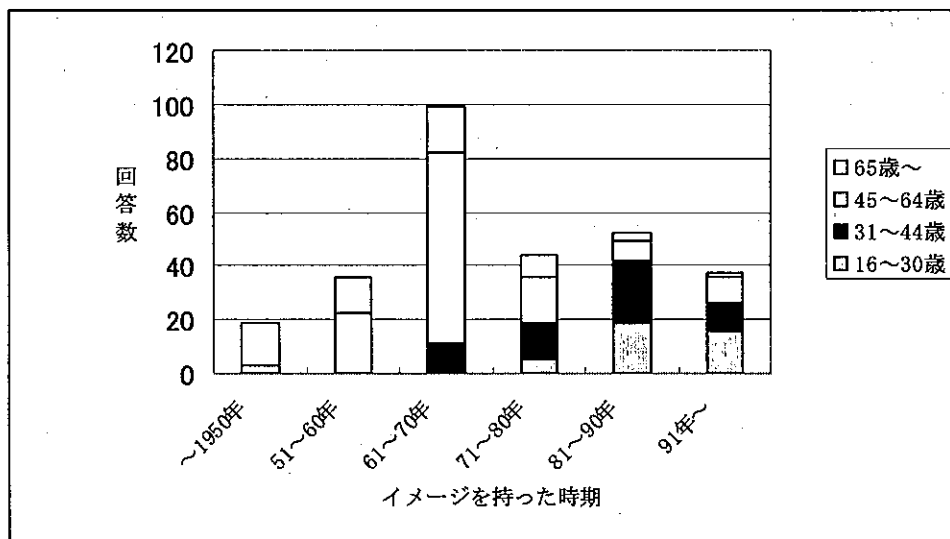


表 4-1-2 直感的イメージを持ったきっかけ、②「状況・経路」類型

		対象あり			「西成」あるいは「対象なし」	計
		釜ヶ崎	飛田	同和地区		
直接	通過などの経験	43	2	1	38	84
	被害の当事者	8	0	1	7	16
	車窓からの眺め	13	0	0	3	16
	暴動	9	0	0	1	10
	その他	10	0	0	2	12
間接	マスコミ	35	0	0	71	106
	伝聞	10	0	1	55	66
	大人	6	0	0	5	11
	学習	0	0	0	1	1
	その他	97	1	1	96	195
計		231	3	4	279	517

市民におけるきっかけの経路についての回答数を対象ごとにみると、それぞれ「西成」が 279 件、「釜ヶ崎」が 231 件、「飛田」が 3 件、「同和地区」が 4 件という結果になった。全体の半数以上の回答が「西成」についてのマイナスイメージをもつきっかけとなった対象を具体的には示していない。ここから「西成」の直感的イメージをもつきっかけは、必ずしも特定の場面として認識されていないことが推測される。他方、具体的な対象をあげているものとしては、ほとんどが「釜ヶ崎」を指示しており、全体の回答数の約半分を占めている。「西成」のマイナスイメージの明確な部分は「釜ヶ崎」が主要要素となっていると言えそうである。

次にどのような経路あるいは状況でそうした直感的イメージを持つに至ったかについて見てみると、直

接的に対象に接触した場合は「通過などの経験」が84、「なんらかの被害の当事者」「車窓からの眺め」がそれぞれ16件、「暴動」が10件、「その他」が12件である。

「通過などの経験」とは、視覚だけではなくその他の知覚(嗅覚や聴覚)をも動員して対象に接している経験を意味する。しかし、対象との対面的な相互作用はこの範疇には含まれていない。したがって、この範疇に該当する回答は、対象との直接的接近の経験に基づいている一方で、その経験は回答者側からの一方的なものであることに留意する必要がある。同じように「車窓からの眺め」とは視覚のみで対象を認知する経験を示しており、「通過などの経験」以上に回答者からの一方的な経験の傾向がうかがえる。直接経験においてはこの傾向が大半を占めている。

これらに対して「被害の当事者」は対象から被害を被った、あるいは対象との何らかのやりとりを行った経験を示している。この経験の内容については言及しないが、いずれもこれを機にマイナスイメージを持ったことになる。

間接的に対象に接触した場合は、「マスコミ」106件、「伝聞」66件、「大人」11件、「学習」1件、「その他」195件である。「マスコミ」と周囲からの伝聞が主な経路であることがわかる。ただし、対象が「釜ヶ崎」である場合はマスコミからの経路がやや多い(「マスコミ」35件、周囲からの伝聞(「伝聞」「大人」)16件)。

次に、対象の様態と回答者の感じ方についてみていこう(表4-1-3)。

表4-1-3 直感的イメージを持ったきっかけ、③「内容」類型

対 象	様 態	どう感じた、思った							計
		こわい	イメージ を持った	不安・ 不気味	危険・ 治安悪い	注意され た	子供	その他	
人(釜ヶ崎)	多い	8	7	2	0	0	2	33	52
	酔っ払い	3	2	1	0	0	0	10	16
	ごろ寝	2	2	2	0	0	0	5	11
	服装	1	1	2	0	0	0	4	8
	被害	3	1	0	0	0	0	3	7
	視線・怒鳴り・働きかけ	1	0	2	0	0	0	3	6
	臭い・汚い	1	0	0	0	0	0	2	3
	出来事・事件	0	0	0	0	0	0	1	1
	空白、その他	1	1	0	1	0	0	33	36
人(暴力団など)	多い	0	0	0	0	0	0	4	4
	被害	0	1	0	0	0	0	1	2
	視線・怒鳴り・働きかけ	0	0	0	0	0	0	2	2
	空白、その他	0	0	0	2	0	0	8	10
環境	臭い・汚い	2	2	1	0	0	0	11	16
	ガラ悪い	0	0	0	0	0	0	2	2
	空白、その他	3	4	2	1	0	2	25	37
暴動		6	4	0	0	1	0	68	79
事件・出来事		1	1	0	0	0	0	14	16
雰囲気		2	2	4	0	0	0	7	15
活動		0	0	0	0	0	0	2	2
「西成」あるいは対象なし		11	5	1	3	4	0	150	174
	計	45	33	17	7	5	4	388	499

対象は「人(釜ヶ崎)」「人(暴力団など)」「環境」「雰囲気」「暴動」「事件・出来事」「活動」「『西成』あるいは対象なし」に分類し、その様態については「人(釜ヶ崎)」の下に「多い」「酔っ払い」「ごろ寝」「服装」「被害」「視線・怒鳴り・働きかけ」「臭い・汚い」「出来事・事件」「空白、その他」を設けた。「人(暴力団

など)」の下には「多い」「被害」「視線・怒鳴り・働きかけ」「空白、その他」を、「環境」には「臭い・汚い」「ガラが悪い」「空白、その他」を設けた。回答者がどのように感じた、あるいは思ったかについては「こわい」「イメージを持った」「不安・不気味」「危険・治安悪い」「注意された」「子供」「その他」を設けた。

表4-1-3で、全体的な傾向を見ると、まず「対象の様態」については「西成」174件、「暴動」79件、「人(釜ヶ崎)/多い」52件、「人(釜ヶ崎)/空白、その他」36件、「環境/空白、その他」37件という結果になった。「暴動」が直感的イメージをもつきっかけの大きな要因となっていることが指摘できる。かつて新聞やニュースで大々的に取り上げられたこともあって、「暴動」は人々の「西成」イメージの形成に大きな影響を与えていることであろう。しかし、総体的に対象がどのようなものであるのかは、きっかけにおいてはあまり重要でないようである。

「どう感じた・思った」については「その他」388件、「こわい」45件、「イメージを持った」(明確に記述したもの)33件、「不安・不気味」17件が多い。

まず指摘できるのは、「どう感じた・思った」の項目「その他」に回答数が388件もあるということである。この場合の「その他」には、対象のありようを記述するのみで回答者の感じ方が述べられていないものが含まれている。しかし、設問の仕方を考慮すると、これらの回答の後ろに「～をきっかけに西成についての何らかのイメージを持つことになった」という解釈を付すことができるかもしれない。では、どのような対象の様態が回答者にこのようなきっかけを与えることになったのだろうか。「西成」150件をはじめ、「暴動」68件、「人(釜ヶ崎)/空白、その他」33件、「人(釜ヶ崎)/多い」33件、「環境/空白、その他」25件がその対象であるが、様態について詳しく述べているものはほとんどないことがわかる。これらの回答者はきっかけになった対象を挙げることができても、その様態を具体的に示すことはない。ただし、「暴動」については言葉自体が対象の特定の様態を示していると考えられるので、この限りではないであろう。

次に、「どう感じた・思った」ことを具体的に示した回答に目をやると、「西成」24件、「人(釜ヶ崎)/多い」19件、「環境/空白、その他」12件、「暴動」11件、「雰囲気」8件に対するものが多い。順の入れ替わりはあるものの、挙がっている項目は、感じ方を明確に示していない回答とほぼ同じである。

さらに、「何を見てどう感じたか」(すなわち「対象」「様態」「どう感じた・思った」の組み合わせ)を見てみると、「人(釜ヶ崎)/多い/こわい」8件、「人(釜ヶ崎)/多い/イメージを持った」7件、「西成/こわい」11件、「暴動/こわい」6件とあるように、「多い」という様態と「こわい」という回答者の感じ方の結びつきが強いようである。自分とは異なる身なりや生活をしている人々が集合的に存在していることに対して、怖れの感情やマイナスイメージを持っていることが、ここからうかがえる。ただし、「西成/こわい」11件については、自らが持っている漠然としたイメージに対して怖れを抱いていると理解した方がよいであろう。

以上の考察を、ここで要約してみよう。第一に、圧倒的多数が「西成」に対してマイナスイメージを持っていた。これを前提として、それを持つに至ったきっかけを得た時期の分析では、1961～70年の間に「西成」についてのイメージを持ったこと、そしてその多くは当時20歳前後であったことがわかった。

第二に、きっかけの状況・経路の分析によると、市民は「釜ヶ崎」という対象を軸に、しかし漠然とした曖昧な領域を多分に残しながら、「西成」のマイナスイメージをもったきっかけの場면을認識していることがわかった。

第三に、そのようなイメージは、「通過」や「車窓からの眺め」のような回答者側からの一方通行的な直接経験や、マスコミや周囲からの伝聞のような間接経験を通じて得られていることがわかった。

第四に、きっかけの内容の分析において、より詳細に対象の様態と回答者の感じ方の結びつきを見てみると、市民は、自分とは異なる身なりや生活をしている人々が集合的に存在していることに対して、怖れの感情やマイナスのイメージを持っていることがわかった。

(2)「西成」差別・偏見を見聞きした時の差別的言説の内容

次に扱うのは、「西成」に対する差別や偏見を見聞きしたことがあるかどうかをたずねる設問2-11で、「1. ある」と回答した人への質問、設問2-13「それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください」に対する回答である。分析するためにこれらの回答を、対象と内容に注目して表4-1-4のような類型を作成した。

表 4-1-4 「西成」差別・偏見を見聞きした時の差別的言説の内容

		差別的言説の内容										計
		怖い	危険・治安	ガラが悪い	汚い・臭い	複雑なところ	結婚差別	就職差別	逆差別	環境が悪い	その他	
対象あり	釜ヶ崎	24	6	1	1	2	0	0	0	0	123	157
	同和地区	1	0	2	0	1	3	0	10	0	67	84
	暴動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	32	33
	在日韓国・朝鮮人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	外国人一般	0	3	0	1	1	2	0	0	0	0	7
	飛田	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
「西成」あるいは対象なし		66	40	26	14	11	11	13	0	0	101	286
計		93	49	29	16	15	20	13	10	0	330	575

まず、「対象」について見てみると、先の「直感的イメージを持ったきっかけ」の類型においては「同和地区」を対象にしたものがほとんどなかったのに対し、この「西成」差別・偏見の見聞きした時の差別的言説の類型においては「西成」286件、「釜ヶ崎」157件に次いで、「同和地区」84件が現われてくる点が注目される。ここにおいて「西成」差別における二つの主要要素、すなわち釜ヶ崎と同和地区・同和問題が確認される。

しかし、これらは相互に関連しているというよりも、関連しあうことなく別々に並存しているようである。このことは差別的情報の経路の違いにも反映している。本調査では明らかにされなかったが、同和問題に関する差別的情報は一般にマスコミを介してではなく、両親や近隣の大人、また友人・知人などを介して流通する。大阪府が2001年3月に刊行した『同和問題の解決に向けた実態調査報告書(府民意識調査)』においても、差別的／反差別的情報は家族・親類、近所の人、友人、職場の人から入手しているという結果が示されている。また、後述するように、市民が提起する対策においても釜ヶ崎の問題の方が重要視され何らかの対策を講じるべきだと考えられているのに対し、同和問題のほうは逆差別の観点から述べられ、対策は必要ないというニュアンスを述べることが多い。これらの局面における「西成」「釜ヶ崎」と「同和地区」との相違は、双方が互いに関連していないことを示唆しているのではないだろうか。

また、これら同和地区に対する記述が西成区内の同和地区のことを指しているかどうかは疑問の余地がある。居住地周辺の同和地区についての見聞を知らず知らずのうちに「西成」のそれとして記述しているかもしれないからである。「同和問題は西成に限ったことではないが…」という記述がしばしば見られたことから、このことは容易に理解できる。このように、「同和地区」の「西成」差別への接合は、少々複雑でブレがある仕方なされている。

差別的言説の内容については、「怖い」93件、「危険・治安悪い」49件、「ガラ悪い」29件、「結婚差別」20件、「汚い・臭い」16件、「複雑なところ」15件、「就職差別」13件、「逆差別」10件という結果になっている。分析の際には、これらの項目を次のように区分する必要がある。一つは潜在的な差別の原因とも呼べるもので、「西成」のイメージを形成している因子群である。「怖い」、「危険・治安悪い」、「ガラ悪い」、「汚い・臭い」、「複雑なところ」がこれに相当する。これらは良い印象を与えるものではないが、必ずしも差別に結びつくのではなく、稀に地域の個性として評価される場合もある。しかし、確かに差別的な考えと結びつきやすく、具体的な差別事象においてはこれらのイメージ因子が参照されよう。

もう一つは顕在的な差別事象であり、「結婚差別」、「就職差別」、「逆差別」が相当する。この場ではイメージ因子が当事者によって歪曲されて動員され、差別の根拠となる。この差別事象こそ、われわれの仮説「西成差別は存在する」の証拠となるものである。とりわけ結婚差別・就職差別が「西成」の項目において、それぞれ15件、13件という件数を示していることは注目に値する。一般に、就職・結婚差別は同和地区住民であることや在日外国人であることを理由に生じることが多い。これらの件数のうち、いくつかは同和地区住民や外国人住民への差別例に相当するが、このあいまいな項目に分類された回答の中には明らかに「西成」差別を背景にしたものが4件含まれていた。具体的に示しておこう。

- ・仕事に就きたくても西成に住んでいると言うだけで断られる。
- ・就職の時、住居が西成と言うだけで書類選考で落とされる。
- ・西成地区に居るとまともな職業に就けないと言われたことがあった。
- ・友人の娘が結婚するときに、相手の男性の住所が西成区というだけで親戚から嫌がられた。

また、結婚・就職差別が全く「釜ヶ崎」を対象にしていないという結果も興味深い。というのは、これらの差別は、被差別者と差別者が接しあう場においてはじめて発生するものだからである。したがって、この結果は、市民一般と「釜ヶ崎」との間には接しあう場がそもそも存在していないことを示唆している。

以上の考察を要約しよう。「西成」差別・偏見を見聞した時の差別的言説の内容を考察した結果、きっかけにおいては「釜ヶ崎」を中心に漠然とした「西成」イメージしかなかったのが、新たに「同和地区」が加わった。しかし、さまざまな局面を考慮すると、「西成」イメージと「同和地区」の双方は結びついて一つのイメージを構成しているというよりは、むしろ並存しており、また少々込み入った仕方では——市民の居住地周辺の同和地区を想定しながら同和問題に触れ、「西成」の同和地区のこととして語るなど——「西成」差別の実態に関与していることがわかった。

差別的言説の内容について考察する際には、項目をイメージ因子と顕在的な差別事象へ分類することを試みた。イメージ因子群は、きっかけにおけるイメージとほぼ同じ構成をとっている。もう一方の顕在的な差別事象では、一般的には同和地区住民や在日外国人が対象となるが、西成区在住者を対象にした例が数件あった。イメージと実態を結ぶ媒介項として、同和地区住民や在日外国人への差別が存在しているのかもしれない。

（３）自由記入欄の回答に見る「西成」イメージ

ここでは、アンケート用紙の最後に設けられた自由記入欄「最後に、西成に対する差別の解決について、ご意見やご要望がありましたら、下記の欄に自由にお書きください」に対する回答である。「西成に対する差別の解決について」たずねた設問であることに、あらかじめ留意しておきたい。分析するために、これらの回答を、「西成」イメージを端的に示す対象と、その内容に注目した。そして、有効回答数 69 件に対し、対象を 4 つ（「釜ヶ崎」「同和地区」「在日韓国・朝鮮人、外国人一般」「西成」）に区分し、「西成」イメージについて書かれていたものは、表 4-1-5 のように、「釜ヶ崎」30 件、「西成」39 件であった。また、イメージについて書かれていた言説を整理すると、その内容別に 31 に分類できた。

表 4-1-5 自由記入欄における「西成」イメージについての回答数

	対象あり			「西成」 あるいは 対象なし	合計
	釜ヶ崎	同和地区	在日韓国・朝鮮人、外国人一般		
イメージについて	30	0	0	39	69

以下では、「西成」イメージを端的に示す言説の内容を抜粋し、その特徴を検討していこう。

第一に、「釜ヶ崎」が「西成」のイメージになっていることを指摘した代表的言説を紹介しておこう。

- ・古くからの歴史がある所だというのは判るが、やはり釜ヶ崎の暴動やホームレスの人々の印象が西成全体のイメージになっている。
- ・確かに西成に偏見はありました。中学生（15 年前）の頃 2～3 回行っただけですが、とにかく覚えているのはホームレスの人が多かったことです。今は知りませんが、一部の地域だけなのでしょうが、西成区＝ホームレスというイメージになってしまっています。
- ・西成＝釜ヶ崎、地区的に怖い所というイメージです。

これらの例においては、「西成」が釜ヶ崎やそこに住む日雇労働者・野宿生活者と結びついて、「こわい」というイメージを形成している。大半の人々はこのような「西成」イメージを持っているようだ。また、このイメージの確立に、暴動が大きく作用していることも指摘されている。さらに、青テントや日雇労働者のドヤなどといった建造物もこういったイメージを固定化し印象を悪化させるのではないかという指摘も、いくつか見られる。

第二に、自区のイメージとの比較をしているものがあつた。いずれも「西成」があまりよくないイメージを持っていることを前提にしている。その事例をあげておこう。

- ・私も京橋と言うだけで「何か怖い場所」と言われることがあります。「住めば都」でとても庶民的な所なのですが…。きっと西成もそうだと思います。ただ人に聞いたのですが、路上者の酔っ払いが多いと言うことで、イメージが悪いのでしょうか。
- ・私達の住む此花区も他の区の人からは差別的に見られていると思うので、此花区に住んでいると話すと、少し抵抗を感じるときがある。

第三に、「西成」のあまりよくないイメージについて、一部の地区のそれによるものであるという指摘があつた。これらの回答の力点は、第一の場合と重なっているかもしれないが、曖昧である。

- ・他府県の人に「西成の近く」と言うのと「怖い所」のイメージが先行してとらえられている様に思う。実際はそれ程ではなくても、一部の「悪いイメージ」が膨らんでいる。
- ・西成のイメージが悪いのは一部の地区のイメージが全国的に広まっているだけで、玉出・天神の森辺りを町全体に手を加え開発し、イメージを周りから替えていけばいい。
- ・大阪ー西成、東京ー山谷と思われる様に、一握りのホームレスの件で「西成区」全体が良くない様に思われるので、お気の毒です。
- ・ごく一部の地域が「西成」のイメージダウンを起こしていると思うので、その対応が必要と思う。

そして第四に、西成区内の「その他地区」には人情の厚い下町のイメージが与えられている。

- ・他地区からは羨ましい人情が、今も残っている処と察します。
- ・私も京橋と言うだけで「何か怖い場所」と言われることがあります。「住めば都」でとても庶民的な所なのですが…。きっと西成もそうだと思います。
- ・マンガでは「じゃりん子チエ」の見る世界がそこにあるとしたら、今私達の近隣の付き合いが無くなっている頃にあのような庶民的なつながりは羨ましいことです。
- ・勝間なんきんの時から父や母に聞きました。人情のある良いところです。
- ・今宮駅辺り、花園町界限を通りますと何故か暗い感じがしますが、逆の見方では一切の飾り気のない人間関係・人生そのものの姿ではないかと思っています。大阪のそのままの下町であるという事で、特に行政が介入しないのが望ましいと思います。

つまり西成区には、釜ヶ崎のマイナスあるいは「こわい」イメージと、その他の地区の庶民的で人情厚い下町のイメージが存在するが、マスコミや日常における刺激の強い経験などを通して、釜ヶ崎のイメージが先行、肥大し、西成区全体のイメージになってしまっているというのが、市民の持つ「西成」イメージと言える。ここには西成区のイメージアップという解決策を念頭に置いている回答者の存在が、暗示されているのだろう。また「同和地区」は、一切のイメージを喚起していないというのも注目に値する。

（４）小括ー大阪市民一般の「西成」イメージと「西成」差別ー

これまで見てきた「西成」イメージをここで一度総括し、次の大阪市民一般が提案する「西成」差別対策の分析の一助となるよう整理しておこう。

まず、「西成」に対するマイナスイメージを持ったきっかけの状況・経路の分析によると、市民は、「通過」や「車窓からの眺め」のような回答者側からの一方通行的な直接経験や、マスコミや周囲からの伝聞のよう

な間接経験を通じて、「釜ヶ崎」という対象を軸に、しかし漠然とした曖昧な領域を多分に残しながら、「西成」のマイナスイメージを形成し、それをきっかけの場面として認識していることがわかった。この場面をより詳細に見ると、市民は、自分とは異なる身なりや生活をしている人々が集合的に存在していることに対して、怖れの感情やマイナスのイメージを持っていることがわかる。

第二に、「西成」差別を見聞した時の言説の内容を考察した結果、きっかけの分析において明らかになった、「釜ヶ崎」を中心に据えながらも多分に漠然とした「西成」イメージに、「同和地区」が加わっていることがわかった。しかし、さまざまな局面を考慮すると、「西成」イメージと「同和地区」の双方は結びついて一つのイメージを構成しているというよりは、むしろ並存しているように見える。つまり、就職差別や結婚差別のような実態的な「西成」差別の現場においてのみ、「同和地区」は「西成」のマイナスイメージを動員し結びついて、これを差別の一因として作用させているようである。

第三に、「西成」差別の解決についての自由回答に現われた「西成」イメージを分析すると、西成区には、釜ヶ崎のマイナスあるいは「こわい」イメージと、その他の地区の庶民的で人情厚い下町のイメージが存在し、マスコミや日常における刺激の強い経験などを通して前者のイメージが先行、肥大し、西成区全体のイメージになってしまっている、という市民の「西成」イメージが明らかになった。なお、このイメージにも「同和地区」は一切関与していない。市民は、このイメージにもとづいて、解決策の一つとして西成区のイメージアップを提案している。

第四に、以上の三つの事象の関連を検討しておく必要がある。直感的なマイナスイメージを持ったきっかけの分析から引き出された「西成」の具体的イメージ、「西成」差別見聞の内容から明らかになった「西成」差別の複雑かつ微妙な構造、そして解決策の前提として構成されている「西成」イメージ、これら三つの事象は随分様相を異にしている。このギャップは、「西成」差別を構成しているイメージの多局面性を示してして、それ自体興味深いものである。

しかし、「西成」差別という問題を、一端はそれを取り巻くイメージと切り離し区別して、先に見た就職・結婚差別のような差別事象を指すものとして狭義に規定するならば、このようなズレ(市民の提起する解決策の「西成」差別からのズレ)が「西成」差別の実態を隠蔽するように作用するのではないかと危惧される。たとえば、このような「西成」差別の実態を隠蔽してしまうような傾向は、回答者の記述の論理にも見受けられる。それを、表4-1-6のように、とりあえず「差別の一般化」というラベルを付して分類してみた。

表4-1-6 差別の一般化

対象あり			「西成」あるいは 対象なし	計
釜ヶ崎	同和地区	在日韓国・朝鮮人、 外国人一般、沖縄出 身者		
0	3	0	9	12

この「差別の一般化」に分類された回答は、差別それ自体の存在を認めないものと、諸々の差別の存在は認めるが「西成」差別という問題の括り方は認めないものの二つに区別することができる。前者から見ていくことにしよう。

- ・何故今さら同和問題が取りざたされるのか。同和地区は西成に限らず他にも多々あると聞いているが、西成地区の同和住民も考えなければいけないと思う。皆同じ人間であり日本人である、差別そのものがおかしい。
- ・西成区の人達は、余りにも差別されているように言い過ぎるようになります。人間生まれたとき皆ハダカです。これからの教育に期待したいと思います。
- ・「西成に対する差別の解決」と言われても、私は住吉区の住人ですし誰も差別とか同和地区だとかそんな話題は出たこともしたこともありません。(中略)本人が少し神経質になりすぎ表沙汰にして、これでもかこれでもかとアピールすること自体がおかしいと思います。この辺で、人類皆平等であり平和を求めるものに、発想の転換を図られては如何でしょう…。

これらの例に共通しているのは、「もともと人間は平等である」、つまりは差別など存在しないという観念

を前提にしているということである。したがって、「差別されている」という主張は、ありもしない差別をでっちあげているおかしい主張ということになる。

次に後者を見てみることにしよう。

- ①西成に限らず日本全国には部落差別、在日韓国朝鮮人問題等、枚挙に遑がないと言える。日本古来から差別は大和民族の厳然たる事実であり、今後とも無くならないと思う。小生とて少年期には特に意識はしなかったが、子供が大きくなるにつれて無意識のうちに部落のことに關してはくどい程言い聞かせていた。今時、士族がどうのこうの言う時代ではないが、一人住まいになった現在、再婚するとしたらまず身元等差別問題は避けて通ることの出来ない問題と考えます。特に西成についての特記はありませんが、大阪は特に諸問題を多く抱える地区だと思いますが、西成の差別の解決策はことさら意識せず自助努力で市民に溶け込む事が肝要かと存じます。
- ②西成区と言っても地域は広いし差別偏見が問題になるのは西成区の「ごく限られた地域」ではないでしょうか。そう考えれば、どこの地域（西成区に限らず）にでもこの問題はあると思う。故に西成の問題としてだけ考えるのは余り意味がないように思いますが…。
- ③西成の差別ばかりではなく、差別・人権というのはどこの場合でもあると思う。例えば職場差別、パート・職員との差別。西成区、西成とは別に考えなければいけないと言う点です。

これらは西成差別という地域差別問題を一般的な問題に還元することによって（①は同和問題一般に、②は失業・雇用問題に、③は職場差別に）、「西成」差別という問題の括り方に疑問を呈示している。イメージとしては地域差別につながるような印象を持っておきながら、このような疑問が呈示されるのはなぜだろうか。ここであらためて私たちが想定している「西成」差別の定義を明確にしておく必要性を強く感じる。

第2節 大阪市民一般が提案する「西成」差別対策

（1）分類表に見る全体的傾向

この節では、自由記入欄で「西成」差別に対する対策や持論として記述された回答を扱う。表4-2-1では、有効回答数307件を対象に、回答者の対策や持論を「誰が施策を担うべきか」に注目して15項目に整理（小分類）し、さらにこれらを5つにまとめた（中分類）。

対象ごとに必要とされている対策を見ていくことにする。

まず、「釜ヶ崎」については、「行政型」59件のみが突出していることがわかる。このことを逆に捉えたと、市民一般は、「マスコミ型」や「自助努力型」、「市民交流・相互理解型」、「批判型」の施策を提起していないということになる。ここから幾つかの点が指摘できるだろう。第一に、「行政型」を提起する一方で、「批判型」はほとんど回答されていない点から、一般的に市民は「釜ヶ崎」に対して何らかの対策を講じる必要があると感じている。第二に、「自助努力型」と「批判型」がほとんどない点から、「釜ヶ崎」の問題は自業自得であり自分たちの力でなんとかするべきだと考えるよりも、問題の解決のための積極的な外部からの介入が必要だと考えている。第三に、「行政型」が突出している一方で、「市民交流・相互理解型」がほとんど提起されていないという点から、市民自らが「釜ヶ崎」への直接的な働きかけを望んでいない。したがって、市民としては、自らは「釜ヶ崎」との一定の距離を保ったまま問題が解決されることを望んでいるが、そのためには自らに成り代わって行政に施策を行ってほしい、というのが本音ではないだろうか。

「同和地区」については、「批判型」29、「市民交流・相互理解型」14件が際立っている。「批判型」は「同和地区」へのとらえ方の特徴をなしており、手厚く優遇されすぎているという批判的な含意があるので、対策を講じる必要はないと言っているのとはほぼ同義である。しかし、ここでは「批判型」そのものの内実よりも、むしろ他の対象である「釜ヶ崎」や「西成」と著しい対照をなしていることを指摘しておきたい。つまり先述したように、「同和地区」は「西成」差別を構成している一要素ではあるが、その他の諸要素と有機的に結合しているというよりも、それらと並存の関係にあることがここからもうかがえるのである。また、同和地区については、「批判型」に次いで「市民交流・相互理解型」が多いが、これには「啓発活動」が含ま

れているので、これまでの同和教育がある程度評価されていると解釈できるかもしれない。

表 4-2-1 「西成」差別の解決に向けた施策：「誰が施策を担うべきか」の視点から
(自由記入欄における回答から)

中分類	小分類	対象あり			「西成」 あるいは 対象なし	計
		釜ヶ崎	同和地区	在日韓国・ 朝鮮人、外 国人一般		
行政型	1.再開発・区画整理	59	2	3	50	114
	2.区名変更					
	3.雇用・住宅などの施策(行政)					
	4.取締強化／分散・クリアランス					
マスコミ型	イメージアップ・アピール	4	1	0	21	26
自助努力型	自助努力	3	1	0	35	39
	6.特定できず					
	7.区民					
	8.日雇労働者					
市民交流・ 相互理解型	9.啓発活動	5	14	0	50	69
	10.ボランティア					
	11.コミュニケーション					
	12.イベント・まちづくり					
批判型	13.寝た子論／解消論	5	29	3	22	59
	14.自業自得／転嫁論					
	15.逆差別論					
計		76	47	6	178	307

『西成』あるいは対象なし」に対しては「行政型」と「市民交流・相互理解型」がとりわけ顕著だが、いずれの中分類項目にも一定数の回答がある。この傾向は「西成」という言葉によってイメージされている対象が、西成区全体であったり、その中の特定地区・人々であったり、あるいはその他地区・人々であったりという多義性を含んでいることに起因するように思われる。

すなわち、多様な対象がこの項目に含まれているために、一方で、他の対象項目と類似した傾向が見てとれる。「西成」という言葉で「釜ヶ崎」をみている回答者は、「行政型」を指向し、「同和地区」をみている回答者は「批判型」を指向している。しかし、他方で、「マスコミ型」「自助努力型」「市民交流・相互理解型」では、これらの対象とは異なった人々や区民が対象とされ、特徴的な傾向も見出すことができる。この点について、さらに分析を進めよう。

(2) 同質的な存在としての「西成区民」

「マスコミ型」「自助努力型」「市民交流・相互理解型」の三つの中分類項目について考察するために、ここで仮説を立ててみよう。すなわち、その仮説とは「大阪市民一般が交流や相互理解の相手として想定しているのは、より自分たちと同質的な存在である『西成区民』ではないだろうか」というものである。この仮説は全く根拠のないものではなく、さしあたっては次の二つをこの仮説の根拠として提示することができる。まず、対象＝「釜ヶ崎」のところで指摘しておいたとおり、大阪市民一般には釜ヶ崎と一定の距離を保ったまま問題が解決されることを望んでいる傾向があるということである。第二に、「マスコミ型」が示しているように、イメージアップを図られるのはすでにマイナスイメージを付与されている釜ヶ崎ではなく、つまり釜ヶ崎のマイナスイメージをプラスイメージに転換するような施策が提案されるのではなく、むしろ西成区内の他地区が“売り”にすることのできる特徴——人情味があって、庶民的な町——をプラスイメージとしてアピールすることが望まれているということである。

さて、「市民交流・相互理解型」43件——総数50件から「啓発活動」7件を引いた数値——においては、大阪市民一般は、釜ヶ崎や同和地区を除いた西成区民を、自分たちと同質的な存在として想定しているのであらうか。この点を、交流の相手が比較的明示的に記述されている以下の事例で確認しておこう。

- ①西成区の庶民的な所はとても良い事だと思いますが、浮浪者（原文のママ）の方達が集まりやすい町であるとも思われます。浮浪者の方や差別を受けている人を受け入れてくれる地域である、と勘違いしている人が多いと思います。（中略）西成区に友人が住んでいますが、よく行く様になってから「怖い町」というイメージが少なくなりました。
- ②西成に対する差別、考えたことはありません。20年ほど仕事の関係でお付き合いがありましたが、皆様いいお方ばかりで思いやりがあつていい町です。
- ③私は西成に友人が居るので、西成に対する差別を余り感じていない。
- ④西成区に住んでいる知人で悪い人は知らないのですが、西成区に対する差別について余り判らない。
- ⑤時々西成地区で温かいボランティア活動の話の聞いたり、読んだりしたとき、ホッとします。弱い立場の人も努力はして欲しいが、周りの人も共に生きていくつもりで温かい手を差し伸べて欲しいと思います。
- ⑥西成に対して、私は清掃業者ですが、西成支部の役員とも話を交わすが特別変わってもいないし普通の人である。だが、一度か二度観光施設を訪れるだけで、本当の西成は見えていない。ただ、マスコミ・噂等によって私の頭の中にはバーチャルに作られた西成しかない。もっと足を運んで町の中へ入り人とふれあい、そうすることによって理解、差別も無くなると思う。だからもっとPRをし、西成を解放し、みんなで訴えることにより、より理解も深まりマイナスイメージが無くなると思う。

①は、まず西成区を「庶民的な所」「浮浪者の町」として捉えている。ここでは「庶民的な所」に住んでいる友人との交流を介して、「西成」=釜ヶ崎=「怖い町」というイメージには当てはまらない、西成区のもう一つの側面が開示された。それは、自分たちの町となんら変わることはない町として西成区を理解することになるだろう。しかし、もし友人が「浮浪者の町」に住んでいるとすれば、友人との交流を介して「釜ヶ崎」のマイナスイメージがプラスに転換しつつある稀な事例ということになる。

②③④は、いずれも「西成」差別をほとんど意識していない。知人が西成区にいるにもかかわらず、「西成」差別を見聞きしていないこれらの事例における知人とは、「釜ヶ崎」以外の西成区民を意味しているのではないだろうか。「釜ヶ崎」附近に在住の友人を持っていて、「西成」についての差別を意識しないで済ませることができののだろうか。

この点について考察を深めるために第1章第1節（3）表1-1-19aでの分析を参照する。その分析によると、全体的な傾向として「天下茶屋」「新今宮」「岸里」「玉出」「花園」が訪問先の上位5位を占めており、「買物」「親戚・友人宅訪問」「仕事」「娯楽」が訪問理由の上位に上がってきている（資料編「大阪市民アンケートⅠ・Ⅱの集計結果」問2-8への回答、217ページを参照のこと）。さらに訪問先と訪問理由の関連を見ていくと、「天下茶屋」などは買物や知人宅訪問を理由としているものが多く、「新今宮」は仕事あるいは交通機関の乗り換えという理由が多かった。さらに「あいりん地域（釜ヶ崎・三角公園）」「飛田」の訪問は少数であるが、その訪問理由も確認しておくと、前者は散策を挙げることが多く、その場合「新世界」とセットになっている傾向が見られる。また後者は「娯楽」を主な理由にしている。

したがって②③④の事例が同質的な存在としての「西成区民」を交流相手に想定している可能性が高い。さらに、すでに確認しておいたように、このような仮説の根拠として比較的異質な生活様式を身につけている「釜ヶ崎」の住民（日雇労働者や野宿生活者）に対しては「市民交流・相互理解型」の提案が少なかったことを考慮すると、この解釈はこれらの事例において成り立つように思われる。

⑤⑥は、比較的異質な存在としての住民、すなわち同和地区住民や野宿生活者を対象としている。⑤の文章「西成地区で温かいボランティア活動の話の聞いたり読んだり」から、野宿生活者を対象とした交流が求められていることがわかる。また、⑥「西成に対して、私は清掃業者ですが西成支部の役員とも話を交わすが特別変わってもいないし普通の人である。」から、この回答者の念頭には同和地区住民があることがうかがわれる。このように同和地区住民や野宿生活者らとの交流を望む回答者も少ないながら存在することに、留意しておかなければならないだろう。

大阪市民一般が、自分たちと同質的な存在として西成区民を想定している自由回答の第2のグループに、

西成区と比較した自区のイメージを記述した回答がある。先述したように、これらの記述は西成区のマイナスイメージを前提にしていることが多いが、双方の異質性を強調するよりも、むしろ類似性あるいは同質性を指摘している(この分析は「第1章第3節(4)回答者の居住区への思い」に関連している)。

⑦私は、西成に対して我が此花と良く似た区だと思っており親しみを覚えます。

⑧東淀川区でも、同和地区が有るだの、大阪市の北海道だの、地下鉄が一本も走っていないなど言われている。

⑨私の住んでいる西淀川も公害の町と言われていましたが、今では空気も綺麗になり町工場も減り、活気ある町ではありませんが住み良い町です。

⑩大阪に長らく住みながら西成区のこと余りよく判らない。大阪に来たとき、市内でも生活程度の低い所というイメージを植え付けられた。住民の詳しい生活ぶりは判らなかったけれど、自分が住んだ此花区とその点似ているのかなと思っていたが、此花区は長く住むほどに少々生活文化は低くても温かい人が多く、良い意味で庶民的で区内の歴史が判れば離れられなくなった。(中略)西成の人達も自分の区の素晴らしいところを見つけてPRし、行政も集客施設などで他の区民を集める努力も必要ではないか。

⑦は素直に西成区への親近感を表明したものであり、⑧は西成区と同様に区の低位性を揶揄されている事実をもって同質性が示されている。⑨⑩では、かつて区が持っていたマイナスイメージ(「公害の町」「生活程度の低い所」)も、長年住みつづけ、今となっては「住み良い」「温かい人が多く良い意味で庶民的」なまちなったとし、イメージをめぐる自区の歴史的変遷を述べている。特に⑩は自区の変遷を例に挙げて西成区民の自助努力を鼓舞している。区民による自助努力のこの鼓舞は、一見すると西成区民への励ましの言葉として理解できるかもしれない。しかし、この記述においては、かつてのマイナスイメージを払拭した自区と現在「西成」差別という問題を抱えている西成区との間にあるはずのギャップが、認識の上で安易に飛び越えられてしまっていないだろうか。

以下では、この点に留意しつつ「自助努力型」を考察することにしよう。

大阪市民一般と西成区民の同質性の仮説を前提とするならば、「自助努力型」も同じように理解することができる。「西成」を対象とした「自助努力型」には「区民が誇りを持つことが大切」と説く記述が多く(8件)、それらの記述は、自分たちが努力しているように西成区民も自らの力で地域を運営し改善していくことを求め、彼らを応援する体裁をとっている。たとえば次のようなものがある。

⑪差別なんて気にしないこと。マンガや他府県で中傷する人は実際見たことが無いと思います。そんな奴ら放った方が良い。区民で若い者がもっと活気を出すのが先決。人生投げとる若い奴らをまっとうな道へ導ける努力が必要。下町の底力見せてください、差別なんて、くそくらえて感じて。

⑫西成区の人々が自信を持って偏見を無くする姿勢が大事。私達は差別する意識はありません。

⑬区民の人々がもっと自覚し良い街にする様努力すべきと思う、人に頼らず自分で。また、一つのゴミがあれば集まってくるゴミを溜めないよう、美しい街づくりから区民の皆が努力すべきと思う。自分の街は最高と誇りを持ちたい。

⑭改めて西成と取り上げているが、その様な地域は沢山あります。気にせず自分は住民一人ずつが誇りを持ち綺麗にしていけば、住み良い町になると思います。努力していきましょう。住民一人が家の周り・道路のゴミを取り綺麗に掃除する、それが広がればゴミのない庶民的な気質の活気のある街になると思います。一日寝ている浮浪者(原文のママ)にも仕事を与え、希望を持ち、やりがいのある街にしよう、道路で寝ていたら助け合いの精神も持とう。寝ていて心配だから消防署に言いに行ったら「あのおっさん、いつも寝てるねん、又どこか行く」との応答。街、子供に対する影響も考えていただきかったです。

これらの記述を読むと一様に区民の自助努力を提案していることがわかるが、そこに現われているニュアンスは多様である。⑪の記述は、かなりストレートに区民の自助努力を応援している。また、⑫の記述も自助努力の大切さを指摘しているだけのように見えるが、自分にはあずかり知らぬこととして「西成差別」から距離をとっているニュアンスがある。⑬⑭では、区民の自助努力の具体的な内容として近隣の清掃を重視している。清掃は、啓発やまちづくりと並んで区民自身による自助努力の要素の一つである。

次の事例も清掃を重視するものであるが、日雇労働者の問題と清掃の関係に注目したい。

⑮日雇労働者は何も西成地区にだけ存在しているわけではありませんが、余りにも西成に多く居るように思われています（マスコミの影響も強いと思います）。きちっとした住居、責任のある立場を理解して貰ってその方達が生活をするようになれば必ず良くなると思います。どこの地区でも一緒ですが俗にガラの悪い所というのはポイ捨てタバコが多い。小便くさい臭いもあちらこちらです（これは立小便をする人が多いからだと思います）。駅周辺の自転車等が所狭しと乱雑に駐輪してある。以上のことから考えても町の方々の PR、行政指導（何度も何度も）等も重要だと思います。

この⑮の事例では冒頭で日雇労働者の問題が提起されているのだが、議論が進んでいくうちに環境の汚さに焦点を絞り、「町の方々の PR」「行政指導」の重要性を説いている。ここで言われている「町の方々の PR」や「行政指導（何度も何度も）」には、日雇労働者の問題を環境浄化の問題にすりかえる論理が含まれているのではないだろうか。また、この記述には、同質的な西成区民と異質な野宿生活者への微妙な態度の違いが垣間見える。次の事例では、本節で問題としている大阪市民の心の動き方が、最も極端な形であらわれているように思われる。

⑯特に西成についての特記はありませんが、大阪は特に諸問題を多く抱える地区だと思いますが、西成の差別の解決策はことさら意識せず、自助努力で市民に溶け込む事が肝要かと存じます。

⑰偏見や差別を無くすために努力をし、民間に溶け込む。マスコミは西成区の良い面をアピールする。人権啓発運動によって少しなりとも実を結んできているように思う。人権は奥深くビジョンを追いかけても行き詰まることがない。

ここでは、「自助努力」という言葉が最も当然のこととしてとらえられ、「市民や民間に溶け込む」ことの方便になってしまっている。これは、西成区に住む多様な人々に対する“認識上の暴力”と呼びうるものではないだろうか。というのは、先に見た自区と西成区の間にあるギャップの安易な飛躍や、⑯⑰での自助努力による「市民や民間に溶け込む」ことの主張は、一方では日雇労働者や野宿生活者の問題を棚上げし、他方では西成区民にこちら側——大阪市民一般や個々の区での努力——への同化を促す傾きを持っているからである。

いずれにしろ、これらの記述においては、同質的な存在と想定されている区民との交流・相互理解のみが提案されているといつてよいだろう。

第3節 まとめ

第1節では、大阪市民一般が「西成」についてのマイナスイメージを持つきっかけになった場面や、市民が見聞きしたことのある西成差別の内容、そして「西成」差別の解決についての自由回答に現われた「西成」イメージを分析した。その結果、見聞きした差別内容において、大阪市民一般がもつ「西成」のマイナスイメージと「西成」差別の実態が、並存しながらも複雑に結びついていることが明らかになった。この結びつきにおいてのみ、同和地区住民や在日韓国・朝鮮人など外国人への差別が動員される。

しかし、解決策に見出される「西成」の理解の仕方は、直感的なマイナスイメージと差別実態のこのような複雑な構造をあまり反映しておらず、次のような構造をもっていることが確認された。すなわち、西成区には、釜ヶ崎のマイナスあるいは「こわい」イメージとその他の地区の庶民的で人情厚い下町のイメージの2つが存在し、マスコミや日常における刺激の強い経験などを通して前者のイメージが先行、肥大化し、西成区全体のイメージになってしまっている、という構造である（なお、このイメージにも同和地区は一切関与していない）。したがってまた、ここから導き出される解決策は、「西成」のイメージアップということになる。

直感的イメージ、「西成」差別の具体事例、そして解決策に見られる「西成」の理解の仕方、この三者間に

おけるギャップは、「西成」差別を構成しているイメージの多局面性を示していて、それ自体興味深いものである。

同時に、大阪市民の「西成」差別の解決策——イメージアップ策——には、就職・結婚差別のような「西成」差別の実態を隠蔽する傾向がある。他方で「差別の一般化」とも呼びうるような回答が見られ、ここでは、就職・結婚差別のような「西成」差別の実態を隠蔽する傾向がある。

第2節では、第1節の分析を踏まえて、誰が「西成」差別の解決策を担うべきかについて、大阪市民一般の考えを分析した。自由記入欄の記述を検討した結果、第一に異質な存在と想定される人々（日雇労働者や野宿生活者）に対しては行政が取組むべきであり、第二に大阪市民自らは同質的な存在と想定される人々（「西成区民」）と交流し相互理解を深めていくべきだと考えていることがわかった。また、第三に「西成区民が自助努力していくべきだ」という回答には、自区の立場と西成区の立場の類似性を見出す認識上の安易な飛躍や、「自助努力」という言葉の裏に存する異質な存在の認識上の隠蔽、同質的な存在の同化促進の芽があることがわかった。

以上のことを踏まえて、さらに考察を深めることで、この章を締めくくることにする。

たしかに、「西成」差別を解消するためには西成区民の自助努力が必要であろうし、そのことに対して他の区民が応援・叱咤激励するのは間違っていることでも悪いことでも決してない。また、そのような人々との交流・相互理解を深める必要があるという認識は、「西成」差別を解消するための重要な第一歩でもある。

しかし、これらの施策が同質的な存在として想定された人々との間でのみ行われるのであれば、それは表面的にはどうであっても「西成」差別の実態を隠蔽するように作用する。「西成」差別は存在し続けるだろう。それは、「庶民的な街」といった特定のイメージだけに目を奪われたものであるだけでなく、異質な存在だと想定されている人々への蔑みや社会的経済的不利益を再生産している実質的な側面も持っている。まずは、そういった現実を認識しておく必要があるだろう。その上で、西成区の持つ社会的資源、すなわち、多様な人々を受け入れることのできる能力や、西成区が潜在的に持っている地域発展のためのさまざまな能力などを再発見し、それを生かす努力につとめることが、差別の解消につながるのではないだろうか。

第5章 「西成」をめぐる差別の構造（2）

—西成区民の場合—

第1節 西成区内の地域的特徴、再論

序章では、西成区に対する差別的な認識は、歴史的に形成されたこの地域の社会経済的構造を前提としながら、その地域で発生したいくつかの出来事、まちの様相、またそこで暮らす人々の属性に対する市民の評価が累積され、それがマスコミや伝聞等によって広められた結果ではないだろうか、という仮説を提示した。いったんできあがったイメージは、多くの市民の「西成」をめぐる行動様式を規定し、他区の市民は西成区での居住を忌避する。そのことによって西成区内では地価・家賃の相対的な低下傾向が起り、そうした家賃でしか住めない低所得層を呼び込むことにもつながっている。なかでも、西成区北部のあいりん地域及びその周辺地区の人口・社会的特性が西成差別と密接な関係にあることが、前章の大阪市民一般の意識の分析から明らかになった。しかし、ここで問題とすべきなのは、その地区の人口・社会的特性それ自体ではなく、それを差別的に表象する社会的メカニズムであるということはいま一度確認しておきたい。

この章では西成区民の差別に関する自由回答を取り扱うが、それを分析するにあたっては以上の区内の地域的特性を考慮しつつ、次のような視点に立った。すなわち、西成区といってもその人口・社会的特性は地区によって多様であるが、そうしたうえで「西成」差別という問題は、どのような区民相互の関係性を示しているのだろうか。

第2節 被差別経験の諸相

この節では、西成区民が受けている差別の具体的な諸相を分析することを目的とする。まず、設問3-7「＜問3-1＞で設問『2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした』で『ある』と回答された方に聞きます。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。」への回答、すなわち西成区民が見聞きした差別的言説の内容を分類した。その結果は、表5-2-1の通りである。

表5-2-1 西成区民が見聞きした差別的言説の内容

対象	差別的言説の内容										計
	怖い	危険	ガラが悪い	汚い・臭い	複雑なところ	結婚差別	就職差別	逆差別	環境が悪い	その他	
あいりん地域	3	1	0	0	0	0	0	0	0	15	19
暴動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	22	23
同和地区	3	0	0	0	0	5	2	1	0	6	17
その他	22	15	9	7	1	17	6	0	5	43	125
計	29	16	9	7	1	22	8	1	5	86	184

注：結婚差別には、結婚に付随する事柄を幅広く含めている（たとえば「親戚とお付き合いにくい」など）。

「暴動」に関しては、「あいりん地域」と別に項目を設けた。

対象では、「暴動」23件、「あいりん地域」19件、「同和地区」17件、「その他」125件となっている。見聞きした内容で目立つのは、「怖い」29件、「結婚差別」22件、「危険」16件である。以下それぞれのケースの具体例をみていくことにする。

「暴動」「あいりん地域」が「こわい」ところということに関して、つぎのような言説がみられる。

- ・西成区は暴動があって怖い所とちがうん？というぐらいのもの。
- ・三角公園の方には普通の人が行くと帰って来られへんねんやろ。
- ・野宿生活者が居るからお金や財布を絶対見せてはいけないと聞いた事がある。

「同和地区」に関しては「結婚差別」5件、「こわい」3件、「就職差別」2件、「逆差別」1件がみられた。

- ・部落の人でないのに部落の人やからと結婚がこじれかけた話。
- ・就職などに「部落地名総鑑」などが使われる。
- ・同和の人は怖い人達の集まりというようなこと。
- ・同和地区内の小学校給食が他の所より良い。

次に、区民が実際に受けた差別について検討する。設問3-3「＜問3-1＞の設問『1. 西成区民であることについて直接に差別を受けた』で『ある』と回答された方に聞きます。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。」への回答を、対象と差別的言説の内容で分類した。そうすると、表5-2-2のように整理できる。

表5-2-2 被差別経験における差別的言説の内容 (1) 対象と差別的言説の内容

対象	差別的言説の内容							計
	危険・怖い	治安・ガラが悪い	汚い	貧しい	すごい所・大変な所	イメージが悪い	その他	
居住・住所	16	5	1	0	4	1	13	40
あいりん地域	1	0	0	1	0	0	5	7
暴動	1	0	0	0	0	0	4	5
同和地域	0	0	0	0	0	0	3	3
複雑なところ	1	0	0	0	0	0	1	2
在日韓国・朝鮮人	0	0	0	0	0	0	3	3
その他	5	6	2	1	0	1	20	35
計	24	11	3	2	4	2	49	95

*「居住・住所」とは、西成区に住んでいるということに関する被差別経験を指す。

*「複雑なところ」とは、様々な人が居住する西成区の複雑な性格に言及するものである。

対象では、「居住・住所」が40件、「あいりん地域」7件、「暴動」5件、「同和地区」3件、「外国人差別」3件、「複雑なところ」1件と続いている。直接差別を受けた内容をみると「危険・怖い」24件、「治安・ガラが悪い」11件が突出しているのがわかる。以下それぞれについて具体的な内容をみていくことにしよう。

「居住・住居」に関するものでは、「危険・怖い」という内容が突出し、その他「治安・ガラが悪い」「すごい所・大変な所」が多い。

- ・住所を書く際に「こわいところに住んでるなあ」と言われる。
- ・日本で一番ガラの悪い所に住んでるねと言われた。
- ・上司A「君、えらいところに住んでるなあ」と言われる。

「あいりん地域」「暴動」に関しては次のような言説がみられる。

- ・あと「西成って浮浪者（原文のママ）しか住んでないんとかやうん？」とも言われた。
- ・暴動が起る事もあり危険である。

「同和地区」に関しては次のような言説がみられる。

- ・友人から「ひょっとして貴方のご主人は部落？」と聞かれた。
- ・27～28年前に学校で「西成は…」と、指4本出された。

「在日韓国・朝鮮人」に関するものも3件みられるが、とくに西成区ということでの差別ではなかった。

- ・西成区民であるより韓国・朝鮮人であることの方で差別を受け蔑視された。

「複雑なところ」は数こそ少ないが、西成差別の構造を理解するうえでは重要である。

- ・赤軍派もぎょうさん居んねやろ、あんなこわいとこの人とよう付き合わんわ。
- ・西成は複雑だろう。

上掲した言説からはあいりん地域、同和地区、在日韓国・朝鮮人に関するそれぞれの差別事例が確認されたが、このことから「西成」差別とは単純に特定の地域の問題へと還元しうるものではないことがわかる。「複雑なところ」の事例にみられるように、それらが全体的に複雑な雰囲気として捉えられるとき、「西成」という言葉で代理的に表象されているという点が重要である。前章の大阪市民一般の意識の分析では、とりわけあいりん地域に対する差別が「西成」差別の形成要因として大きいということが指摘されたが、ひとたび特定の地域に対する差別が「西成」へと節合されれば、同和地区の存在や繰り返し報道される「暴動」といった事件は「西成らしい事柄」として包摂され、それが一般的な差別意識を構成していくという構造がある。回答には「その他」のカテゴリーに入るものが多く（見聞き回答125件、67.9%、直接差別回答35件、36.8%）、その曖昧な性格上それらを分析の俎上に乗せることはできなかったが、西成区に対する漠然とした差別意識の背景には、そのような構造があるように思われる。

さらに、同じ回答を差別の具体的な性格という視点から分析したところ、表5-2-3のような結果が示された。

表5-2-3 被差別経験における差別的言説の内容 (2) 差別の性格

差別の性格	驚き・感想	冷やか し・冗談	軽蔑	忌避	属性	忠告	結婚・就 職差別	その他	計
件数	25	9	7	13	6	4	2	42	108

「驚き・感想」(25件)や「冷やか・冗談」(9件)は、日常生活の何気ない会話のなかで現れる西成区に対する差別的な意識を示している。たとえば、次のようなものがある。

- ・住所を見るなり「西成や、こわー！」と言われた。
- ・「あんな所に人なんか住んでいるの？」とか「西成で(交通)事故したらすぐ逃げな殺されるんちゃう？」と言われた。

西成区に住んでいるということで軽蔑されたり(「軽蔑」7件)、さらにはそのことによって本人の性格を判断されたりするケース(「属性」6件)もみられる。

- ・玉出は西成区でっかと、バカにされた。
- ・西成の人間＝何か悪いことをする、と決めつけられ事有る度に「やっぱりな」と言われる。

西成区または西成区民との関係を断絶するような言説(「忌避」13件)、注意して生活するよう、または区外へ引っ越すよう忠告するもの(「忠告」4件)もある。

- ・西成以外の友人の親に西成の子とは遊んではいけないと言われていた。
- ・就職の時に希望したところをそこは止めた方がよいと理由もなしに言われた。

さらに結婚差別や就職差別も 2 件確認される。

- ・西成区に住んでいるだけで縁談で無視された。残念であった。
- ・仕事の面接で落ちた。

このように、区民が受ける差別の様相には様々なものがある。「驚き・感想」「冷やかし・冗談」といったものは、場合によっては差別としては受け止められずに聞き流されるような類のものかもしれない。しかし、同じ西成区に対する認識が異なった場面では、結婚差別や就職差別といった明白な差別を生んでいるという事実を重く受け止めなければならない。

第 3 節 西成区民の差別意識の内面化

この節では、外部からの差別的な眼差しにさらされるなかで、西成区民が自区に対してどのような意識をもつに至ったのか、その構造を考察する。まずは、西成区民が自区に対してどのような直感的イメージをもっているのかを確認しておこう。設問 2-3 (1)「『西成』という言葉聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはプラスあるいはマイナスのいずれのものでしょうか。」への回答を整理したのが、表 5-3-1 である。

表 5-3-1 西成区民の「西成」への直感的イメージ（自由記述回答者）

直感的 イメージ	プラス	どちらとも言 えない	マイナス	わからない	計
件数	9	100	171	127	407

プラスイメージと回答したケースがわずか 9 件だったのに対し、マイナスイメージと回答したケースは 171 件にも及び、区民自身が自区に対してプラスイメージを持つことができないという状況が明確にあらわれている。なお、プラスイメージの具体的な内容は以下のようなものである。

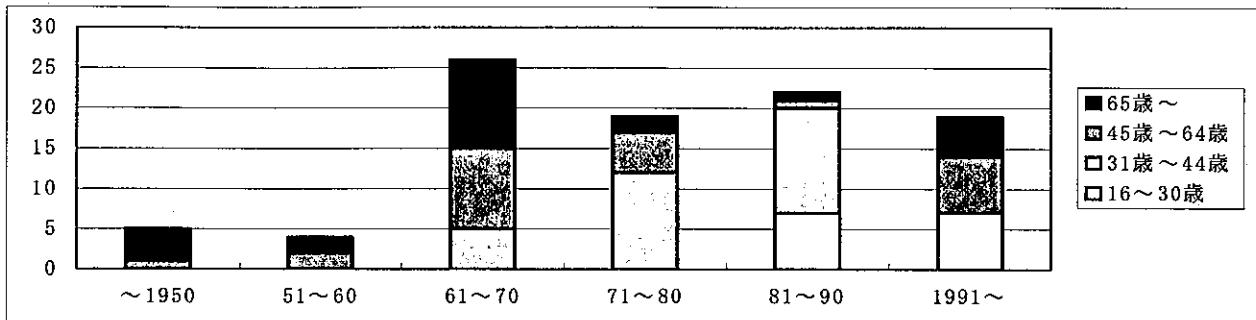
- ・長年住んでいて西成の町は活気があるため。
- ・商家に生まれてたくさんの温かい人達の中で育った！ 情緒豊かな下町に育てられた。
- ・地下鉄堺筋線の開通、南海電鉄の特急・急行停車、駅前で買物をして帰れて便利になった。

このように、区民は自区に対するプラスイメージをもつようになったきっかけとして、生まれ育ったまちへの愛着、下町の人情、交通の利便性などを挙げている。

では、圧倒的多くの区民は、どのようなきっかけで自区に対するマイナスイメージをもつようになったのだろうか。まずは区民がいつマイナスイメージをもつようになったのかを分析したところ、図 5-3-1 のような結果が示された。

まず注目されるのは、1961 年以降数値が高くなっているということである。とくに 1961 年～1970 年では 45 歳～64 歳、65 歳以上の世代で人数が多くなっているのがわかる。つまり、1961 年～1970 年のあいだに 15 歳以上だった世代の幅広い層が、この時期に自区にたいするマイナスイメージをもつようになっているのである。1961 年には釜ヶ崎暴動が起り、60 年代を通じてたびたび起った暴動と一連の対策がマスコミに報道されることによって、「西成」の名は一躍世間一般へと知られるようになった。このことが 1961 年～1970 年における人数の伸びの大きな要因として考えられる。

図5-3-1 西成区民が「西成」に対し、あるイメージをもった時期



1971年～1980年、1981年～1990年においては、31歳～44歳の層が中心となっている。1971年～1980年の時期では、この層は1歳～24歳、1981年～1990年の時期では11歳～34歳であるが、比較的若い時期に既に「西成」に対するマイナスイメージをもつようになっていることがわかる。16歳～30歳の世代は1981年以降で高いポイントを占めているが、30歳の人なら、10歳～19歳の年頃で「西成」に対するマイナスイメージをもつようになったことになる。以上の分析から、「西成」に対するマイナスイメージが世代的に再生産されていると様子がうかがえる。

次に、西成区民が「西成」にマイナスイメージをもつようになった経路を、きっかけについての回答から分類したところ、表5-3-2のような結果が得られた。

表5-3-2 西成区民が「西成」＝マイナスイメージを持つに至った経路

		対象あり		「西成」 あるいは 対象なし	計
		あいりん地域	同和地区		
直接体験	通過などの経験	17	0	8	26
	車窓からの眺め	2	0	0	2
	暴動	2	0	0	6
	その他	5	2	3	9
間接経験	被差別経験	3	2	21	26
	伝聞	2	1	11	14
	親・大人から伝聞	1	0	1	2
	マスコミ	3	1	9	13
	学習の場	1	1	2	4
	その他	17	2	29	45
計		54	9	84	147

注1：直接経験における「通過などの経験」は偶然にあいりん地域に立ち寄った、または通過した等の経験を指し、「車窓からの眺め」は車や電車で通過した際に窓越しに見た、という経験を指す。「暴動」は暴動を直接に見た、という経験であり、それ以外の経験（はっきりと分類できないもの）は「その他」に含めている。

注2：間接経験に関して、「学習の場」とは教育を通じて知ったという経験を指す。

まず、「西成」についてマイナスイメージを持ったきっかけとして、具体的な対象を挙げている「対象あり」63件と、挙げていないもの84件に大別されるが、具体的な対象を挙げていないものは、その記述内容から見て漠然と「西成」を指示しているものと考えられる。したがって、第4章と同じように、これを「『西成』あるいは対象なし」と呼ぶことにしよう。

具体的に対象として挙げられているのは「あいりん地域」と「同和地区」であるが、「同和地区」の9件に対し「あいりん地域」は54件と「同和地区」を圧倒している。経験の質は「直接経験」と「間接経験」に大別されるが、「あいりん地域」では直接経験26件、間接経験10件と直接経験が間接経験を上回るのに対し、「同和地区」では直接経験2件、間接経験7件とほぼ間接経験に集中しているのが特徴といえよう。

以上から、つぎのことがわかる。西成区民が自区に対するマイナスイメージをもつようになるきっかけとして指摘される対象は、あいりん地域と同和地区であるが、とりわけあいりん地域がきっかけとなるケースが多く、またあいりん地域と同和地区ではマイナスイメージのきっかけとなる際の経路に明瞭な差違が認められるのである。

さらに、それぞれのケースにおけるきっかけの具体的な様相を考察してみよう。

(1) あいりん地域

マイナスイメージを持つに至ったきっかけの直接経験は、経験の性質・強度からさらに「通過などの経験」17件、「車窓からの眺め」2件、「暴動」2件、「その他」5件に分類される。「暴動」以外の経験では何を見てどのように感じたのかが問題となるが、対象としては人、環境、雰囲気到大別される。それぞれに対しては、以下のような言説がみられる。

- ・西成に行くことがあり花園町に兄が住んでいたもので、その頃より恐いおっちゃん・酒臭いおっちゃんなどが居たと(人)。
- ・初めて西成へ来たのがあいりん地域で、服装が極めて汚くとても臭い人達ばかりだったので、乞食の町だと思った(人)。
- ・新今宮周辺のごみごみした様子(環境)。
- ・新今宮から萩之茶屋周辺を自転車で通り抜けるのに気持ちが悪い、恐怖を感じる(雰囲気)。

野宿者(あるいは日雇労働者)の服装や臭い、飲酒している様子といった知覚された差異が、市民社会の規範からは逸脱する異質性として嫌悪感、恐怖感を抱かせている点、界限での環境の汚さが指摘されている点では、大阪市民一般の意識と同様である。

一方、間接経験では「被差別経験」3件、「マスコミ」3件、「伝聞」2件、「親・大人から伝聞」1件、「学習の場」1件となっており、そこには様々な経路があることがわかる。

- ・両親から西成地区(釜ヶ崎)には当り屋が多く物騒な所だと聞かされた事がある。
- ・あいりん地域で暴動があったとき、TV等でその部分だけを放送された。

以上の考察では、マイナスイメージを持つに至ったきっかけの直接経験と間接経験に分けて整理したが、野宿生活者(日雇労働者)の服装や態度を見て嫌悪感や恐怖感を抱く場合、そこには「汚さ」や「臭い」といったものへの一定の価値観が媒介しており、その意味で直接経験と間接経験とは実際には相互に浸透し補完しあっている。たとえばつぎのような言説はそのことを明瞭に示している。

- ・幼い頃浮浪者(原文のママ)の人々の風貌や行動、又自分が罵倒されたり他者の言葉から間違った認識を持ってしまったこと。

この言説のなかでは、直接経験と間接経験が相互に入り交じって野宿生活者への認識が形成されたという指摘がなされているが、おそらくこれが一般的な直接経験の在り方だろう。

(2) 同和地区

同和地区に関してマイナスイメージを持つに至ったきっかけ・経験は、間接経験が中心となっている。直接経験は2件あるが、あいりん地域と異なり人や環境の様相を具体的に指摘するものではない。間接経験で経路と内容がある程度わかる記述としては、以下のようなものがある。

- ・結婚しようとしたとき主人が同和の人だった時。
- ・同和の場合は住宅の安さとその周辺で駐車違反の取締がないこと。
- ・小学校の同和教育において(私にとっては不必要であった)。

同和地区については、西成区に対するマイナスイメージをもつようになったきっかけとして挙げられているものの、西成区固有の問題というよりは一般的な同和地区に関する差別（逆差別）として語られる傾向があり、それ自体としては「西成」という言葉との関連性はあいりん地域の場合ほど明確ではない。

「西成」差別と部落差別の関連については、次のような可能性が指摘できるだろう。あいりん地域に関しては、実生活レベルでの経験の延長線上に「西成」差別との関連性が意識されているものと考えられるが、同和地区に関しては西成区に対する外部からの差別的な認識があることを知ったあとで、かねてからの同和地区に関する一般的な情報・知識を背景として事後的に「西成」差別との関連性が意識されているのではないだろうか。

（３）「西成」あるいは対象なし

対象を挙げていない回答は、その記述内容から見て漠然と「西成」を指示しているものと考えられる。したがって、表５－３－２でも『「西成」あるいは対象なし』と表記した。マイナスイメージをもつようになったきっかけの直接経験（１１件）には、おそらくあいりん地域に相当するであろうと思われる言説が多かったが、過度の推測を避けるために「対象なし」に分類した。注目したいのは間接経験である。間接経験は「被差別経験」２１件、「伝聞」１１件、「マスコミ」９件、「学習の場」２件、「親・大人から伝聞」１件となっている。たとえば、次のようなものがある。

- ・高校入学した頃どこから通学してるかを聞かれて「西成って怖い所ちゃうん？」と言われた時。
- ・自分では余り思わないが西成以外（特に市外）の人と話をしたとき、西成＝怖い・汚い所というイメージを持たれているのが判ったとき。
- ・西成区外に在住の友達に知り合った時、みんなの西成へのイメージを知った時、西成と他の区域との違いを知った時（環境等）。
- ・ニュースなどを見るようになり、「西成区」は良いことで報じられるニュースを余り見たことが無かったため。

上掲の言説から、西成区以外の人と接する場面で西成区に対する見方を知ること、あるいはマスコミを通じて西成区での事件報道を見聞きすることをきっかけとして、自区に対するマイナスイメージが生じていることがわかる。外部からの差別的な眼差しを通じて一度自区を認識するとき、そこにマイナスイメージが生じてくるという構造が指摘できるだろう。

以上の分析からつぎのような傾向が指摘できる。

第一に、歴史的にみると、西成区民が自区に対するマイナスイメージをもつようになった要因としては１９６１年の釜ヶ崎暴動及びそれに続く幾度かの暴動の影響が大きいことである。その後においても、マイナスイメージは世代を超えて再生産されている。

第二に、あいりん地域に関しては、野宿生活者や日雇労働者、環境の異質性からくる嫌悪感や恐怖感がマイナスイメージへと結びついており、それは直接的な経験に依る場合が多い。

第三に、同和地区に関しては逆差別や教育などの知識・情報が媒介となってマイナスイメージへと結びつく傾向がある。

最後に、区外の人との接触やマスコミを通じて一般的な西成区に対するイメージを知ることが、自区に対するマイナスイメージのきっかけとなっている。つまり、区民が自区に対してもつマイナスイメージは、外部からの差別的な認識を内面化させるところに成り立っているのである。

第４節 西成区内の「他者」への態度

「西成」に対する差別的な言説を目の当たりにして、西成区民はその差別に対してどのような態度をとっているのだろうか。まずは、差別を受けてなお西成区をポジティブに捉え住みつづけることを志向する言説

を引用し、彼らが西成区のどのような側面を肯定しているのかを検討しよう。ここで扱うのは次の設問に対する回答である。設問「最後に、西成に対する差別の解決について、ご意見やご要望がありましたら、下記の欄に自由にお書きください。」の回答として、「西成」イメージをプラスに受け止めているものに、次のようなものがある。

- ①新しい世紀に入り何とかここ 10 年位で西成は良いとこで住み易いと言うこと。…（中略）…明るい庶民の町であると願っている。特に高齢者の人々は長い間住み続けているので実感としてこんな便利な庶民的な町が住み良く思っている人が多いと実感します。
- ②私は 82 才、〇〇〇〇〇と申します。10 年前までは H ホテルのフロントで事務をしてましたが、その頃は体も良く動きましたが平成 10 年に足を骨折してから自分のことは自由にならない。買い物に行く時は夫に手押し車で押して行って貰いスーパーに行っても店の人に頼むような毎日です。気はせくが足の自由が利かない自分に腹が立ちます。この町の良いところはみんなが年寄りをかばってくれます。20 年余り生活している関係で商店街の店の人をみんな知っているから心丈夫です。私は 8 年ぐらい前から夫婦とも福祉を受けております。長年町におりますと友達がたくさんでき心丈夫です。毎日色々なことがあります、20 年余り居ると町にとけ込んでしまっている。
- ③便利で住み易く素晴らしい街だから色々な人々が集まって住んでいる。問 2-7（「社会的に立場の弱い人々」に関する設問・・・著者注）に書かれている人達も住めるところだから住んでいる。誰が悪いのではない、差別がある社会がいけない。確かに全国的に悪い意味で西成区は有名だが、偏見を無理に解決する必要は無いだろうし出来ないと思う。

この章の冒頭の自区イメージ回答において、プラスイメージの理由として庶民性や利便性が挙げられていたように、①の意見では西成区を「便利な庶民的な町が住み易く思っている人が多い」ということ、とくに高齢者にとって住みやすい町であるとして、西成区が肯定的に捉えられている。つづく②の意見がその指摘を具体的に裏付けているといえるだろう。また、③の意見ではさまざまな人が集まって住んでいるという事実を、西成区の住みやすさや魅力の証左としてポジティブに捉え、「西成」差別を「差別する側」の問題として明確に位置づけている。

このように「西成」をプラスに捉える言説がある一方で、西成区を忌避するような言説も見られる。

- ④差別の解決にはなりません、現在我が家に 5 才の娘が居ます。一番の悩みは公立への進学をさせるかどうかです。まず子供の数が少ないレベルが低いと言うことです。それと、中学校は〇〇中学校になるのですが、場所柄娘には通学させられません。周りの方々も子供の将来を考えている人は、西成区を離れたりと私立に行かせたりと西成区に密着しません。やはり、私としては西成は交通の便も良く物価も安く住み易いのですが、子供のこと（将来）を考えると西成を変えることより自分達が変わる（避ける）事しかないと思っています。本当に普通の生活を考えている者には西成は無理です。お金を掛けるか妥協するかだと思います。
- ⑤私の実家の近くが良いと結婚して西成に越しましたが、神戸出身の主人も住んでみて今挙げた事など町を見て経験して早く引っ越したいと希望を出され、すっかり西成嫌いになられて悲しいです。この状態じゃあフォロー（主人に）もなかなかしにくいです。
- ⑥西成に住むと面接で断りが多いので浪速区に住むことにしました。

④の意見では、交通の利便性や住み易さといった西成区の肯定的な側面を認めつつも、子供の将来を心配する親の立場から西成区を離れざるをえないという事情が表明されている。④⑤⑥の三つの意見からは、進学、家族関係、就職といった場面において西成区民ということでこうむる実質的な不利益が、区民に西成区からの転出を余儀なくさせているという実態がわかる。

また、「西成」差別に対するあきらめを表明する次のような回答もみられた。

- ・なんにもない、ムリムリ。
- ・大阪だけでなく日本中・世界中の人が西成に偏見を持っているのだから今さら解決のしようもないと思う。
- ・問題が多すぎて解決できないでしょう。

上に挙げてきた自由回答から、つぎのような差別の実態が推測されうるだろう。そこに住む生活者の視点からは、西成区は庶民的で住みやすいというポジティブな側面が見えてくる。とりわけ、高齢者にとっては安心して住むことのできるまちであるということが指摘されていた。しかし、進学問題や就職差別といった実質的な不利益が、切実な問題として西成区民に西成区からの転出を余儀なくさせている。こういった「西成」差別の現状に対しては、西成区の肯定的な面を改めて強調する人からあきらめを表明する人まで、そのスタンスはさまざまだが、それは区民がどのような施策を望むのかという点に反映されてくるだろう。

これについては次節で紹介することにして、ここでは西成区民の差別に対する認識をより詳しく考察したい。

これに関して、西成区民が「西成」差別の原因がどこにあると考えているのかを検討する。設問3-13「<問3-12>で「はい」と回答された方に質問します。『西成に対する差別や偏見がある』ことの理由は何にあると思いますか。率直な意見をお書きください。」への回答を整理すると、表5-4-1のようになる。

表5-4-1 西成区民が見た「西成」差別の原因

あいりん地域	同和地区	在日韓国・朝鮮人	複雑なところ	その他	計
65	11	4	1	50	131

この回答で、具体的に特定の地域や住民層を挙げたものは80件、挙げていないもの——表中の「その他」——が50件あり、区民の大半が「西成」差別の原因を特定の地域や住民層にあるものと考えていることがわかる。特定の地域として指摘されたのは、あいりん地域65件、同和地区11件、在日韓国・朝鮮人4件であった。とくに、あいりん地域を「西成」差別の原因として考えるケースが65件と突出しているのがわかる。

それでは、西成区民は特定の地域の問題が「西成」差別へと節合されるという事態をどのように意識し、その理由をどのように理解しているのだろうか。引続き区民の意見回答から考察してみよう。

(1) あいりん地域

回答意見からは、西成区民とあいりん地域との関係性を読み取ることができる。それを拾ってみよう。

①私の住んでいる町（千本北）は、とても住み易いところで、今まで余り差別のことをちゃんと考えたことがありませんでした。でも、西成に住んでいると言うと、確かに何も知らない人達は、あいりん地域のイメージだけで見られ、からかわれたりすることは多々あった様に思います。西成の怖いイメージで、私自身も怖い人間の様に見られたりもしました。もっと皆に西成の良い所を知って欲しいです。

②西成に対する差別というのは自分自身受けたことがないのでよく判らないが、偏見は確かにあると思います。おかしい話かも知れませんが、私も偏見を持ちつつ西成区に住んでいます。自分の偏見とはヤクザが多い、段ボールを乗せたりヤカーを引いている男性が多いなどですが、それは偏見でもあり、自身の目で見たことでもあります。今でもあいりん地区やJRの新今宮へ夜1人では行けません。約8年前、仕事で遅くなり新今宮（JR）の駅前を通ったとき（駅へ上がる階段）、酔った男性が何か大声で言いながら追いかけてきたことがありました。そういう話は小学生の頃もあり、やはり怖いイメージが抜けず今でもできれば行きたくありません。でも、私が住んでいる玉出などは怖いと思ったことは一度もありません（ヤクザの車などはよく見かけますが）。家族に引っ越しを勧められているのに住み続けているのは、やはり住みやすいからです。でも、西成区にある食事をするところは「帝塚山にある」と書いてあるチラシを、よく見かけます。やはり皆が持っているイメージというものでしょうか。だらだらと書いてかききれなくなりましたが、「差別を無くす」というのは、今まで差別されてきた年月の何倍もかかることでとても大変でとても難しいことです。

①の意見では、あいりん地域が存在することによって差別を受けたことがあるという経験を背景として、あいりん地域のイメージが西成区全体のイメージへと節合されるという事態が「西成」差別の背景にあるものとして問題視されている。この言説でとくに注目したいのは、自分の住んでいる地域の住みやすさと一般

的な西成区に対するイメージとが食い違っていることに対する違和感が表明されているという点である。同様の指摘は②の意見にも表明されている。

では特定の地域のイメージが西成区全体の差別へと節合されるのはなぜか。区民はそのことをどのように理解しているのだろうか。

③たぶん、西成区民以外の人々は、あいりん地域の人々の仮住まいでもある段ボールの山を見て汚いと思う。それが治安の悪さと感じ取られて、「西成区は怖い」とされていると思う。それにそれは一部のことで、そこから一駅でも離れると、住吉区や住之江区と何ら変わらない街並みがある。だから私は西成区を恥じらうことなく今まで通り楽しく住んでいきたい。

④差別の現象として理解できるのは、やはりあいりん地区がたまたま西成区の区域にあることが最大の原因であると思います。見たら日本国内で最大規模の日雇労働者の街が形成されていますので、何も判らない方にとっては非常にショックではないでしょうか。その印象が、西成区に住んでいる者の言われのない差別として発生しているのではと思います。思うに、差別それ自体（人間自身が持っている感情）を全く無くすことは無理だと思いますが、言われ無き差別は無くすべきであると思います。

⑤私個人は直接差別を受けて嫌な思いをした事が無い人ですが、マスメディアで西成の釜ヶ崎のことをよく見たりします。西成＝釜ヶ崎というイメージが強くなっているのではないのでしょうか。

③の意見では、「段ボールの山を見て汚いと思い、それが治安の悪さと感じ取られて『西成区は怖い』とされている」というプロセスが推測されている。④の意見では、寄せ場社会の固有性が一般的には異質に見える、それを見た時のショックが「西成」差別の根源にあるものとして指摘されている。また、⑤の意見はメディアによって「西成＝釜ヶ崎」というイメージが広められたという点が指摘されている。

あいりん地域のイメージが西成区全体のイメージへと節合され、同じ西成区に住む自分達が差別や偏見を受けていると意識するなかで、区民はあいりん地域に対してどのような態度を示しているだろうか。

⑥ついてしまったイメージはなかなか消せるものではないので、野宿生活者を無くしたり、町全体を綺麗にしてゆく必要があると思う。「イメージ」を無くすのではなく、マイナスイメージになっているものを無くしていかなければならないと思う。

⑦野宿者対策を市をあげてやってほしい、テント一掃。

多少ニュアンスは違うものの、両回答とも野宿生活者対策の必要性を主張しているという点では共通している。しかし、野宿生活者対策とはいっても、西成区からの野宿生活者の排除を前提とするのか、あるいは野宿生活者との共生を前提とするのかというところで、野宿生活者に対する区民の態度はおおきく異なる。

③うわべの差別や偏見を無くす事よりも、西成自体本当に他の区と変わらないか良い区にすれば、自ずと差別などは無くなる。同和地区等様々な問題があるが、今一番の問題はやはり野宿生活者です。西成警察署前などは特にひどく、前回の暴動の起点でもあり、警察署自体は他に類を見ないほど厳重な警戒で門前には象も破れないような大きな柵を設け、中に入るにもいちいち理由と不審者かどうかチェックされ、警察官は防弾チョッキ着用で自己防衛に精一杯という風にしか見えない。実際、公道で寝そべっている人が居るから何とかして欲しいという苦情にも、ただ本人に注意するだけで寝そべっている人は何とも思っていないくそのまま起きあがろうともしない。それをどうすることもできないというのが、現状です。頭の上の蠅も追えない行政は頼りには出来ない。出来る事としてはこれ以上野宿者を増やさないよう（新しい野宿者を出さない、入れない）にすると、あとは減るしかない。例えば地区を限定してそこ以外では徹底して野宿を禁止する。あとはその地区を徐々に狭くしていくなど。もう一点は地域限定の住宅購入補助を行う。他の区などは普通、不審者や野宿者が居る場合（大公園を除く）警察官よりも住民が一致団結し排除していくというのが普通で、西成区（特にあいりん地域）はそれが非常に少ない。原因は借家率が高いという事が一番に挙げられる。借家住まいの人は持家の人に比べ地域への愛着、良くしていこうという気持ちが如何せん薄い。持家の住民率が高いほど団結は強い。他にはあいりん職安の移転（ベイエリアなど他の住民の負担の少ない所）が考えられる。

⑨私個人としては釜ヶ崎をどこか他の場所に移して欲しい。そしてその後に大規模な集客施設や阿倍野地区の開発を広げて欲しい。何故なら釜ヶ崎地区というのは新今宮という交通の要所にあり、その地理的用地を利用しないのは大阪にとって大変な損失でもあり国際都市を目指す意味にも取り組まなくてはいけないと思う。

上掲の⑧⑨の言説において、野宿生活者の排除が前提とされていることは説明するまでもないだろう。これに対し、西成区での野宿生活者との共生を前提としていると解釈できる言説⑩⑪もみられる。

⑩私は西成が好きです。結婚しますが西成に住みます。みんな西成というとおのっちゃん寝てる三角公園のイメージが強すぎる。一部分にしかないのにだからもっと良いところをみんなに知らせて欲しい。段ボール集めの人も優しい人、汚いとか嫌がるかも知れないけれどあの人達も必死で生きているのでそう言うのも知らせて欲しい。一人でも多くの人に。

⑪行政が地区住民と積極的な話し合いの場を作ること。訪ねてくれば応ずるという消極的ではダメである。日雇労働者の多い地区であるので就労日数を増やすことを考えて欲しい。そうすれば活気が生まれると思います。

西成区民が「西成」差別の原因としてあいりん地域存在を指摘し、そこに何らかの施策の必要性を感じているという点では、ある程度共通した傾向性がみられる。しかし、さらにそこから野宿生活者や日雇労働者を西成区で受け入れ共生していくのか、それとも排除していくのかという点まで踏み込むと、区民のなかでも意見が分かれている。ただし、ここではあいりん地域へのスタンスが明確な事例を取り上げたが、それはある意味極端な事例であって、その他の意見では共生とも排除ともれないものが大半であることを付言しておくべきだろう。大方の区民が西成差別の原因があいりん地域にあると認識しているとしても、その認識がすぐさま共生あるいは排除の意識に結びつくわけではなく、そこには多様なスタンスがあることがわかる。

(2) 同和地区

同和地区に関する意見回答については、逆差別に言及するものがほとんどを占めている。たとえば、次のものがある。

①この様に、西成区に関してマスコミなどが取り上げる事自体が差別につながっていく様に思えます。子供の頃から差別についての学校で映画を見せて頂いたこと、何も判らない子供心なのにその時から自分自身が意識してしまっている様に思えます。全く関係ないのですが、同和地域差別と言っていますが、私達は民間の高額なマンション家賃を払っているわけですが、今現在低家賃の同和地域マンション、これは私達民間との差別ではないでしょうか？それ自体がおかしいです。西成が変だと思われても仕方がないと思います。

②同和問題は地区の人が「差別、差別と言って騒ぐため」で、今日の人に意識は薄れている。行政も大昔のこととして放っておくべきである。

上掲の①②の言説においては、これまで行政が行ってきた施策が否定されており、何らかの新たな施策が行われるべきだという意見はみられない。この言説を解釈するうえで、いくつかの点を指摘しておきたい。

同和地区においてもさまざまな階層があり、比較的裕福な階層が存在するのも事実ではあるが、同和地区の実態調査からは、所得、教育、失業率などの水準で、一般地区とのあいだに格差が存在することが指摘されている。にもかかわらず、そのような実態は無視され、同和地区の優遇という一般的な理解に置き換えられている。いまだ、実態と理解のあいだにズレが存在しているのである。

また、行政のこれまでの施策はハード面が中心であった。ハード面での改善は同和地区の生活レベルの向上を景観として区民の眼前に立ち現せるが、その背景にある生活改善の努力や被差別の実態、歴史への理解が抜け落ちているならば、それが住民の同和地区への反感に結びついてしまう可能性がある。まして、その事実のみが噂話として広まっているなら、なおさらであろう。

第5節 西成区民の提起する施策

この節では、これまでの分析を踏まえて、区民が「西成」差別を解決していくためにどのような施策が必要だと理解しているのかを、回答意見のなかから検討する。まずは誰が解決を担うべき主体なのか、という視点から分類したところ、表5-5-1のような結果が示された。

「あいりん地域」に対しては行政型の施策を要求する意見が20件あるのに対し、「同和地区」に対しては「批判・諦め型」の14件が際立っている。それぞれに対して求められる施策の違いには、これまで述べてきた区民の意識が反映されていると考えられる。「西成」に対しては「行政型」14件と「市民交流・相互理解型」7件が突出しており、「あいりん地域」や「同和地区」と比較するとき、とりわけ「市民交流・相互理解型」のポイントの高さが特徴的である。

表5-5-1 「西成」差別の解決に向けた施策：(1)「誰が施策を担うべきか」の視点から
(自由記入欄における回答から)

	あいりん地域	同和地区	「西成」	在日韓国・朝鮮人、外国人一般、沖縄出身者	計
行政型	20	0	14	0	34
マスコミ型	0	1	3	1	5
自助努力型	0	1	1	0	2
市民交流・相互理解型	0	0	7	1	8
批判・諦め型	0	14	5	1	20
計	20	16	30	3	

注1：「行政型」には、「再開発・区画整理」「区名変更」「雇用住宅等対策」「取締強化」が含まれる

注2：「市民交流・相互理解型」には、「啓発活動」「ボランティア」「コミュニケーション」「イベント・まちづくり・施設」が含まれる

注3：「批判・諦め型」には、「寝た子論」「自業自得論」「逆差別論」「諦め」が含まれる

つぎに、同じ回答を具体的にどのような施策が必要なのかという視点から整理したところ、表5-5-2のように整理された。

表5-5-2 「西成」差別の解決に向けた施策：(2) 具体的施策 (自由記入欄における回答から)

	あいりん地域	同和地区	「西成」	在日韓国・朝鮮人、外国人一般、沖縄出身者	計
イメージアップ・アピール	1	1	6	1	9
啓発活動	0	0	1	1	2
再開発・区画整理	2	0	1	0	3
区名変更	0	0	2	0	2
雇用・住宅対策等	9	0	4	0	13
取締強化	2	0	3	1	6
分散・クリアランス	12	0	1	0	13
コミュニケーション	0	0	4	1	5
イベント・まちづくり・施設	0	0	5	0	5
計	26	1	27	4	

「あいりん地域」に対して求められている施策の内容は、「分散・クリアランス」12件、「雇用・住宅対策等」9件が突出している。ここに、上述した共生と排除という志向（そしてその中間的なポジション）の差違が現われているといえよう。

「西成」に対しては「イメージアップ・アピール」6件、「イベント・まちづくり・施設」5件、「コミュニケーション」4件、「雇用・住宅対策等」4件と続いている。「イメージアップ・アピール」「イベント・まちづくり・施設」

施設」「コミュニケーション」が、先の表4-2-1での「市民交流・相互理解型」の具体的な内容である。「西成」差別の原因が、特定の地域（とりわけ、あいりん地域）のイメージが西成区全体へと節合されたことにあると区民が意識していることは、既に述べた。ここでの区民の主要な関心は、このような問題意識を踏まえたうえで、西成区の別の側面をアピールし、知ってもらおうということの必要性である。

区民が提起する施策から、あえて一定の方向性を抽出するならば、つぎのように整理されるだろう。第一に、あいりん地域に対しては地域の特殊性に応じた施策が必要とされる。第二に、同和地区に関してはもはや施策を行う必要はない。第三に、西成区全体については別の側面をアピールできるような施策を通じてイメージを変えていく。

関係性の視点からこの方向性を検討するならば、西成区民と他区の市民との関係性の構築が主張されても、あいりん地域や同和地区についてはそれが主張されていないということが重要である。区民のなかにおいても、野宿生活者問題、日雇労働者問題や同和地区の問題は、特定の地域内で解決すべき問題として捉えられているというのが現状ではないだろうか。

第6節 市民意識と区民意識－「西成」差別の構造

ここでは、第4章の大阪市民意識の分析結果と本章の西成区民意識の分析結果を比較しながら、「西成」差別の構造を素描してみよう。

『西成』差別は存在するか」という問いに対して、いまやわれわれは「ある」と明言することができる。それは、たいていは冷やかしの冗談といった日常生活の些細な場面のなかで現われる「西成」に対して一般的に共有された意識である。しかし、同じ意識が、別の場面では結婚差別や就職差別といった明白に客観的な差別を生んでいるのである。西成区民であることでこうした実質的な不利益を受ける以上、区民はしばしば西成区からの転出を余儀なくされているという実態が確認された。

なぜ、「西成」差別は生まれたのだろうか。あいりん地域の存在がその形成要素として大きいことは市民意識、区民意識を通じて共通している。この地域に対しては、「今宮スラム」と呼ばれていた戦前の頃から既に何らかの差別があったものと思われるが、それがとくに「西成」差別として実体化するのは、第6章で詳細に述べるように、1961年の釜ヶ崎暴動以降のことである。この時期にメディアを通じて盛んに「西成」という言葉が用いられたことが、現在に続くこの言葉に対する一般的なイメージを形作ったものと考えられる。そのネガティブなイメージは劣った者への軽蔑というよりは、異質な者、自分たちの規範では理解しえない者、したがって自分たちの規範を脅かすような者に対する恐れに近い感情であろう。その後もこのイメージはメディアや伝聞を通じて不断に再生産され、日雇労働者や野宿生活者の可視的な「異質性」がそのイメージを補完するという構造が確認された。

しかしながら、「『西成』差別＝あいりん（釜ヶ崎）差別」と定型化してしまうのは早計である。回答の随所でみられたように、「西成」差別には部落差別、在日韓国・朝鮮人差別など他の諸々の差別が付随している。したがって、次のような仮説が考えられる。ひとたび「西成」という言葉があいりん地域（釜ヶ崎）に節合されて「異質なものへの恐れ」を想起させる言葉となると、それはさまざまな異質性を包摂する言葉として一人歩きするのではないだろうか。西成区に同和地区があることを知る時、あるいは報道を通じて様々な事件を見聞きする時、市民はそれらを「いかにも西成らしい事柄」として納得してしまうのだろう。ここにおいて、「西成」差別は、必ずしも明確な対象をもたない漠然とした「なんらかの恐さの感情」となる。

大阪市民一般の意識分析からは、西成区内の多様性を西成区外の人がみるにつけ、彼らはその多様性を一面的な「西成」イメージへと置き換えてしまう構造が確認されたが、ひるがえって西成区内をみると複合的な差別／被差別意識の構造が立ち現われてくる。同じ西成区内にあるとはいっても、区民があいりん地域住民や同和地区住民とのコミュニケーションや相互理解を区外の市民以上にもっているとは言い難い。あいりん地域や同和地区に対する区民の語り方は、区外の市民のそれとそれほど変わるものではなかった。このような社会的交通不全のなかで、「西成」差別という問題は区内の多様な住民層を同じ問題の地平に立たせるといよりは、区民相互間の意識の分断をさらに強めることに寄与しているのではないだろうか。「分散・クリ

アランス」や「逆差別」を主張する意見の多さがその危惧を裏付けているように思われる。

最後に、自由回答のなかから、このような差別の構造を克服する可能性を見出すとすれば、以下のような言説が挙げられる。

- ①私は物心付いた時から、あいりん地域で過ごしてきました。住んでいる者として時々自分が西成に住んでいると言うことを友達や他の人に言うのが恥ずかしかったことがあります。特に10代の頃はそうでした。でも今は、西成について何かマイナスのイメージを持っている人がいれば、なるべく西成の本当の姿を知って貰いたいと思うようになりました。やはりマスコミのイメージというのはとても大きいと思います。実際に行ったことの無い人は、やはりメディアやマスコミの伝えるイメージを信じてしまうのではないのでしょうか。私達西成に住む人が意識を変えることも大切ですが、外へ向けてメッセージを発信することも行っていかなければならないのではないのでしょうか。

区民の自由回答分析では、比較的若い時期に区民が自区に対するマイナスイメージを内面化させることが確認された。上掲の言説においては、10代の多感な時期に他者の眼に映る西成区のイメージがコンプレックスになったことが述べられている。いわば、他者の視点を起点としてそこから自区を否定してしまうわけだが、そこから再び自区に視点を据え置くとき、いかにメディアによって偏ったイメージが伝達されているのかが批判的に見据えられるのである。「西成の本当の姿」を知ってもらうために「外へ向けてメッセージを発信する」という言葉には、おそらくあいりん地域や同和地区をも含めた多様な西成区の全体が含意されているだろう。被差別意識を克服するなかで見出した方途が、特定の地区を隠蔽・排除しない仕方でのメッセージの発信であったという点が興味深い。ここが西成区の他の側面をアピールする必要を訴える他の大方の意見とは大きく異なる点である。

この一区民の意見と呼応するものとして、次のような大阪市民の意見があった。

- ②以前、西成区のスーパーに勤めていたことがありました。野宿生活者の方々や外国人の方等もよくお店の方にご来店下さっていました。「西成区」についてのこのアンケートを見て思い出すのは皆良い方々であったお客様達です。その一方で思い出す「西成区」は駅を降りてからの勤め先までの通りです。ゴミや汚物の異臭がしてとても清潔であるとは言えないものでした。ずっと通っていると慣れてしまうものですが、初めて訪れた方々等が悪い印象を持ってしまうのは仕方がないなと思ってしまいます。そして、その「西成区」の中で一番印象に残っているのが野宿生活者の皆さんです。道路にはいつもたくさんの彼等の姿があり、初めの頃は少し怖いような気持ちを持っていましたが、皆さん決して悪い人達では有りませんでした。お店にいらっしゃっていつも自分の物は買わずに、鳥や猫等の餌ばかり買って行かれる方、冬の余りにも寒い日に本当にびっくりするぐらい薄い防寒着で少しでも身体を温めようと自販機のお酒を買われる方等、強く思い出されます。彼等の事等の対策がTVでやっていたりするのを見かけますと、いつも不安に心配になります。今年も寒くなってきて皆さんはどうして居られるのかと本当に気がかりに思います。

この言説からは、「ゴミや汚物の異臭がしてとても清潔であるとは言えないものでした」「道路にはいつもたくさんの彼等の姿があり、初めの頃は少し怖いような気持ちを持っていました」など、この回答者もやはり一般的に「西成」差別を構成する意識をもっていたことがわかる。この言説で興味深い点は、そのような意識を打破するものが、対面的なコミュニケーションだったということである。この経験を経て、野宿生活者の問題は回答者にとって、もはや他人の問題ではなくなっている。往々にしてメディアの報道は差別を構成する要素となっていたが、回答者は報道を見るにつけ彼らを「本当に気がかりに思う」という。背景に対面的なコミュニケーションをもっていればこそこの言葉だろう。

これまで行ってきた西成区民、大阪市民一般の意識分析によって、第一に「西成」差別が実際に存在すること、そしてそれがいかに複合的な構造を呈しているかがわかった。同時に二つ目として、対面的なコミュニケーションの不在と一面的なイメージや偏見の幅広い浸透との間には大きな相関性があることも明らかになった。最後に挙げた①②の2つの言説は、西成区の多様性をそれ自体として肯定しながら市民間の新しい関係性を構築するうえで、ひとつの道筋を示唆しているように思われる。

なお、今回の分析では、あいりん地域住民や同和地区住民を直接の分析対象としなかったことから、「西成」

差別の認識についての彼らの意見を提示することができなかった。多くの検討すべき点が残っていることだけでなく、彼らの声を示せていないという意味からも、これらの考察はいまだ途上にある。今後の課題としたい。

第6章 西成区の歴史的特徴

第1節 「西成」という地名の起源

「西成」という地名の歴史は古く、延喜式(927年)の摂津国十三郡のなかにも数えられている。その郡名は奈良時代の元明天皇の和同六年(713年)、郷郡の名は好字であらわしかつ二字を用うべしとされたことによって、それまでの難波大郡、難波小郡がそれぞれ東成(東生)、西成の郡名に改められたものと言われており、その境界はおおむね上町台地の屋稜線だった。小郡の名が示すように、当時の西成郡の区域は小さいものだったが、年月が経つにつれ、陸地の造成や市街地の形成がすすみ、現在の大阪市の殆ど全区がこの地域で発達するようになった。『西成郡史』の記述にしたがえば、区域の変更はあったものの、この郡名は近代に至るまで変わることなく用いられていたようである。

1878年(明治11)7月22日に発布された郡区町村編成法によって東・南・西・北の四区が設置されるとともに、第五大区を東成郡、第六大区を西成郡、第七大区を住吉郡と改められ、西成郡は大阪四区の西南北を取り囲む正式な行政区域として確定された。さらに1897年(明治30)には第一次市域拡張によって西成郡は北の五ヶ村、南の四ヶ村に分断され、その後北部は東淀川区、西淀川区に分断されることになり、「西成」という地名は南部四ヶ村において受け継がれるに至った。

ひるがえって現在の西成区にあたる地域の変遷を眺めると、1886年(明治19)には中在家と今在家の両村が合併して粉浜村となり、1889年(明治22)の町村制の実施によって西高津、吉右衛門肝煎地の二村が東成郡の所属に移っている。さらに1897年(明治30)の第一次市域拡張によって関西線以北の今宮村、木津村の一部と難波村、西側町、材木置場などが大阪市に編入され、その面積は大幅に縮小された。1915年(大正4)に勝間村が玉出町と改称、1917年(大正6)には今宮村と木津村が合併して今宮町と改称し、西成郡は粉浜村、玉出町、津守村、今宮町の四ヶ町村となった。

第2節 戦前の地域社会：区勢の発達と西成区の成立

西成郡に属していた難波・木津・今宮・西高津・勝間・中在家・今在家・吉右衛門肝煎地の八ヶ村は畑場八ヶ村の地として著名であり、現在の西成区は畑場八ヶ村の中心地だった。明治時代半ばまでの西成郡は紀州街道沿いに宿屋と商家がわずかにあるばかりで、その他の地域では純農村的な風景が広がっていた。西成郡が大阪市の膨張を受けて急激に市街地化するのには明治期末から大正期にかけてである。

1895年(明治28)に南海鉄道が設立され、1903年(明治36)3月には難波・和歌山間が全通する。この間に他線との連絡を図るために天下茶屋・天王寺間の天王寺支線が1900年(明治33)10月に完成した。また本線の複線化は、1892年(明治25)12月難波・住吉間が開通していたが、1907年(明治40)までに浜寺公園まで延長される。さらに1907年(明治40)8月難波・浜寺間の電化が成功した結果、今宮戎・萩之茶屋・玉出、やや遅れて岸之里、粉浜の諸駅も生まれ区勢の発達に大きな影響を与えた。他方もともと高野鉄道株式会社によって創設された南海高野線は、1898年(明治31)1月堺東・汐見橋間の工事を竣成していたが、電車併用運転の開始は1912年(明治45)10月のことである。このほか1900年(明治33)9月大阪馬車鉄道株式会社により天王寺西門前・東天下茶屋間に南海上町線の前身が誕生し、ついで1911年(明治44)12月阪堺電気軌道により恵美須町・堺市大小路間に南海阪堺線が開通している。

このような交通機関の発達と大阪市に近い地理的条件から、この地域には工場もつぎつぎと建設されていった。

とくに粉浜村の大阪合同紡績、津守村の尼崎紡績津守分工場はいずれも近代的工場として村内の開発の草分け的役割として村内の財政に大きな影響をおよぼした。

また、この時期には区内の宅地化も急激に進んだ。1910年(明治43)2月に今宮村において第一耕地整理組合の結成が認可され、1911年(明治44)4月にその工事が完成する。その区域は南海本線西側で西は南海高野線を境とし南は玉出町および皿池、北は梅通に至る区域で、この事業終了によって、梅・松・橘・桜・柳の各通りが生まれた。これに続いて1910年(明治43)11月第二耕地整理組合の成立が認可されたが、この事業の範囲は、東は南海本線、東北部は関西線、西北部は市群界である水路の南側をもって境とし、西は十三間堀川堤防際まで、南部は勝間村界および第一整理地区に至る広大な地区で、その完成をみたのは1920年(大正9)3月末だった。以上の耕地整理事業によって対象区域は宅地化され、大阪市の郊外として人口を吸収するようになる。この時期に各村は急激に人口を増加させたが、なかでも今宮村は、1900年(明治33)4月末の人口は850人にすぎなかったのが、1913年(大正2)には11,258人、1916年(大正5)には23,548人、1921年(大正10)には53,292人、その2年後には73,247人にまでその人口を増加させた。

大正時代の区勢、とりわけ今宮村東北部の発達に大きな影響を与えたもののひとつに、当時の天王寺村大字天王寺中の小字北、中、南堺口の耕地2万2600坪を画して設置された飛田遊廓の存在がある。もともとこの設置は、1912年(明治45)1月16日いわゆる「南の大火」によって難波新地の遊廓が廃止となり、営業者はその生業を失ったところからこの地を選定出願し、1916年(大正5)4月15日その許可をうけるに至ったものである。その経営については阪南土地建物株式会社を設立して、土地買収、整理、家屋建築を行い、1918年(大正7)6月に開廓式を挙げた。廓名を飛田といわれたのは、俗にこの付近を飛田と総称されたためで、1925年(大正14)3月末には妓楼179戸、抱娼妓2,056、芸妓25人におよび、松島とともに大阪有数の遊廓として繁栄し、廓外の大門通の商店街をはじめ、今池、萩之茶屋方面まで今宮東北部の繁栄に大きな影響を与えた。

1925年(大正14)の第二次市域拡張によって西成・東成の両郡44ヵ町村が一挙に大阪市に編入され、旧西成郡今宮町、玉出町、粉浜村、津守村の4ヵ町村をもって第一次西成区の成立をみた。大阪市区となつてからはぞくぞく市の新たな施設も設けられ、人口増加に対応して学校もつぎつぎ増設された。まず1925年(大正14)には市営今宮公益質舗、1926年(大正15)に市立今宮産院、1927年(昭和2)西成区役所の新築造成、1929年(昭和4)年市立今宮保護所並びに今宮改良住宅、粉浜公益市場、玉出市民館、1933年(昭和8)西成託児所など市社会保健施設が創設された。また学校についても1925年(大正14)10月津守第三、1927年(昭和2)4月今宮第六、同6月徳風勤労学校、1930年(昭和5)5月今宮第七、同5月東粉浜などの尋常小学校が新設された。1925年(大正14)国勢調査人口137,632人が1930年(昭和5)には167,879人、1935年(昭和10)203,530人と驚異的な増加振りを示しているところから見ても、従来の農地が宅地化して行く様子を押しはかることができる。

さらに1943年(昭和18)4月に大阪市は従来の15区制から22区制を採用し、それに伴って現在の西成区が成立した(第二次西成区)。この際の境界決定については、北部の浪速区とは関西本線、東部の阿倍野区とは上町稜線、南部は都市計画道路等の明確な区界とするよう努めた。このため住吉区から山王町一〜四丁目、天下茶屋一〜三丁目、松田町一・二丁目、聖天下一・二丁目が西成区に編入され、西成区からは辰巳通一・二丁目の一部、粉浜東之町一丁目・粉浜中之町一丁目・粉浜西之町一丁目の各一部を残した残部の津守町が住吉区に編入された。

第3節 多様な住民層の流入と定住

以上の明治末から大正期にかけての人口増加、区勢の発達に伴って、西成区には多様な住民層が居住するようになった。以下では、釜ヶ崎、被差別部落、在日韓国・朝鮮人、沖縄出身者のそれぞれについて西成区への定住化のプロセスを素描する。

（１）釜ヶ崎

江戸時代以来長町 6～9 丁目には木賃宿街が形成されていたが、明治末年の木賃宿立地規制及び第五回万国博覧会に伴う道路拡幅をはじめとする段階的・複合的な貧民の排斥によって、都市下層は釜ヶ崎へと移動することとなった。また、釜ヶ崎付近のマッチ製造会社「電光社」は、1901 年(明治 34)頃、工場の近くに職工長屋をつくり、当時は「電光社長屋」と呼ばれていたが、このことも釜ヶ崎に都市下層が集まる契機のひとつとなった。この地域には明治末年から木賃宿がみられたが、以上の過程を経た 1924 年(大正 13)には 34 軒が建ち並び、木賃宿を核に一大下層民街を形成していた。

米騒動(1917 年)の起点となった釜ヶ崎は以来新聞などで取り上げられるところとなり、1920 年代には数々の社会調査によって自明の存在となったが、戦前は「釜ヶ崎」あるいは「今宮」という名称で語られるのが通例であり、釜ヶ崎が「西成」と表現されることはなかった。なお、小字名としての釜ヶ崎は第二耕地整理事業の完了にともなって廃止されている。

（２）被差別部落

現在の浪速区と西成区にまたがり、かつては全国で最大規模の被差別部落といわれた「西浜」は、江戸時代には「渡辺村」と呼ばれ、その時代を通じて西日本の皮革産業の中心地として栄えた。1871 年(明治 4)に「身分解放令」が發布されると同時に、「斃牛馬処理の自由」が布告され、それまで部落民の特権であった皮革産業に、明治政府の保護を受けて育成された政商資本が参入してきた。しかし、これらの政商資本が様式の軍隊をつくるための軍靴・馬具・砲兵用具など新しい皮革製品の生産を中心としたのに対し、渡辺村では、明治以降、農村などの民衆のあいだに急速にひろまった草履や下駄、雪駄などを対象に仕事を続け、このため渡辺村の人口は 4,000 人を越えるように至った。

こうした西浜地区における人口増加と地区内の階層分化によって大正時代後半には周辺地区へと拡大し、西は十三間堀川をへだてて隣接する津守村の一部に、南は西浜地区に隣接する北開・中開・南開・出城あたりまでのびていった。さらに南の「赤壁」（鶴見橋北通り付近）にも多数の部落出身者が流入し、まさに「今宮町、中開・鶴見橋・釜ヶ崎その他には特殊部落民多数居住するも、その戸数明らかならず」という状況となった。1935 年(昭和 10)にはこれら「西成地区」（西成区内へ肥大化してできた部落出身者居住地域）では 3,088 戸、1 万 9,455 人もの多数の部落出身者が流入している。

（３）在日韓国・朝鮮人

1910 年(明治 43)の「韓国併合」以来、朝鮮半島に「東洋拓殖会社」をはじめとする日本の資本が流れこんだことが原因で、土地を失い、仕事を奪われて農村での生活が成り立たなくなった朝鮮人たちは、国内の別の土地に生活の場を探した。しかし、ソウルのような都市では、雑業への従事という底辺生活を余儀なくされ、「土幕民」と呼ばれるスラムでの生活となった。また、国外へ流出していく者も数多くあり、おもに北部の人々は、中国や旧ソ連へ渡っていく結果となった。一方南部出身者たちのなかには、玄界灘を渡って日本にやってくる人も多かった。1912 年(大正元年)以降、朝鮮総督府により朝鮮人の旅行証明制度が撤廃され、日本への渡来が自由になったのも渡日を加速させることになり、日本に居住する朝鮮人の数が増え始めた。1928 年(昭和 3)には西成区に 2,887 人(男性 2,352 人・女性 535 人)の朝鮮人が居住していたということが報告されている。当時の西成区の朝鮮人の主な仕事は、町工場の「職工」、なかでもガラスやメッキやゴムなど、熱や悪臭で体にきつい職業や、風呂屋の「三助」や「下足番」、「くず拾い」や商店の「小僧」などの職業だった。賃金は日本人の半分から 6 割という低賃金、そして長時間労働で、住環境も劣悪なものだった。1930 年代には「皇民化政策」と「強制連行」の時代を迎える。1939 年(昭和 14)に強制連行された朝鮮人の数は 70 万人とも 150 万人ともいわれており、大阪では軍需工場や避難のための地下壕の建設に朝鮮人労働者が使われた。

(4) 沖縄出身者

第一次世界大戦勃発によって、沖縄の産業界は一時的に活気づき、“黒糖景気”を迎えるが、大戦の終結とともに世界的な不況が沖縄にも押し寄せ、多くの企業が倒産し、失業者が続出した。そうして大正末期以降出稼ぎや移住がはじまり、職を求めて他府県へ移った沖縄出身者は、工業地帯の京浜、阪神、北九州などに集中していった。1920年(大正9)に急激に大阪に流入した沖縄出身者は、主に日雇労働と紡績業、零細規模の化学・雑工業に従事するようになる。1920年(大正9)、沖縄出身者たちは大阪市の各地で「沖縄村」と呼ばれる集団居住地域を形成するが、西成区においては今宮町に形成された。1920年代のスラム地域の形成・拡大にともない、沖縄出身者はその集団居住地域を形成する。さらに1930年代になると集住地域は拡大し、「同郷人」的な結合を強め、沖縄県人会の結成へとつながった。1930年代に入る重化学工業が沖縄出身者の雇用先として登場しはじめるなかで、沖縄出身者は定住化をすすめ、西成区の「沖縄村」に拡大をもたらす結果となった。沖縄出身者の“集合体”は、「同胞意識」を育て、1930年代頃から沖縄出身者が多数居住する大正区、西成区に同郷団体が相ついで結成された。1930年代半ばには大正区を中心として沖縄県人グループの連合体が発出する動きが出てくるようになり、大正区沖縄県人会が発足する。西成区でもこうした動きに影響され、県人会の組織化から生活改善運動へと発展する。この生活改善運動は、沖縄出身者が独自の文化をもっていることが差別されることにつながるという意識から、その文化からの脱却をはかろうという一面ももっていた。

第4節 戦後の地域社会

1940年(昭和15)には21万5,825人であった西成区の人口は、終戦後の1945年(昭和20)には8万8,054人に激減し、このうち現住戦災者は9,734世帯、2万9,918人で、世帯数では市内でもっとも多い数字を示していた。焼跡には各所に瓦礫で囲ったにわか作りの自家菜園や壕舎が見られた。西成区内では地下式49戸、半地下式11戸計82戸の壕舎があったが、そのうち66戸(82%)は電灯をもたなかった。

衣・食・住の窮乏のなかで、区内の復興は急速に進んだ。被災地に簡易住宅が建ち、復員軍人や、戦時の疎開者、集団疎開児童がまちに帰ってきた。1947年(昭和22)3月に、教育基本法、学校教育法が公布され、同年4月に新制中学として、第一(天下茶屋)、第二(今宮)、第三(成南)、1948年(昭和23)4月に第四中学(鶴見橋)が生れた。公共・公益施設では、今宮市民病院(1946年)、今宮市民館、西天下茶屋公設市場(1947年)、市立西成寮(1948年)、天下茶屋公園(1951年)、西成消防署(1953年)と相次いで整備され、1954年(昭和29)には岸里に西成区役所が完成し、1955年(昭和30)には人口は18万8,652人に増加していた。

戦後は、とくに西成区東北部の同和地区と釜ヶ崎(およびその周辺地区)において、地域社会の変動が顕著にみられる。とくに釜ヶ崎の動向は新聞の紙面に頻繁に現われ、「西成」差別の形成に直接的な関係をもつものと思われる。以下では、とくにこの2つの地域に焦点を合わせてみたい。

(1) 部落解放運動

西成区北西部においては、1950年代から部落解放運動が活発な動きをみせはじめる。戦後のこの地域(一般に「西成地区」と呼ばれた)の解放運動は、松田喜一の指導のもとで1949年(昭和24)末から展開された露天営業禁止反対闘争からはじまった。警察当局が露天営業を禁止するのならば、部落の街頭靴修理業者はそれに代わる生業補償を行うよう行政に要求した。その結果、これまで一般的な生業資金の枠内で部落民に融資されていたものを、部落に枠づけることに成功し、同年末、松田喜一の下に、西成区の靴修理業者が中心になって経済更正会を結成した。

1951年(昭和26)に松田喜一が府会議員候補として立候補したことをきっかけとして、西成地区では部落住民の生活要求に根ざした自主的な運動が開始される。同年4月には西成・浪速両地区の靴職人・同修理業者を集めて一

時は失敗に終わった経済更正会を再建し、生業資金獲得に成功する。

その後の解放運動の進展によって 1952 年(昭和 27)に大阪市は戦後初めての同和事業予算を組み、その結果、集会所設置の要求については、大阪府と市から環境改善事業施設費としてそれぞれ 25 万円ずつ計 50 万円の交付を受け、これに地元住民からの 50 万円の寄付を加えて総計 100 万円で、浪速区の栄小学校裏の古い製革工場を買収、改修のうえ、「文化会館」という名の集会所をもつことに成功した。

こうした活動を背景として、1953 年(昭和 28)には、松田喜一をはじめとして部落解放全国委員会西成支部を結成し、共同浴場建設の運動にとりかかった。そのためにまず、西成共同浴場利用者組合をつくり、署名運動を行い、4 千名余の協力を集めるとともに、一戸一日 5 円の積立預金を行った。そして、1953 年度に大阪市から 50 万円の補助金を得て敷地を購入、さらに翌 1954 年度に府と市から得た補助金 390 万円に銀行からの借入金 270 万円と地元組合員の積立金 28 万円を合わせて 738 万円で浴場を建設した。その結果、1955 年(昭和 30)5 月末に鉄筋コンクリート二階建ての「文化温泉」が完成し、7 月 20 日から営業を開始した。「文化温泉」の入浴料は大人 5 円、子供 3 円という安さであったので、地区住民から好評を博し、解放運動に対する地域の理解も深まっていた。

1957 年(昭和 32)から 1959 年(昭和 34)にかけて、とくに大阪市内の部落を中心につぎつぎと大衆闘争が広がっていくが、その火付け役となったのが西成・浪速の住宅闘争だった。最初に共同浴場建設用地として児童公園の名目で購入した出城 7 丁目の土地に、大阪府は釜ヶ崎の労働者のための宿泊施設を建設することを計画し、1956 年(昭和 31)に工事にかかりはじめた。これに対し解放委員会西成支部は即座に反対の闘いに立ち上がり、座り込み闘争によって工事を中止させた。しかし、1957 年(昭和 32)末には、今度は大阪府が道路拡張を理由に住民の立ち退きを迫ってきた。住民はこの問題を松田喜一にもちかけ、どうすれば立ち退き料を増額させることができるかを相談した。これに対して、松田は、いくら補償金を増額させ移転延期を図っても、問題の根本的な解決にはならない、むしろ「健康で文化的な生活」をきちんと行政に保障させることが本筋ではないかと説得、住民もこれに納得し、同じく立ち退きを迫られた浪速区栄町の住民と手を組んで運動を組織しようということになった。こうして、当初の立ち退き反対の運動はこの時点で住宅要求闘争へと転換し、1957 年(昭和 32)12 月 2 日に開かれた住宅要求決起大会によって西成・浪速住宅要求期成同盟の結成が決議された。

松田喜一の指導の下に西成・浪速住宅要求期成同盟が粘り強く展開した運動は、その間の大阪府連、府・市同促協(同和事業推進協議会)の住宅要求と相俟って、ついに効を奏した。1958 年度の大阪市の同和事業予算は前年度の 1500 万円から一躍 1 億 3100 万円と増額され、そのうちの 84%が改良住宅建設費に当てられることになった。その結果、西成区においては出城 80 戸の住宅経費が計上されるところとなった。その後も生活改善に向けて闘争を勝ち取っていった。

(2) 釜ヶ崎

以上の部落解放運動の動きは新聞記事等のメディアにほとんど登場してこない一方で、国道 26 号線を挟んで釜ヶ崎一帯の西成区東北部の動向は、1950 年代後半から紙面に頻繁に現れ、それはしばしば差別的な表現を伴うものだった。これらのメディアの表象は「西成」差別の形成に対して、直接的な意味合いを持つものと考えられる。以下では、とくに戦後の釜ヶ崎の変容をメディアがどのように表象してきたのか、という点に着目する。

釜ヶ崎も戦災により大きな被害を受け、東入船町と西入船町の一帯は四恩学園と今宮住宅を残して焦土と化し、戦災復興土地区画整理事業の対象となった。1947 年(昭和 22)の記事には「いま土建業者の手で新しい住宅、商店街が計画されている、ぼつぼつ建ち出した一戸四万三千円の住宅や店舗付分譲住宅はどんどん売れていき、やがて“スラム釜ヶ崎”の名残も見られなくなるだろうと、消えゆく名物にこれはうれしい市民の顔」との記述がみられる(『朝日新聞』1947 年 9 月 17 日)。しかしこの展望とは裏腹に、1959 年(昭和 34)には「東西入舟町、海道町、東萩町、甲岸町、東田町、山王町、松田町、今池町の釜ガ崎、地獄谷、ヤマといわれる町には安宿が百八軒」が建ち並ぶという戦前以上の規模で、釜ヶ崎は再生していたのである(『毎日新聞』1959 年 5 月 12 日夕刊)。まずはこの復興のプロセスを追ってみよう。

戦災を受け焦土となった釜ヶ崎には、終戦直後「省線関西線ガード下の七軒」の簡易宿が存在していたことが確認される（『朝日新聞』1948年7月12日）。この居住者は「そのほとんどが日雇労働者」であった。1950年（昭和25）に12軒みられた釜ヶ崎の「下宿」は、1955年（昭和30）には107軒を数え、大阪府下における集中率を8%から36%に増大させている。この間1950年代初頭には区画整理後の土地を買い取っての下宿営業が本格化しているが、1948年（昭和23）の旅館業法施行にともない営業制限が撤廃されていたため、「下宿」は戦前の西入船・東入船町を超えて拡大するところとなった。1952年（昭和27）の府保護課の「浮浪者」調査によると、西成区における木賃宿の宿泊者は既に2,023名322世帯となり、港湾労働者の多い港区の304名、長柄、吉山町を抱えた大淀区の254名を大きく上回っていた（『朝日新聞』1952年8月3日）。1950年代の日本橋周辺における「パタヤ」（廃品回収の寄せ屋）の集中、東萩町の阿倍野職業安定所西成労働出張所などの就労機会が存在していたことに加え、下宿やバラックの存在が、当時の都市下層に生活空間を提供していたことがうかがえる。

それでは、都市下層の集中地帯として再生しつつあった1950年代の釜ヶ崎を、メディアはどのように表象していたのだろうか。雑誌『大阪人』は1951年（昭和26）、1956年（昭和31）に大阪市内の各区を紹介するシリーズを連載している。まずは1951年（昭和26）の「各区めぐり・西成区の巻」を確認してみよう。そこでは形成されつつあった下層社会が「特殊地区」として既に差異化されて描写されていることが確認できる。

この境界の私娼の本家はいわゆる釜ヶ崎である。市電霞町の停泊所から南西へ関西線のガードを抜けて南海本線と阪堺線で囲まれた一画で、戦前は日本一のスラム街と称せられていたところ。戦災で様相を一変したとはいえやはり昔からの風習はすたれず、最近またも戦前の様相にたちかえりつつある。この人種は日雇労働者とパタ屋と行商人に限られ、私娼だけが飛田方面へ進出して戦前とおもむきをかえたただけだ。夜八時ともなれば一人では歩みにくい特殊地区である。戦前は盗俗街道と称せられ、三步入れば満足に出られなかったところで白昼でも自動車の運転手など通るのを嫌ったそう。かつては車の前に転んでニセ傷を作っては酒代をしぼるのを常套手段とした者もいたが、今なお地獄谷といわれる飲み屋の一角にそのくさみを見せることがあるそうだ。

ここでは、形成されつつあった下層社会が「特殊地区」として差異化されており、それが西成区を代表する風景として語られていることが注目される。

さらに5年を経た1956年（昭和31）の掲載記事「あの町この街・西成区」は、「阿倍野と西成の区界」で「美醜の境」をなす「貧困」と「犯罪」の空間として西成を描写する。ここでの記述は、「ヒロポン」、「売春」、「木賃宿」といったテーマは取り上げながら、山王町・萩之茶屋町一帯の景観・風景を記述し、さらにそれを記者の見聞きした情報によって補完するというスタイルがとられている。ところで、これらの釜ヶ崎の記述を構成する諸テーマが、まさに当時の社会問題の渦中にあるものとして紙面を賑わせていたことには注目してよいだろう。1954年（昭和29）、福島区でヒロポン中毒の青年が通行人5名をつぎつぎに運河に投げ込んで幼児3名の命を奪うという事件の発生を機に、警察の大規模な取締りや撲滅運動が起った。また、1956年（昭和31）には売春防止法が成立するが、同法定成立にむけて1955年（昭和30）夏から婦人団体を中心に強力な促進運動がおこなわれた。このように「市民社会」の秩序を回復する動きが巻き起こるその只中であって、「西成」はその鏡面として構成され、語られているのである。

この社会動向の背景をより深く探してみると、それが1950年代から1960年代にかけて展開された「新生活運動」という全国的な運動の文脈のなかに位置付けられることがわかる。新生活運動は、1948年に提唱された「新日本建設県民運動」を端緒とし、1955年（昭和30）に「新生活運動についての社会教育審議会答申」によって本格的な活動として組織された。この答申によれば、この運動は「真にみずからの生活を高め、幸福な暮らしのできる家庭・社会ならびに国家を築き上げるために、地域に、また職域に、共同して生活を改善し、因習を打破し、物質的にも豊かな生活を打ち立てようとする動き」を総称するものであるという。

大阪市における新生活運動は、「あらゆる場所、機会をとらえて、あらゆる手段、方法をつくして、市民ひとりひとりが公衆道徳を守る立派な市民になるようしむけることを根本」としながら行われた（『大阪市新生活運動の概

要』)。この運動は各種団体の提携のもと、『市政だより』、テレビ、ラジオといったメディアを通じて、また学校等の公的施設における会合を通じて、1950年代後半からは全市的な啓蒙活動として遂行されていた。

ところで、新生活運動において既に1950年代前半から「環境浄化」という題目が、主要な実践課題のひとつとして掲げられている。この題目が、一面では都市下層を排除する論理として語られていたことが、たとえば、1955年(昭和30)の『朝日新聞』市民投稿欄に寄せられたつぎのような市民の声からわかる。

問 さる十二日に、私は学友と遊びに来ました。まだ百貨店も開いていないので天王寺公園に行きびっくりしました。それは浮浪者(マ)が多くいることで、ベンチで休もうと思ったが、休むこともできない有様です。(中略)行楽シーズンに休み場所もなく、チリ箱もないようでは、私達の楽しい計画も壊されそうです。もっとよい公園にして下さい。

答 折角公園まで来てもらって、不愉快な目にあわせてお気の毒でした。これには浮浪者(マ)をなくすることが第一なのですが近くにこの人達の易い生活をまかなっている新世界や飛田があるため、どうしても一掃することはできません。(中略)しかし環境さえ浄化すれば少なくなるだろうというので、消極的なやり方ですが、浮浪者(マ)の多く集まる公園の日本庭園は、博覧会の開かれたのを機会に動物園の中に入れましたし、少しでも明るくしておけば、少なくなるので、昨年は公園内に投光器をつけたりしています。また戦後は浮浪者(マ)の家のようになっていた音楽堂も改装し、市音楽団が入っていますが、絶えず音楽会なども開くよう市教委と計画を練っています(中略)(大阪市公園課係長)(『朝日新聞』1955年6月17日)

この時期に野宿生活者が市民に敵対する存在として認識され、「環境浄化」の論理の下に排除されていたという事実は、「西成」差別を理解するうえで確認しておくべき重要なポイントだろう。

再び釜ヶ崎一帯の地域へと視点を戻そう。飛田を中心とする山王町一帯は、1950年代後半には問題地域として注目を浴びようになる。上述した売春防止法の施行をきっかけとして飛田本通を中心として暴力団と売春の取締りが行われたが、結果として周辺の山王町一帯や東田町において犯罪が目立ち始め、住民や商店会による暴力追放運動が展開された(「明るい町をわが手で 飛田本通青年会 暴力ポン引追放」『毎日新聞』1957年12月9日、「西成 暴力追放へ立ちあがる区民 26日に住民大会」『毎日新聞』1958年7月18日、「西成を明るい町に 住民三万が願いをこめて決起大会 “罪の芽をつもう”」『毎日新聞』1958年8月3日)。これら一連の運動は少なからず新聞等の主要なメディアの注目を集めるものだったが、やがて地域への眼差しは「暴力」あるいは「貧困」という逸脱性のスティグマを媒介として、山王町を越えて隣接の釜ヶ崎をも包摂するようになり、「西成」という表現がそれらを包括的に表現する用語となる。1959年(昭和34)5月には『毎日新聞』において「西成という町」と題して3回連続の連載が掲載されている。

「こわい西成」… “こわい”というのは区の東北角、山王町一帯を指す。山王町の山をとって付近を通称“ヤマ”と呼ぶ。南海天王寺線と平野線に囲まれた山王町、阿倍野区旭町、それに東田町の一部を加えた、ほぼ一[※]四方が問題の“ヤマ”なのだ。“ヤマ”の中心に当るのが旧飛田の特飲街。それをとりまいて戦後、赤線地帯ができあがり、さらに天王寺線を越えた西側には昔ながらの「釜ヶ崎」がひかえている。(『毎日新聞』1959年5月11日夕刊)

今までに見たように、西成は二つの顔を持っている。釜ヶ崎がスラム街とすれば、山王町、東田町は暴力で表されるだろう。どちらかといえば釜ヶ崎の方は生活力のない人たちが多く、他方は何をしてでも生きのびるグレン隊やヤクザが多い。しかし、この二つの町は、もちろん底辺で結びついていて、二つの性格がまじり合って西成という特殊な環境を作り出し、東京にも見られないものを持っている。(『毎日新聞』1959年5月12日夕刊)

言うまでもなくここに表現される「西成」は、もはや行政区画としての「西成区」ではない。「西成」という表現は、一定の地域を表象する言葉ではあるとしても、山王町や釜ヶ崎を核としながら「貧困」「犯罪」「汚さ」などで連想され

る地域を可変的なスケールで包摂する言葉として一人歩きをはじめているのである。

また、この時期には映画やドラマでも釜ヶ崎一帯は暴力や犯罪を表現するうえで格好の舞台として登場しているが、当時の新聞は暴力の舞台として描かれる「西成」に対する地元住民の抗議の声を次のように伝えている。

“マスコミが西成の悪を誇張することをやめてほしい”と大阪西成防犯協会=越原利七会長、六百人=では二十四日午後、在阪の映画、テレビ、ラジオ各社を役員が訪れ、協力の要望書を渡した。越原会長らの話によると、マスコミに描かれる“西成”は殺人事件の死体から着物がはがされたり、交通事故の自動車が警官の来る前に解体されて売りさばかれるなど全くの無法地帯になっている。このため区民の中には就職や結婚話がうまくまとまらなかった例もある。しかしこうした悪が行われているのはごく一部で、二十一万区民のうち、大半は健全な市民生活を営んでいる。しかも一昨年夏、暴力排除区民決起大会が開かれたのをはじめ、地元環境浄化対策委員会が結成されるなど、区民が明るい町づくりと、これまでの汚名返上に一生懸命努力している。マスコミも事実以上に西成を誇張しないで、区民の努力に協力してほしいというもの。（『朝日新聞』1960年12月24日）

このように釜ヶ崎が「暴力と貧困」の空間として注目を浴びるなかで、大阪市もスラム対策に着手しつつあった。社会福祉協議会は1960年(昭和35)に福祉地図を作成し、「西成・浪速地区」を「大阪市最大の問題地域」として捉えた。この対象地域は「萩の茶屋、山王、恵美、金塚、今宮、天下茶屋、飛田の地域と、栄、長橋、北津守、梅南、松宮、橘の地域」であり、「前者は東部地域、後者は西部地域」とされている。また、釜ヶ崎に対しては1959年から1960年にかけて大阪社会学研究会による調査が行なわれているが、そこでは釜ヶ崎一帯は、諸問題が複合的に現われる「解体地域」として定義された。これらの動きを受けて、1960年(昭和35)9月には大阪市の助成のもとに「関係諸団体が緊密な連携のもとに、地域住民の教養、文化の向上及び福祉の増進を図るための隣保事業を積極的に行い、もって地域の環境浄化を図ること」を目的として西成愛隣会が結成され、翌年3月には内職、生活及び学習指導を主な事業とする西成愛隣会館が開設された。

1961年(昭和36)8月1日、ひき逃げされた労働者に対する警察の対応に端を発し、3日間に及ぶいわゆる「釜ヶ崎暴動」が発生する。この「事件」を契機として、釜ヶ崎に対する行政対策は急展開をみせる。8月3日に開かれた大阪府知事、大阪市長、大阪府警本部による会議では、旧住吉街道を400メートル舗装し街灯30基を作る、愛隣会館の新築、低所得者向け住宅を作る、という3点が決定された。8月4日には府、市、府警本部による「釜ヶ崎連絡協議会」が発足するが、大阪市民生局長はここで建設予定の馬淵生活館に家族持ち世帯を収容する構想を発表している。1962年(昭和37)12月には「住宅に困窮する地区在住の家族もちの低所得者に宿所を提供し、自立更生を図る」ことを目的として定員70世帯の愛隣寮が開設された。続く1965年(昭和40)には「今池生活館」が事業を開始しているが、これも「家族もちの低所得所で住宅に困窮する者(定員30名)に宿所を提供し、その自立更生を図る」ことを目的とするものだった。このように家族持ち世帯に対しては市営住宅への上昇ルートが準備された一方、単身者に対しては「人口、家屋ともに過密化した地区の分散、縮小並びに港湾労働力の確保」を目的として「みなと宿泊所」が、1963年(昭和38)に開設されたほか、1962年(昭和37)4月には「宿泊者の生活内容をもっとよく知っている経営者にその生活相談と指導を委嘱すれば実効があがる」との見地から簡易宿所経営者を「生活指導員」に委嘱し、地域内における単身者の居住に関しては、簡易宿所経営者に任された。

また、労働対策として1961年(昭和36)9月に大阪府労働部西成分室が設置され、1962年(昭和37)には分室が廃止され財団法人西成労働福祉センターが設置された。西成分室及び労働福祉センターの設置は「暴力手配師の排除と労働者供給事業等職業安定法違反行為の締出しを図る」ことを目的とするものだったが、その職業紹介は形式的な業者登録のもとに行われる実質的には手配師を介在した「相対方式」であり、暴力手配師の組織にほとんど影響を及ぼさなかった。

以上に述べた一連の対策の実施と並行して、「西成」という表現はメディアによって頻繁に用いられた。たとえば初日の「暴動」から数日後には、つぎのような投書が寄せられている。

「西成の騒動」という見出しの記事が紙面をにぎわしましたが、事件の起こった釜ヶ崎は西成のほんの一部で、全部ではありません。なぜ釜ヶ崎事件とせず、西成事件と呼ばれたのですか。（『毎日新聞』1961年8月5日）

ここで問題とされている「西成事件」という表記は、既にみたメディアによる「西成」という言葉の慣習的な使用の延長上にあるものと考えられるが、この投書には、釜ヶ崎に対する語りが「西成」というスケールへと拡大することで区民が被る不利益が率直に危惧されている。事実、本報告書で明らかになったとおり、この時期を境として「西成」というイメージは幅広く流布され、再生産されるようになったのである。

1966年(昭和41)に起った暴動を契機として、行政対策はさらなる展開をみせる。まず6月には、府、市、府警本部による「愛隣地区対策三者連絡協議会」が開かれ、「(1)地区の名称を「愛隣」地区に改める、(2)中央関係省担当者の来阪(現地視察)を求め実効ある政策の樹立を要望する、(3)地区の総合実態調査を実施する、(4)府市懇談会(6月23日)の案件の中に『国などに対する要望事項』を入れる」ことが決定される。ここにおいて、東四条一〜三丁目・東入船町・西入船町・甲岸・海道・東萩・曳船・東田・今池・東今船・山王一〜四丁目(当時)にかけての地域は「あいりん地区」と命名されて行政対策領域として統一化され、メディアに登場する際にも「あいりん」の名称が用いられるようになった。

同年8月、建設省では第1回不良住宅地区改善懇談会が開かれ、釜ヶ崎に対する住宅地区改良法の適用が議論されていた。

橋本建設相の私的諮問機関である不良住宅改善談話会はさる25日、建設省で初会合を開き、東京・山谷、大阪・釜ヶ崎などのスラム街(不良住宅地区)一掃について対策をねりはじめた。折しも折り、27日夜、山谷でまたひとさわぎ。「五ヵ年計画で全国のスラム一掃」という建設相の構想をもとに、建設省は九月中に出される同談話会の答申を42年度予算編成の重点項目に取入れる方針で、全国約850地区、10万世帯のスラム街に、やっと本格的な改善策が講じられようとしている。（『朝日新聞』1966年8月5日）

また、労働省も1967年(昭和42)には「45年に大阪で開かれる万国博工事関係の労働力確保、港湾労働者の就労秩序を近代化するために、同地区にマンモス職安をつくり、総合福祉施設として「西成労働福祉センター」を建設する」ことを表明した（『朝日新聞』1967年1月5日夕刊）。

これらの方針は「あいりん総合センター」の建設として結実する。地元住民からの反発により、センターの位置決定は難航したが、1967年(昭和42)10月、センターの建設予定地が決定した。

このセンターの位置は、あいりん地区対策の方向にも大きく響くので、昨年夏から大阪府、市が協力して捜してきたもので、今後あいりん地区がかかえる労働、福祉面のすべての対策は、ここを基地として集中的に進められることになる。大阪府、市は労働、建設両省へも報告、釜ヶ崎の分散論を主張していた地元の市議らにも事前の了解工作をはじめた。（中略）。また建設省と大阪市は、このセンター建設を機に、あいりん地区一帯の住宅改良にも手をつけ、老朽建物は政府の住宅改良事業で建て直すなど、相次いであいりん地区対策を実行に移すことを考えている。（中略）。政府の労働福祉センターがあいりん地区に建設されることになったため、スラム対策としての「分散論」は姿を消すことになり、あいりん地区は「労務者の町」として整備されていく方向が決った。（『朝日新聞』1967年10月6日）

あいりん総合センターは1970年(昭和45)に建設され、建設予定地に居住していた世帯は改良住宅へと移転された。これと並行して、センター周辺に存在していた不法占拠のバラックも解体されていく。1967年(昭和42)6月には東四条1丁目今宮中学校公園予定地上の不法占拠(109戸)のうち20戸が全焼し、これを契機として区画整理局は「積極的に再建防止勧告を重ね同月20日金網柵設置を強行し約530㎡を確保」した。1974年(昭和49)には浪速区馬

湊町公園と周辺道路予定地上の 8,340 m²の不法占拠の除却、立退が完了した。その後 1976 年(昭和 51)には尼崎平野線架道橋工事が完成し、同時施行された水崎町架道橋工事も完了している。

その後 1971 年(昭和 46)に市立更正相談所が設置され、あいりん対策は一応の完成をみるが、行政対策の進展と並行して 1960 年代には簡易宿所は「いま名物のドヤ(簡易旅館)街が大幅に近代化し“デラックス”になってきている」と表現されるように、万博景気による労働者の流入を見込んで次々と単身者用の小部屋に建替えを行っていった。

表 6-1 にみられるように、1962 年時点では 3 畳以上の広さをもつ小間式が一般的であったが、1968、1969 年には内部を上下に区切った階層式がみられるようになっていく。1972 年には再び小間式が多数を占めるようになるが、これは階層式をさらに区切って個室化したものであり、定義も「1 畳以上」となっている。収容人員規模の推移(表 6-2)をみると、階層式が多数みられた 1969 年に最大の 24,500 人、平均収容人員 110.4 人を示していることがわかる。

表 6-1 簡易宿所の内部構造の変化

構造	1962年	1964年	1968年	1969年	1972年
小間式	171	171	156	120	206
階層式	21	40	77	71	1
大部屋式	12	9	—	—	—
小間式+階層式	—	—	6	29	9
小間式+大部屋式	—	—	2	2	4

出所:保健所資料より作成。

表 6-2 簡易宿所人員規模の変化

年月	簡易宿所数	最大収容人員	宿泊者実数	平均収容人員
1961年	170	—	12709	—
1964年	225	—	12356	—
1965年	255	18820	12855	73.8
1966年	266	20860	13921	78.4
1967年	244	20824	15073	85.3
1969年	222	24500	—	110.4
1970年	—	22896	—	—
1972年	220	22895	—	104.1
1975年	204	20941	—	102.7

出所:保健所資料より作成。

このように釜ヶ崎が日雇単身者の空間として純化されていくにつれ、家族連れ世帯の釜ヶ崎からの転出が相次いでいた。

西成署防犯コーナーの調べでは、同地区十三町内にある日払いの簡易宿泊所約 250 軒に宿泊している日雇労働者は、1945 年 5 月には一日約 1 万 2000 人だったのが、ことし 5 月にはついに 1 万 6000 人に達した。調査外の宿泊所も含めると、地区内の日雇労働者は 2 万 4000 人を超えると推定され、去年暮れほどの宿泊所もほぼ満員の盛況だった。このため、簡易宿泊所の三分の一は木造から鉄筋コンクリート建に改造、単身労働者向けの小部屋中心に切替え、収容能力を約 3000 人にふやしたが追いつかず、いまでも毎月 2~3 軒が“ビル式”に改造されているほど。これにつれ、これまで住んでいた木造の“大部屋”を出て、地区周辺の西成区松田町、浪速区、阿倍野区などに新設されるアパートへ移るものがふえ、(中略)、こんなに“転居”がふえたのは、労働者の賃金が上がり、まとまった金が手にはいるようになったのが大きく影響している。(『朝日新聞』1969 年 5 月 26 日夕刊)

この記事は、続いて「スラムと不安定な労働市場が混在していた同地区の性格が大きく変ったことを意味し、従来の福祉重点の対策を改めて、新しい視点からこの町を見直す必要がある」との関係者の見解を紹介している。このような過程を経て、釜ヶ崎は「スラム」から「寄せ場＝ドヤ街」へと「純化」されていったのである。

第5節 1970年代以降の「西成」

1970年代以降はメディアのなかで明らかな差別的表現は以前ほど用いられなくなる一方で、「ふたりっ子」や「ジャリンコチエ」など、現代社会のなかで失われつつある庶民性を、「西成」という空間に再発見する傾向もみられるようになった。しかし、たびたび発生する差別事件は西成区に対する差別意識が潜在的に根強く残存していることを示唆している。

1995年(平成7)に「鳥取県米子市結婚差別事件」、1996年(平成8)には「講談社『別冊フレンド』差別表現事件」という事件が起る。前者は、鳥取県米子市の市民が西成区の住民である娘の交際相手の身元調査を依頼する手紙を西成区役所に送ってきたというもので、その手紙には「西成区といえは色々な人種が集まっている所なので大変心配して…」という差別的な一節があった。事実確認の結果この米子市民は「相手が同和地区に住んでいるかどうかを調べたかった」ということが明らかになっているが、「いろいろな人種が集まっている」という一節は、西成区全体についての偏見が強いことも示している。また後者は『別冊フレンド』の連載マンガのなかで「大阪の地名 気の弱い人は近づかないほうが無難なところ」という注が打たれていたというものである。西成区在住の女子中学生がこれを見つけたことをきっかけに、西成区の各種団体からの抗議が起こり、これに対し講談社は「お詫びと連載中止の経過」を同誌に掲載し、西成区民の名誉回復措置をとるに至っている。

第6節 まとめ

以上の歴史分析から、「西成」差別の形成と展開について整理しておこう。

第一に明らかにされたことは、「西成」という地名は、10世紀にまでさかのぼる古い歴史を持つこと、また明治・大正時代にはいくつかの行政区域を含めて西成郡があったが、1925年の第二次大阪市域拡張を契機に西成区が成立したことであった。

第二に、明治末から大正期にかけての人口増加、区勢の発達に伴って、西成区には多様な住民層が居住するようになった。とくに、釜ヶ崎を中心にした都市下層住民、被差別部落民、在日韓国・朝鮮人、沖縄出身者などが、多く居住するようになったことが明らかにされた。もちろん、これらの人々は、それぞれが別な理由によって差別されていた。しかし、それらの問題は「西成」という言葉に集約されてはおらず、この「西成」にも差別的意味合いはなかったと思われる。

第三に、戦後になると、西成区の同和地区住民が部落解放運動を立ち上げ、失われていた諸権利の獲得に向けて活発な運動を展開した。なお、1953年に創設されたこの地域の解放運動の組織名には、部落解放全国委員会西成支部と「西成」という地名が刻まれた。

第四に、「西成」という言葉に差別的意味合いがまとわりつくのは1950年代からということであった。その直接的契機は、マイナスイメージで見られるようになった釜ヶ崎や山王など個々の地名のいわば総称として、マスコミによって「西成」という言葉が使われ、流布されたということであった。また、こうした動きの社会的背景として、

当時行政が主体となり広く市民を巻き込んで展開された「新生活運動」があった。この運動によって、生活規範や生活環境浄化の確立が盛んに語られる中で、人々の多様な暮らし方が否定され、野宿生活者は市民に敵対する存在と認識され排除されていったことも重要である。

第五は、その後の60年代以降の時期において、「西成」という言葉が、西成区内の個々の地域で生じた事柄・事象を表現するのに繰り返し使われたということである。この時期、行政主導によってあいりん地域が日雇労働者のまちとして確立していくが、これと平行して暴動が頻発し、これを「西成」の問題としてマスコミは盛んに取り上げた。そして、この過程で、第四・五章で明らかにしたことと重なるが、「西成」という言葉とそのマイナスイメージ、偏見・差別意識のすり込みが行われてきたと言ってよいだろう。

以上のように、戦前から西成区には被差別の対象となりうる社会集団が多く居住していたが、「西成」という言葉に差別的意味合いが含まれるようになったのは戦後のことであり、「西成」差別はまさに現代社会の中でつくり出された差別だといってよいだろう。

<参考文献>

大阪府西成郡役所編著（1915）：『西成郡史』

蒲原 隆次（1925）：『南大阪編入記念誌』

佐藤千代吉（1956）：『新生活建設の理念と展開 ―総合社会教育の立場から』、光風出版株式会社

大阪市新生活運動連絡会議・大阪市教育委員会（1962）：『大阪市新生活運動の概要』

大阪社会学会研究会編（1961）：「釜ヶ崎実態調査報告」、『ソシオロジ』第8巻3号

大橋 薫（1962）：『都市の下層社会 ―社会病理学的研究』

川端 直正編著（1968）：『西成区史』

水内俊雄（1982）：「工業化過程におけるインナーシティーの形成と発展」、『人文地理』34-5

木曾順子（1986）：「日本橋方面・釜ヶ崎スラムにおける労働＝生活過程」、『大阪・大正・スラム もうひとつの日本近代史』、杉原薫・玉井金五編

福原宏幸（1986）：「都市部落住民の労働＝生活過程 ―西浜地区を中心に―」、『大正・大阪・スラム もうひとつの日本近代史』、杉原薫・玉井金五編

大阪社会労働運動史編集委員会編（1987）：『大阪社会労働運動史（第3巻）戦後篇』

部落解放同盟西成支部編（1993）：『焼土の街から 西成の部落解放運動史』

本間啓一郎（1993）：「釜ヶ崎小史試論」、『釜ヶ崎 歴史と現在』、釜ヶ崎資料センター編

中根光敏（1996）：「“第一次暴動”を基軸とした釜ヶ崎をめぐる社会問題の構成―行政対策を中心として」、『解放社会学研究』第10号

水内俊雄（2001）：「大阪市大正区における沖縄出身者集住地区の「スラム」クリアランス」、『空間・社会・地理思想』第6号

加藤政洋（2001）：「木賃宿街「釜ヶ崎」とその背景」、『空間・社会・地理思想』第6号

第7章 西成区の社会経済的特徴

第1章から第5章において、「西成」に対する偏見・差別が今日存在し、かなりの広がりをもっていることを明らかにするとともに、それがどのような構造を持っているかを多面的に分析してきた。

これを踏まえて、第6章では、その歴史的な背景を明らかにした。すなわち、西成区において歴史に形成されてきた社会経済的構造を前提として、その地域で発生した出来事・事件、まちの様相、またそこで暮らす人々の属性があり、それらに対する市民の評価が累積されてくる。その累積された評価はマイナスイメージや差別的言説で語られるものであったが、それがマスコミや伝聞によって広められていったことによって、「西成」差別が形成されていったことが明らかにされた。

そして、こうしていったんできあがった「西成」へのマイナスイメージや差別的言説は、多くの市民そして西成区民の「西成」をめぐる行動様式を規定し、ひいては西成区の人口や居住環境さらに就業構造などにも一定の影響を及ぼしている。もちろん、地域の社会経済構造は、市民の持つイメージによってすべてが規定されるわけではない。しかし、居住場所の選好などにおいては一定の影響があり、西成区のようにマイナスイメージが極端に強い地域ではその影響は無視できないだろう。

本章では、そうした結果として、現在の西成区の社会経済構造がどのような特徴を持っているかを明らかにしたい。以下では、西成区の人口特性、産業構造、就業構造、所得と居住環境特性、最後に西成区住民の社会的特徴について分析を進めていこう。

第1節 西成区の人口特性

表7-1-1のように、2000年の国勢調査によれば、西成区の面積は7.35 km²、総人口約13万6810人であった。人口密度は1万8614人/km²と大阪市平均の1.6倍と極めて高く、大阪市全区の中で第2位となっている（ちなみに第1位は、城東区で1万8757人）。しかし、ごく最近まで1位の地位を占めており、きわめて密集度の高い地域である。

また、図7-1-1（165ページ）のように、西成区内地区別の人口密度をみると、西地区の密集度が低いのに対し、北東地区や中地区において密集度が高くなっている。これは後でみるように、西地区は製造業事業所が多いこと、北東地区・中地区では民営借家居住世帯の密集地域が多いことと重なり、西成区内の事業所立地や住宅特性を反映したものである。

年齢階層別人口構成では、西成区の65歳以上の高齢者は3万1797人で、人口に占める比率は23.2%と、大阪市平均17.1%よりも6.1ポイントも高く、大阪市内で第1位の高い水準にある。また、1995年～2000年にかけての高齢者の1年当たり増加率は5.3%と、大阪市の平均4.3%を大きく上回り、他の区と比較してもこれまた第一位の増加率であった。他方、15歳未満の児童比率8.7%は、浪速区7.8%に次いで低い値であった。このように、高齢化が最も進んでいる区である。

表7-1-1 西成区の人口構成：年齢階層別

2000年国勢調査結果

	総面積(km ²)	人口	人口密度 (1 km ² あたり)	年齢階層別人口割合(%)		
				15歳未満	15-64歳	65歳以上
西成区	7.35	136,813	18,614	8.7%	67.7%	23.2%
大阪市	221.27	2,598,774	11,744	12.6%	70.1%	17.1%

出所：大阪市『平成12年国勢調査 第1次基本集計結果 結果の概要』2001年10月。

表7-1-2は性別人口構成を示しているが、大阪市全体では女性の割合が高くなっているのに対し、西成区では男性の割合がきわめて高くなっている。また、同表ならびに図7-1-2（165ページ）で世帯状況を見てみよう。表7-1-2では、西成区の一般世帯数は約6万1599世帯であるが、平均世帯人員1.95

人と、大阪市平均 2.22 人より少なくなっている。これは、浪速区 1.71 人、中央区 1.91 人、北区 1.92 人に次ぐ低い値である。また、図 7-1-2 でも、中央区、北区などの都心部は平均世帯人員数が少ないことが確認できるが、周辺部では一般的に人員数が多い。こうした中で、浪速区、淀川区そして西成区は人員数が少なく特徴的である。中央区や北区などビジネス街のある区は単身の若い世代が多いためであるが、浪速区や西成区で単独世帯が多いのは、日雇労働者や単身高齢者が多いことと関係している。西成区内に限って一般世帯平均人員数をみると、東西の二つの地域で大きな相違がみられることも、見逃してはならないだろう。

表 7-1-2 西成区の人口構成：男女別と世帯数 2000 年国勢調査結果

	人 口			一般世帯数	一世帯当たり人口
	総数	男性	女性		
西成区	136,810 (100.0%)	78,399 (57.3%)	58,411 (42.7%)	61,599	1.95
大阪市	2,598,589 (100.0%)	1,272,846 (49.0%)	1,325,743 (51.0%)	1,149,047	2.22

注：人口の男女別内訳は速報値のため、表 6-2-1 と異なる。「世帯」には、上記の「一般世帯」のほか「施設等の世帯」がある。「1 世帯当たり人口」は、一般世帯人員数から算出したもので、決して人口総数を母数としたものではない。

さらに、人口が減少傾向にある中で、一般世帯数は微増傾向（1995 年 6 万 161 世帯に対し 2000 年 6 万 1599 世帯）にある。人口数は、戦後復興期には急増したが、1960 年をピークに減少傾向にある。しかし、一般世帯数は、逆に近年まで増加傾向を示してきた。それはまさに高齢の単身世帯の増加によるものであった。

1995 年国勢調査の結果によると、西成区約 6 万世帯のうち高齢者夫婦のみの世帯は、4,118 世帯で 1985 年に比べ 1.4 倍に増加した。また、ひとり暮らしの高齢単身者世帯は 7,893 世帯に及び、全世帯数の 13.1% を占めるとともに、増加傾向も著しく（1985 年 4,550 世帯に対し、95 年には 1.7 倍）、大阪市内各区のなかで最も高い割合となっている（第 2 位は、阿倍野区の 10.4%）。同様の傾向は、図 7-1-3（165 ページ）でいっそう鮮明に見て取ることができる。また、西成区内だけをみれば、この高齢単身者世帯は北東部を中心に集中している。これは、あいりん地域とその周辺地域に、こうした世帯が多いことを示している。

以上のことから、西成区人口には、高齢の単身男性が相対的に多いという特徴が鮮明に読みとれる。しかも、西成区の中でも北東部から中央部にかけてその傾向が著しい。これは、建設業で働く単身の日雇労働者が多く、しかもいくつかの日雇労働者調査によれば彼らの平均年齢が約 55 歳と相当高齢化していることと関連しているだろう。

第 2 節 産業構造の特徴

次に、産業構造の特徴を見ていこう。表 7-2-1 は、西成区及び大阪市に立地する事業所の数とそこに働く従業者数を示している。この表では、事業所数、従業者数いずれの構成比率をみても、西成区は大阪市全体に比べ、製造業、卸売・小売・飲食業の割合が高くなっている。これに対し、サービス業や金融・保険業の割合が低い。近年の日本の産業構造は、卸売・小売・飲食業やサービス業のウェイトが高まり、製造業比率が低下する傾向にある。これを前提に考えれば、西成区は、大阪市全体と比べて、いくぶん伝統的な産業構造が残っていることがうかがえる。

表 7-2-2 は、西成区と大阪市の産業別事業所規模を示している。公務を除くいずれの産業においても西成区事業所の小規模性がうかがえ、とりわけ卸売・小売業・飲食業、サービス業、不動産業、金融・保険業では大阪市平均の半分あるいはそれ以下の規模となっている。西成区には、小規模零細事業所が明らかに多いことがうかがえる。これに対し、公務は大阪市平均より多いが、これは行政上の課題が多いことによる

ためであろう。

表 7-2-1 大阪市と西成区の産業別事業所数ならびに従業者数

1999 年

	産業別事業所数(%)		産業別従業者(%)	
	西成区	大阪市	西成区	大阪市
製造業	1,223(13.91%)	31,672(13.23%)	10,351(21.28%)	366,685(15.80%)
建設業	390(4.43%)	12,477(5.21%)	3,601(7.40%)	172,294(7.42%)
電気・ガス・熱供給・水道	1(0.01%)	52(0.02%)	81(0.17%)	9,919(0.43%)
運輸・通信業	121(1.38%)	6,545(2.73%)	2,313(4.75%)	136,736(5.89%)
卸売・小売業・飲食業	4,551(51.75%)	113,198(47.28%)	19,008(39.08%)	857,621(36.95%)
サービス業	1,812(20.60%)	56,660(23.66%)	9,928(20.41%)	573,541(24.71%)
不動産業	609(6.92%)	14,519(6.06%)	1,279(2.63%)	63,596(2.74%)
金融・保険業	82(0.93%)	3,983(1.66%)	1,056(2.17%)	95,869(4.13%)
公務	6(0.07%)	291(0.12%)	1,027(2.11%)	44,438(1.91%)
その他	0(0.00%)	32(0.01%)	00(0.00%)	386(0.01%)
合計	8,795(100.0%)	239,429(100.0%)	48,644(100.0%)	2,384,681(100.0%)

出所: 大阪市『1999 年事業所・企業統計調査速報』

表 7-2-2 大阪市と西成区の産業別事業所の規模 1999 年

	事業所規模(平均)	
	西成区	大阪市
製造業	8.46	11.58
建設業	9.23	13.81
電気・ガス・熱供給・水道	81.00	190.75
運輸・通信業	19.12	20.89
卸売・小売業・飲食業	4.18	7.58
サービス業	5.48	10.12
不動産業	2.10	15.97
金融・保険業	12.88	24.07
公務	171.17	152.71
その他	0.00	12.06
全 体	5.53	9.96

出所: 大阪市『1999 年事業所・企業統計調査速報』

表 7-2-3 西成区の製造業

1998 年 12 月末現在 従業員4人以上の事業所

	事業所数 対市比率		従業者数 対市比率		製造品出荷額 対市比率	
	所数	%	人	(%)	百万円	(%)
なめし革・同製品・毛皮製造業	242	66.1	1,567	47.7	23,362	46.7
金属製品製造業	224	9.5	1,555	5.2	22,610	3.5
一般機械器具製造業	158	8.7	1,358	4.6	33,774	5.1
出版・印刷・同関連産業	76	3.6	501	1.3	7,740	6.1
家具・装備品製造業	56	15.6	265	7.1	2,546	4.3
食料品製造業	55	8.2	585	4.1	9,024	2.9
衣服・その他の繊維製品製造業	53	4.5	230	1.8	2,625	1.2
電気機械器具製造業	37	4.9	868	4.8	22,679	5.3
パルプ・紙・紙加工品製造業	35	5.5	286	3.3	3,150	1.7
鉄 鋼 業	33	10.4	383	4.1	15,320	3.7
化学工業	17	5.4	331	1.5	15,375	1.6
その他	166	14.4	1,519	16.1	30,81	16.3
総 計	1,152	8.4	9,448	4.1	189,036	3.2

次に、もう少し詳しく、西成区の産業構造をみていきたい。表7-2-3は、西成区の製造業の状況を示している。この表では、西成区で事業所数ならびに従業者数の多い業種を順に挙げた。これをみると、事業所数、従業者数、製造品出荷額いずれをみても、なめし革・同製品・毛皮製造業の数値が高く、大阪市全体に占める割合も高い。「西成は皮革のまち」と呼ばれるに相応しい実態が読みとれる。しかし、一事業所あたりの従業員規模は6.48人とやはり零細な事業所が多い。このほか、金属製品製造業や一般機械器具製造業も多いが、小規模な事業所が多い（金属製品製造業6.94人、一般機械器具製造業8.59人）。

表7-2-4は、西成区の卸売業・小売業・飲食業の状況を示しているが、西成区の特徴は、まず大阪市全体に比べ卸売業の割合が低く、小売業次いで飲食業の割合が高いことにある。これは、地域住民のニーズに応える商店が数多く存在することを示している。また、いずれの業種においても、商店規模が零細である。これらの特徴は、西成区の庶民的雰囲気を作り出す重要なファクターとなっていると考えられる。

表7-2-4 大阪市と西成区の卸売業・小売業・飲食業

1999年

	商店数		従業員数				商店規模	
	西成区	大阪市	西成区	大阪市	西成区	大阪市	西成区	大阪市
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人	人	人	人
卸売業	447(11.0%)	30,023(30.5%)	4,237 (26.9%)	394,389 (53.5%)	9.48	13.14		
小売業	2,313(56.7%)	42,696(43.4%)	7,816 (49.7%)	206,967 (28.1%)	3.38	4.85		
飲食業	1,316(32.3%)	25,658(26.1%)	3,669 (23.3%)	136,096 (18.5%)	2.79	5.30		
合計	4,076(100.0%)	98,377(100.0%)	15,722(100.0%)	737,452 (100.0%)	3.86	7.50		

次に、視点を変えて、西成区内5地区別の産業の特徴をみていきたい。表7-2-5は、それを示している。一言に西成区といっても、地区ごとに産業構造は大きく異なっている。あいりん地域を抱える北東地区では、製造業事業所の割合が著しく低いのにに対し、卸売業・小売業・飲食業事業所の割合が最も高くなっている。これは、簡易宿所住まいの日雇労働者たちが外食で食事をすませるケースが多いことや、彼らの日常雑貨や衣類・作業着を売る店が多いことによるだろう。卸売・小売・飲食店は、南地区でも多いが、こちらは住宅街居住者のニーズに応える商店が多い。西地区は、これらの地区と違って、製造業の割合が40.2%と高く、工業地域であることを示している。

表7-2-5 西成区各地区別の事業所数

1996年

	建設業	製造業	電気・ガス ・水道	運輸・ 通信	卸売・小売 ・飲食店	金融・ 不動産業 保険業	サービ ス業	公務	合計	
北東地区	112	165	0	18	1901	39	243	756	2	3236
%	3.4%	5.1%	0.0%	0.6%	58.7%	1.2%	7.5%	23.4%	0.1%	100.0%
北西地区	67	456	1	38	848	11	83	282	0	1786
%	3.7%	25.5%	0.1%	2.1%	47.5%	0.6%	4.6%	15.8%	0.0%	100.0%
中地区	52	223	0	18	565	16	72	275	1	1222
%	4.3%	18.2%	0.0%	1.5%	46.2%	1.3%	5.9%	22.5%	0.1%	100.0%
西地区	72	359	2	44	265	3	29	118	0	892
%	8.1%	40.2%	0.2%	4.9%	29.7%	0.3%	3.3%	13.2%	0.0%	100.0%
南地区	121	208	1	35	1288	28	267	571	3	2522
%	4.8%	8.2%	0.0%	1.4%	51.1%	1.1%	10.6%	22.6%	0.1%	100.0%
西成区	424	1411	4	153	4867	97	694	2002	6	9658
%	4.4%	14.6%	0.0%	1.6%	50.4%	1.0%	7.2%	20.7%	0.1%	100.0%

以上のように、西成区は、第一に大阪市の中でも比較的製造業の割合が高く、とくに皮革産業が盛んであること、第二に小規模零細企業が多いという特徴を持つ。さらに、第三に小売業や飲食店の割合が高いこと

から「庶民のまち」という社会環境を作り出していることがわかった。しかし、第四に、地区ごとに産業構造は大きく異なることも明らかとなった。

第3節 労働力人口と就業構造の特徴

表7-3-1、表7-3-2は、1995年国勢調査結果による西成区及び大阪市の労働力人口構成である。表7-3-1をみると、男性・女性いずれの労働力率——15歳以上人口に占める労働力人口の割合——も、西成区では大阪市よりもわずかに低くなっている。その理由は、高齢化が西成区では相当進み労働市場から退出する高齢者が多いためであろう。ただし、この表の男女合計では、逆に西成区では大阪市よりも労働力率が高くなっている。この原因は、表7-3-2をみてわかるように、西成区では15歳以上男性人口が女性人口を大きく上回っており、労働力率では男性が女性を圧倒的に上回っていることから、合計では、男性の高い労働力率に影響されたためである。

表7-3-1 大阪市と西成区の労働力人口 人(%) 1995年国勢調査結果

	男 女 合 計		男 性		女 性	
	西成区	大阪市	西成区	大阪市	西成区	大阪市
15歳以上人口	127,984	2,244,627	72,691	1,094,382	55,293	1,150,245
(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
労働力人口	84,107	1,450,314	58,012	882,461	26,095	567,853
(労働力率 %)	(65.7)	(64.6)	(79.8)	(80.6)	(47.2)	(49.4)
非労働力人口	43,134	774,359	14,095	198,873	29,039	575,486
(%)	(33.7)	(34.5)	(19.4)	(18.2)	(52.5)	(50.0)
区分不詳	743	19,954	584	13,048	159	6,906
(%)	(0.6)	(0.9)	(0.8)	(1.2)	(0.3)	(0.6)
労働力人口	84,107	1,450,314	58,012	882,461	26,095	567,853
(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
就 業 者	71,470	1,336,176	47,960	805,694	23,51	530,482
(%)	(85.0)	(92.1)	(82.7)	(91.3)	0(90.1)	(93.4)
完全失業者	12,637	114,138	10,052	76,767	2,585	37,371
(失業率 %)	(15.0)	(7.9)	(17.3)	(8.7)	(9.9)	(6.6)

出所:総務庁『大阪府の人口』、1998年。

表7-3-2 西成区の労働力人口 男女別構成 人(%) 1995年国勢調査結果

	西 成 区			大 阪 市		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
15歳以上人口	127,984	72,691	55,293	2,244,627	1,094,382	1,150,245
(%)	(100.0)	(56.8)	(43.2)	(100.0)	(48.8)	(51.2)
労働力人口	84,107	58,012	26,095	1,450,314	882,461	567,853
(%)	(100.0)	(69.0)	(31.0)	(100.0)	(60.8)	(39.2)
非労働力人口	43,134	14,095	29,039	774,359	198,873	575,486
(%)	(100.0)	(32.6)	(67.4)	(100.0)	(25.7)	(74.3)
区分不詳	743	584	159	19,954	13,048	6,906
(%)	(110.0)	(78.0)	(12.0)	(100.0)	(65.4)	(34.6)

出所:総務庁『大阪府の人口』、1998年。

表 7-3-1 では、労働力人口に占める完全失業者の割合、すなわち失業率は、大阪市の 7.9% に対し西成区は 15.0% とほぼ 2 倍の高さに上る。とりわけ、西成区男性の失業率の高さが際だっている。また、町別の比較を示した図 7-3-1 (165 ページ) をみても、いかに失業者が西成区に集中しているかがわかる。この高失業率の原因は、第一に建設業日雇労働者の失業が多いことが影響していると推測されるが、西成区内全体に広がっていることからその他の職業に従事している人の中にもかなりの失業者がいると考えてよいだろう。

表 7-3-3 は、西成区民と大阪市民の就業構造を比較したものである。これによると、西成区民は、大阪市民に比べ建設業就業者の割合が二倍以上と高く、西成区民就業者の構成をみても卸売・小売業、飲食店に次ぐ高い割合を占めている。これに対し、電気・ガス・熱供給・水道業、金融・保険業、公務などでは、西成区住民の就業者比率が低くなっている。いずれにしろ、建設業就業者の割合が高いという特徴が際だっている。

表 7-3-3 西成区民就業者（15 歳以上）の産業別構成 1995 年国勢調査結果

	西 成 区 人 (%)	大 阪 市 人 (%)
農業・林業	35(0.00)	1,319(0.10)
漁業	7(0.00)	100(0.01)
鉱業	2(0.00)	160(0.01)
建設業	17,637(24.68)	138,726(10.38)
製造業	11,879(16.62)	291,865(21.84)
電気・ガス・熱供給・水道業	140(0.20)	5,711(0.43)
運輸・通信業	3,679(5.15)	90,153(6.75)
卸売・小売業、飲食店	20,178(28.23)	392,120(29.35)
金融・保険業	1,282(1.79)	35,166(2.63)
不動産業	1,156(1.62)	28,243(2.11)
サービス業	14,988(20.97)	326,022(24.40)
公務(他に分類されないもの)	354(0.50)	17,848(1.35)
分類不能の産業	133(0.19)	8,743(0.65)
総数	71,470(100.00)	1,336,176(100.00)

出所：総務庁『国勢調査報告 第 6 巻 大阪府』1998 年。

次に、西成区民の従業地であるが、表 7-3-4 はそれを示している。これによると、「自宅外の自区で従業」している者は、西成区民の場合 36.56% と、大阪市民の平均 31.92% に比べ、4.64% も高く、勤務地の地元志向が強いように思われる。

表 7-3-4 西成区民就業者（15 歳以上）の従業地 1995 年国勢調査結果

	西 成 区 人 (%)	大 阪 市 人 (%)
自宅で就業	8,329(11.65)	159,510(11.94)
自宅外の自区で従業	26,127(36.56)	426,449(31.92)
市内他区で従業	27,030(37.82)	522,706(39.12)
府内他市で従業	6,564(9.18)	171,383(12.83)
他府県で従業	3,420(4.79)	56,128(4.20)
総 数	71,470(100.00)	1,336,176(100.00)

出所：総務庁『国勢調査報告 第 6 巻 大阪府』1998 年。

次に、西成区民の職業構造をみていこう。大阪市内町別の職業従事者比率の高さから、西成区の特徴を明らかにしていきたい。職業中分類から、技能・労務・運輸・通信業従事者、販売従事者、一般事務従事者、専門・技術職従事者そして管理職について、検討する。

図7-3-2（165 ページ）は、製造業や建設業の技能職・労務職従事者や運輸・通信業従事者の分布状況を示している。中心区とそれに連なる南北の区では少なく、東西の周辺区に多いという傾向が見られる。西成区は、この周辺区と同様の傾向を示している。なお、表7-3-3で見たように、西成区就業者には運輸・通信業従事者は少ないことからみて、西成区では製造業や建設業の技能職・労務職従事者がかなり多いと考えてよいだろう。

販売従事者（図7-3-3、166 ページ）では、技能・労務・運輸・通信業従事者とはまったく対照的な傾向が見られ、西成区でもこの職業への従事者は少ない。

事務従事者（図7-3-4、166 ページ）は、大阪市内に比較的まんべんなく分布しているが、北区、中央区、浪速区、住之江区、生野区そして西成区では、比較的少ない。

次に、専門・技術職従事者（図7-3-5、166 ページ）は、北東の各区——都島区、城東区、旭区、東淀川区——ならびに南東の天王寺区、阿倍野区、住吉区に多い。少ない区は、西部周辺区と東成区・生野区などである。西成区は、この少ない区のグループに属する。

最後に管理職（図7-3-6、166 ページ）は、都心にあたる北区、中央区、西区と天王寺区と阿倍野区に限られている。すなわち管理職は、職住一致の都心部か閑静な住宅地に居住する傾向が読みとれる。これに対し、周辺区ではかなり少なく、西成区もそのグループに属する。

以上のことから、西成区の労働力人口の特徴は、次のように整理できる。第一に労働力率は、高齢者が多いことから男女とも大阪市平均よりも低くなっている。ただし、男性労働力人口が女性労働力人口を大きく上回っていることから、合計でみると大阪市の平均よりも高くなっている。第二に、失業率が大阪市平均のほぼ二倍という高い値になっている。第三に、就業者の産業別構成では建設業のウェイトが大きい。第四に、従事地は地元志向が強い傾向がある。最後に、職業構造の特徴として、技能・労務従事者が多いことがあげられる。

さらに西成区の就業者像として抽象化して述べれば、西成区はホワイトカラー層よりも労働者層が多く、とりわけ建設業に従事する者が多い。また失業者も多い。しかも地元志向が強いことから、区内に多い零細事業所で働く者が多いといった特徴を持つ。

こうした特徴からはさらに、区民の中には所得水準の低く層が相対的に多いことが推測され、ひいては住宅のあり方にも影響を及ぼす。次に、これらの点の分析に移ろう。

第4節 所得水準と居住空間の特性

ここでは、世帯所得の階級分布と居住空間——住宅事情と公園などの住環境——について検討していこう。

表7-4-1は、西成区と大阪市全体の普通世帯の年間収入の階級別分布状況を示している。明らかに、西成区の方が低所得階層への偏りが大きいことがわかる。とくに、年間収入200万円未満の層は33.5%と、大阪市全体20.3%の1.6倍に達している。また、表7-4-2は、年間年収300万円以下水準の普通世帯の割合を区別に比較したものである。年間収入300万円以下の低所得世帯が少ない区は、都島区30.1%、鶴見区30.1%、天王寺区30.2%、城東区30.3%などである。他方、低所得世帯の多い区は、西成区が際だって多く、52.2%を占めている。それに次ぐのが、生野区39.8%、東淀川区38.4%、平野区37.9%、旭区37.2%などであった。このように、西成区は、大阪市の中で際だって低所得階層が多いということがわかる。

この所得水準は、当然のこととしてそれぞれの世帯の消費構造を規定するが、とくに家計支出の中で大きな割合を占める住宅費用に影響し、結果として住宅のあり方を規定していく。次にこの住宅事情をみていこう

表 7-4-1 普通世帯の年間収入階級の分布（1998 年）%

年間収入階級	大阪市	西成区
200 万円未満	20.3	33.5
200 ～ 300	15.2	18.7
300 ～ 400	14.5	15.4
400 ～ 500	12.5	11.6
500 ～ 700	14.6	10.2
700 ～ 1000	10.8	5.8
1000 ～ 1500	5.0	2.3
1500 万円以上	2.3	1.0
合 計 (%)	100.0	100.0
普通世帯総数	1,105,860	64,650

出所：総務庁統計局『住宅・土地統計調査報告』1998 年。

表 7-4-2 年間年収 300 万円以下水準の普通世帯の割合（1998 年）

%

	200 万円 未満	200～ 300 万	計		200 万円 未満	200～ 300 万	計
都島区	18.1	12.0	30.1	東成区	19.7	15.0	34.7
福島区	16.5	15.0	31.5	生野区	23.5	16.3	39.8
此花区	18.6	17.0	35.6	旭区	22.2	15.0	37.2
西 区	19.8	15.0	34.8	城東区	15.4	14.9	30.3
港 区	19.4	17.0	36.4	阿倍野区	20.9	13.1	34.0
大正区	18.8	15.8	34.6	住吉区	20.1	14.8	34.9
天王寺区	17.4	12.8	30.2	東住吉区	20.3	13.0	33.3
浪速区	21.1	13.9	35.0	鶴見区	17.0	13.1	30.1
西淀川区	19.2	11.3	30.5	住之江区	17.1	14.5	31.6
東淀川区	21.9	16.5	38.4	平野区	21.5	16.4	37.9
淀川区	16.8	16.4	33.2	西成区	33.5	18.7	52.2
北区	18.8	17.0	35.8				
中央区	18.1	12.9	31.0	大阪市	20.3	15.2	35.5

出所：表 7-4-1 と同じ。

住宅に住む一般世帯の一世帯当たりの延べ面積をみる（表 7-4-3）と、大阪市平均は 57.7 m²で、最も広いのが阿倍野区 69.4 m²、次いで天王寺区 65.9 m²である。これに対し、最も狭いのが、西成区で 44.5 m²、次いで浪速区、東淀川区である。

また、一人当たりの延べ面積をみると、広いのが中央区 31.5 m²、阿倍野区 30.4 m²である。これに対し、狭いのは、西成区が最も狭く 22.6 m²、次いで港区、住之江区と続く。

このように、西成区住宅の多くは、相対的に狭い居住空間しか確保できていない。

表 7-4-4 は、住宅の種類、構造を示している。住宅の種類では、「店舗その他の兼用住宅」が西成区の方が若干多いが無視してよい差であろう。すなわち、住宅の種類では、大阪市の他区と変わるところはない。

しかし、構造になると、西成区では、「木造住宅」の割合が大阪市全体に比べ圧倒的に多い。これは、同表の下段に示した建設時期の古い住宅が西成区に多いことの結果であろう。とくに、1970 年以前建設された家屋が西成区では 55%であるのに対し大阪市平均の 38%と、西成区の住宅の老朽化は歴然としている。

表 7-4-3 住宅に住む一般世帯の一世帯当たり延べ面積、一人当たり
延べ面積（狭い区） 2000 年（㎡）

	1世帯当たり 延べ面積	1人当たり 延べ面積		1世帯当たり 延べ面積	1人当たり 延べ面積
西成区	44.5	22.6	大正区	58.7	23.9
浪速区	46.2	26.9	平野区	59.6	23.9
東淀川区	49.6	23.8	天王寺区	65.9	23.9
港区	53.8	23.3			
住之江区	59.3	23.6	大阪市	57.7	25.7

表 7-4-4 住宅の種類・構造・建築時期別住宅数 西成区と大阪全市の比較

項 目		西 成 区 住宅数 (%)	大 阪 全 市 住宅数 (%)	西成区の比率 (%)
住宅総数		64,360 (100.0)	1,102,650(100.0)	5.84
住宅 種類	専用住宅	58,200 (90.4)	1,025,460(93.0)	5.68
	農林漁業併用住宅	0(0.0)	10 (0.0)	0.00
	店舗その他の併用住宅	6,160(9.6)	77,180 (7.0)	7.98
構 造	木造	27,270 (42.4)	288,610 (26.2)	9.45
	防火木造	7,840 (12.2)	105,190 (9.5)	7.45
	非木造	29,250 (45.4)	708,850 (64.3)	4.13
建 築 時 期	終戦前	6,000 (9.3)	59,480 (5.4)	10.1
	終戦時－1970 年	20,110 (31.2)	247,300 (22.4)	8.13
	1971－80 年	13,310 (20.7)	245,010 (22.2)	5.43
	1981－90 年	15,960 (24.8)	321,870 (29.2)	4.96
	1991－95 年	5,890 (9.2)	117,690 (10.7)	5.00
	1996－98 年 9 月	2,210 (3.4)	75,690 (6.9)	2.92

表 7-4-5 住宅の所有関係別一般世帯 1995 年国勢調査結果

	大 阪 市		西 成 区	
	世帯数	%	世帯数	%
住宅に住む一般世帯	1,058,155	97.6	59,300	98.6
持 ち 家	399,838	36.9	18,414	30.6
公営・公団・公社の借家	140,794	13.0	2,597	4.3
民 間 の 借 家	477,968	44.1	37,244	61.9
給 与 住 宅	32,974	3.0	616	1.0
間 借 り	6,581	0.6	429	0.7
住宅以外に住む一般世帯	26,301	2.4	861	1.4
一般世帯 合 計	1,084,456	100.0	60,161	100.0

表 7-4-5 は、住宅の所有関係別一般世帯数を示している。西成区では、「持ち家」比率と「公営・公団・公社の借家」比率が低く、それに対し「民間の借家」が 61.9%と高くなっている。これは、大阪市平均 44.1%に比べ、1.5 倍近くに当たる。この民間借家の中で老朽家屋の典型は、長屋建て住宅があるが、これは西成区全住宅の 23%を占め、大阪市全体の 16%に比べ、やはり際だって高い。この民間借家長屋での居住世帯の大阪市内における分布状況を示したのが、図 7-4-1（166 ページ）である。これによっても、西成区はこうした住宅の多い区であることがわかる。また、民間借家の中で老朽家屋のもう一つの典型は、一階建・

二階建の文化住宅や木質アパートなどであるが、図7-4-2（166 ページ）のように、これらの住宅に居住する世帯も西成区に多い。

このように、西成区の住宅は、平均的には狭小性と老朽性によって特徴づけられている。

他方、住環境を考えるひとつの指標として公園面積があるが、西成区は人口密度も高いことから、一人あたり公園面積は、大阪市平均の約3分の1にすぎない。したがって、住環境は良好とはいえないだろう。

このように、居住面積が狭いこと、老朽木造住宅が多いこと、さらに公園面積が狭いといった一連の住宅事情は、一方では、表7-4-6のように、火災発生件数の高さとなって現れ、市民生活が脅かされている。こうした居住環境の改善は、自ずと行政課題として取り上げられるべきものであろう。しかし他方では、こうしたまちのたたずまいが、西成区を昔ながらの雰囲気を残した「庶民的なまち」とイメージさせることに繋がっている。

表7-4-6 火災発生状況

	西成区	大阪市内 24 区平均	大阪市全体	対市比率 %
年間発生件数	160	71	1,704	9.4
1ヶ月あたり発生件数	13.3	5.9	142.0	9.4
焼損面積 (㎡)	1,367	648	15,558	8.8
損害額 (千円)	89,993	61,802	1,483,252	6.1
死者 (人)	7	1.75	42	16.7

ところで、このように住宅や住環境を見てみると、西成区のまちからイメージされる「庶民的」という言葉は、必ずしもプラスにのみ評価できるものではない。なるほど、現代のモダンな都市住宅に暮らす多くの市民からは、庶民的なまちは過去へのノスタルジーとしてあこがれの対象であり、今日では失われつつある地域コミュニティの良さを見直す側面を持つものとして理解されているのだろう。しかし、そこに暮らす当事者にとっては、その住環境を考えたとき、この庶民的なまちはプラスと言いがたくマイナス評価へと逆転していく。また、多くの市民もそうした現実を知る中で、マイナス評価を行う場合もある。このように、「庶民的なまち」という評価は、二律背反的な側面が含まれる。「庶民的で人情豊かな良い街だけれど、住みたくはない」に始まって、「私たちの近寄りがたいところ、異質な都市空間」として、意識化されていくのではないだろうか。

第5節 西成区住民の社会的特性

以上、西成区の人口、産業、就業構造そして住宅について検討してきた。これらは、市民が抱いている西成区に対するいくつかのイメージをまさに裏付けるものであった。しかし、「西成」差別を考えると、さらに具体的に差別の対象となりがちな住民の実態についても見ておく必要があるだろう。したがって、以下では、同和地区住民、外国人、そして日雇労働者と野宿生活者の実態について言及したい。

1990年の調査によると、西成区内同和地区の人口は約1万3000人、世帯数は約4700世帯であった。これらの世帯を常住・来住別に整理すると、「常住世帯」（世帯主夫婦、その父母または祖父母のうち、一人でも西成同和地区に生まれた世帯）約1700世帯（36%）、そうでない「来住世帯」が約3000世帯（64%）であった。この「来住世帯」のうち、前住地が部落であった世帯は約650世帯（14%）で、いわゆる「部落関係世帯」は合計で約2350世帯（50%）であった。それ以外の世帯もほぼ同数であり、いわゆる混住が相当進んでいる。

また、外国人人口も多い。1995年の国勢調査によれば、大阪市人口全体に占める外国人人口比率は3.9%であり、とくに外国人比率が高い区は、生野区23.5%、東成区10.1%そして西成区5.1%の順であった。西成区の外国人登録者数は、表7-5-1のように、2000年3月末現在7,821人で、そのうち在日韓国・朝鮮

人が 6,751 人、中国人が 580 人となっている。このように、西成区は、こうした人々の集住地区の一つとなっている。

表 7-5-1 西成区における外国人登録者数

2000 年 3 月 31 日現在

国名	人	国名	人	国名	人
韓国・朝鮮	6,751	ブラジル	130	イギリス	14
中国	580	アメリカ	29	その他	132
フィリピン	169	ペルー	16	合 計	7,821

また、西成区内では、校区が同和地区と重なり合う小・中学校に、在日韓国・朝鮮人の生徒が多いことから、同和地区とその周辺地区に多くの在日韓国・朝鮮人が居住していると言われている。1990 年同和地区調査では、同和地区内には暮らす外国籍人口は 2,231 人であり、西成区内外国人の約 25%が集中している。

このほか、沖縄出身者も、大正区に次いで多いと言われるが、2 世、3 世も含めた人口数については定かでない。このように、西成区では多様な社会的特徴を持った人々が暮らしている。

次に、多くの大阪市民一般、西成区民が「社会的に立場の弱い人々」として指摘した日雇労働者、野宿生活者についてみておこう。

西成区の北東に位置するあいりん地域、通称「釜ヶ崎」は、簡易宿所が林立し、全国最大の「日雇労働者の街」である。この地域に暮らす日雇労働者は約 2 万人と推計されている。また、それ以外の地域住民を含めれば、あいりん地域には約 3 万人が暮らしていると言われる。

あいりん地域の日雇労働者に対する求人は、1960 年代、70 年代には増加したが、1990 年代に入り減少傾向にある。とくに 90 年代末以降経済不況が長引く中で、一層深刻となっている。また、あいりん地域で求職活動を行う日雇労働者の多くが高齢化したこともまた、求人の減少に拍車をかけている。この結果、職を失った多くの日雇労働者が、路上生活・野宿生活へと追いやられている。表 7-5-2 のように、とりわけ 90 年代後半以降、野宿生活者が急増してきた。

表 7-5-2 西成区の野宿生活者数の推移（夏期定期調査時の人数）

年	人数	年	人数
1992 年	420	1996 年	330
1993 年	320	1997 年	580
1994 年	640	1998 年	770
1995 年	250	1999 年	1,190

表 7-5-3 大阪市内野宿生活者数（1998 年調査）

区名	野宿生活者数	区名	野宿生活者数
阿倍野区	421	都島区	134
住之江区	174	東住吉区	358
西区	157	北区	1079
西成区	1910	淀川区	143
中央区	1117	浪速区	1585
天王寺区	1084	その他 13 区、計	498
		合 計	8660

出所：大阪市立大学都市生活問題研究会『大阪市における野宿者概数・概況調査』1998 年。

表 7-5-3 は 1998 年の大阪市内野宿生活者調査の結果であるが、これによれば大阪市内では 8,660 人の野宿生活者が暮らし、区別にみれば西成区が最も多く、1,910 人で大阪市全体の 22.1%を占めた。これら野宿生活者は同時に失業者であることが多いが、先の表 7-3-1 でみたように、西成区の失業率を高くして

いる一つの要因として、こうした日雇労働者の求職難や野宿生活者の多さをあげることができるだろう。

また、表 7-5-4 は、西成区内の野宿生活者数を示しているが、西成区内では、西成区東北部に位置する花園北、萩之茶屋、山王の 3 地区合計で 1,127 人と、区全体の 59.0% が集中している。その他、出城、津守 1 丁目も西成区北部に位置している。

表 7-5-4 西成区内野宿生活者数（1998 年調査）

地名	野宿生活者数
花園北	329
山王	155
萩之茶屋	643
出城	107
津守 1 丁目	254
その他の地区、計	422
西成区、合計	1910

出所：大阪市立大学都市生活問題研究会『大阪市における野宿者概数・概況調査』1998 年。

このように、西成区では、実際に社会的に弱い立場にある日雇労働者、野宿生活者、そしてすでに指摘したように高齢者などが多く暮らしている。しかも、これらの人々が西成区北東部とその周辺地区に集中している。こうした北東部への集中は、日雇労働者の求人求職の拠点である西成労働福祉センターがそこに位置し、野宿生活者もその周辺地域へと広がっているためである。しかし、この地域は、同センターのすぐ北にある新今宮駅（JR 線と南海線の乗換駅）から直接に彼らの日常の一駒を垣間見ることができる位置にあり、多くの市民は自分たちの暮らし方とは異質な人々を目にすることになる。

日本の社会構造の中にあって、ややもすると差別の対象になりがちな人々が西成区に多く暮らしていることを明らかにした。しかも、忘れてはならないのは、第一に、こうした何らかの社会的特性を持った人々の多くが西成区に暮らしている背後には歴史的経緯があるということであり、第二に、彼らにとってはすでにこの地が「生活の拠点」となっているということである。

第 6 節 生活保護

このように、西成区に社会的に差別の対象となりがちな人々が多いことの一つの結果として、貧困問題がある。日本では、この現状を把握するには生活保護受給率を比較する以外にない。一般に生活保護受給の資格審査はきわめて厳しく、法律に照らせば野宿生活者のほとんどが受給できるはずであるにもかかわらず適用していないのが現状である。こうした留保を念頭に置きつつ、西成区的生活保護の現状を見ていこう。

人員数でみた生活保護率は、全国的には 10% 弱で推移し、大阪市全体でも 1998 年までは 20% の水準であった。しかし、大阪市の場合 1999 年以降緩やかに上昇しはじめ、2001 年には 27.1% にまで達した。この大阪市の数値の上昇は、西成区や浪速区での数値の上昇に影響されたものである。

西成区では、1993 年以降生活保護の被保護が急増しており、とりわけ 1999 年以降の上昇傾向は著しいものがある。被保護人員の保護率の推移で見ると、80 年代後半から 1992 年頃までは 50% であったのが、その後上昇に転じて 1999 年には約 86% へと上昇し、2001 年には 116.7% に達した。

このように生活保護受給者が西成区に集中したのは、「西成」差別の一つの結果であると述べるのは早計だろうか。

これについては後述するとして、もう少し詳しく生活保護の現状をみておこう。2001 年の大阪市生活保護の現状を示したのが、表 7-6-1 である。これをみると、2001 年 4 月には西成区の被保護世帯数は、大阪市立更正相談所分を含めて 16,947 世帯で、これは大阪市全体の被保護世帯の 31.6% に相当する。また、被

保護人員数は、同じく大阪市更生相談所分を含めて 18,902 人で、大阪市全体の 26.8%を占めた。人員の保護率では、西成区は 116.7‰で、大阪市平均 27.1‰の 4.3 倍となっている。また、二位の浪速区 57.77‰と比べても二倍もの大きな差がある。

表 7-6-1 大阪市内各区分生活保護実施状況

2001 年 4 月現在

	被保護世帯		保護率(‰)			被保護世帯		保護率(‰)	
	世帯数	人員数	世帯	人員		世帯数	人員数	世帯	人員
北 区	1,336	1,560	28.1	16.9	生野区	2,521	3,409	42.3	24.3
都島区	1,312	1,626	30.2	16.6	旭 区	1,507	2,173	34.1	22.0
福島区	370	468	14.6	8.3	城東区	1,332	1,893	19.4	12.0
此花区	976	1,355	35.9	20.9	鶴見区	790	1,273	20.0	12.4
中央区	1,054	1,164	35.7	20.8	阿倍野区	1,356	1,743	29.7	16.7
西 区	399	527	13.0	8.2	住之江区	1,893	2,687	34.8	19.9
港 区	1,547	2,127	40.8	24.5	住吉区	3,267	4,842	45.2	30.1
大正区	966	1,289	31.3	17.3	東住吉区	2,471	3,403	41.1	24.5
天王寺区	825	993	30.5	16.8	平野区	3,530	5,637	43.4	27.9
浪速区	2,250	2,886	75.7	57.7	西成区	14,001	15,956	185.9	116.7
西淀川区	1,033	1,428	26.5	15.4	23 区計	50,756	67,492	43.3	26.0
淀 川区	1,720	2,383	21.3	14.6	更正相談所	2,946	2,946		
東淀川区	3,252	5,263	36.8	28.8					
東成区	1,048	1,407	30.4	17.9	総計	53,702	70,438	45.8	27.1

表 7-6-2 西成区生活保護の近況

	2000 年 4 月	2001 年 4 月	1年間の増加倍率
世帯数	11,635	14,001	1.20
人数	13,408	15,956	1.19
保護率	96.9‰	116.7‰	1.20
世帯別構成	11,635(100.0%)	14,001(100.0%)	
高齢世帯	6,950 (59.8%)	8,670 (62.0%)	1.25
障害疾病世帯	3,895 (33.5%)	4,504 (32.3%)	1.16
母子世帯	273 (2.3%)	317 (2.3%)	1.16
その他の世帯	517 (4.4%)	510 (3.5%)	0.99

表 7-6-2 は、西成区の生活保護受給世帯の構成を示している。西成区は、被保護世帯に占める 65 歳以上の高齢者世帯の比率も高く、2001 年には 62.0%にまで達した。5 年前の 1996 年 12 月当時の 52.6%に比べ 9.4%も急増した。

次に地区別被保護率をみると、表 7-6-3 の通りである。北東地区に位置する今宮、山王、萩之茶屋、天下茶屋、北西地区に含まれる長橋、松之宮、中地区の弘治などでは、被保護率が著しく高くなっている。

このような地域別相違の要因は、一つは北東部に日本最大の日雇労働者のまち「あいりん地域」が存在するためである。同地域では、日雇労働者の高齢化が進み、またバブル経済崩壊以降の不況の中で日雇労働市場での雇用が減少し、なかには野宿生活に陥る者も多く、また生活保護の対象となる者も多い。もう一つは同和地区をはじめとしていくつかの地域で低家賃住宅が密集して存在するため、さまざまな生活困窮要因を抱えた世帯が流入し生活保護の受給にいたる傾向が強いためである。

表 7-6-3 地区別保護率の状況(%) 2001年4月1日

地区名	保護率(%)	地区名	保護率(%)
今宮	138.6	北津守	61.1
山王	165.5	梅南	95.0
飛田	75.2	橘	86.2
萩之茶屋	139.0	岸里	73.5
弘治	132.1	千本	68.5
天下茶屋	119.0	玉出	53.3
長橋	121.1	津守	32.9
松之宮	123.6	南津守	46.1
		区全体	109.5

表 7-6-4 は、西成区の行旅病人数、行旅死亡人数を示している。行旅病人の取扱件数は、大阪市内総数の約半数を占めている。また、大阪市内行旅死亡人のうち 90%弱があいりん地域で発生していると言われる。2000 年度(2000 年 4 月～2001 年 3 月末)の行旅病人(緊急要保護患者)の取扱件数は 8,500 件で、うち保護適用件数 7,522 件であった。発生件数、保護適用件数とも年々増加を続けており、高齢、障害、傷病等で働けなくなった日雇労働者がほとんどで、取扱件数の 84%があいりん地域内で発生している。

この保護適用者を年齢階層別にみると、30歳未満が 1.2%、30歳代が 6.3%、40歳代 19.0%、50歳代 40.7%、60歳代 26.9%、70歳以上 5.9%であった。このように、中高齢者の割合が高くなっている。

また、行旅死亡人数は、減少傾向にあるが、これは救急搬送の体制が整備されてきたこと、またボランティア団体による夜回りの体制などが充実してきたことによる。しかし、依然として多いと言えよう。

表 7-6-4 西成区における行旅病人・死亡人数の推移

	行 旅 病 人			行旅死亡人
	あいりん地域	その他の地域	合 計	
1989 年 4 月-1990 年 3 月	5,764(87.9)	792	6,556	89
1992 年 4 月-1993 年 3 月	6,551(87.5)	939	7,490	102
1995 年 4 月-1996 年 3 月	7,483(87.9)	1,034	8,517	58
1998 年 4 月-1999 年 3 月	8,046(85.3)	1,392	9,438	34
1999 年 4 月-2000 年 3 月	6,633(85.2)	1,151	7,784	36
2000 年 4 月-2001 年 3 月	7,140(84.0)	978	8,500	不明

表 7-6-5 身体障害者手帳保有者数 2000 年 3 月 31 日現在

	大阪市(人)	西成区(人)	対市比率(%)
視 覚	9,098	764	8.4
聴 覚	8,099	721	8.9
言語 障害	1,420	83	5.8
肢体不自由	47,583	3,641	7.7
内 部	18,946	1,288	6.8
合 計	85,146	6,497	7.6
合計の全人口 に占める割合	3.41%	4.75%	

表 7-6-5 は、西成区と大阪市の身体障害者手帳保有者数である。この表をみてわかるように、手帳保有者の全人口に占める割合は、西成区は 4.75%と、大阪市 3.41%に比べ 1.4 倍となっている。この要因は、高齢者に障害を持つ人が多いことから、高齢者人口の多い西成区ではおのずと身体障害者手帳保有者比率も

高くなる傾向があるからである。

このように、西成区は、同和地区住人、外国人、沖縄出身者など社会的特徴を持った人々が多く暮らしている。また、日雇労働者、野宿生活者、生活保護受給者、福祉の課題を持つ高齢者など社会的援護を必要とする多くの人々が暮らしている。これらの人々への行政の対応が求められている。

第7節 「西成」差別と地域の社会経済的特徴

以上、西成区の人口特性、産業構造、労働力人口、所得水準と居住空間の特性、住民の社会的特性そして貧困問題について言及してきた。これらの点について再度整理をしておきたい。

第一に、西成区人口の特徴として、人口密度が高いこと、また高齢者や男性が相対的に多いといった特徴を持っている。これは、区内に建設業で働く日雇労働者が多く、しかも彼らの多くが高齢化していることに関連している。

第二に、西成区の産業の特徴として、皮革関連産業といった伝統的産業が色濃く残っていること、また産業構造それ自体も従来型であること、そして小規模企業や商店が多いといった特徴を持っている。こうした特徴は、このまちが大きな変容を被ることなく今日に至っていることを示しているとともに、「庶民のまち」の雰囲気は今も存在していることを示している。

第三に、労働力人口では、男女いずれも労働力率が高く、同時に失業者が多いといった特徴を持っている。これは、高齢者が多いにもかかわらず所得を得る機会を求める者が多いということ、しかしそれは容易ではないことから失業者が多いという構造となって現れている。こうした労働力人口の特徴は所得水準を規定するが、西成区民の中には低所得水準世帯がきわだって多いことがわかった。また、就労先として建設が多く、相対的に地元志向が強いという構造も明らかとなった。こうした労働力の特徴は、それぞれの所得水準とそれによって得られる住宅にも大きく影響する。

したがって第四に、西成区民の中には低所得水準世帯がきわだって多いことがわかった。また、住宅をみると、狭小性、老朽性、居住環境の劣悪さが目立っている。また、公営・公団・公社等の借家の少なさは、行政施策が充分に実施されていないことをもまた、示しているだろう。

他方、第五に西成区民の中には、同和地区住民、外国人、高齢者、日雇労働者そして野宿生活者といった社会的に差別されがちで不利益をこうむる可能性の高い人々——いわば社会的に排除されている人々——が多いことが明らかとなった。とくに、西成区北部のあいりん地域とその周辺地区の人口・社会的特性はこうした人々によって色濃く特徴づけられている。

第六に、この結果の一つが生活保護受給者の増加という貧困層の滞留につながっていることもわかった。西成区の特徴は、一つは日本最大の日雇労働者の街と言われる「あいりん地域」と同和地区を抱えている点である。もう一つは、多くの低家賃住宅が存在するため、様々な生活困窮要因を抱えた世帯が流入し、生活保護受給に至る者が多いということである。とりわけ、あいりん地域日雇労働者の高齢化が進み、バブル経済崩壊後の長期にわたる不況により日雇労働市場の規模が縮小し、これらの労働者の生活を直撃した。その結果、生活保護受給への要望が急激に増えるとともに、その施策から漏れた多くの者が野宿生活を余儀なくされることになった。しかも、こうした野宿生活者や生活保護受給者は、あいりん地域だけでなく、西成区全体に広がる傾向が見られた。

西成区の社会経済の特徴は、以上のように整理されるだろう。しかし、本章の目的はあくまで「西成」差別との関連を問うことであった。したがって、これらの特徴を再度その視点から論じていく必要がある。この点を整理しよう。

第一に、西成区には、あいりん地区を中心に野宿生活者、日雇労働者、生活保護受給世帯などの社会的に困難を抱えた人々が多く住んでいる。しかも、経済不況の深刻化や高齢化に伴って野宿生活者や生活保護受給世帯は西成全区へ広がる傾向さえ見られる。これらの現象は、あいりん地域への「こわい」イメージが西成区内の他の地区への広がる可能性を意味している。

第二に、西成区内には小規模企業や小売店舗また老朽化した木賃アパートが多く、下町の伝統的な街

並みが多く残っている。これらの事象は、西成区の都市空間が低所得層や社会的困難を抱えた人々にとって相対的に住み良いことを意味し、同時にこうした人々が多いことに対応した産業特性、就労機会、消費財供給構造や住宅が増えるという相互依存関係にあることを示している。その結果として、西成区は社会的に排除されてきた人々を多く受け入れることになった。戦前では、同和地区住民や外国人そして広く低所得層が多く流入していたし、戦後からは日雇労働者が増加した。そして、近年では野宿生活者や生活保護受給世帯が増加している。

第三に、こうした現象を総合的にみた場合、二律背反的な現象が生じている。すなわち、一方では「西成」というまちは、社会的困難を抱えた人々に対し「やさしいまち」であることを意味しているが、他方で、そうした人々の存在が肥大化することによって、市民の「西成」に対するマイナスイメージがさらに増幅されることにつながりかねないということである。

しかも第四に、公営・公団等の借家比率の低さ、失業率の高さや野宿生活者の滞留などにみられるように、行政施策の不十分さが、さらに社会的に差別される可能性のある人々をそのまま放置している現実が明らかとなった。これらは、いったん出来上がった「西成」に対するマイナスイメージをさらに助長させる可能性もある。

大阪市、各区の位置

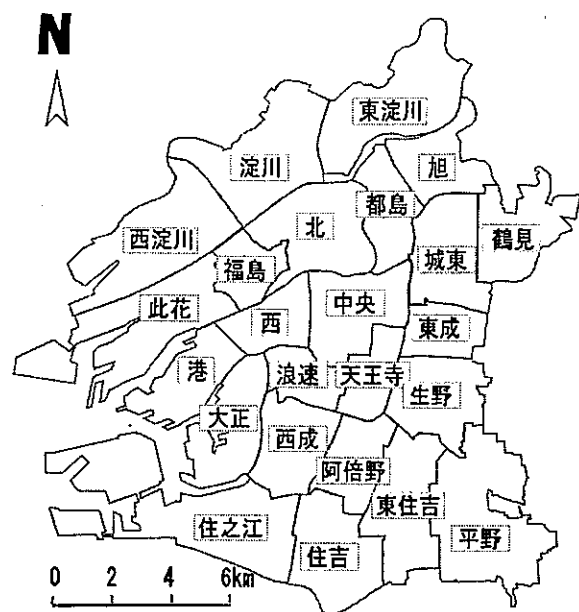


図7-1-2
一世帯あたりの世帯人員数
大阪市内の町別比較

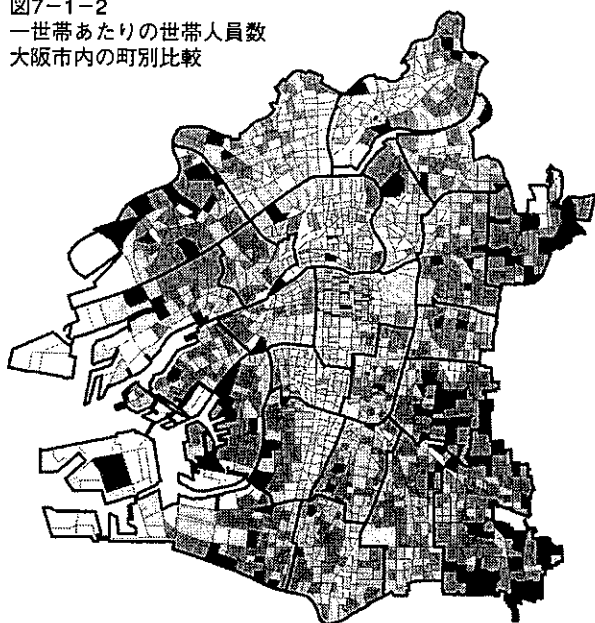


図7-3-1
国勢調査にもとづく失業率
大阪市内の町別比較

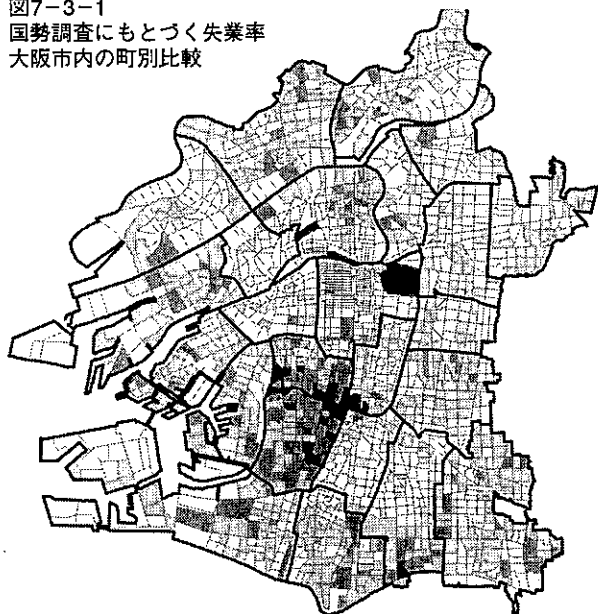


図7-1-1
人口密度
大阪市の町別比較

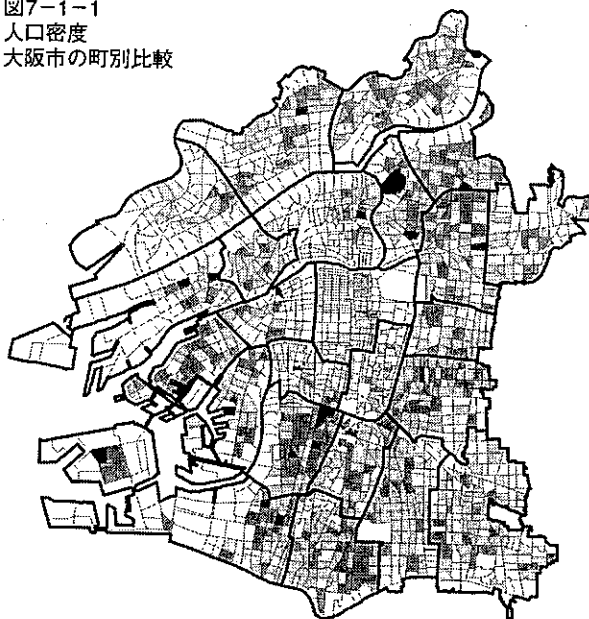


図7-1-3
一般世帯に占める高齢単身者
世帯の比率 町別比較

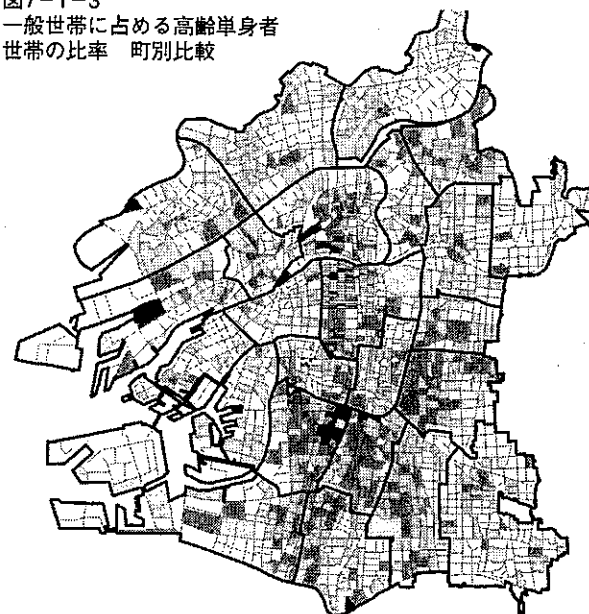
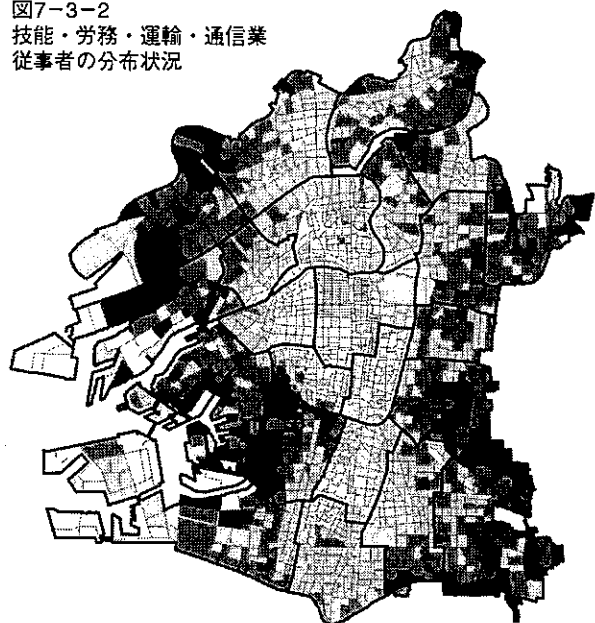


図7-3-2
技能・労務・運輸・通信業
従事者の分布状況



出所：『国勢調査』1995年から作成。
注：色の濃い方が密度が高いことを示す。

図7-3-3
販売職従事者の分布状況

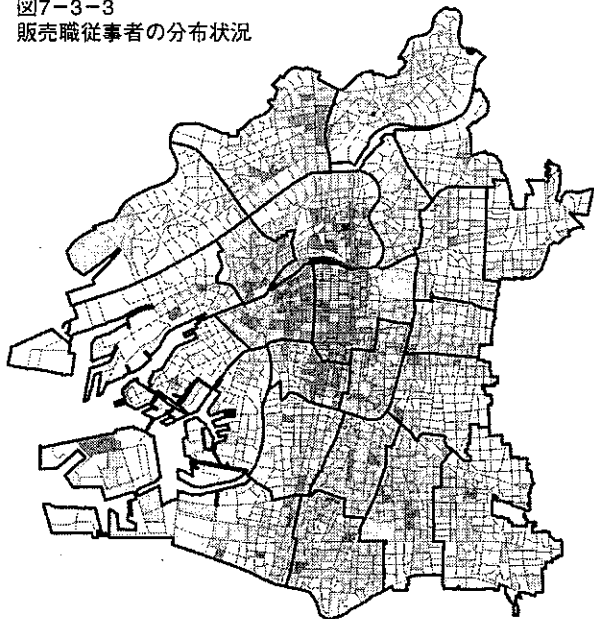


図7-3-4
事務職従事者の分布状況

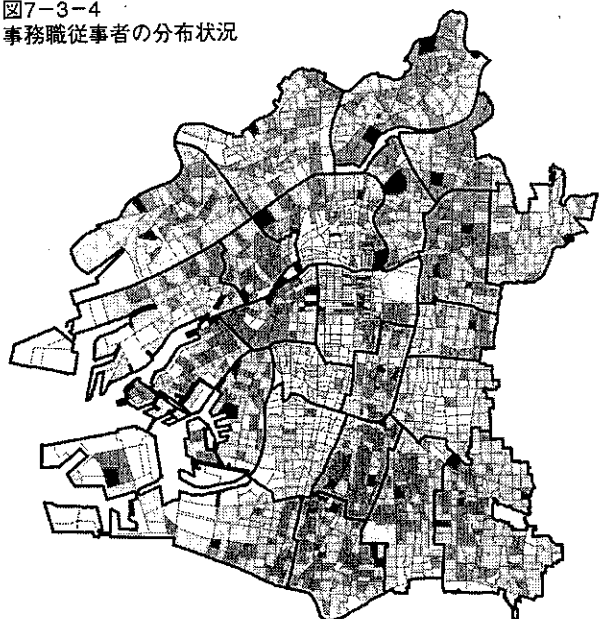


図7-3-5
専門・技術職従事者の分布状況

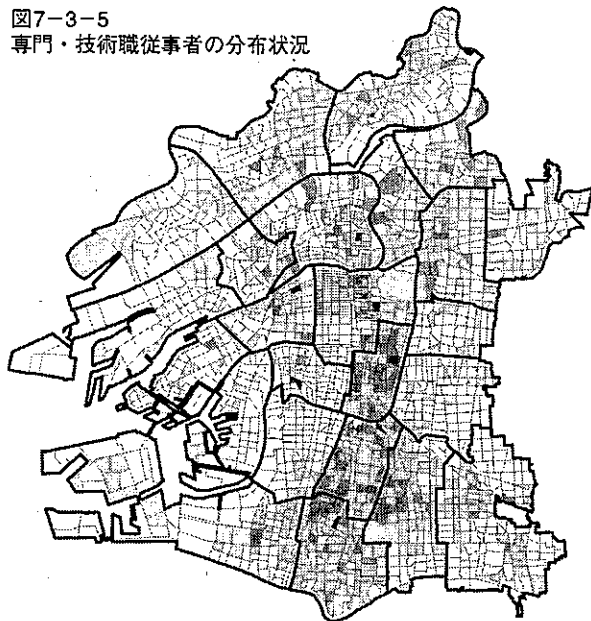


図7-3-6
管理職従事者の分布状況

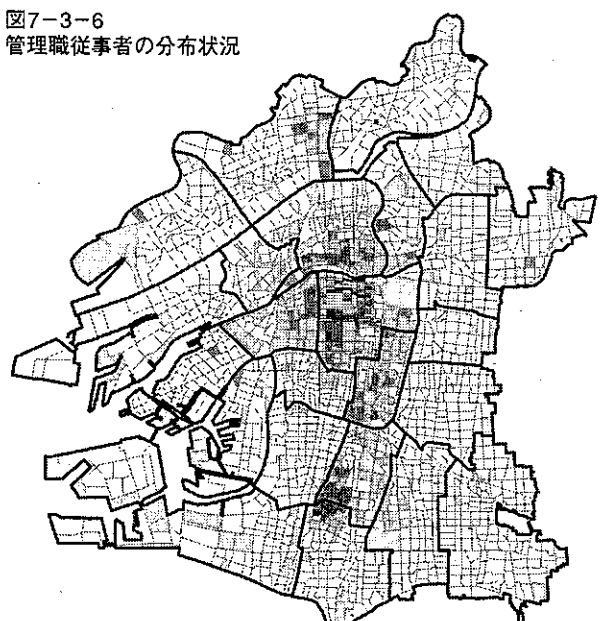
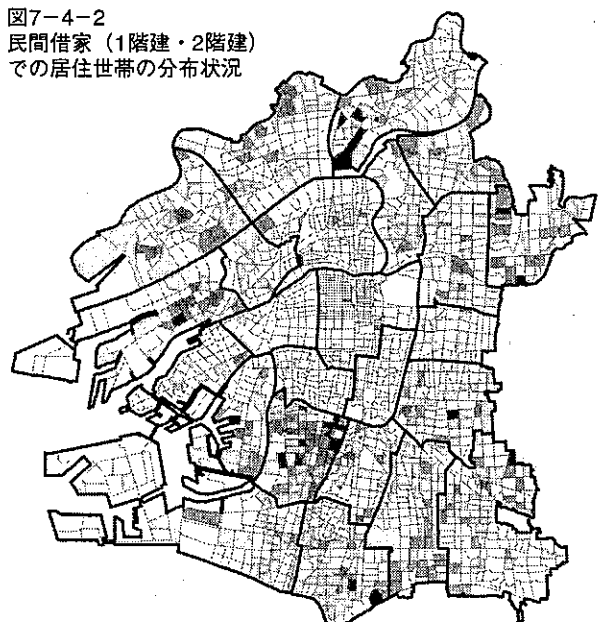


図7-4-1
民間借家長屋での居住世帯
の分布状況



図7-4-2
民間借家（1階建・2階建）
での居住世帯の分布状況



終章 「西成」差別の構造とその解消に向けて

第1節 アンケート調査から明らかになったこと

「西成」差別の実態について、7章にわたって分析を行ってきた。それぞれの章で明らかにした点は、詳しくは各章のまとめをみてもらうとして、ここでは、ごく簡単に要点を再度整理しておこう。

第1章では、西成区民を除く大阪市民一般の「西成」差別についての認識と意識構造を明らかにしてきた。第1節では、「西成」に対する偏見や差別の見聞経験者が46.9%とほぼ2人のうち1人という高い割合で、「西成」差別が広く流布していることが明らかとなった。同時に、「西成」に対してはわずか0.9%の者がプラスイメージを持っているのに対して、42.0%の者がマイナスイメージを持っていると明言した。「どちらでもない」「わからない」の回答者も多いが、圧倒的に多くの者がマイナスイメージを持っていると言ってよいだろう。同時に、それは、「こわい」という具体的イメージと密接に関連して抱かれたものである。他方、「西成」と言えばあいりん地域を想起しつつも実際にそこに行ったことのある人はごくわずかであった。すなわち、一定のイメージを持つに至る過程を見ていくと、「西成」にまわりつく「こわい」等のマイナス評価は、とりもなおさずあいりん地域の存在と密接につながっていることが明らかとなった。しかし、そのあいりん地域を実際に訪れた人は少なく、あいりん地域をはじめとする西成区の現状を正確に知る人は限られていることが明らかとなった。こうした中で、「こわい」というイメージを持つにあたって大きな影響力を及ぼしているのが、マスコミであったことが明らかとなった。

第2節では、西成区を「訪問し、かつ知人等あり」のグループ、「訪問はあるが、知人等はなし」のグループ、そして「訪問もなければ、知人等もない」グループと、西成区との関係の有無の視点から大阪市民一般を三グループに分け、それぞれの「西成」に対する認知と差別認識を分析した。関係性の強いグループでは、日頃の西成区のまちや区民との交流によって、「西成」の抱える具体的な問題を知ることにつながっていることがまず明らかとなった。しかし、それが直ちに「西成」に対する直感的なマイナスイメージの解消につながるのではなく、むしろいっそう強く確信させることになっている。だからといって、それが直接的に「こわい」という具体的イメージにはつながらないことも明らかとなった。むしろ、「西成」の現実に触れていない者の方が、他人やマスコミからの情報によって、直感的にマイナスイメージを持ち、その延長線上に具体的な「こわい」イメージを持つに至っている。こうした結果、西成区との関係性の強い人の場合、西成区での勤務や居住にためらいを持つ者は相対的に少ないこともわかった。いずれにしろ、「西成」に対する偏見・差別の解消には、西成区のまちに触れ、このまちに暮らす人々との交流の場を設けることが重要であることが明らかとなった。

第3節では、各区住民別に「西成」に対する認知や差別意識を分析した。十分なサンプル数が得られなかった区もあるが、全体的傾向を掴むには支障はなかったと思う。この中で、明らかとなったことの第一は、「西成」近隣区居住者には西成区在住の親戚や知人が多いことにともなって、「西成」近隣区民とそれ以外の区の住民との間には、「西成」に対する見方に相違があることがわかった。さらに、一言に「西成」近隣区と言っても、西成区のような地区と隣接しているかによって、大きく認識の構造が異なっていることもわかった。しかし、「西成」差別解消活動への参加という今後の課題については、いずれの近隣区民も一定の協力は惜しまないとする姿勢を示したことは、注目しておきたい。また、これを基点として大阪市の全市的な取り組みにも展望が開けるのではないだろうか。他方、居住する自区のイメージや差別で、西成区以外でも、いくつか課題を抱える区が存在することも明らかとなった。

第2章では、西成区在勤者の「西成」差別に対する認識を分析した。全体的には、大阪市民一般とほぼ同様の認識を持っているという結果であったが、勤務先としての西成区に特別なこだわりを持っているわけでもないという結果であった。西成区外にある自宅と勤務地である西成区内のオフィスや事業所を往復することがほとんどで、西成区民と交流することはあまりない。あくまでビジネスライフとして西成区で仕事をしているにすぎず、地域社会としての西成区にまで関心が充分に向いていなかった。したがって、「西成」差別という問題についても、知ってはいるが、だからといって積極的に関わるわけではないという姿勢が見え隠

れしている。

第3章では、大阪市民一般と同様に、西成区の圧倒的多くの区民も「西成」に対しマイナスイメージを持っていること(マイナスイメージ53.6%、プラスイメージ2.8%、「どちらでもない」と「わからない」39.5%)、「こわい」という具体的イメージをもつ者も20.3%と比較的多いことが明らかとなった。また、「西成」差別を直接に体験した人は22.8%、見聞経験のある人は58.1%と多かった。大阪市民一般について分析した第1章第1節で確認されたことと同様に、この章でも「西成」差別が広範に広まっていることが確認された。しかし、この章で注目すべき点は、「旅先等で自分の区名を言えない」とする西成区民が47.8%も存在するという点であろう。実際に差別を体験したわけではないが「大阪の西成区に住んでいます」の一言によって、次に相手からどのような偏見と差別の言葉が投げかけられるかを危惧して、自分の区名が語れない。それが、およそ2人に1人というのは、驚くべき高い割合である。彼らの置かれている状況は、顕在化した差別を体験したわけではないが、常に差別を経験することを恐れ続けているわけで、いわば潜在化した差別に耐え続けていると言ってしまうのではないだろうか。そして、このような潜在的被差別意識によって、西成区民は「西成」に対してマイナスイメージを強く持つようになってきているように思える。

第4章、第5章では、アンケートの自由記述欄における大阪市民一般と西成区民それぞれの回答を分析した。第4章での大阪市民一般の自由記述回答からは、次のような結論が得られた。まず、「西成」のマイナスイメージや「こわい」イメージはあいりん地域と密接に関連したものであったが、大阪市民一般が見聞きした差別的言説の内容では、あいりん地域を念頭に置いた「西成」のイメージだけでなく、同和地区住民や在日韓国・朝鮮人への差別に関わる言説がみられた。このことは、「西成」差別の実態においては、あいりん地域へのイメージや差別と同和地区住民や在日韓国・朝鮮人への差別が並列的に取り上げられていることが明らかとなった。

同時に、大阪市民一般が抱く「西成」のイメージには、一方にあいりん地域へのマイナスあるいは「こわい」イメージがあり、他方でその他の地区の庶民的で人情厚い下町のイメージが存在するが、顕在的にはマスコミの情報——マスコミ当局者の主観的意図とは別に——や日常における刺激の強い経験などを通して前者のイメージが先行・肥大化し、「西成」全体のイメージになってしまっている。

このように、特定の地域や人々が差別の対象となりがちであるが、それらが一定の関連性を持って人々に理解され、「西成」に対するマイナスイメージが創りあげられ、偏見や差別を引き起こしていることが明らかとなった。

第5章の西成区民の自由記述回答からは、次のような結論が導き出された。すなわち、あいりん地域の存在が「西成」差別形成にあたっての大きな要因であることが、大阪市民一般の意識分析と同様に、区民意識の分析を通じて明らかとなった。同時に、「西成」差別には、部落差別、在日韓国・朝鮮人差別など他の諸々の差別が付随していることもわかった。すなわち、ひとたび「西成」という言葉があいりん地域に節合されて「異質な者への恐れ」を想起させる言葉となると、それはさらにさまざまな異質性——市民一般とは異なると思なされる同和地区住民や在日韓国・朝鮮人などへの差別的眼差し——を包摂する言葉として一人歩きし、「西成」のイメージはマイナスそのものとなる。すなわち、「西成」差別には複合的な差別の構造が含まれているのである。

大阪市民一般は、あいりん地域住民や同和地区住民とのコミュニケーションや相互理解がある者はきわめてまれであったが、西成区民においても大阪市民一般以上にそうした関わりを持っている者がいるとは言い難い。あいりん地域や同和地区に対する区民の語り方は、西成区外の市民のそれとさして変わるものではなかった。このような社会的交通不全のなかで、「西成」差別という問題は、区内の多様な住民層を同じ問題の地平に立たせるといふよりは、区民相互間の意識の分断をさらに強めることに寄与していると言ええる。

第6章では、第1章から第5章までの分析を踏まえて、「西成」という言葉にまわりつく差別の内実を歴史的に明らかにすることをめざした。そこで明らかとなったことは、第一に、戦前から西成区には被差別の対象となるような社会集団に属する人々——釜ヶ崎を中心とした地域に居住した都市下層住民、同和地区住民、在日韓国・朝鮮人、沖縄出身者など——が多く住み、彼らに対する差別や偏見が存在していたが、これらの人々を「西成」という記号化された言葉で語られることはなかった。そして、第二に、これらの人々や居住地域が「西成」という言葉に集約され、この言葉に差別的意味合いを込めて語られるようになった(＝記号化)のは、1950年代からということであった。第三に、その直接的契機は、マイナスイメージで見られ

るようになった釜ヶ崎や山王など個々の地名のいわば総称として、マスコミによって「西成」という言葉が使われ、流布されたということであった。第四に、こうした動きの社会的背景として、当時行政が主体となり広く市民を巻き込んで展開された「新生活運動」がある。この運動によって、生活規範や生活環境浄化の確立が盛んに語られる中で、人々の多様な暮らし方が否定され、野宿生活者は市民に敵対する存在と認識され排除されていったことも重要である。第五は、その後の60年代以降の時期において、「西成」という言葉が、西成区内の個々の地域で生じた事柄・事象を表現するのに繰り返し使われたということである。この時期、行政主導によってあいりん地域が日雇労働者のまちとして確立していくが、これと平行して暴動が頻発し、これを「西成」の問題としてマスコミは盛んに取り上げた。そして、この過程で、「西成」という言葉とそのマイナスイメージ、偏見・差別意識のすり込みが行われてきたと言ってもよいのではないだろうか。

最後に第7章では、西成区の社会経済的特徴を明らかにし、こうした特徴と「西成」差別との関係を追求した。第一に、西成区には、あいりん地区を中心に野宿生活者、日雇労働者、生活保護受給世帯などの社会的に困難を抱えた人々が多く住んでいる。しかも、野宿生活者や生活保護受給世帯は、西成全区へ広がる傾向さえ見られる。これらの現象は、あいりん地域への「こわい」イメージが西成区内の他の地区への広がる可能性を意味している。第二に、西成区内には小規模企業や小売店舗そして木賃アパートなどが多く、下町の伝統的な街並みを多く残している。これらの事象は、西成区の都市空間がこうした人々にとって相対的に住み良いことを意味し、同時にこうした人々が多いことに対応した産業特性、就労機会、消費財供給構造や住宅が増えるという相互依存関係にあることを示している。その結果として、西成区は社会的困難を抱えた人々を多く受け入れることになった。第三に、こうした現象を総合的にみた場合、二律背反的な現象が生じている。すなわち、一方では「西成」というまちは、社会的困難を抱えた人々に対し「やさしいまち」であることを意味しているが、他方で、そうした人々の存在が肥大化することによって、市民の「西成」に対するマイナスイメージがさらに増幅されることにつながりかねないということである。しかも、第四に、公営・公団等の借家比率の低さ、失業率の高さや野宿生活者の滞留などにみられるように、行政施策の不十分さが、さらに社会的に差別される可能性のある人々をそのまま放置している現実が明らかとなった。この最後の点は、行政による西成区での住宅政策の展開や都市開発の遅れや失敗が問われるであろうし、同じく行政の日雇労働政策あるいは広く雇用政策の失敗が問われることになる。

第2節 「西成」差別の構造

(1) 「西成」差別の立ち現れ方

以上のことを踏まえて、再度「西成」差別について論じておこう。第6章の歴史的分析によれば、1950年代、市民生活規範の形成とともに、それになじまない人々——とくに野宿生活者など——への蔑視、排除が強まった。そうした時代状況の中で、市民社会とは異質でマイナスイメージで見られるようになった釜ヶ崎や山王などに対して、それらの個々の地名のいわば総称として「西成」という言葉が使われたということであった。1960年代になると、あいりん地域での日雇労働者の増加と幾度の釜ヶ崎暴動に対して、マスコミはこれを「西成」の問題としてしばしば取り上げ、映像や写真を通して視覚的に市民の心に「こわいところ」というイメージを——マスコミ当事者の意図はどうであれ——植え付けてきた。また、あいりん地域とその周辺地域を車窓から眺め、あるいは直接その地域を訪れたことのある市民も多くの場合、マイナスイメージを持っていく。こうして出来上がったあいりん地域へのマイナスイメージは、マスコミや人々の伝聞においては「西成」のイメージとして置き換えられ、一人歩きをはじめていく。

他方、西成区内には、同和地区住民や在日韓国・朝鮮人、沖縄出身者なども多い。「西成」の直感的なマイナスイメージを構成するものとして、彼らの存在を指摘する大阪市民・西成区民はほとんどいなかった。しかし、第4章・第5章の自由記述回答の分析で述べられたように、大阪市民・西成区民が直感的な理解を超えて熟考して「西成」を考えた時、これらの人々の存在が意識化されることが多い。また、これらの人々について述べる場合には、「西成区に限ったことではないが……」という前置きがつくことが多いが、これは、一般に偏見・差別の対象となる人々が西成区にも多いということを暗に問題視している発言であろう。この

ようにして、これらの人々も「西成」差別を構成する要因として動員されていくことになる。

たとえばそれは、次のような仕方では人々の意識の中で整理されていくことになる。「西成」と聞けば、これまでの伝聞経験によりまず「こわいところ」というイメージを想起し、次に具体的な像としてあいりん地域、釜ヶ崎暴動、多くの日雇労働者や野宿生活者の姿を想起する。さらに「西成」についてのいくつかの事柄を連想する中で、「そういえば西成には部落があり、在日韓国・朝鮮人も多かったな……」という思いが想起されてくる。そして最後には、それらの存在を総称する記号として「西成」という言葉が再び思い起こされ、「やはり、西成区はこわいところ、安心して暮らせないところ」として一般化されていく。実際には、人によって、どこまで連想されるかは異なるが、典型的な想念として述べれば、このようになるのではないだろうか。西成区を訪れたこともなければ、その地域に住む知人もいない市民は、数々の「西成」に関する話題の見聞によって、推測の世界の中でますます「西成」のマイナスイメージを膨らませていく。

ところで、「西成」に対する大阪市民一般や西成区民のイメージに「庶民的なまち」があった。一見プラスに見えるこのイメージについて検討したい。このイメージは「じゃりん子チエ」「ふたりっ子」などのマスコミによるところも大きい。しかし、西成区の社会経済的特徴の一つとして老朽で狭小な住宅や中小の商店が多いことが明らかにされたが、これは実態を反映したイメージでもある。このイメージは、確かに「親しみやすさ」「古き良きまち」「地域のコミュニティが生きているまち」などプラスイメージにつながるものである。しかし、「庶民的なまち」としてイメージする声が多かったにもかかわらず、全体としてマイナスイメージが圧倒的に強いのはなぜだろうか。これは「こわい」イメージの方が強く印象づけられているからというだけでなく、「庶民的なまち」であることが——確かにプラスイメージで語り得る部分はあるとはいえ——マイナスイメージで見られがちな日雇労働者・野宿生活者や生活保護世帯などの存在と親和的な面を持っていることを、多くの市民は決して見逃していないからではないだろうか。

実際、西成区内には、野宿生活者や生活保護世帯が急増・滞留している。先にも指摘したように、このこと自体は、「西成」のまちは庶民的であるがゆえに社会的困難を抱える人々に対しても優しいまちであることの証左であるが、しかし多くの市民や区民の目にはそのように映らない。むしろ、庶民的なまちであるがゆえに「異質」でマイナスイメージによって特徴づけられた存在である野宿生活者や生活保護受給世帯が滞留し、その結果として一層マイナスイメージが強まる傾向にあるのではないだろうか。

また、「西成」差別を語る上で、もう一つ忘れてはいけないものがある。それはマスコミの果たした役割である。何度も触れているように、アンケート調査結果では、「西成」に対するマイナスイメージ、「こわい」イメージを持つにあたって大きな影響力を及ぼしているのが、マスコミであった。また、「西成」の現実に触れていない者の方が、他人やマスコミからの情報によって、それらのイメージを強く持つということも明らかとなった。

この点について再論しておきたい。第1章第1節、第4章第1節そして第6章第4節で明らかにしたように、1950年代から60年代におけるマスコミによる「西成」報道が「西成」への偏見や差別を助長した——マスコミ当事者の意図は別として——と断言してよいだろう。また、1960年に封切りされた二本の映画、東宝制作、千葉泰樹監督の「がめつい奴」、松竹制作、大島渚監督の「太陽の墓場」などのメディアもまた、釜ヶ崎、あいりん地域そして「西成」に対する強烈なマイナスの場所イメージを人々の脳裏に焼き付ける大きな役割を果たした（水内俊雄「地図・メディアに描かれた釜ヶ崎——大阪市西成区釜ヶ崎の批判的歴史地誌——」『人文研究 大阪市立大学大学院文学研究科紀要』53巻第3分冊、2001年）。これに対し、70年代以降は、かつてのような露骨な偏見を助長するような記述は一挙に減少した。これは、70年代に入って人権関連の運動団体や行政を中心として人権問題への取り組みが広がったことの結果であろう。しかし、今回のアンケート調査で明らかになったように、「西成」差別は今日も根強く残っている。とくに、16-30歳の若い世代においても43.0%の者が「マスコミから」と回答している。このことは、現代におけるマスコミによる「西成」報道のあり方を問うものではないだろうか。

この点について、90年代のマスコミによる「西成」報道について行われた調査がある（シティコード研究所『「西成」に関する報道実態検証調査報告書』2000年、とくに59-60ページ参照）。その結果を紹介しよう。そこではまず、事件・事故が西成区に多いためと思われるが、大阪全区の中で西成区関連の新聞記事が多いことが明らかにされた。また、西成区の抱える問題を真剣に述べた記事も多く散見できる。しかし、他方では「西成暴動」という表現に典型的に見られるように、社会的関心の高い事件が発生すると、「西成」という地名が

頻繁に出現する傾向があると分析された。

第1章第1節の表1-1-22のように、「西成」についての差別的言説の見聞きの相手として「マスコミ」をあげる者は、45歳以上の中高齢者で約60%であったが、第4章の図4-1-1と重ねて考えれば、彼らは60年代のマスコミ報道に影響を受けた者が圧倒的に多いことが推測される。しかし、16-30歳の若い世代においても43.0%の者が「マスコミから」と回答している事実は、今日においてもなおマスコミ報道が「西成」への偏見や差別を助長していると推測される。ただし、この時代においては、露骨な表現により「西成」への偏見・差別を煽るというのではない。多くの市民は、一方で「学校・職場の友人」「家族」「近所の人」など人づてに聞いた偏見や差別についての情報を持ち、それを前提として次にマスコミによる「西成」報道——事件・事故関係が多い——を聞いた時に、すでに持っている情報をいっそう確信的なものとして意識化させていくことになっていないだろうか。すなわち、「西成」報道の一字一句については偏見や差別的表現がないように十分に配慮されつつも、事件・事故関係の記事においてはややもすると「西成」という言葉が頭言葉のように随所で使われるという傾向があるように思われる。そして、「西成」報道のたびに、多くの市民は、意識の底で眠っている「西成」への偏見を呼び覚まされ、より確信的なものとして「西成」への偏見を再度刷り込まれていく。

ここで示した理解は、マスコミ報道のあり方をいささか重く考えすぎているという批判があるかもしれない。確かにそうかもしれないが、多くの市民が「西成」への偏見・差別的言説を「マスコミから」聞いたとするアンケート結果は、紛れもない事実である。この事実をどのように解釈すべきか、さらに議論を深める必要があり、ここでは議論の発端を切り開くために、一つの解釈を提示した。

以上、「西成」差別の立ち現れ方として、第一に西成区内に居住する多様な社会的集団に対する偏見や差別が、市民の差別的眼差しの中ではどのような関連で理解されているかを示した。第二に、「庶民的なまち」という一見プラスイメージで語られるこの言葉の背後に、実はマイナスイメージを抱かせる諸要素が隠されていることを明らかにした。第三に、マスコミ報道のあり方が時代とともに変化しながらも、依然として今日でも「西成」への偏見・差別の広がりに関係を持っていることを明らかにした。

60年代にいったん出来上がった「西成」へのマイナスイメージや偏見・差別が現在においてもなお強固に存続している理由こそが問われなければならない。かつてのあいりん地域へのマイナスイメージは、今のあいりん地域に対しても同様に抱かれ続けているだろう。そして、それが「西成」に置き換えられている構造は変わらない。しかし、それにとどまらず今日の野宿生活者や生活保護受給世帯の西成全区への広がり、さらには西成区の社会経済的特徴の多くは、市民・区民の目には「西成」のマイナスイメージを一層強くさせていく可能性をはらんでいる。

（2）個別的差別から地域差別へ

「西成」差別の特徴は、なんとといっても一つの地域、その地域住民すべてが差別されるという点にある。この西成区に住む人々は、多様な社会的属性を持っており、これまでの歴史的経緯や外見上の「異質性」によって差別される人々だけでない。にもかかわらず、「西成」という言葉がマイナスイメージを付与され記号化されて一人歩きしている。この点について、論じておこう。

今日の日本社会では、同和地区住民など歴史的に差別されてきた人々が依然として差別され続けている。また、在日韓国・朝鮮人に対しては、異なった文化を持っていることが日本の歴史過程の中で日本人の下位へのランク付けの対象となり、差別されてきた。同様の対応は、沖縄出身者に対しても行われてきた。こうした人々への差別は、明らかに一定の共通点を持った——あるいは共通点があると見なされた——社会集団への差別である。その意味で、“社会集団としての彼らの存在”はきわめて可視的である。

日雇労働者や野宿生活者への差別は、彼ら“個々人の日常生活の様態そのものの可視性”にもとづく。そしてその様態は、市民からはまず「異質なもの」として認識される。この点について、岩田正美氏は、次のように整理している（岩田正美『ホームレス』としての現代の失業・貧困、『社会政策学会誌』第1号、1998年、御茶の水書房、8-9ページ）。その要点を紹介したい。岩田氏は、野宿生活者を従来の市民社会の内側では捉えづらいもの、「異質なもの」と見なすのは、「社会が抱いている一般的なイメージから見て『逸脱』した情景に基づいている」として、その「逸脱」を五点指摘した。

第一は、彼らの路上での外観、とりわけ公衆の前面にさらけだされ、凝視される極貧の情景、著しく異な

った風体、臭い、汚い格好である。第二は、日雇労働や雑誌拾い、空き缶集めなど就労の極端な不安定性とインフォーマル化、第三は、家族からの逃走・単身化または家族との結びつきの緩みである。第四に、地域的流動性と公共空間の「不法占拠」、最後に住民登録の欠如や定職を持たないことにともなう社会の諸制度から排除されていることを指摘した。

ところで、これらの「逸脱」が問題となるのは、きわめて現代的な現象であることに注目しなければならない。このような特徴を持った人々は、戦前の都市社会においては、比較的広く存在していた。しかし、戦後の高度経済成長とともに市民生活は豊かになり、市民的な生活規範や価値観が普及し共有化されるにともなう、「逸脱」が可視化あるいは意識化されていった。すなわち、高度経済成長とともに規範的な「労働者像」「生活者像」が形成されてきた。大学へ進学すること、大企業に勤めること、一家を構えて自分の家を持つこと、それらが望ましい市民的規範として形成され、その生活規範を重視する視点から人々は序列化されていった（福原宏幸「ホームレス問題と日本福祉国家」、『*Regulation, Institutions & Contemporary Economies*』14号、1999年、5ページ）。その序列化の最下位に「逸脱」した人々を位置づけ、「異質な者」と見なしていく。

第4章（108-109 ページ）で、「西成」のマイナスイメージの明確な要素として釜ヶ崎をあげる者が多かったが、彼らのその様態を聞いた時「人が多い」という回答が多かった。この回答で言う「人」は、単なる「人」ではなく、釜ヶ崎の住民である「日雇労働者や野宿生活者が多い」ということを意味していた。この回答の真意は、いわば市民の暮らし方から「逸脱」した「異質な」人が、集団として存在している地域への「おそれ」であり、「(何らかの) イメージ」を持ったことを意味している。

また、岩田氏の第一の指摘は、直接に日常生活の様態の可視性を問題にしている。これは、市民が「車窓からの眺め」や「通過による経験」によってあいりん地域そして「西成」にマイナスイメージを持ったとする意見が多かったことと、直接につながる。

この点をさらに掘り下げてみたい。鳴海邦碩氏（鳴海邦碩「穢なき生活——除去・分離装置系としての都市」、井上忠司編『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版、1988年、247-250ページ）は、近代化の歴史は、生活空間においても変化や近代化をもたらし、その空間から「きたなさ」を後退させてきたという。たとえば、生ゴミとか汚物の発生場所である台所、風呂、トイレが一カ所に集中させる構造になり、住宅の密閉性能の向上により埃の流入を阻止し、カビのはびこりに対しては強力洗剤が登場してきた。こうした新しい生活空間を当然のものと見なし、清潔さを求めることが常識化した現代の日本社会にあつては、野宿生活者がもつ風体、臭い、汚さ——それらは当事者の努力にもかかわらず改善できない場合が圧倒的であるが——は、たちどころに「異質」なものと見なされることになる。すなわち、野宿生活者や日雇労働者、そして彼らが多く暮らすあいりん地域へのマイナスイメージとは、市民の側の生活の変化・近代化にともなう一層強く打ち出されることになったのである。

この市民のもつ臭いや汚さに対する認識は、清潔感にあふれる近代的生活空間が十分整備されていないまちに対しても、同じように「異質」と見なすことになる。この視点から見れば、庶民的だけれど依然として老朽で狭小な住宅が多く都市開発が遅れている西成区のまち全体が「異質」と見なされている可能性があり、そこまで言いきることができなくても漠然とマイナスイメージで見られている可能性がある。

このように、西成区には、いくつかのマイナスイメージを生み出す個別の要因が存在する。しかし、問題は、そうしたイメージを当然のものとして見なす市民の側の眼差しにあるといつてよいだろう。また、こうした個々の差別を生み出す要因を「西成」という広がりを持った地域の問題に拡大して理解させるにあたつては、マスコミが「西成」という言葉を記号化して使ったことの影響がきわめて大きい。50年代に釜ヶ崎と山王を「西成」という記号に置き換えた時、マスコミ当事者は西成区全体を意味するものとして使ったのではないだろう。しかし、いったんマイナスイメージを指す記号として使われた「西成」という言葉は、市民の理解においては自ずと西成区、西成区民という広がりを持って理解されるとともに、一人歩きを始めた。こうして、「西成」差別が形成されたのであろう。

そしてもう一つ指摘しておかなければいけないのは、「西成」に対して付与されたマイナスイメージや偏見・差別が今日もなお存続し続ける背景には、個々の差別が存続しているというだけにとどまらず、西成区に見られる社会経済的特徴によってマイナスイメージを持たれやすいという側面があることも否定できない。個々に差別の対象となる人々が多く住むだけでなく、在来型の産業・就労構造、低所得階層が多いこと、劣悪な住宅事情や住環境、高失業率や生活保護世帯が多いといった問題を抱えている。これらは、西成区民一

人ひとりの生活を豊かにするための行政施策の実施が求められていることをも意味する。

第3節 「西成」差別解消に向けて

(1) アンケート結果のまとめ

では、この「西成」差別を解消するにはどのような施策が必要なのだろうか。アンケート調査では、この点についても聞いた。そこで用意した選択肢は、西成区におけるハード面の整備：「日雇労働者居住地区施策」「まちづくり」「集客施設の建設」、西成区民のソフト面の対策：「西成区民の自助努力」、ハード・ソフト両面の施策：「社会的弱者に優しい施策」「同和対策・外国人施策の推進」、大阪市民の側のソフト面の対策：「啓発活動の推進」「マスコミによる宣伝」「差別の歴史・実態の学習」の九個であった。

まず、大阪市民一般に対するアンケート結果を再度整理しておこう。全体的に多かったのが「日雇労働者居住地区施策」36.5%、「マスコミによる宣伝」34.2%、さらに「西成区民の自助努力」31.4%であった。すなわち、「西成」差別の解消には、マスコミ・行政の取り組みと当事者の自助努力を中心に進めるべきとする意見に集約できる。

これに対し、西成区民全体が選択した解消策は、「マスコミでの宣伝」41.3%、「社会的弱者に優しい政策」40.6%、その次に33.1%で「まちづくり」と「日雇労働者地区施策」が続いた。

この両者を比較すると、両者に共通して多いのが「マスコミでの宣伝」と「日雇労働者居住地区施策」であった。多くの市民・区民が「西成」差別の広がりにはマスコミが相当大きな影響力を持ったと理解していたが、その解消にあたってはマスコミの力に期待したいということであろう。マスコミ関係者は、この市民・区民の意見を真摯に受け止める必要があるだろう。ただし、第4章の表4-2-1、第5章の表5-5-1を見るとわかるように、具体的な宣伝の仕方について提案は見られない。

また、「日雇労働者居住地区施策」は、いうまでもなくあいりん地域を対象に何らかの施策の実施を求めるものである。質問では、その具体的な内容については聞けなかったが、自由記述回答を見ると、相反する2つの内容が読みとれた。一つは、彼らに対する住宅や雇用機会の創出であり、もう一つは取り締まり強化、日雇労働者の分散・クリアランスであった。

他方、大阪市民一般にのみ多くの支持を得た施策として「西成区民の自助努力」がある。これの具体的な内容については、第4章第2節で分析され、次のようにまとめられた。

「自助努力」という言葉が最も当然のこととしてとらえられ、「市民や民間に溶け込む」ことの方便になってしまっている。これは、西成区に住む多様な人々に対する“認識上の暴力”と呼びうるものではないだろうか。というのは、先に見た自区と西成区の間にあるギャップの安易な飛躍や、自助努力による「市民や民間に溶け込む」ことの主張は、一方では日雇労働者や野宿生活者の問題を棚上げし、他方では西成区民にこちら側——大阪市民一般や個々の区での努力——への同化を促す傾きを持っているからである。

いずれにしろ、これらの記述においては、同質的な存在と想定されている区民との交流・相互理解のみが提案されているといっていよう。

このように、彼ら大阪市民一般の多くがマイナスイメージを持って見ているあいりん地域の問題については、それをさけることになっている。

これに対し、西成区民固有の支持する施策は、「社会的弱者に優しい政策」と「まちづくり」であった。この「社会的弱者」とは、具体的には「高齢者、障害者、低所得者など」であった。これを支持した区民の視野に日雇労働者、野宿生活者が入っていたかどうかは定かではないが、一般的には彼らも含めて自立支援策を求めていると考えてよいであろう。また、「まちづくり」は正確には「行政が区画整理などを実施して、まちづくりを進める」というものであったが、老朽で狭小な住宅が多く、また道路整備も立ち遅れていることが、間接的に「西成」のマイナスイメージにつながっているとの前提で、この施策への支持を表明したと考えられる。

(2) 求められる施策

では、こうした市民・区民の意見にも考慮しつつ、「西成」への偏見・差別をなくすにはどのような施策が必要なのだろうか。それを考える前に、こうした「偏見・差別をなくす」とは一体どういうことであるのかについて、一言述べておきたい。

いうまでもなく差別の「解消」とは、一般に「差別・被差別の関係および被差別状態をなくすこと」を意味する。この差別をなくするには、偏見や差別があることを厳然たる前提としつつ、それと“闘うこと”あるいは“乗り越えること”が必要である。すなわち、差別する側に対しては、異質性を認めない価値観の転換を求め多様な社会集団や暮らし方の尊重を求めること、同時に、それが当事者にとっても“新しい世界・価値観の発見”であることを理解してもらうことである。他方、差別されている側においては、まず差別の現実を直視すること、差別にともなう経済的社会的な不利益については公的機関にその改善を求めるとともに、自らも社会経済的な自立をめざすことが問われる。いわゆるエンパワーメントの視点が重要である。同時に、自らが快適と思う生き方や暮らし方に誇りを取り戻し、自らの生き方や暮らし方——他とは異質なものを含む——を積極的に発信することが重要である。そしてこうした活動を通して、ややもすると一元化された市民的規範にもとづいてランク付け・排除が行われることを告発し、それを阻止することが必要であろう。同時に、他者との相互理解を深める取り組みを押し進めることが必要である。

そうした意味において、差別をなくするには、差別する側においては矮小化された生活規範や価値観から解放するための闘いを意味し、差別される側においては、差別する側を告発・糾弾することを越えて、自らの自尊意識を取り戻す闘いである。この視点に立って、以下では六点到わたって施策を提案していきたい。

第一に、個別的な差別問題の解決策を強化すること、第二に、マイナスイメージを持っている人々に対してそのイメージの改善を求めること、第三に、これらの差別の対象となっている人々——西成区民全体も含めて——に対して、心理的被害を克服する施策が求められている。第四に、今後起きる可能性のある差別事件に対し、的確な対応策を構築すること、第五に、差別を予防する社会システムの構築が必要である。そして最後に、西成区全体に活力を取り戻し、今までとは異なった新しいプラスイメージの提起につながるようなまちづくりの新しいコンセプトを提起することではないだろうか。

①個別的差別問題の解決

第一の点から考えていこう。「西成」差別の背景には、釜ヶ崎差別、野宿生活者差別、部落差別、在日韓国・朝鮮人差別など個別的差別問題が存在した。したがって、これらの個々の差別問題の解決に向けた人権施策の強化が求められる。とくに、あいりん地域を中心に広がっている日雇労働者や野宿生活者に対しては、ようやく施策の具体化が議論され、部分的な対応が行われつつあるが、より根本的な自立支援策の実施が早急に必要であろう。また、これらの人権施策への大阪市民・西成区民の広い参加を得ることも重要であろう。

②マイナスイメージを持っている人々に対して、そのイメージの改善を求めること

第1章第2節で分析したように、西成区や区民と一定の関係を持つ大阪市民は、直接的に「こわい」という具体的イメージを持たず、むしろ「西成」の現実を直接に知らない者が、他人やマスコミからの情報によって、「こわい」ところと推測しがちであった。したがって、まずは、西成区ならびに西成区民のありのままの姿を多くの市民に理解してもらうよう人権教育・啓発活動を行うことが必要である。同時に西成区民——多様な社会的特徴を持った人々も含めて——が主体的に「西成」差別の現実とその改善に向けた取り組みについて発言していくことが必要であろう。こうした活動を通して、異質性を認めない価値観の転換を求め多様な社会集団や暮らし方の尊重を求めること、同時に、それが当事者にとっても“新しい世界・価値観の発見”であることを理解してもらうような施策が求められる。

③心理的被害の克服

多様な人々が暮らす西成区においては、まずそれぞれが相互に理解を深めること、そして西成区民としての自尊感情を持てるようにすることが求められている。そのためには、個々の差別ならびに「西成」差別について語り合うことができるような場や機会を設けることが必要であろう。また、そうした活動を行政に委任するのではなく、西成区民自らの手で実施するための、区民自らの当事者集団の創設が必要であろう。

これらの活動を通じて、「西成」差別への理解を深めるとともに、西成区の良いところを発見し、西成区のとらえ方を刷新していかなければならない。

④今後起きる可能性のある差別事件に対し、的確な対応策を構築すること

すでに起きた差別事件で大きく取り上げられたものに、「米子市民身元調査事件」や「別冊フレンド差別事件」がある。この二件の差別事件は氷山の一角にすぎないし、今後も差別事件が起きる可能性がある。したがってこうした差別事件への対応策を事前に検討しておくことが求められる。これにあたっては、まず相談体制の構築によって問題・事件発見機能を構築・強化することが必要である。また、日常的な人権侵害の実態把握、その集約システムを作ることも重要である。さらに、把握された差別事件における当事者の対応を分析し、今後の事件発生への対応策を検討すること、被害者の救済と加害者への人権教育を推進すること、そして最後に差別事件の教訓化と再発防止の方策樹立が必要であろう。

⑤差別を予防する社会システムの構築

西成区民は、日常生活の中で偏見や差別的言説を投げかけられる状況にある。こうした状況の中で、実際に差別的言説を投げかけられることを予防する社会システムの構築が必要である。人権擁護法の一層の整備が必要であり、とくに「集团的誹謗中傷」に対する法的救済制度を整備することが求められる。また、マスコミに対しては、マスコミ自身による過去の報道についての責任を明示させるとともに、マスコミ報道における「西成」の取り扱いについて何らかの新たな対応を求めていくことが必要であろう。

⑥新しいまちづくり——西成区全体の活性化、新しいプラスイメージの創出——

最後に、西成区全体に活気を取り戻し、プラスイメージを提案していくことも重要であろう。これには、大きく分けて二つの施策が必要である。

一つは、西成区全体の住宅・道路・生活環境整備など社会資本整備、企業誘致なども含めた産業振興、ならびに人々のエンプロイアビリティ（仕事に就くための必要な能力を身につけること）の向上や、多様な就労能力を持った人々の需要に合致した雇用機会創出政策の実施・強化などが必要である。これらの政策によって、西成区の経済が活性化し、区民の生活がより快適となり、区民が誇りうる地域であるとの意識を持てるようにすることが必要であろう。これに関連して触れておきたい点は、「西成」差別の影響を受けて西成区の土地の評価額が低く、いわば土地差別が存在することである。これに対しては、不動産評価システムを点検し、適正な評価を求めていくことが望まれる。

こうしたハード面のまちづくり整備と平行して、新しいコンセプトの創造による活性化が必要であろう。しかも、これは第三の施策「心理的被害の克服」と関連づけながらコンセプトを創造し、実施していくことが望ましい。さいわいに、西成区では、高齢者福祉や障害者福祉などの点で「福祉のまちづくり」をキーワードにいくつかの新たな試みが行われている。また、在日韓国・朝鮮人や沖縄出身者そして同和地区住民などによって「多文化共生」をキーワードとした取り組みも進められている。また、地域の町会組織が主体となったまちづくりへの取り組み（西成街づくり委員会『西成まちづくり研究集会 98 討論資料』1998 年）や行政がコーディネートしたまちづくりへの取り組み（大阪市西成区役所『にしなり我が町レポート——区民から見た私たちの西成区——』2001 年）などがあるが、こうした活動がさらに積み重ねられることが期待したい。さらに、あいりん地域では、「NPO 釜ヶ崎支援機構」「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」など日雇労働者や野宿生活者の自立支援に取り組む新たなNPOやボランティア団体が育ってきている。

現代は、福祉・多文化共生そして環境の時代とも言われている。また、こうした施策は、基本的に反差別の立場にある。したがって、「多文化共生・福祉・環境・反差別」をキーワードとした新たな活動を創生させていくことが求められている。具体的には、「西成に行けば、地域社会を支える新しい仕事、人と人をつなぐ新しい仕事、まちづくりの新しい知恵やパワーが得られる」というような地域活性化策の創造が望まれる。そして、その情報を大阪市民ひいては全国に発信していくこと、またそれらの情報やノウハウを求めて多くの人々が西成区を訪れることが、西成区の活性化に繋がるのではないだろうか。また、その活動自体が反差別を一つの軸とするものであれば、いっそう「西成」差別の解消にも貢献できるだろう。大阪市民・西成区民が差別解消にあたって大きな期待を寄せた「マスコミによる宣伝」において、こうした新たな取り組みを

取り上げてもらい新しいイメージを発信していくことができるだろう。

これら六つの施策は、それぞれが分かちがたく結びついており、重要なものばかりである。そして、行政と西成区民だけでなく、マスコミや広く大阪市民の協力なしには、「西成」差別は解消しえないだろう。したがって、当事者間の緊密な連携が求められる。

第四節 むすび

終章を含め8章にわたって、「西成」差別の実態を分析し、その解決策について述べてきた。調査開始当初、「西成」差別がどれほど広がっているのかについて、予想しがたいものがあった。しかし実際にアンケート回答票を回収し、集計作業を進めていく中で、「西成」への偏見や差別の広がりには驚かされるものがあった。

また、この偏見・差別の実態調査においては、アンケート調査結果の分析にとどまらず、自由記述回答の分析にも力点を置き、アンケート分析結果を補完し、実態により深く迫る努力を行った。さらに、「西成」差別の歴史的形成・展開過程と、差別実態の背後にある西成区の社会経済的特徴にまで分析を深めた。そして最後に、抽象的な域を出ていないがいくつかの解決策の提案も行った。

このような特定の地域とその住民への差別は、日本では「西成」差別の他に「水俣」差別があると思われるが、きわめて希なものである。しかも、いずれもが戦後の時代に発生したという意味できわめて現代的な差別事象であるといえるかもしれない。私たちのこの報告書は、こうした地域差別の研究のいわば草分け的なものであるかもしれず、実態分析結果には不十分な部分、異論のある部分も多々あることと思う。

最後に、この報告書が、「西成」差別の解決ならびに広く地域差別問題の解決の一助となることを願っている。それと同時に、西成区民をはじめ多くの市民の方々や行政担当者そして研究者のご批判を乞う次第である。

西成差別実態調査

資料編

『西成差別』に関する市民意識アンケート

西成差別実態調査研究会

代表 大阪市立大学経済学部 教授 福原宏幸

協力：大阪市・ヒューマンライツ教育財団

市民の皆様へ、ご協力のお願い

1996（平成8）年2月、少女向けマンガ雑誌『別冊フレンド3月号』のマンガの中で、主人公の少年のセリフ「家出てからずっと西成住んどるし…」の「西成」に脚注を付け、「大阪の地名。気の弱い人は近づかない方が無難なトコロ」と説明されました。また、1995（平成7）年には、鳥取県米子市民による「西成区には色々な人種がおられ、心配…」という問い合わせがおこなわれ、身元調査差別事象が発覚しました。このように、西成区に対する予断と偏見が存在しております。

次ページの「西成区民の人権宣言」にもありますように、西成区には同和問題、あいりん問題、在日韓国・朝鮮人などの定住外国人や障害者への差別など様々な人権課題があり、これらは相互に重なりあって西成に対する差別と偏見を生み出し、西成の発展と西成区民の社会参加を妨げております。

こうした状況をふまえて、私たちは、西成に対する差別と偏見を解明するため、実態調査研究会を設置し議論しているところでございます。そこで、大阪市内にお住まいの皆様へ、「西成」に対するイメージ等についてのご意見をおうかがいしたいと考えております。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力をお願い申し上げます。なお、この調査は、大阪市ならびにヒューマンライツ教育財団の協力の下に進めております。

この調査は、以下の点に留意して実施しております。皆様のご理解をお願い申し上げます。

- この調査にご回答いただく方につきましては、統計的方法にもとづいて無作為に、大阪市内にお住まいあるいはお勤めの15歳以上の方々から、選ばせていただきました。
- この調査票は無記名です。また、この調査は研究の目的以外には一切使用いたしません。ご回答はすべて統計的に処理しますので、皆様のご回答やプライバシーが他人に知られたり、外にもれたりすることは決してありません。
- 質問項目の中には、差別的表現と思われるものも、若干含まれております。皆様の率直なご意見をうかがうために、あえてそうしたものを含めました。決して、差別や偏見を助長することを目的として、それらを使っているわけではないことを申しそえておきます。
- なお、不明な点がありましたら、以下のところにお問い合わせください。

大阪市立大学経済学部 福原研究室 電話 06-6605-2293

大阪市立大学文学部 水内研究室 電話 06-6605-2406

別紙アンケート用紙の設問について、あなたの率直なご意見をお聞かせください。

ご回答は、同封の返信用封筒にて、12月25日（水）までにご投函ください。

西成区民の人権宣言

人間が人間らしく生きる西成のまちづくりをめざして

世界が、日本が、大阪が新しく生まれ変わろうとしている今、私たちの暮らす西成も生まれ変わらねばなりません。

私たちの西成は、「庶民のまち」「商工業のまち」として発展してきました。西成には人情と活力が満ちています。この財産を21世紀に引き継ぎ、国際都市にふさわしい豊かさのあるいきいきとしたまちへと発展させたいと思います。

そのためには、私たちの西成をどのようなまちにするのかという将来像を区民一人ひとりの参加でつくりあげるとともに、その妨げとなっている問題を力をあわせて解決しなければなりません。

「同和問題の解決は国の責務であり、国民的課題である」とした内閣同和对策審議会答申から30年が過ぎた今日もなお、部落差別は厳然と存在しています。

部落差別に加え、西成にはあいりん問題、在日韓国・朝鮮人などの定住外国人、障害者への差別など深刻な人権侵害を抱えています。これらは互いに重なりあって西成に対する差別と偏見を生み出し、西成の発展と区民の社会参加を妨げています。

ほんとうの意味での差別のないまちづくりとは、差別の長い歴史によってゆがめられた人間と人間との関係を豊かに築き直すことであり、互いの人権を尊重する社会をつくりあげることです。

部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃なくしては、西成の発展と区民の人権確立はありえず、人権の確立なくしては誇り得る西成のまちづくりは実現しません。

そして、何よりも、西成こそが「人権尊重の発信地」でなければなりません。新しい時代をつくりあげる手がかりこそは「人権」であり、私たちがめざす21世紀の西成のまちはすべての人間が人間らしく生きるまちです。

私たち西成区民は西成区制70周年の本年、西成のまちから部落差別をはじめあらゆる差別を撤廃し、国際社会が到達した最善のものをこの地で具体化するため、区民の「対話」と「不断の努力」によって21世紀を担う私たちの子や孫に誇れる西成のまちづくりを実現することをここに宣言します。

1995（平成7）年11月16日

西成区人権啓発推進会

アンケート調査票

西成差別実態調査研究会

- ・設問への回答は、質問ごとに用意してある答えの中から、あなたご自身のお考えにあてはまる番号を○で囲むか、数値を記入してください。また、具体的に書くようにお願いしているところでは、言葉でお書きください。
- ・回答によっては、あとの質問をとばしていただくところがあります。その場合は、指示にしたがって、次に進んでください。
- ・回答で「その他」を選んだ場合は、()内に具体的にご記入ください。

問1-1 あなたの年齢は満何歳ですか。

滿歲

1. 男 2. 女

1. 一人暮らし 2. 夫婦2人だけ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居
5. 夫婦と子どもと夫婦の親（三世大家族） 6. その他（ ）

年

四

1. 一戸建て（持ち家） 2. 賃貸一戸建て（賃貸） 3. 分譲マンション

4. 公営の賃貸住宅 5. 民間の賃貸マンション 6. 民間の賃貸アパート、文化住宅

7. 社宅・官舎 8. 寮・間借り 9. その他（ ）

問1-7 あなたは、収入のあるお仕事に就いていますか。それとも就いていませんか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。

- | | | | |
|------------------------|-----------|--------------|--------|
| 1. 自営 | 2. 家族従業者 | 3. 会社員（民間企業） | 4. 公務員 |
| 5. パートタイマー・アルバイト・派遣労働者 | 6. 日雇・臨時雇 | 7. 学生 | |
| 8. 専業主婦 | 9. 無職 | 10. その他（ ） | |

問1-8 仕事に就いている方にお聞きします。あなたの年間所得は、いくらぐらいでしょうか。あてはまるものに、○をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 300万円未満 | 2. 300万円以上、600万円未満 |
| 3. 600万円以上、900万円未満 | 4. 900万円以上 |

問1-9 あなたは、西成区内に親戚や知人がおられますか。いずれかに○をつけてください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問1-10 <問1-9>で「1. いる」を選んだ方にお聞きします。その親戚や知人はどのような方ですか。以下の中から選んで○をつけてください。複数ある場合は、複数に○をつけてください。

- | | | | |
|---------------|-------|-------|-----------------|
| 1. 親、兄弟、姉妹 | 2. 親戚 | 3. 友人 | 4. 仕事上の付き合いのある方 |
| 5. その他（具体的に ） | | | |

Ⅱ. 「西成」や差別についてお聞きします。

問2-1 あなたは、「西成」に対してどのような感じを持っていますか。1～11のすべての項目について、当てはまる番号に○をつけてお答えください。

	1	2	3	4
	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
1. 庶民的である	1	2	3	4
2. 歴史や伝統が感じられる	1	2	3	4
3. 活気がある	1	2	3	4
4. こわいところである	1	2	3	4
5. 豊かである	1	2	3	4
6. 安心して暮らせる	1	2	3	4
7. 閑静なところである	1	2	3	4
8. 老朽住宅が密集している	1	2	3	4
9. 公園や緑が多い	1	2	3	4
10. 交通の便がよい	1	2	3	4
11. 公共の施設やサービスが行き届いている	1	2	3	4

問2-2 <問2-1>の1～11の中で、「そう思う」「そう思わない」と特に強くかんじられている項目は、何でしょうか。2つを選んで番号で答えてください。

とくに強く「そう思う」もの _____ と _____

とくに強く「そう思わない」もの _____ と _____

問2-3 「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはプラスあるいはマイナスいずれのものでしょうか。また、それに関連する以下の設問にお答えください。

(1) 「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはどれですか。いずれかを選んで、○をつけてください。

1. プラス 2. どちらとも言えない 3. マイナス 4. わからない

(2) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを象徴することがら(地名・駅名、社会集団や出来事など)は何ですか。三つまででお答えください。わからないときは、「4. わからない」に○をつけてください。

ことがら(1) _____ ことがら(2) _____

ことがら(3) _____ 4. わからない

(3) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。また、そのように感じるようになったのかはいつごろからと思われますか。何年ごろ、何年前、何歳のとき、万博があったところとかでお答えください。覚えていない方は、「2. 覚えていない」に○をつけてください。

_____ 2. 覚えていない

(4) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。そのように感じられるようになったきっかけは何でしょうか。自由に記入してください。よくわからない場合は、「2. わからない」に○をつけてください。

2. わからない

問2-4 「西成区」と言った場合、あなたがすぐに思い浮かべる地域名(あるいは駅名、建物などでも結構です)を、三つまで自由に書きください。ない場合は、「4. ない」に○をつけてください。

1. _____ 2. _____ 3. _____

4. ない

問2-5 あなたは、「西成」に関する以下の項目について、どの程度知っていますか。知っている程度に○をつけてください。

	よく知っ ている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
1. 皮革産業が盛ん	1	2	3
2. 少女マンガ別冊『フレンド』事件	1	2	3
3. てんのじ村	1	2	3
4. じゃりん子チエ	1	2	3
5. 勝間なんさん	1	2	3
6. 釜ヶ崎暴動	1	2	3
7. ふたりっ子	1	2	3

問2-6 西成区には、社会的に立場の弱い人々が多く住んでいます。どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。三つまで番号を選んで○をつけてください。

1. 高齢者 2. 韓国・朝鮮人 3. 中国・東南アジア出身者 4. 沖縄出身者
5. 同和地区住民 6. 日雇労働者 7. ひとり親家庭 8. 障害者 9. 野宿生活者
10. 零細商工業者

問2-7 あなたは、西成区を訪れたことがありますか。ある方はその地名や駅名（3つまで）を書いてください。ない方は「2. ない」に○をつけてください。

1. ある 地名1 _____ 地名2 _____ 地名3 _____
2. ない

問2-8 <問2-7>で「1. ある」と回答された方へお聞きします。その場所を訪れた理由は何ですか。以下の中から、選んでください。

<地名1>を訪れた理由

1. 買い物 2. 親戚・友人宅の訪問 3. 勤務地がある 4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び 6. 散策・散歩 7. その他（ ）

<地名2>を訪れた理由

1. 買い物 2. 親戚・友人宅の訪問 3. 勤務地がある 4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び 6. 散策・散歩 7. その他（ ）

<地名3>を訪れた理由

1. 買い物 2. 親戚・友人宅の訪問 3. 勤務地がある 4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び 6. 散策・散歩 7. その他（ ）

問2-9 あなたは、かつて西成区に住んだことがありますか。いずれかに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ

問2-10 <問2-9>で「はい」と答えた方へお聞きします。なぜ、西成区を離れたのですか。その理由を以下から選んで○をつけてください。

1. 仕事の都合で転出 2. 居住環境のよいところへ移ろうと思って
3. 家賃の安い地域へ移ろうと思って 4. その他（具体的に ）

問2-11 あなたは、西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. ある 2. ない 3. よく覚えていない

問2-12 <問2-11>で「1. ある」と回答された方にお聞きします。それは、どのような方から、あるいはどこで見聞しましたか。当てはまるものに○をつけてください（複数の回答があるときは、すべてに）。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟など）から聞いた。
2. 親戚の人から聞いた。
3. 近所の人から聞いた
4. 学校や職場の友達から聞いた
5. テレビ・新聞・雑誌などのマスコミを通じて知った
6. 学校の先生や職場の上司などから聞いた
7. 喫茶店や待合所（たとえばバス停）などの公共の場で、他人の話を聞いた
8. はっきり覚えていない

問2-13 <問2-11>で「1. ある」と回答された方にお聞きします。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

問2-14 <問2-11>で「ある」と回答された方にお聞きします。それらの差別や偏見を聞いたり読んだりしたとき、あなたはどのように思いましたか。思ったものすべての番号に○をつけてください。

1. 不愉快に思った 2. 腹が立った 3. 悲しく思った
4. そのとおりだと思った 5. やむを得ないと思った 6. 何とも思わなかった
7. 相手を問いただし、反論した 8. その他（具体的に ）

問2-15 あなた自身あるいはお子さんが就職して西成区で働くことになった場合、あなたはためらいを感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ 3. 何とも言えない 4. わからない

問2-16 あなた自身あるいはお子さんが結婚して西成区で住むことになった場合、あなたはためらいを感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ 3. 何とも言えない 4. わからない

問2-17 あなたは、他人にあなたがお住まいの区名を抵抗なく話せますか。

1. 抵抗なく話せる 2. 少し抵抗があるが話せる 3. ほとんどはなせない
4. 話せない 5. わからない

問2-18 あなたは、あなたがお住まいの区（あるいは地域）に対してどのような感じを持っていますか。
(1)～(11)のすべての項目について、当てはまる番号に○をつけてお答えください。

	1	2	3	4
	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
1. 庶民的である	1	2	3	4
2. 歴史や伝統が感じられる	1	2	3	4
3. 活気がある	1	2	3	4
4. こわいところである	1	2	3	4
5. 豊かである	1	2	3	4
6. 安心して暮らせる	1	2	3	4
7. 閑静なところである	1	2	3	4
8. 老朽住宅が密集している	1	2	3	4
9. 公園や緑が多い	1	2	3	4
10. 交通の便がよい	1	2	3	4
11. 公共の施設やサービスが行き届いている	1	2	3	4

問2-19 <問2-18>の(1)～(11)の中で、特に強く感じているものは、何でしょうか。2つを選んで番号で答えてください。

_____ と _____

問2-20 あなたは、地元で行われている事業やイベントに参加したことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。

	よく参加する	たまに参加する	参加したことがない
1. 区民祭り	1	2	3
2. 伝統的な地域の祭りや行事	1	2	3
3. 町内会や校区などでの催し	1	2	3
4. 福祉などのボランティア活動	1	2	3
5. 人権に関する学習会	1	2	3
6. その他事業（具体的に _____）	1	2	3

問2-21 あなたの住まいの区（あるいは区民）に対して、差別されたり冷やかされたりしたことはありますか。

1. よくある 2. ごくまれだがあある 3. ない 4. よくわからない

問2-22 西成に対する差別をなくしていくには、どのようなことをすればよいと思われますか。3つまで選んで○をつけてください。なお、よくわからない場合は「11. わからない」を選んでください。

1. 大阪市民が、西成区に対する差別の歴史や現状をしっかりと学習する。
2. マスコミなどが、西成区のよい面を積極的に取り上げ、宣伝する。
3. 行政による市民への啓発活動を推進する
4. 行政・民間で西成区に大規模な集客施設を建設する。
5. 西成区民自身が偏見や差別をなくす自助努力を行なう
6. 行政が区画整理などを実施して、まちづくりを進める。
7. 高齢者、障害者、低所得者などにやさしい施策を充実させる。
8. 日雇労働者が多く居住する地区への施策を推進する。
9. 同和地区住民や外国籍住民などに対する施策を推進する。
10. その他（具体的に
11. わからない

Ⅲ. 自由記入欄

最後に、西成差別の解決について、ご意見やご要望がありましたら、下記の欄に自由にお書きください。

お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。

同封の返信用封筒をお使いの上、ご返送ください。

『西成差別』に関する市民意識調査

アンケート調査票

2000（平成12）年12月

西成差別実態調査研究会

- お願い ・送付封筒に記しましたあて名のご本人がご回答していただきますよう、お願いします。
- ・設問への回答は、質問ごとに用意してある答えの中から、あなたご自身のお考えにあてはまる番号を○で囲むか、数値を記入してください。また、具体的に書くようお願いしているところでは、言葉でお書きください。
- ・回答によっては、あとの質問をとばすところがあります。その場合は、指示にしたがって、次に進んでください。
- ・回答で「その他」を選んだ場合は、（ ）内に具体的にご記入ください。

I. あなた自身のことをお聞きます。

- 問1-1 あなたの年齢は満何歳ですか。 満 歳
- 問1-2 あなたの性別は男女どちらですか。○をつけてください。 1. 男 2. 女
- 問1-3 あなたの世帯の種別は以下のどれに当てはまりますか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。
1. 一人暮らし 2. 夫婦2人だけ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居
5. 夫婦と子どもと夫婦の親（三世大家族） 6. その他（ ）
- 問1-4 あなたは、大阪市内に合計で何年間住んでおられますか。年数をお書きください。 年
- 問1-5 あなたは、現在何区に住んでおられますか。 区
- 問1-6 あなたの現在のお住まいはどのような形態ですか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。
1. 一戸建て（持ち家） 2. 賃貸一戸建て（賃貸） 3. 分譲マンション
4. 公営の賃貸住宅 5. 民間の賃貸マンション 6. 民間の賃貸アパート、文化住宅
7. 社宅・官舎 8. 寮・間借り 9. その他（ ）
- 問1-7 あなたは、収入のあるお仕事に就いていますか。それとも就いていませんか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。
1. 自営 2. 家族従業者 3. 会社員（民間企業） 4. 公務員
5. パートタイマー・アルバイト・派遣労働者 6. 日雇・臨時雇 7. 学生
8. 専業主婦 9. 無職 10. その他（ ）

問1-8 仕事に就いている方にお聞きます。あなたの年間所得は、いくらぐらいでしょうか。あてはまるものに、○をつけてください。

1. 300万円未満 2. 300万円以上、600万円未満
3. 600万円以上、900万円未満 4. 900万円以上

問1-9 仕事に就いている方にお聞きます。あなたの就労場所は、どこですか。いずれかに○をつけてください。

1. お住まいの区内 2. 西成区内 3. お住まいの区・西成区以外の大阪市内
4. 大阪市外

問1-10 あなたは、西成区内に親戚や知人がおられますか。いずれかに○をつけてください。

1. いる 2. いない

問1-11 <問1-10>で「1. いる」を選んだ方にお聞きます。その親戚や知人はどのような方ですか。以下の中から選んで○をつけてください。複数ある場合は、複数に○をつけてください。

1. 親、兄弟、姉妹 2. 親戚 3. 友人 4. 仕事上の付き合いのある方
5. その他（具体的に ）

Ⅱ. 「西成」や差別についてお聞きます。

問2-1 あなたは、「西成」に対してどのような感じを持っていますか。(1)～(11)のすべての項目について、当てはまる番号に○をつけてお答えください。

	1 そう思う	2 どちらとも いえない	3 そう 思わない	4 わから ない
1. 庶民的である	1	2	3	4
2. 歴史や伝統が感じられる	1	2	3	4
3. 活気がある	1	2	3	4
4. こわいところである	1	2	3	4
5. 豊かである	1	2	3	4
6. 安心して暮らせる	1	2	3	4
7. 閑静なところである	1	2	3	4
8. 老朽住宅が密集している	1	2	3	4
9. 公園や緑が多い	1	2	3	4
10. 交通の便がよい	1	2	3	4
11. 公共の施設やサービスが行き届いている	1	2	3	4

問2-2 <問2-1>の(1)～(11)の中で、「そう思う」「そう思わない」と特に強く感じられている項目は、何でしょうか。2つを選んで番号で答えてください。

とくに強く「そう思う」もの と

とくに強く「そう思わない」もの と

問2-3 「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じについて以下の設問にお答えください。

- (1) 「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはどれですか。いずれかひとつを選んで、○をつけてください。

1. プラス 2. どちらとも言えない 3. マイナス 4. わからない

- (2) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを象徴することがら(地名・駅名、社会集団や出来事など)は何ですか。三つまででお答えください。わからないときは、「4. わからない」に○をつけてください。

ことがら(1) _____

ことがら(2) _____

ことがら(3) _____

4. わからない

- (3) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。また、そのように感じるようになったのかはいつごろからと思われますか。何年ごろ、何年前、何歳のとき、万博があったところとかでお答えください。覚えていない方は、「2. 覚えていない」に○をつけてください。

_____ 2. 覚えていない

- (4) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。そのように感じられるようになったきっかけは何でしょうか。自由に記入してください。よくわからない場合は、「2. わからない」に○をつけてください。

1. きっかけ: _____

_____ 2. わからない

問2-4 「西成区」と言った場合、あなたがすぐに思い浮かべる地域名(あるいは駅名、建物などでも結構です)を、三つまで自由にお書きください。ない場合は、「4. ない」に○をつけてください。

1. _____ 2. _____ 3. _____

4. ない

問2-5 あなたは、「西成」のことを、どの程度知っていますか。以下の項目について、知っている程度に○をつけてください。

	よく知っ ている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
1. 皮革産業が盛ん	1	2	3
2. 少女マンガ別冊『フレンド』事件	1	2	3
3. てんのじ村	1	2	3
4. じゃりん子チエ	1	2	3
5. 勝間なんさん	1	2	3
6. 釜ヶ崎暴動	1	2	3
7. ふたりっ子	1	2	3

問2-6 西成区には、社会的に立場の弱い人々が多く住んでいます。どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。三つまで番号を選んで○をつけてください。

1. 高齢者 2. 韓国・朝鮮人 3. 中国・東南アジア出身者 4. 沖縄出身者
5. 同和地区住民 6. 日雇労働者 7. ひとり親家庭 8. 障害者 9. 野宿生活者
10. 零細商工業者

問2-7 あなたは、西成区を訪れたことがありますか。ある方はその地名や駅名（3つまで）を書いてください。ない方は「2. ない」に○をつけてください。

1. ある 地名1 _____ 地名2 _____ 地名3 _____
2. ない

問2-8 <問2-7>で「1. ある」と回答された方へお聞きします。その場所を訪れた理由は何ですか。以下の中から、選んでください。

<地名1>を訪れた理由

1. 買い物 2. 親戚・友人宅の訪問 3. 勤務地がある 4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び 6. 散策・散歩 7. その他 ()

<地名2>を訪れた理由

1. 買い物 2. 親戚・友人宅の訪問 3. 勤務地がある 4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び 6. 散策・散歩 7. その他 ()

<地名3>を訪れた理由

1. 買い物 2. 親戚・友人宅の訪問 3. 勤務地がある 4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び 6. 散策・散歩 7. その他 ()

問2-9 あなたは、かつて西成区に住んだことがありますか。いずれかに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ

問2-10 <問2-9>で「はい」と答えた方へお聞きします。なぜ、西成区を離れたのですか。その理由を以下から選んで○をつけてください。

1. 仕事の都合で転出 2. 居住環境のよいところへ移ろうと思って
3. 家賃の安い地域へ移ろうと思って 4. その他（具体的に ）

問2-11 西成区が近くにあることで、あなたはどのようなメリット（好都合なこと）やデメリット（不都合なこと）を感じていますか。(1)～(6)の設問に答えて、あてはまるものに○をつけてください。

	1	2	3	4
	1	2	3	4
1. 物価が安く、買い物がしやすい	1	2	3	4
2. 野宿生活者が増えてきた	1	2	3	4

	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
3. 日雇労働者が増えてきた	1	2	3	4
4. 西成区と間違えられたりする	1	2	3	4
5. 福祉施設などが利用しやすい	1	2	3	4
6. 娯楽・芸能にふれやすい	1	2	3	4

問2-12 あなたは、西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか。
あてはまるものに○をつけてください。

1. ある 2. ない 3. よく覚えていない

問2-13 <問2-12>で「1. ある」と回答された方にお聞きします。それは、どのような方から、あるいはどこで見聞しましたか。当てはまるものに○をつけてください（複数の回答があるときは、すべてに）。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟など）から聞いた。
2. 親戚の人から聞いた。
3. 近所の人から聞いた
4. 学校や職場の友達から聞いた
5. テレビ・新聞・雑誌などのマスコミを通じて知った
6. 学校の先生や職場の上司などから聞いた
7. 喫茶店や待合所（たとえばバス停）などの公共の場で、他人の話を聞いた
8. はっきり覚えていない

問2-14 <問2-12>で「1. ある」と回答された方にお聞きします。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

問2-15 <問2-12>で「ある」と回答された方にお聞きします。それらの差別や偏見を聞いたり読んだりしたとき、あなたはどのように思いましたか。思ったものすべての番号に○をつけてください。

- | | | |
|------------------|---------------|--------------|
| 1. 不愉快に思った | 2. 腹が立った | 3. 悲しく思った |
| 4. 当然だと思った | 5. やむを得ないと思った | 6. 何とも思わなかった |
| 7. 相手を問いただし、反論した | 8. その他（具体的に | ） |

問2-16 あなた自身あるいはお子さんが就職して西成区で働くことになった場合、あなたはためらいを感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ 3. 何とも言えない 4. わからない

問2-17 あなた自身あるいはお子さんが結婚して西成区で住むことになった場合、あなたはためらいを感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ 3. 何とも言えない 4. わからない

問2-18 あなたは、他人にあなたがお住まいの区名を抵抗なく話せますか。

1. 抵抗なく話せる 2. 少し抵抗があるが話せる 3. ほとんどはなせない
4. 話せない 5. わからない

問2-19 あなたは、あなたがお住まいの区（あるいは地域）に対してどのような感じを持っていますか。

(1)～(11)のすべての項目について、当てはまる番号に○をつけてお答えください。

	1 そう思う	2 どちらとも いえない	3 そう 思わない	4 わから ない
1. 庶民的である	1	2	3	4
2. 歴史や伝統が感じられる	1	2	3	4
3. 活気がある	1	2	3	4
4. こわいところである	1	2	3	4
5. 豊かである	1	2	3	4
6. 安心して暮らせる	1	2	3	4
7. 閑静なところである	1	2	3	4
8. 老朽住宅が密集している	1	2	3	4
9. 公園や緑が多い	1	2	3	4
10. 交通の便がよい	1	2	3	4
11. 公共の施設やサービスが行き届いている	1	2	3	4

問2-20 <問2-19>の(1)～(11)の中で、特に強く感じているものは、何でしょうか。2つを選んで番号で答えてください。

_____ と _____

問2-21 あなたは、地元で行われている事業やイベントに参加されたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。

	よく参加する	たまに参加する	参加したことがない
1. 区民祭り	1	2	3
2. 伝統的な地域の祭りや行事	1	2	3
3. 町内会や校区などでの催し	1	2	3
4. 福祉などのボランティア活動	1	2	3
5. 人権に関する学習会	1	2	3
6. その他事業（具体的に _____）	1	2	3

問2-22 あなたの住まいの区（あるいは区民）に対して、差別されたり冷やかされたりしたことはありますか。

1. よくある 2. ごくまれだがある 3. ない 4. よくわからない

問2-23 西成に対する差別や偏見をなくしていくには、どのようなことをすればよいと思われますか。
3つまで選んで○をつけてください。なお、よくわからない場合は「11. わからない」を選んでください。

1. 大阪市民が、西成区に対する差別の歴史や現状をしっかりと学習する。
2. マスコミなどが、西成区の良い面を積極的に取り上げ、宣伝する。
3. 行政による市民への啓発活動を推進する
4. 行政・民間で西成区に大規模な集客施設を建設する。
5. 西成区民自身が偏見や差別をなくす自助努力を行なう
6. 行政が区画整理などを実施して、まちづくりを進める。
7. 高齢者、障害者、低所得者などにやさしい施策を充実させる。
8. 日雇労働者が多く居住する地区への施策を推進する。
9. 同和地区住民や外国籍住民などに対する施策を推進する。
10. その他（具体的に ）
11. わからない

問2-24 西成に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事があれば、参加しますか。いずれかに○をつけてください。

1. 積極的に参加する
2. 機会があれば参加してもよい
3. 側面から援助したい
4. 参加しない
5. わからない

III. 自由記入欄

最後に、西成に対する差別の解決について、ご意見やご要望がありましたら、下記の欄に自由にお書きください。

お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。
同封の返信用封筒をお使いの上、ご返送ください。

--

1-1 あなたの年

1. 一人暮

1. 300.

1. 事業主

Ⅱ. あなたの「西成」での仕事についてお聞きします。

問2-1 西成区に就労することが決まったときにどう思われましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

1. 大変な地区に働くことになったなと思った。
2. 仕事のやりがいのある地区に働くことになったなと思った
3. 気にしなかった
4. 何も思わなかった

問2-2 <問2-1>で、「1」を選んだ方にお聞きします。その思いは今もお持ちですか。それとも変わりましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

1. 今はそう思っていない
2. 今も、当時と同じ程度にそう思っている
3. いっそう強くそういう思いを持っている
4. よくわからない

問2-3 西成区に就労することが決まったときに周りの家族や親戚、友人から西成区に勤めることに関して何か言われましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

1. 大変なところだからと激励された
2. 大変なところだから気をつけるようにと言われた
3. 勤めるのをやめたらどうかと言われた
4. 西成区に勤めることに関しては何も言われなかった

問2-4 就労するまでに西成区について具体的に何か関わりを持っていましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

1. 仕事で来たことがあった
2. 通学していたことがあった
3. 親戚や友人を訪ねに来たことがあった
4. 遊びや買物で来たことがあった
5. 通過したことはあるが、立ち寄ったことはなかった
6. 全く知らなかった

Ⅲ. 「西成」や差別についてお聞きします。

問3-1 あなたは、「西成」に対してどのような感じを持っていますか。(1)～(11)のすべての項目について、当てはまる番号に○をつけてお答えください。

	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
1. 庶民的である	1	2	3	4
2. 歴史や伝統が感じられる	1	2	3	4
3. 活気がある	1	2	3	4
4. こわいところである	1	2	3	4
5. 豊かである	1	2	3	4
6. 安心して暮らせる	1	2	3	4
7. 閑静なところである	1	2	3	4
8. 老朽住宅が密集している	1	2	3	4

	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
9. 公園や緑が多い	1	2	3	4
10. 交通の便がよい	1	2	3	4
11. 公共の施設やサービスが行き届いている	1	2	3	4

問3-2 <問3-1>の(1)～(11)の中で、「そう思う」「そう思わない」と特に強くかんじられている項目は、何でしょうか。2つを選んで番号で答えてください。

とくに強く「そう思う」もの a. _____ と b. _____

とくに強く「そう思わない」もの c. _____ と d. _____

問3-3 <問3-2>で回答した思いは、以前からそう思っていたのですか。それとも西成で仕事をするようになってからそう思うようになったのですか。いずれかの○をつけてください。

	以前から 思っていた	西成で仕事 を始めてから	わからない
とくに強く「そう思う」もの(a.)について	1	2	3
とくに強く「そう思う」もの(b.)について	1	2	3
とくに強く「そう思わない」もの(c.)について	1	2	3
とくに強く「そう思わない」もの(d.)について	1	2	3

問3-4 西成区に就労しているという点から見て、以下の設問に答えてください。あてはまる番号に○をつけて下さい。

	そう思う	どちらとも 言えない	そう思わない	わからない
1. 会社からみて仕事のしやすいところである	1	2	3	4
2. 個人的にみて仕事が楽しくやれるところ	1	2	3	4
3. 仕事が大変なところである	1	2	3	4
4. 他の区での仕事と変わらない	1	2	3	4

問3-5 今後西成区でこのまま就労すると仮定した場合に、どのような考えをお持ちですか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

1. ずっと就労したい
2. 別に就労の場所はどこでもかまわない
3. ずっと就労したいとは思わない
4. 今すぐ違う場所で就労したい
5. わからない

問3-6 以下の西成区の地名を知っていますか。知っている程度に○をつけてください。

	よく知っている (よく行く)	まあ知っている (行ったことがある)	地名は知っている (行ったことはないが)	知らない (行ったことがない)
1. 津守	1	2	3	4
2. 鶴見橋	1	2	3	4
3. あいりん(釜ヶ崎)	1	2	3	4

	よく知っている (よく行く)	まあ知っている (行ったことがある)	地名は知っている (行ったことはないが)	知らない (行ったことがない)
4. 天下茶屋	1	2	3	4
5. 岸里	1	2	3	4
6. 花園町	1	2	3	4
7. 今宮	1	2	3	4
8. 山王	1	2	3	4
9. 玉出	1	2	3	4
10. 新今宮	1	2	3	4
11. 聖天坂	1	2	3	4
12. 飛田	1	2	3	4
13. 長橋	1	2	3	4
14. 千本	1	2	3	4
15. 天神の森	1	2	3	4
16. 梅南	1	2	3	4

問3-7 あなたは、「西成」に関する以下の項目について、どの程度知っていますか。知っている程度に○をつけてください。

	よく知っ ている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
1. 皮革産業が盛ん	1	2	3
2. 少女マンガ別冊『フレンド』事件	1	2	3
3. てんのじ村	1	2	3
4. じゃりん子チエ	1	2	3
5. 勝間なんさん	1	2	3
6. 釜ヶ崎暴動	1	2	3
7. ふたりっ子	1	2	3

問3-8 西成区には、社会的に立場の弱い人々が多く住んでいます。どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。三つまで番号を選んで○をつけてください。

1. 高齢者 2. 韓国・朝鮮人 3. 中国・東南アジア出身者 4. 沖縄出身者
5. 同和地区住民 6. 日雇労働者 7. ひとり親家庭 8. 障害者 9. 野宿生活者
10. 零細商工業者

IV. 西成差別をどのように感じられましたか

問4-1 あなた個人の経験についてお聞きします。西成区で働いていることによって、あなたは直接に冷やかされたりしたことがありますか。あるいは、西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか。以下の設問に、「ある」「ない」などの回答を選んで、それに○をつけてください。

	ある	ない	覚えていない
1. 西成区で働いていることについて冷やかされた	1	2	3
2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした	1	2	3

問4-2 <問4-1>の設問「1. 西成区で働いていることについて冷やかされた」で「ある」と回答された方に聞きます。それはどのような社会関係や場所での出来事ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|--------------|-------------|
| 1. 友人から | 2. 学校などの先生から | 3. 行政機関や窓口で |
| 4. 職場の仲間や上司から | 5. 営業取引などの中で | 6. 冠婚葬祭の場で |
| 7. サークル的な活動の中で | 8. 宗教行事などで | 9. 自宅の周りで |
| 10. その他（具体的に) | | |

問4-3 <問4-1>の設問「1. 西成区で働いていることについて冷やかされた」で「ある」と回答された方に聞きます。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

問4-4 <問4-1>の設問「1. 西成区で働いていることについて冷やかされた」で「ある」と回答された方に聞きます。それらの差別や偏見を聞いたり読んだりしたとき、あなたはどのように思いましたか。思ったものすべての番号に○をつけてください。

- | | | |
|--------------|---------------|------------------|
| 1. 不愉快に思った | 2. 腹が立った | 3. 悲しく思った |
| 4. 当然だと思った | 5. やむを得ないと思った | 6. 相手を問いただし、反論した |
| 7. 何とも思わなかった | 8. その他（具体的に) | |

問4-5 <問4-1>の設問「1. 西成区で働いていることについて冷やかされた」で「ある」と回答された方に聞きます。その場合、あなたはどのように対処しましたか。あてはまるものすべてに、○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 家族や親戚の相談した | 2. 友人に相談した |
| 3. 人権擁護の活動をしている人に相談した | 4. 行政に相談（連絡）した |
| 5. 差別した人に抗議した、あるいは話し合った | 6. 何もしなかった |
| 7. その他（具体的に) | |

問4-6 <問4-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。それは、どのような方から、あるいはどこで見聞しましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟など）から聞いた。
2. 親戚の人から聞いた。
3. 近所の人から聞いた
4. 学校や職場の友達から聞いた
5. テレビ・新聞・雑誌などのマスコミを通じて知った
6. 学校の先生や職場の上司などから聞いた
7. 喫茶店や待合所（たとえばバス停）などの公共の場で、他人の話を聞いた
8. はっきり覚えていない

問4-7 <問4-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

問4-8 <問4-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。それらの差別や偏見を聞いたり読んだりしたとき、あなたはどのように思いましたか。思ったものすべての番号に○をつけてください。

- | | | |
|--------------|---------------|------------------|
| 1. 不愉快に思った | 2. 腹が立った | 3. 悲しく思った |
| 4. 当然だと思った | 5. やむを得ないと思った | 6. 相手を問いただし、反論した |
| 7. 何とも思わなかった | 8. その他（具体的に |) |

問4-9 <問4-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。その場合、あなたはどのように対処しましたか。あてはまるものすべてに、○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 家族や親戚の相談した | 2. 友人に相談した |
| 3. 人権擁護の活動をしている人に相談した | 4. 行政に相談（連絡）した |
| 5. 差別した人に抗議した、あるいは話し合った | 6. 何もしなかった |
| 7. その他（具体的に |) |

問4-10 あなたは、西成に対する偏見や差別が社会に広まっていると思いますか。いずれかを選択して○をつけてください。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問4-11 <問4-10>で「はい」と回答された方に質問します。「西成に対する差別や偏見がある」との理由は何にあると思いますか。率直な意見をおしえてください。

問4-12 あなたのお子さんが就職して西成区で働くことになった場合、あなたはためらいを感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

- | | | | |
|-------|--------|------------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. 何とも言えない | 4. わからない |
|-------|--------|------------|----------|

問4-13 あなた自身あるいはお子さんが結婚して西成区で住むことになった場合、あなたはためらいを感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

- | | | | |
|-------|--------|------------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. 何とも言えない | 4. わからない |
|-------|--------|------------|----------|

問4-14 これまでの西成区での経験をふまえて、あなたは西成区に住んでみたいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 住んでみたい | 2. 住みたくはない | 3. わからない |
|-----------|------------|----------|

問4-15 西成に対する差別や偏見をなくしていくには、どのようなことをすればよいと思われますか。
3つまで選んで○をつけてください。なお、よくわからない場合は「11. わからない」を選んでください。

1. 大阪市民が、西成区に対する差別の歴史や現状をしっかりと学習する。
2. マスコミなどが、西成区のよい面を積極的に取り上げ、宣伝する。
3. 行政による市民への啓発活動を推進する
4. 行政・民間で西成区に大規模な集客施設を建設する。
5. 西成区民自身が偏見や差別をなくす自助努力を行なう
6. 行政が区画整理などを実施して、まちづくりを進める。
7. 高齢者、障害者、低所得者などにやさしい施策を充実させる。
8. 日雇労働者が多く居住する地区への施策を推進する。
9. 同和地区住民や外国籍住民などに対する施策を推進する。
10. その他（具体的に
11. わからない

問4-16 西成に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事があれば、参加しますか。いずれかに○をつけてください。

1. 積極的に参加する
2. 機会があれば参加してもよい
3. 側面から援助したい
4. 参加しない
5. わからない

V. 自由記入欄

最後に、西成に対する差別の解決について、ご意見やご要望がありましたら、下記の欄に自由にお書きください。

お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。
同封の返信用封筒をお使いの上、ご返送ください。

『西成差別』に関する市民意識調査

アンケート調査票

2000（平成12）年12月

西成差別実態調査研究会

- お願い ・送付封筒に記しましたあて名のご本人がご回答していただきますよう、お願いします。
- ・設問への回答は、質問ごとに用意してある答えの中から、あなたご自身のお考えにあてはまる番号を○で囲むか、数値を記入してください。また、具体的に書くようにお願いしているところでは、言葉でお書きください。
- ・回答によっては、あとの質問をとばすところがあります。その場合は、指示にしたがって、次に進んでください。
- ・回答で「その他」を選んだ場合は、（ ）内に具体的にご記入ください。

I. あなた自身のことをお聞きます。

問1-1 あなたの年齢は満何歳ですか。

満 歳

問1-2 あなたの性別は男女どちらですか。いずれかに○をつけてください。 1. 男 2. 女

問1-3 あなたの世帯の種別は以下のどれに当てはまりますか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。

1. 一人暮らし 2. 夫婦2人だけ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居
5. 夫婦と子どもと夫婦の親（三世代家族） 6. その他

問1-4 あなたは西成区で生まれましたか、それとも転入してきたのですか。また転入してきたのは何年前ですか。いずれかに○をつけ、「2」を選んだ場合は、年数を書いてください。

1. 西成区で生まれた
2. 転入してきた（約 年前）

問1-5 あなたは、現在西成区のどこに住んでおられますか。町名をお書きください。

問1-6 あなたの現在のお住まいはどのような形態ですか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。

1. 一戸建て（持ち家） 2. 賃貸一戸建て（賃貸） 3. 分譲マンション
4. 公営の賃貸住宅 5. 民間の賃貸マンション 6. 民間の賃貸アパート、文化住宅
7. 社宅・官舎 8. 寮・間借り 9. その他（ ）

問1-7 あなたは、収入のあるお仕事に就いていますか。それでも就いていませんか。以下の中から1つを選んで○をつけてください。

1. 自営 2. 家族従業者 3. 会社員（民間企業） 4. 公務員
5. パートタイマー・アルバイト・派遣労働者 6. 日雇・臨時雇 7. 学生
8. 専業主婦 9. 無職 10. その他（ ）

問1-8 仕事に就いている方にお聞きします。あなたの年間所得は、いくらぐらいでしょうか。

1. 300万円未満 2. 300万円以上 600万円未満
3. 600万円以上 900万円未満 4. 900万円以上

問1-9 仕事に就いている方にお聞きします。あなたの就労場所は、どこですか。

1. 西成区内 2. 西成区以外の大阪市 3. 大阪市外

II. 「西成」についてお聞きします。

問2-1 あなたは、「西成」に対してどのような感じを持っていますか。1～11のすべての項目について、当てはまる番号に○をつけてお答えください。

	1	2	3	4
	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	わから ない
1. 庶民的である	1	2	3	4
2. 歴史や伝統が感じられる	1	2	3	4
3. 活気がある	1	2	3	4
4. こわいところである	1	2	3	4
5. 豊かである	1	2	3	4
6. 安心して暮らせる	1	2	3	4
7. 閑静なところである	1	2	3	4
8. 老朽住宅が密集している	1	2	3	4
9. 公園や緑が多い	1	2	3	4
10. 交通の便がよい	1	2	3	4
11. 公共の施設やサービスが行き届いている	1	2	3	4

問2-2 <問2-1>の1～11の中で、「そう思う」「そう思わない」と特に強くかんじられている項目は、何でしょうか。2つを選んで番号で答えてください。

とくに強く「そう思う」もの _____ と _____

とくに強く「そう思わない」もの _____ と _____

問2-3 「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはプラスあるいはマイナスいずれのものでしょうか。また、それに関連する以下の設問にお答えください。

(1) 「西成」という言葉を聞いたとき、すぐに浮かぶ感じはどれですか。いずれかを選んで、○をつけてください。

1. プラス 2. どちらとも言えない 3. マイナス 4. わからない

(2) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを象徴することがら(地名・駅名、社会集団や出来事など)は何ですか。三つまででお答えください。わからないときは、「4. わからない」に○をつけてください。

ことがら(1) _____ ことがら(2) _____

ことがら(3) _____ 4. わからない

- (3) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。また、そのように感じるようになったのかはいつごろからと思われますか。何年ごろ、何年前、何歳のとき、「万博があったころ」などでお答えください。覚えていない方は、「2. 覚えていない」に○をつけてください。

2. 覚えていない

- (4) 上の設問(1)で「1. プラス」あるいは「3. マイナス」を選んだ方にお聞きします。そのように感じられるようになったきっかけは何でしょうか。自由に記入してください。よくわからない場合は、「2. わからない」に○をつけてください。

2. わからない

問2-4 全体的に、西成区はあなたにとって住みやすいまちですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 住み心地がよい 2. 何とも言えない 3. やや住み心地が悪い 4. わからない

問2-5 あなたはこれからも西成区で暮らしていこうと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 住み続けたい 2. 転出したい 3. どちらでもよい 4. わからない

問2-6 あなたは、以下の「西成」に関することについて、どの程度知っていますか。以下の項目について、知っている程度に○をつけてください。

	よく知っ ている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
1. 皮革産業が盛ん	1	2	3
2. 少女マンガ別冊『フレンド』事件	1	2	3
3. てんのじ村	1	2	3
4. じゃりん子チエ	1	2	3
5. 勝間なんきん	1	2	3
6. 釜ヶ崎暴動	1	2	3
7. ふたりっ子	1	2	3

問2-7 西成区には、社会的に立場の弱い人々が多く住んでいます。どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。三つまで番号を選んで○をつけてください。

1. 高齢者 2. 韓国・朝鮮人 3. 中国・東南アジア出身者 4. 沖縄出身者
5. 同和地区住民 6. 日雇労働者 7. ひとり親家庭 8. 障害者 9. 野宿生活者
10. 零細商工業者

Ⅲ. 西成に対する差別についてお聞きします

問3-1 あなた個人の経験についてお聞きします。西成区民であることによって、あなたは直接に差別されたり、あるいは冷やかされたりしたことがありますか。あるいは、西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか。以下の設問に、「ある」「ない」などの回答を選んで、それに○をつけてください。

	ある	ない	覚えていない
1. 西成区民であることについて直接に差別を受けた	1	2	3
2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした	1	2	3

問3-2 <問3-1>の設問「1. 西成区民であることについて直接に差別を受けた」で「ある」と回答された方に聞きます。それはどのような社会関係や場所での出来事ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|--------------|-------------|
| 1. 友人から | 2. 学校などの先生から | 3. 行政機関や窓口で |
| 4. 職場の仲間や上司から | 5. 営業取引などの中で | 6. 冠婚葬祭の場で |
| 7. サークル的な活動の中で | 8. 宗教行事などで | 9. 自宅の周りで |
| 10. その他（具体的に |) | |

問3-3 <問3-1>の設問「1. 西成区民であることについて直接に差別を受けた」で「ある」と回答された方に聞きます。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

問3-4 <問3-1>の設問「1. 西成区民であることについて直接に差別を受けた」で「ある」と回答された方に聞きます。それらの差別や偏見を聞いたり読んだりしたとき、あなたはどのように思いましたか。思ったものすべての番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|---------------|------------------|
| 1. 不愉快に思った | 2. 腹が立った | 3. 悲しく思った |
| 4. そのとおりだと思った | 5. やむを得ないと思った | 6. 相手を問いただし、反論した |
| 7. 何とも思わなかった | 8. その他（具体的に |) |

問3-5 <問3-1>の設問「1. 西成区民であることについて直接に差別を受けた」で「ある」と回答された方に聞きます。その場合、あなたはどのように対処しましたか。あてはまるものすべてに、○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 家族や親戚の相談した | 2. 友人に相談した |
| 3. 人権擁護の活動をしている人に相談した | 4. 行政に相談（連絡）した |
| 5. 差別した人に抗議した、あるいは話し合った | 6. 何もしなかった |
| 7. その他（具体的に |) |

問3-6 <問3-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。それは、どのような方から、あるいはどこで見聞しましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟など）から聞いた。
2. 親戚の人から聞いた。
3. 近所の人から聞いた

4. 学校や職場の友達から聞いた
5. テレビ・新聞・雑誌などのマスコミを通じて知った
6. 学校の先生や職場の上司などから聞いた
7. 喫茶店や待合所（たとえばバス停）などの公共の場で、他人の話を聞いた
8. はっきり覚えていない

問3-7 <問3-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。それは、どのような内容のものでしたか。覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

問3-8 <問3-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。それらの差別や偏見を聞いたり読んだりしたとき、あなたはどのように思いましたか。思ったものすべての番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|---------------|------------------|
| 1. 不愉快に思った | 2. 腹が立った | 3. 悲しく思った |
| 4. そのとおりだと思った | 5. やむを得ないと思った | 6. 相手を問いただし、反論した |
| 7. 何とも思わなかった | 8. その他（具体的に | ） |

問3-9 <問3-1>の設問「2. 西成の地域や人々に対する差別や偏見を見聞きした」で「ある」と回答された方に聞きます。その場合、あなたはどのように対処しましたか。あてはまるものすべてに、○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 家族や親戚の相談した | 2. 友人に相談した |
| 3. 人権擁護の活動をしている人に相談した | 4. 行政に相談（連絡）した |
| 5. 差別した人に抗議した、あるいは話し合った | 6. 何もしなかった |
| 7. その他（具体的に | ） |

問3-10 旅行先などで、「大阪のどこから来たの」と問われたら、「西成（区）からです」と答えられますか。あてはまるものに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. ちゅうちょなく答えられる | 2. 少しちゅうちょはあるが答えられる |
| 3. 答えられない | 4. わからない |

問3-11 <問3-10>で「3. 答えられない」を選んだ方にお聞きします。過去にそういった経験をお持ちですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1. 持っている | 2. 持っていない | 3. 答えたくない |
|----------|-----------|-----------|

問3-12 あなたは、西成に対する偏見や差別が社会に広まっていると思いますか。いずれかを選択して○をつけてください。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問3-13 <問3-12>で「はい」と回答された方に質問します。「西成に対する差別や偏見がある」ことの理由は何にあると思いますか。率直な意見をお書きください。

IV. あなたと西成区の関わりをお聞きます。

問4-1 あなたは、地元で行われている事業や行事に参加したことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。

	よく参加する	たまに参加する	参加したことがない
1. 区民祭り	1	2	3
2. 伝統的な地域の祭りや行事	1	2	3
3. 町内会や校区などでの催し	1	2	3
4. 福祉などのボランティア活動	1	2	3
5. 人権に関する学習会	1	2	3
6. その他事業	1	2	3

(具体的に)

問4-2 あなたが西成区民であることで、誇りに思うことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。「ない」と思う方は「1. ない」に○をつけてください。

1. 庶民的な下町である
2. 芸能・文化を育んできたまちである
3. 地場産業・伝統産業がある
4. 歴史的遺産や史跡がある
5. 多様な人々が違いを認めあつて暮らす生活文化がある
6. ない

V. あいりん地域について質問します。

問5-1 あなたは、あいりん地域（釜ヶ崎）を訪れたことがありますか。あるいは住んでいるのですか。いずれかに○をつけてください。

1. 訪れたことがある
2. 住んでいる
3. いずれでもない

問5-2 <問5-1>で「1. 訪れたことがある」と回答された方へお聞きます。その場所を訪れた理由は何ですか。以下の中から選んで、○をつけてください。

1. 買い物
2. 親戚・友人宅の訪問
3. 勤務地がある
4. 営業など仕事で訪問
5. 娯楽・遊び
6. 福祉・学習施設の利用
7. 散策・散歩
8. 興味深いところだから
8. その他 ()

問5-3 あなたは、あいりん地域（釜ヶ崎）をどのように思いますか。思うものすべてに○をつけてください。

1. 汚い
2. 活気がある
3. 庶民的
4. 自分たちとは異質な人々の街
5. 日雇労働者の多いこの街を、どこか他の区に移転してほしい
6. 日雇労働者の街として再生してほしい
7. 野宿生活者の人権と生活を守る政策を実施してほしい

Ⅵ. 西成に対する差別をなくするためには、どうすればよいでしょうか

問6-1 西成に対する差別や偏見をなくしていくには、どのようなことをすればよいと思われますか。3つまで選んで○をつけてください。なお、よくわからない場合は「11. わからない」を選んでください。

1. 大阪市民が、西成区に対する差別の歴史や現状をしっかりと学習する。
2. マスコミなどが、西成区のよい面を積極的に取り上げ、宣伝する。
3. 行政による市民への啓発活動を推進する
4. 行政・民間で西成区に大規模な集客施設を建設する。
5. 西成区民自身が偏見や差別をなくす自助努力を行なう
6. 行政が区画整理などを実施して、まちづくりを進める。
7. 高齢者、障害者、低所得者などにやさしい施策を充実させる。
8. 日雇労働者が多く居住する地区への施策を推進する。
9. 同和地区住民や外国籍住民などに対する施策を推進する。
10. その他（具体的に ）
11. わからない

問6-2 西成に対する差別や偏見をなくするための取り組みや行事があれば、参加しますか。いずれかに○をつけてください。

1. 積極的に参加する
2. 機会があれば参加してもよい
3. 側面から援助したい
4. 参加しない
5. わからない

Ⅶ. 自由記入欄

最後に、西成に対する差別の解決について、ご意見やご要望がありましたら、下記の欄に自由にお書きください。

＜聞き取り調査のお願い＞

西成区に住んでいることで差別を受け、また不愉快な思いをした経験のある方に、直接にお話をお聞きしたいと思います。もし、話を聞かせていただけるようであれば、以下に氏名、住所、電話番号など連絡先をお書きください。後日、こちらからご連絡させていただきます。もちろん、そのご回答やプライバシーが他人に知られたり、外にもれたりすることは決してありません。

フリガナ
氏 名 _____

ご連絡先 〒 _____ ご住所 _____

電話番号 _____

お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。
同封の返信用封筒をお使いの上、ご返送ください。

資料編Ⅱ アンケート調査、単純集計結果

以下の表は、アンケート回答の単純集計である。報告書本文にあわせて、「大阪市民アンケート(Ⅰ・Ⅱ)」、「西成区就労者アンケート」、「西成区民アンケート」の3つに分けて、その結果を掲載した。なお、単純に各設問の回答数を集計したので、それぞれの回答数・選択数は、一定の基準でサンプル選定し分析をした本文中のそれとは異なった値を示していることがある。

1. 大阪市民アンケートⅠ・Ⅱの集計結果

アンケート配布数・返送数および返送率。

	計	大阪市民 アンケートⅠ (一般住民)	大阪市民 アンケートⅡ (近隣住民)
アンケート配布数	5883	4825	1058
アンケート返送数	1316	1156	160
内、居住区名回答	1302	1144	158
アンケート返送率	22.1%	23.7%	14.9%

問1-1：あなたの年齢は満何歳ですか。

	計	-20代	30代	40代	50代	60代	70代-
計	1307	143	157	179	298	282	248
	100.0%	10.9%	12.0%	13.7%	22.8%	21.6%	19.0%
大阪市民 アンケートⅠ	1148	124	139	163	254	255	213
	100.0%	10.8%	12.1%	14.2%	22.1%	22.2%	18.6%
大阪市民 アンケートⅡ	159	19	18	16	44	27	35
	100.0%	11.9%	11.3%	10.1%	27.7%	17.0%	22.0%

問1-2：あなたの性別は男女どちらですか。

	計	男	女
計	1313	520	793
	100.0%	39.6%	60.4%
大阪市民 アンケートⅠ	1153	456	697
	100.0%	39.5%	60.5%
大阪市民 アンケートⅡ	160	64	96
	100.0%	40.0%	60.0%

問1-3：あなたの世帯の種別は以下のどれに当てはまりますか、以下の中から1つを選んでください。

	計	1人暮らし	夫婦 2人だけ	夫婦と 子ども	親と同居	夫婦と 子供と 夫婦の親	その他
計	1310	172	345	457	127	105	104
	100.0%	13.1%	26.3%	34.9%	9.7%	8.0%	7.9%
大阪市民 アンケートⅠ	1151	153	310	399	104	95	90
	100.0%	13.3%	26.9%	34.7%	9.0%	8.3%	7.8%
大阪市民 アンケートⅡ	159	19	35	58	23	10	14
	100.0%	11.9%	22.0%	36.5%	14.5%	6.3%	8.8%

その他では「きょうだい」「母子」などの回答が見られた。

問1-4：あなたは大阪市内に合計で何年間住んでおられますか、年数をお書きください。

	計	-5年未満	10年未満	20年未満	30年未満	50年未満	50年以上
計	1304 100.0%	91 7.0%	53 4.1%	112 8.6%	176 13.5%	347 26.6%	424 32.5%
大阪市民 アンケートⅠ	1150 100.0%	84 7.3%	51 4.4%	97 8.4%	142 12.3%	395 34.3%	381 33.1%
大阪市民 アンケートⅡ	153 100.0%	7 4.6%	2 1.3%	15 9.8%	34 22.2%	52 34.0%	43 28.1%

問1-5：あなたは現在、何区に住んでおられますか。

	大阪市民 アンケート Ⅰ	大阪市民 アンケート Ⅱ	計		大阪市民 アンケート Ⅰ	大阪市民 アンケート Ⅱ	計
計	1147 100.0%	159 100.0%	1306 100.0%	西区	39 3.4%		39 3.0%
旭区	46 4.0%		46 3.5%	西成区	2 0.2%		2 0.0%
阿倍野 区	35 3.1%	45 28.3%	80 6.1%	西淀川 区	39 3.4%		39 3.0%
生野区	68 5.9%	2 1.3%	70 5.4%	東住吉 区	87 7.6%		87 6.7%
北区	55 4.8%		55 4.2%	東成区	42 3.7%		42 3.2%
此花区	35 3.1%		35 2.7%	東淀川 区	63 5.5%		63 4.8%
城東区	75 6.5%		75 5.7%	平野区	83 7.2%		83 6.4%
住之江 区	34 3.0%	33 20.8%	67 5.1%	福島区	43 3.7%		43 3.3%
住吉区	78 6.8%	24 15.1%	102 7.8%	港区	39 3.4%		39 3.0%
大正区	18 1.6%	29 18.2%	47 3.6%	都島区	53 4.6%		53 4.1%
中央区	42 3.7%		42 3.2%	淀川区	74 6.5%		74 5.7%
鶴見区	43 3.7%		43 3.3%	奈良市	1 0.1%		1 0.01%
天王寺 区	40 3.5%	3 1.9%	43 3.3%	枚方市		1 0.6%	1 0.01%
浪速区	13 1.1%	22 13.8%	35 2.7%				

問1-6：あなたの現在のお住まいは、どのような形態ですか、以下の中から1つを選んでください。

	計	持家 一戸建	賃貸 一戸建	分譲 マン ション	公営住宅	民間賃貸 マン ション	アパート 文化住宅	社宅 官舎	寮 間借り	その他
計	1310 100.0%	647 49.4%	57 4.4%	158 12.0%	122 9.3%	160 12.2%	42 3.2%	34 2.6%	16 1.2%	73 5.6%
大阪市民 アンケートⅠ	1149 100.0%	571 49.7%	52 4.5%	133 11.6%	110 9.6%	146 12.7%	36 3.1%	31 2.7%	14 1.2%	56 4.9%
大阪市民 アンケートⅡ	160 100.0%	76 47.5%	5 3.1%	25 15.6%	12 7.5%	14 8.8%	6 3.8%	3 1.9%	2 1.3%	17 10.6%

その他では「持家“長屋”」や「借家“長屋”」などの「連棟」表記が多かった。

問１－７：あなたは収入のあるお仕事に就いていますか、それとも就いていませんか。以下の中から１つを選んでください。

	計	自営	家族 従業者	会社員 民間企業	公務員	パート バイト 派遣	日雇 臨時雇	学生	専業 主婦	無職	その他
計	1293	177	69	307	25	146	4	29	251	223	60
	100.0%	13.7%	5.3%	23.7%	1.9%	11.3%	0.03%	2.2%	19.4%	17.2%	4.6%
大阪市民 アンケートⅠ	1132	161	60	274	21	122	3	25	227	187	52
	100.0%	14.2%	5.3%	24.2%	1.9%	10.8%	0.3%	2.2%	20.1%	16.5%	4.6%
大阪市民 アンケートⅡ	160	17	9	33	4	24	1	4	24	36	8
	100.0%	10.6%	5.6%	20.6%	2.5%	15.0%	0.6%	2.5%	15.0%	22.5%	5.0%

その他回答の主なものは「年金生活者」。

問１－８：仕事に就いている方にお聞きます、あなたの年間所得はいくらぐらいでしょうか、あてはまるものを選んでください。

	計	300万円 未満	600万円 未満	900万円 未満	900万円 以上
計	797	386	232	123	56
	100.0%	48.4%	29.1%	15.4%	7.0%
大阪市民 アンケートⅠ	704	336	208	111	49
	100.0%	47.7%	29.5%	15.8%	7.0%
大阪市民 アンケートⅡ	93	50	24	12	7
	100.0%	53.8%	25.8%	12.9%	7.5%

問１－９（アンケートⅡ）：仕事に就いている方にお聞きます、あなたの就労場所はどこですか。

	計	居住区内	西成区内	それ以外の 大阪市内	大阪市外
大阪市民 アンケートⅡ	89	40	9	29	11
	100.0%	44.9%	10.1%	32.6%	12.4%

問１－９（アンケートⅠ）・１－１０（アンケートⅡ）：あなたは西成区内に親戚や知人がおられますか。

	計	いる	いない
計	1291	424	867
	100.0%	32.8%	67.2%
大阪市民 アンケートⅠ	1137	340	797
	100.0%	29.9%	70.1%
大阪市民 アンケートⅡ	154	84	70
	100.0%	54.5%	45.5%

問１－１０（アンケートⅠ）・１－１１（アンケートⅡ）：上記設問１－９・１－１０で「1.いる」を選んだ方にお聞きます、その親戚や知人はどのような方ですか、以下の中から選んでください。複数ある場合は複数選択してください。

	計	親兄弟	親戚	友人	仕事関係	その他
計	422	27	90	237	117	41
	100.0%	6.4%	21.3%	56.2%	27.7%	9.7%
大阪市民 アンケートⅠ	339	19	67	183	100	34
	100.0%	5.6%	19.8%	54.0%	29.5%	10.0%
大阪市民 アンケートⅡ	83	8	23	54	17	7
	100.0%	9.6%	27.7%	65.1%	20.5%	8.4%

問２－１：あなたは「西成」に対してどのような感じを持っていますか、次の全ての項目について当てはまるものを選んでください。

問２－２：また、各項目の中で「そう思う」・「そう思わない」と、特に強く感じられているものは何でしょう、２つを選んで答えてください。

アンケートⅠ	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない	特に強く思う	特に強く思わない
特に強く感じるの回答数						769 100.0%	736 100.0%
庶民的である	1096 100.0%	682 62.2%	134 12.2%	47 4.3%	233 21.3%	516 67.1%	15 2.0%
歴史や伝統が感じられる	1073 100.0%	185 17.2%	270 25.2%	262 24.4%	356 33.2%	56 7.3%	85 11.5%
活気がある	1072 100.0%	251 23.4%	335 31.3%	209 19.5%	277 25.8%	107 13.9%	132 17.9%
こわいところである	1091 100.0%	336 30.8%	321 29.4%	241 22.1%	193 17.7%	257 33.4%	110 14.9%
豊かである	1086 100.0%	22 2.0%	277 25.5%	482 44.4%	305 28.1%	6 0.8%	251 34.1%
安心して暮らせる	1083 100.0%	61 5.6%	341 31.5%	369 34.1%	312 28.8%	17 2.2%	247 33.6%
閑静なところである	1076 100.0%	22 2.0%	210 19.5%	588 54.6%	256 23.8%	9 1.2%	326 44.3%
老朽住宅が密集している	1085 100.0%	322 29.7%	250 23.0%	98 9.0%	415 38.2%	193 25.1%	34 4.6%
公園や緑が多い	1083 100.0%	59 5.4%	254 23.5%	337 31.1%	433 40.0%	14 1.8%	94 12.8%
交通の便がよい	1093 100.0%	433 39.6%	240 22.0%	112 10.2%	308 28.2%	169 22.0%	33 4.5%
公共の施設やサービスが充実	1086 100.0%	126 11.6%	261 24.0%	193 17.8%	506 46.6%	41 5.3%	40 5.4%

アンケートⅡ	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない	特に強く思う	特に強く思わない
特に強く感じるの回答数						122 100.0%	120 100.0%
庶民的である	157 100.0%	104 66.2%	21 13.4%	13 8.3%	19 12.1%	79 64.8%	1 0.8%
歴史や伝統が感じられる	155 100.0%	31 20.0%	42 27.1%	49 31.6%	33 21.3%	6 4.9%	12 10.0%
活気がある	156 100.0%	47 30.1%	38 24.4%	42 26.9%	29 18.6%	24 19.7%	29 24.2%
こわいところである	156 100.0%	46 29.5%	53 34.0%	42 26.9%	15 9.6%	34 27.9%	25 20.8%
豊かである	156 100.0%	5 3.2%	50 32.1%	68 43.6%	33 21.2%	1 0.8%	31 25.8%
安心して暮らせる	155 100.0%	17 11.0%	63 40.6%	49 31.6%	26 16.8%	2 1.6%	29 24.2%
閑静なところである	156 100.0%	4 2.6%	42 26.9%	94 60.3%	16 10.3%	2 1.6%	50 41.7%
老朽住宅が密集している	153 100.0%	55 35.9%	46 30.1%	19 12.4%	33 21.6%	36 29.5%	6 5.0%
公園や緑が多い	154 100.0%	12 7.8%	41 26.6%	72 46.8%	29 18.8%	1 0.8%	25 20.8%
交通の便がよい	157 100.0%	70 44.6%	33 21.0%	25 15.9%	29 18.5%	29 23.8%	9 7.5%
公共の施設やサービスが充実	157 100.0%	17 10.8%	53 33.8%	36 22.9%	51 32.5%	10 8.2%	10 8.3%

Ⅰ・Ⅱ計	計	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	わから ない	特に強く 思う	特に強く 思わない
特に強く感じるの 回答数						891 100.0%	856 100.0%
庶民的である	1253 100.0%	786 62.7%	155 12.4%	60 4.8%	252 20.1%	595 66.8%	16 1.9%
歴史や伝統が 感じられる	1228 100.0%	216 17.6%	312 25.4%	311 25.3%	389 31.7%	62 7.0%	97 11.3%
活気がある	1228 100.0%	298 24.3%	373 30.4%	251 20.4%	306 24.9%	131 14.7%	161 18.8%
こわいところ である	1247 100.0%	382 30.6%	374 30.0%	283 22.7%	208 16.7%	291 32.7%	135 15.8%
豊かである	1242 100.0%	27 2.2%	327 26.3%	550 44.3%	338 27.2%	7 0.8%	282 32.9%
安心して 暮らせる	1238 100.0%	78 6.3%	404 32.6%	418 33.8%	338 27.3%	19 2.1%	276 32.2%
閑静なところ である	1232 100.0%	26 2.1%	252 20.5%	682 55.4%	272 22.1%	11 1.2%	376 43.9%
老朽住宅が 密集している	1238 100.0%	377 30.5%	296 23.9%	117 9.5%	448 36.2%	229 25.7%	40 4.7%
公園や緑が多い	1237 100.0%	71 5.7%	295 23.8%	409 33.1%	462 37.3%	15 1.7%	119 13.9%
交通の便がよい	1250 100.0%	503 40.2%	273 21.8%	137 11.0%	337 27.0%	198 22.2%	42 4.9%
公共の施設や サービスが充実	1243 100.0%	143 11.5%	314 25.3%	229 18.4%	557 44.8%	51 5.7%	50 5.8%

問２－３－１：「西成」という言葉を聞いた時、すぐに浮かぶ感じは、プラスあるいはマイナスいずれのものでしょうか、また、それに関連する以下の設問にお答えください。

	計	プラス	どちらとも いえない	マイナス	わからない
計	1259 100.0%	13 1.0%	455 36.1%	556 44.2%	235 18.7%
大阪市民 アンケートⅠ	1107 100.0%	11 1.0%	395 35.7%	488 44.1%	213 19.2%
大阪市民 アンケートⅡ	152 100.0%	2 1.3%	60 39.5%	68 44.7%	22 14.5%

問２－３－２：上記設問２－３－１で「プラス」あるいは「マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを象徴する事柄（地名・駅名・社会集団や出来事などを自由記述）は何ですか、３つまででお答えください。わからない時は「わからない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	560 100.0%	468 83.6%	92 16.4%
大阪市民 アンケートⅠ	491 100.0%	410 83.5%	81 16.5%
大阪市民 アンケートⅡ	69 100.0%	58 84.1%	11 15.9%

(象徴事柄の上位まとめ)

順位	大阪市民 アンケートⅠ	大阪市民 アンケートⅡ
1	あいりん 17.7%	あいりん 16.1%
2	釜ヶ崎 9.1%	釜ヶ崎 7.6%
3	新今宮 5.1%	新今宮 6.1%
4	日雇 4.2%	以下同率 多数
5	ホームレス 3.8%	

問2-3-3：上記設問2-3-1で「プラス」あるいは「マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを感じるようになったのはいつ頃からと思われますか、何年頃、何年前、何歳の時、万博があった頃とか（自由記述）でお答えください。覚えていない方は「覚えていない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	551 100.0%	310 56.3%	241 43.7%
大阪市民 アンケートⅠ	483 100.0%	272 56.3%	211 43.7%
大阪市民 アンケートⅡ	68 100.0%	38 55.9%	30 44.1%

問2-3-4：上記設問2-3-1で「プラス」あるいは「マイナス」を選んだ方にお聞きします。そのように感じるようになったきっかけは何でしょうか、自由に記入してください。よくわからない場合は「わからない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	548 100.0%	430 78.5%	118 21.5%
大阪市民 アンケートⅠ	480 100.0%	377 78.5%	103 21.5%
大阪市民 アンケートⅡ	68 100.0%	53 77.9%	15 22.1%

問2-4：「西成区」と言った場合、あなたがすぐに思い浮かべる地域名（あるいは駅名、建物などでも結構です）を、3つまで自由にお書きください。無い場合は「ない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	1232 100.0%	897 72.8%	335 27.2%
大阪市民 アンケートⅠ	1084 100.0%	779 71.9%	305 28.1%
大阪市民 アンケートⅡ	148 100.0%	118 79.7%	30 20.3%

(地域名の上位まとめ)

順位	大阪市民 アンケートⅠ	大阪市民 アンケートⅡ
1	あいりん 25.3%	あいりん 12.3%
2	天下茶屋 10.5%	天下茶屋 11.7%
3	新今宮 7.9%	新今宮 7.0%
4	通天閣 6.5%	釜ヶ崎 7.0%
5	岸里 4.1%	玉出 5.3%

問2-5：あなたは以下の「西成」に関する事柄について、どの程度知っていますか、以下の項目について知っている程度を選んでください。

アンケートⅠ	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	1050 100.0%	299 28.5%	310 29.5%	441 42.0%
少女マンガ 「フレンド」事件	1003 100.0%	30 3.0%	87 8.7%	886 88.3%
てんのじ村	1041 100.0%	150 14.4%	459 44.1%	432 41.5%
じゃりん子チエ	1052 100.0%	477 45.3%	370 35.2%	205 19.5%
勝間なんきん	995 100.0%	39 3.9%	189 19.0%	767 77.1%
釜ヶ崎暴動	1083 100.0%	511 47.2%	400 36.9%	172 15.9%
ふたりっ子	1051 100.0%	447 42.5%	370 35.2%	234 22.3%

アンケートⅡ	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	144 100.0%	49 34.0%	55 38.2%	40 27.8%
少女マンガ 「フレンド」事件	141 100.0%	7 5.0%	12 8.5%	122 86.5%
てんのじ村	145 100.0%	29 20.0%	65 44.8%	51 35.2%
じゃりん子チエ	145 100.0%	74 51.0%	49 33.8%	22 15.2%
勝間なんきん	143 100.0%	16 11.2%	31 21.7%	96 67.1%
釜ヶ崎暴動	153 100.0%	87 56.9%	45 29.4%	21 13.7%
ふたりっ子	147 100.0%	70 47.6%	43 29.3%	34 23.1%

Ⅰ・Ⅱ計	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	1194 100.0%	348 29.1%	365 30.6%	481 40.3%
少女マンガ 「フレンド」事件	1144 100.0%	37 3.2%	99 8.7%	1008 88.1%
てんのじ村	1186 100.0%	179 15.1%	524 44.2%	483 40.7%
じゃりん子チエ	1197 100.0%	551 46.0%	419 35.0%	227 19.0%
勝間なんさん	1138 100.0%	55 4.8%	220 19.3%	863 75.8%
釜ヶ崎暴動	1236 100.0%	598 48.4%	445 36.0%	193 15.6%
ふたりっ子	1198 100.0%	517 43.2%	413 34.5%	268 22.4%

問２－６：西成区には社会的に立場の弱い人が多く住んでいます、どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。３つまで選んでください。

	計	高齢者	韓国 朝鮮人	中国・東南 アジア 出身者	沖縄 出身者	同和地区 住民
計	1245 100.0%	438 35.2%	185 14.9%	29 2.3%	7 0.6%	337 27.1%
大阪市民 アンケートⅠ	1096 100.0%	383 34.9%	163 14.9%	24 2.2%	7 0.6%	307 28.0%
大阪市民 アンケートⅡ	149 100.0%	55 36.9%	22 14.8%	5 3.4%	0 0.0%	30 20.1%

	日雇 労働者	ひとり親 家庭	障害者	野宿 生活者	零細 商工業者
計	967 77.7%	49 3.9%	115 9.2%	1000 80.3%	187 15.0%
大阪市民 アンケートⅠ	858 78.3%	40 3.6%	97 8.9%	876 79.9%	162 14.8%
大阪市民 アンケートⅡ	109 73.2%	9 6.0%	18 12.1%	124 83.2%	25 16.8%

問２－７：あなたは西成区を訪れたことがありますか、ある方はその地名や駅名（３つまで自由記述）を書いてください。無い方は「ない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	ない
計	1250 100.0%	800 64.0%	450 36.0%
大阪市民 アンケートⅠ	1099 100.0%	674 61.3%	425 38.7%
大阪市民 アンケートⅡ	151 100.0%	126 83.4%	25 16.6%

問2-8： 上記設問2-7で「ある」と回答された方へお聞きします、その場所を訪れた理由は何ですか、以下の中から選択してください（複数回答）。

（訪問地1：上位10地点）

大阪市民 アンケートⅠ		大阪市民 アンケートⅡ	
回答数	705 100.0%	回答数	126 100.0%
新今宮 (駅・周辺)	104 14.8%	玉出 (市場)	20 15.9%
天下茶屋	80 11.3%	新今宮	18 14.3%
花園 (駅・中学校)	72 10.2%	花園	15 11.9%
動物園前	48 6.8%	岸里	14 11.1%
岸里	46 6.5%	天下茶屋	13 10.3%
津守 (北・南)	37 5.2%	津守 (北・南・コーナン)	8 6.3%
玉出	33 4.7%	今宮	5 4.0%
鶴見橋 (商店街)	25 3.5%	通天閣 (周辺)	5 4.0%
今宮	23 3.3%	山王	4 3.2%
新世界	17 2.4%	鶴見橋	4 3.2%

（訪問地1：訪問理由複数回答）

	計	買い物	親戚 友人宅 訪問	勤務地が ある	仕事で 訪問	娯楽・遊び	散策 散歩	その他
計	808 100.0%	181 22.4%	204 25.2%	38 4.7%	151 18.7%	182 22.5%	72 8.9%	175 21.7%
大阪市民 アンケートⅠ	682 100.0%	130 19.1%	168 24.6%	34 5.0%	146 21.4%	152 22.3%	54 7.9%	151 22.1%
大阪市民 アンケートⅡ	126 100.0%	51 40.5%	36 28.6%	4 3.2%	5 4.0%	30 23.8%	18 14.3%	24 19.0%

（訪問地2：上位10地点）

大阪市民 アンケートⅠ		大阪市民 アンケートⅡ	
回答数	477 100.0%	回答数	104 100.0%
天下茶屋	58 12.2%	岸里	17 16.3%
岸里 (駅・周辺)	55 11.5%	天下茶屋	15 14.4%
花園 (駅・商店街)	42 8.8%	花園	11 10.6%
玉出 (ゴルフ場)	39 8.2%	津守 (北・南)	11 10.6%
新今宮	35 7.3%	玉出	7 6.7%
津守 (北・南)	24 5.0%	新今宮	6 5.8%
萩ノ茶屋	18 3.8%	鶴見橋 (商店街)	4 3.8%
大国町	15 3.1%	動物園 (前)	4 3.8%
山王	14 2.9%	大国町	3 2.9%
新世界	13 2.7%	萩ノ茶屋	3 2.9%

(訪問地 2 : 訪問理由複数回答)

	計	買い物	親戚 友人宅 訪問	勤務地が ある	仕事で 訪問	娯楽・遊び	散策 散歩	その他
計	559 100.0%	121 21.6%	106 19.0%	13 2.3%	116 20.8%	112 20.0%	49 8.8%	102 18.2%
大阪市民 アンケートⅠ	459 100.0%	78 17.0%	85 18.5%	10 2.2%	112 24.4%	93 20.3%	36 7.8%	87 19.0%
大阪市民 アンケートⅡ	100 100.0%	43 43.0%	24 24.0%	3 3.0%	4 4.0%	19 19.0%	13 13.0%	15 15.0%

(訪問地 3 : 上位 10 地点)

大阪市民 アンケートⅠ		大阪市民 アンケートⅡ	
回答数	322 100.0%	回答数	74 100.0%
岸里	44 13.7%	天下茶屋	13 17.6%
花園	37 11.5%	玉出 (駅・商店街)	8 10.8%
天下茶屋	37 11.5%	岸里	7 9.5%
玉出 (駅・スーパー)	24 7.5%	花園	6 8.1%
津守 (北・南)	16 5.0%	今宮	5 6.8%
鶴見橋 (商店街)	12 3.7%	津守 (南)	5 6.8%
新今宮	10 3.1%	恵美須町	4 5.4%
飛田 (百番)	10 3.1%	新今宮	4 5.4%
今宮	9 2.8%	山王	3 4.1%
萩ノ茶屋	8 2.5%	萩ノ茶屋	3 4.1%

(訪問地 3 : 訪問理由複数回答)

	計	買い物	親戚 友人宅 訪問	勤務地が ある	仕事で 訪問	娯楽・遊び	散策 散歩	その他
計	384 100.0%	82 21.4%	77 20.1%	6 1.6%	87 22.7%	73 19.0%	36 9.4%	78 20.3%
大阪市民 アンケートⅠ	310 100.0%	59 19.0%	65 21.0%	5 1.6%	77 24.8%	56 18.1%	28 9.0%	56 18.1%
大阪市民 アンケートⅡ	74 100.0%	23 31.1%	12 16.2%	1 1.4%	10 13.5%	17 23.0%	8 10.8%	22 29.7%

問 2-9 : あなたはかつて西成区に住んだことがありますか、いずれかを選んでください。

	計	居住経験 あり	居住経験 なし
計	1279 100.0%	78 6.1%	1201 93.9%
大阪市民 アンケートⅠ	1126 100.0%	57 5.1%	1069 94.9%
大阪市民 アンケートⅡ	153 100.0%	21 13.7%	132 86.3%

問２－１０：上記設問２－９で「あり」と答えられた方へお聞きします、なぜ西成区を離れたのですか、その理由を以下から選んでください。

	計	仕事の都合	居住環境のよい所へ	家賃の安い所へ	その他
計	75 100.0%	14 18.7%	14 18.7%	7 9.3%	40 53.3%
大阪市民 アンケートⅠ	54 100.0%	10 18.5%	9 16.7%	6 11.1%	29 53.7%
大阪市民 アンケートⅡ	21 100.0%	4 19.0%	5 23.8%	1 4.8%	11 52.4%

問２－１１（アンケートⅡ）：西成区が近くにあることで、あなたはどのようなメリットやデメリットを感じていますか、設問に答えて当てはまるものを選んでください。

アンケートⅡ	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない
物価が安く 買い物し易い	147 100.0%	42 28.6%	39 26.5%	35 23.8%	31 21.1%
野宿生活者が 増えてきた	153 100.0%	81 52.9%	29 19.0%	14 9.2%	29 19.0%
日雇労働者が 増えてきた	149 100.0%	50 33.6%	38 25.5%	16 10.7%	45 30.2%
西成区と間違え られたりする	147 100.0%	15 10.2%	15 10.2%	91 61.9%	26 17.7%
福祉施設などが 利用し易い	145 100.0%	5 3.4%	22 15.2%	55 37.9%	63 43.4%
娯楽・芸能に ふれやすい	145 100.0%	14 9.7%	35 24.1%	45 31.0%	51 35.2%

問２－１１（アンケートⅠ）・２－１２（アンケートⅡ）：あなたは西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか、当てはまるものを選んでください。

	計	見聞経験 ある	見聞経験 ない	よく覚えて いない
計	1260 100.0%	622 49.4%	432 34.3%	206 16.3%
大阪市民 アンケートⅠ	1105 100.0%	538 48.7%	381 34.5%	186 16.8%
大阪市民 アンケートⅡ	155 100.0%	84 54.2%	51 32.9%	20 12.9%

問２－１２（アンケートⅠ）・２－１３（アンケートⅡ）：上記設問２－１２・２－１３で「ある」と回答された方に聞きます、それはどのような方から、あるいはどこで見聞きしましたか、当てはまるものを選んでください、複数の回答がある時は全てを選択してください。

	計	家族 から	親戚 から	近所 の人 から	学校・職場 の友達から	マスコミ から	学校先生 職場上司 から	公共の場で 他人の話を 聞いた	はっきり 覚えて いない
計	625 100.0%	145 23.2%	59 9.4%	143 22.9%	219 35.0%	348 55.7%	55 8.8%	51 8.2%	60 9.6%
大阪市民 アンケートⅠ	541 100.0%	118 21.8%	44 8.1%	107 19.8%	184 34.0%	306 56.6%	48 8.9%	36 6.7%	56 10.4%
大阪市民 アンケートⅡ	84 100.0%	27 32.1%	15 17.9%	36 42.9%	35 41.7%	42 50.0%	7 8.3%	15 17.9%	4 4.8%

問2-13（アンケートⅠ）・2-14（アンケートⅡ）：上記設問2-12・2-13で「ある」と回答された方に聞きます，それはどのような内容のものでしたか，覚えていることで結構ですから，自由に書いてください。

	計	自由 記述者数
計	622 100.0%	482 77.5%
大阪市民 アンケートⅠ	538 100.0%	414 77.0%
大阪市民 アンケートⅡ	84 100.0%	68 81.0%

問2-14（アンケートⅠ）・2-15（アンケートⅡ）：上記設問2-12・2-13で「ある」と回答された方に聞きます，それらの差別や偏見を聞いたり読んだりした時，あなたはどのように思いましたか，思ったもの全てを選んでください。

	計	不愉快に 思った	腹が 立った	悲しく 思った	その通り だと思 った	やむを 得ないと 思った	相手を 問いただし 反論した	何とも 思わな かった	その他
計	605 100.0%	209 34.5%	71 11.7%	234 38.7%	57 9.4%	177 29.3%	42 6.9%	25 4.1%	82 13.6%
大阪市民 アンケートⅠ	522 100.0%	175 33.5%	58 11.1%	207 39.7%	53 10.2%	153 29.3%	34 6.5%	19 3.6%	69 13.2%
大阪市民 アンケートⅡ	83 100.0%	34 41.0%	13 15.7%	27 32.5%	4 4.8%	24 28.9%	8 9.6%	6 7.2%	13 15.7%

問2-15（アンケートⅠ）・2-16（アンケートⅡ）：あなた自身あるいはお子さんが就職して西成区で働くことになった場合，あなたはためらいを感じますか，当てはまるものを選んでください。

	計	はい	いいえ	何とも 言えない	わからない
計	1259 100.0%	159 12.6%	496 39.4%	408 32.4%	196 15.6%
大阪市民 アンケートⅠ	1104 100.0%	140 12.7%	426 38.6%	358 32.4%	180 16.3%
大阪市民 アンケートⅡ	155 100.0%	19 12.3%	70 45.2%	50 32.3%	16 10.3%

問2-16（アンケートⅠ）・2-17（アンケートⅡ）：あなた自身あるいはお子さんが結婚して西成区で住むことになった場合，あなたはためらいを感じますか，当てはまるものを選んでください。

	計	はい	いいえ	何とも 言えない	わからない
計	1284 100.0%	236 18.4%	449 35.0%	401 31.2%	198 15.4%
大阪市民 アンケートⅠ	1127 100.0%	210 18.6%	384 34.1%	357 31.7%	176 15.6%
大阪市民 アンケートⅡ	157 100.0%	26 16.6%	65 41.4%	44 28.0%	22 14.0%

問2-17（アンケートⅠ）・2-18（アンケートⅡ）：あなたは他人にあなたがお住まいの区名を抵抗無く話せますか。

	計	抵抗無く 話せる	少し抵抗ある が話せる	ほとんど 話せない	話せない	わから ない
計	1286 100.0%	1164 90.5%	68 5.3%	6 0.5%	10 0.8%	38 3.0%
大阪市民 アンケートⅠ	1129 100.0%	1021 90.4%	64 5.7%	5 0.4%	9 0.8%	30 2.7%
大阪市民 アンケートⅡ	157 100.0%	143 91.1%	4 2.5%	1 0.6%	1 0.6%	8 5.1%

問2-18 (アンケートⅠ)・2-19 (アンケートⅡ): あなたは、あなたがお住まいの区 (あるいは地域) に対してどのような感じを持っていますか、次の全ての項目について当てはまるものを選んでください。

問2-19 (アンケートⅠ)・2-20 (アンケートⅡ): また、各項目の中で「そう思う」と、特に強く感じられているものは何でしょう、2つを選んで番号で答えてください。

アンケートⅠ	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない	特に強く思う
特に強く思うの回答数						1003 100.0%
庶民的である	1102 100.0%	828 75.1%	190 17.2%	54 4.9%	30 2.7%	450 44.9%
歴史や伝統が感じられる	1089 100.0%	435 39.9%	303 27.8%	255 23.4%	96 8.8%	125 12.5%
活気がある	1086 100.0%	354 32.6%	467 43.0%	217 20.0%	48 4.4%	96 9.6%
こわいところである	1077 100.0%	51 4.7%	216 20.1%	765 71.0%	45 4.2%	42 4.2%
豊かである	1081 100.0%	181 16.7%	566 52.4%	241 22.3%	93 8.6%	31 3.1%
安心して暮らせる	1102 100.0%	629 57.1%	345 31.3%	86 7.8%	42 3.8%	253 25.2%
閑静なところである	1085 100.0%	289 26.6%	376 34.7%	385 35.5%	35 3.2%	97 9.7%
老朽住宅が密集している	1080 100.0%	179 16.6%	409 37.9%	426 39.4%	66 6.1%	51 5.1%
公園や緑が多い	1087 100.0%	365 33.6%	340 31.3%	351 32.3%	31 2.9%	150 15.0%
交通の便がよい	1115 100.0%	860 77.1%	134 12.0%	113 10.1%	8 0.7%	573 57.1%
公共の施設やサービスが充実	1096 100.0%	275 25.1%	480 43.8%	245 22.4%	96 8.8%	88 8.8%

アンケートⅡ	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない	特に強く思う
特に強く思うの回答数						136 100.0%
庶民的である	152 100.0%	105 69.1%	31 20.4%	8 5.3%	8 5.3%	62 45.6%
歴史や伝統が感じられる	151 100.0%	72 47.7%	34 22.5%	25 16.6%	20 13.2%	19 14.0%
活気がある	151 100.0%	39 25.8%	70 46.4%	28 18.5%	14 9.3%	9 6.6%
こわいところである	153 100.0%	10 6.5%	26 17.0%	107 69.9%	10 6.5%	6 4.4%
豊かである	153 100.0%	33 21.6%	72 47.1%	34 22.2%	14 9.2%	10 7.4%
安心して暮らせる	155 100.0%	83 53.5%	43 27.7%	16 10.3%	13 8.4%	34 25.0%
閑静なところである	150 100.0%	49 32.7%	55 36.7%	37 24.7%	9 6.0%	27 19.9%
老朽住宅が密集している	152 100.0%	22 14.5%	55 36.2%	58 38.2%	17 11.2%	5 3.7%
公園や緑が多い	151 100.0%	51 33.8%	61 40.4%	31 20.5%	8 5.3%	15 11.0%
交通の便がよい	155 100.0%	118 76.1%	22 14.2%	11 7.1%	4 2.6%	72 52.9%
公共の施設やサービスが充実	152 100.0%	34 22.4%	63 41.4%	37 24.3%	18 11.8%	8 5.9%

Ⅰ・Ⅱ計	計	そう思う	どちらとも言えない	そう 思わない	わから ない	特に強く 思う
特に強く思うの 回答数						1139 100.0%
庶民的である	1254 100.0%	933 74.4%	221 17.6%	62 4.9%	38 3.0%	512 45.0%
歴史や伝統が 感じられる	1240 100.0%	507 40.9%	337 27.2%	280 22.6%	116 9.4%	144 12.6%
活気がある	1237 100.0%	393 31.8%	537 43.4%	245 19.8%	62 5.0%	105 9.2%
こわいところ である	1230 100.0%	61 5.0%	242 19.7%	872 70.9%	55 4.5%	48 4.2%
豊かである	1234 100.0%	214 17.3%	638 51.7%	275 22.3%	107 8.7%	41 3.6%
安心して 暮らせる	1257 100.0%	712 56.6%	388 30.9%	102 8.1%	55 4.4%	287 25.2%
閑静なところ である	1235 100.0%	338 27.4%	431 34.9%	422 34.2%	44 3.6%	124 10.9%
老朽住宅が 密集している	1232 100.0%	201 16.3%	464 37.7%	484 39.3%	83 6.7%	56 4.9%
公園や緑が多い	1238 100.0%	416 33.6%	401 32.4%	382 30.9%	39 3.2%	165 14.5%
交通の便がよい	1270 100.0%	978 77.0%	156 12.3%	124 9.8%	12 0.9%	645 56.6%
公共の施設や サービスが充実	1248 100.0%	309 24.8%	543 43.5%	282 22.6%	114 9.1%	96 8.4%

問2-20（アンケートⅠ）・2-20（アンケートⅡ）：あなたは地元で行われている事業やイベントに参加したことがありますか、あてはまるものを選んでください。

アンケートⅠ	計	よく 参加する	たまに 参加する	参加した ことがない
区民祭	1114 100.0%	434 39.0%	328 29.4%	352 31.6%
伝統的な地域の 祭りや行事	1083 100.0%	357 33.0%	378 34.9%	348 32.1%
町内会や校区 などでの催し	1096 100.0%	438 40.0%	358 32.7%	300 27.4%
福祉などの ボランティア活動	1088 100.0%	360 33.1%	225 20.7%	503 46.2%
人権に関する 学習会	1099 100.0%	349 31.8%	228 20.7%	522 47.5%
その他	600 100.0%	141 23.5%	54 9.0%	405 67.5%

アンケートⅡ	計	よく 参加する	たまに 参加する	参加した ことがない
区民祭	154 100.0%	40 26.0%	53 34.4%	61 39.6%
伝統的な地域の 祭りや行事	152 100.0%	36 23.7%	56 36.8%	60 39.5%
町内会や校区 などでの催し	153 100.0%	45 29.4%	41 26.8%	67 43.8%
福祉などの ボランティア活動	154 100.0%	33 21.4%	33 21.4%	88 57.1%
人権に関する 学習会	152 100.0%	28 18.4%	29 19.1%	95 62.5%
その他	91 100.0%	13 14.3%	4 4.4%	74 81.3%

Ⅰ・Ⅱ計	計	よく参加する	たまに参加する	参加したことがない
区民祭	1268 100.0%	474 37.4%	381 30.0%	413 32.6%
伝統的な地域の祭りや行事	1235 100.0%	393 31.8%	434 35.1%	408 33.0%
町内会や校区などでの催し	1249 100.0%	483 38.7%	399 31.9%	367 29.4%
福祉などのボランティア活動	1242 100.0%	393 31.6%	258 20.8%	591 47.6%
人権に関する学習会	1251 100.0%	377 30.1%	257 20.5%	617 49.3%
その他	691 100.0%	154 22.3%	58 8.4%	479 69.3%

問2-21（アンケートⅠ）・2-22（アンケートⅡ）：あなたのお住まいの区（あるいは区民）に対して、差別されたり冷やかされたりしたことはありますか。

	計	よくある	ごくまれだがある	ない	よくわからない
計	1288 100.0%	34 2.6%	184 14.3%	961 74.6%	106 8.2%
大阪市民アンケートⅠ	1133 100.0%	33 2.9%	173 15.3%	836 73.8%	91 8.0%
大阪市民アンケートⅡ	155 100.0%	1 0.6%	14 9.0%	125 80.6%	15 9.7%

問2-22（アンケートⅠ）・2-23（アンケートⅡ）：西成に対する差別を無くしていくには、どのようなことをすれば良いと思われますか、3つまで選んでください、なお、よくわからない場合は「わからない」を選択してください。

	計	市民が差別を学習する	マスコミが良い面を宣伝する	行政による啓発活動の推進	大規模集客施設建設	区民が差別を無くす自助努力をする
計	1285 100.0%	347 27.0%	449 34.9%	249 19.4%	142 11.1%	414 32.2%
大阪市民アンケートⅠ	1128 100.0%	305 27.0%	404 35.8%	223 19.8%	122 10.8%	373 33.1%
大阪市民アンケートⅡ	157 100.0%	42 26.8%	45 28.7%	26 16.6%	20 12.7%	41 26.1%

	区画整理などまちづくりを推進	弱者にやさしい施策を推進	日雇労働者の多い地区への施策を推進	同和地区外国籍住民施策を推進	その他	わからない
計	351 27.3%	310 24.1%	482 37.5%	144 11.2%	47 3.7%	259 20.2%
大阪市民アンケートⅠ	308 27.3%	273 24.2%	422 37.4%	122 10.8%	42 3.7%	219 19.4%
大阪市民アンケートⅡ	43 27.4%	37 23.6%	60 38.2%	22 14.0%	5 3.2%	40 25.5%

問2-24（アンケートⅡ）：西成に対する差別や偏見を無くするための、取り組みや行事があれば参加しますか、いずれかを選んでください。

	計	積極的に参加する	機会があれば参加してもよい	側面から援助したい	参加しない	わからない
大阪市民アンケートⅡ	152 100.0%	6 3.9%	52 34.2%	15 9.9%	26 17.1%	53 34.9%

2. 西成区就労者アンケートの集計結果

アンケート配布数・返送数および返送率。

	西成区就労者 アンケート
アンケート配布数	580
アンケート返送数	183
アンケート返送率	31.6%

問1-1：あなたの年齢は満何歳ですか。

	計	-20代	30代	40代	50代	60代-
西成区就労者 アンケート	181 100.0%	36 19.9%	26 14.4%	50 27.6%	53 29.3%	16 8.8%

問1-2：あなたの性別は男女どちらですか。

	計	男	女
西成区就労者 アンケート	182 100.0%	138 75.8%	44 24.2%

問1-3：あなたの世帯の種別は以下のどれに当てはまりますか、以下の中から1つを選んでください。

	計	1人暮らし	夫婦 2人だけ	夫婦と 子ども	親と同居	夫婦と 子どもと 夫婦の親	その他
西成区就労者 アンケート	182 100.0%	17 9.3%	31 17.0%	71 39.0%	38 20.9%	16 8.8%	9 4.9%

問1-4：あなたは大阪府下に合計で何年間住んでおられますか、年数をお書きください。

	計	非在住	-5年未満	10年未満	20年未満	30年未満	50年未満	50年以上-
西成区就労者 アンケート	168 100.0%	7 4.2%	5 3.0%	8 4.8%	18 10.7%	32 19.0%	70 41.7%	28 16.7%

問1-5：仕事に就いている方にお聞きします、あなたの年間所得はいくらぐらいでしょうか、あてはまるものを選んでください。

	計	300万円 未満	600万円 未満	900万円 未満	900万円 以上
西成区就労者 アンケート	175 100.0%	22 12.6%	71 40.6%	63 36.0%	19 10.9%

問1-6：あなたは現在、どのようなお仕事に就いておられますか、以下の中から選んでください。

	計	事業主	商店店員	営業社員	飲食業社員	工場従業員
西成区就労者 アンケート	181 100.0%	2 1.1%	2 1.1%	22 12.2%	0 0.0%	6 3.3%

	金融業社員	事務職員	サービス 業務員	公務員	教員	その他
西成区就労者 アンケート	1 0.6%	111 61.3%	12 6.6%	3 1.7%	1 0.6%	21 11.6%

問１－７：西成区でのお勤めは合計何年ですか、いったん西成区外に転勤している場合は、西成でのお勤めの合計年数を記入してください。

	計	-5年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上
西成区就労者アンケート	180 100.0%	66 36.7%	35 19.4%	43 23.9%	24 13.3%	12 6.7%

問２－１：西成区に就労することが決まった時にどう思われましたか、あてはまるもの１つを選んでください。

	計	大変な地区に働くことになったと思った	仕事のやりがいのある地区に働くことになったと思った	気にしなかった	何も思わなかった
西成区就労者アンケート	182 100.0%	24 13.2%	2 1.1%	79 43.4%	77 42.3%

問２－２：上記設問２－１で「大変な地区で働くことになったと思った」を選んだ方にお聞きします、その思いは今もお持ちですか、それとも変わりましたか、あてはまるもの１つを選んでください。

	計	今はそう思っていない	今も当時と同じ程度にそう思っている	いっそう強くそういう思いを持っている	よくわからない
西成区就労者アンケート	24 100.0%	14 58.3%	8 33.3%	1 4.2%	1 4.2%

問２－３：西成区に就労することが決まった時に周りの家族や親戚・友人から、西成区に勤めることに関して何か言われましたか、あてはまるもの１つを選んでください。

	計	大変なところだからと激励された	大変なところだから気をつけるようにと言われた	勤めるのをやめたらどうかと言われた	西成区に勤めることに関しては何も言われなかった
西成区就労者アンケート	182 100.0%	5 2.7%	24 13.2%	2 1.1%	151 83.0%

問２－４：就労するまでに西成区について具体的に何か関わりを持っていましたか、あてはまるもの１つを選んでください。

	計	仕事で来た	通学していた	親戚・友人を訪ねた	遊びや買物で来た	通過のみある	全く知らない
西成区就労者アンケート	177 100.0%	34 19.2%	9 5.1%	22 12.4%	13 7.3%	60 33.9%	39 22.0%

問３－１：あなたは「西成」に対してどのような感じを持っていますか、次の全ての項目について当てはまるものを選んでください。

	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない
庶民的である	180 100.0%	132 73.3%	29 16.1%	6 3.3%	13 7.2%
歴史や伝統が感じられる	180 100.0%	34 18.9%	62 34.4%	50 27.8%	34 18.9%
活気がある	177 100.0%	30 16.9%	85 48.0%	49 27.7%	13 7.3%
こわいところである	179 100.0%	36 20.1%	78 43.6%	53 29.6%	12 6.7%
豊かである	180 100.0%	5 2.8%	50 27.8%	97 53.9%	28 15.6%

安心して暮らせる	180	6	90	54	30
	100.0%	3.3%	50.0%	30.0%	16.7%
閑静なところである	179	5	47	115	12
	100.0%	2.8%	26.3%	64.2%	6.7%
老朽住宅が密集している	180	90	56	14	20
	100.0%	50.0%	31.1%	7.8%	11.1%
公園や緑が多い	181	13	53	94	21
	100.0%	7.2%	29.3%	51.9%	11.6%
交通の便がよい	181	97	55	21	8
	100.0%	53.6%	30.4%	11.6%	4.4%
公共の施設やサービスが充実	181	13	87	40	41
	100.0%	7.2%	48.1%	22.1%	22.7%

問3-2: , また, 各項目の中で「そう思う」・「そう思わない」と, 特に強く感じられている項目は何でしょうか, それぞれ2つを選んでください。

	a: 思う	b: 思う	c: 思わない	d: 思わない
特に強く感じるの回答数	150	112	141	123
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
庶民的である	100	7	0	0
	66.7%	6.3%	0.0%	0.0%
歴史や伝統が感じられる	1	9	13	1
	0.7%	8.0%	9.2%	0.8%
活気がある	1	8	20	5
	0.7%	7.1%	14.2%	4.1%
こわいところである	22	8	20	2
	14.7%	7.1%	14.2%	1.6%
豊かである	0	3	37	10
	0.0%	2.7%	26.2%	8.1%
安心して暮らせる	0	0	20	18
	0.0%	0.0%	14.2%	14.6%
閑静なところである	0	0	20	38
	0.0%	0.0%	14.2%	30.9%
老朽住宅が密集している	13	42	1	4
	8.7%	37.5%	0.7%	3.3%
公園や緑が多い	2	1	6	27
	1.3%	0.9%	4.3%	22.0%
交通の便がよい	11	33	2	7
	7.3%	29.5%	1.4%	5.7%
公共の施設やサービスが充実	0	1	2	11
	0.0%	0.9%	1.4%	8.9%

問3-3: 上記設問3-2で特に強く感じられていると回答した思いは, 以前からそう思っていたのですか, それとも西成で仕事をするようになってから, そう思うようになったのですか, いずれかを選択してください。

	計	以前から	就労時から	わからない
a: 思う	150	60	88	2
	100.0%	40.0%	58.7%	1.3%
b: 思う	113	33	76	4
	100.0%	29.2%	67.3%	3.5%
c: 思わない	139	53	82	4
	100.0%	38.1%	59.0%	2.9%
d: 思わない	121	42	73	6
	100.0%	34.7%	60.3%	5.0%

問3-4：西成区に就労しているという点から見て、以下の設問の当てはまる項目を教えてください。

	計	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	わからない
会社から見て仕事のしやすい所	181 100.0%	42 23.2%	92 50.8%	30 16.6%	17 9.4%
個人的に見て仕事が好きやれる所	180 100.0%	22 12.2%	105 58.3%	31 17.2%	22 12.2%
仕事が大変な所	182 100.0%	26 14.3%	67 36.8%	73 40.1%	16 8.8%
他区での仕事と変わらない	182 100.0%	89 48.9%	47 25.8%	23 12.6%	23 12.6%

問3-5：今後西成区でこのまま就労すると仮定した場合に、どのような考えをお持ちですか、当てはまるもの1つを選んでください。

	計	ずっと就労したい	就労場所はどこでもかまわない	ずっと就労したいとは思わない	今すぐ違う場所で就労したい	わからない
西成区就労者アンケート	182 100.0%	18 9.9%	124 68.1%	21 11.5%	0 0.0%	19 10.4%

問3-6：以下の西成区の地名を知っていますか、知っている程度を選んでください。

	計	よく知っている	まあ知っている	地名は知っている	知らない
津守	183 100.0%	54 29.5%	76 41.5%	37 20.2%	16 8.7%
鶴見橋	183 100.0%	52 28.4%	73 39.9%	38 20.8%	20 10.9%
あいりん	183 100.0%	45 24.6%	64 35.0%	64 35.0%	10 5.5%
天下茶屋	182 100.0%	99 54.4%	65 35.7%	16 8.8%	2 1.1%
岸里	181 100.0%	91 50.3%	70 38.7%	18 9.9%	2 1.1%
花園町	182 100.0%	98 53.8%	57 31.3%	22 12.1%	5 2.7%
今宮	179 100.0%	42 23.5%	95 53.1%	36 20.1%	6 3.4%
山王	177 100.0%	18 10.2%	49 27.7%	56 31.6%	54 30.5%
玉出	179 100.0%	82 45.8%	71 39.7%	24 13.4%	2 1.1%
新今宮	181 100.0%	81 44.8%	78 43.1%	19 10.5%	3 1.7%
聖天坂	181 100.0%	19 10.5%	50 27.6%	50 27.6%	62 34.3%
飛田	181 100.0%	16 8.8%	74 40.9%	59 32.6%	32 17.7%
長橋	181 100.0%	31 17.1%	37 20.4%	36 19.9%	77 42.5%
千本	180 100.0%	33 18.3%	64 35.6%	46 25.6%	37 20.6%
天神ノ森	181 100.0%	15 8.3%	52 28.7%	65 35.9%	49 27.1%
梅南	181 100.0%	33 18.2%	56 30.9%	41 22.7%	51 28.2%

問３－７：あなたは以下の「西成」に関する事柄について、どの程度知っていますか、以下の項目について知っている程度を選んでください。

	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	179 100.0%	68 38.0%	48 26.8%	63 35.2%
少女マンガ 「フレンド」事件	180 100.0%	29 16.1%	32 17.8%	119 66.1%
てんのじ村	179 100.0%	29 16.2%	47 26.3%	103 57.5%
じゃりん子チエ	181 100.0%	102 56.4%	53 29.3%	26 14.4%
勝間なんさん	178 100.0%	12 6.7%	36 20.2%	130 73.0%
釜ヶ崎暴動	182 100.0%	99 54.4%	58 31.9%	25 13.7%
ふたりっ子	180 100.0%	76 42.2%	62 34.4%	42 23.3%

問３－８：西成区には社会的に立場の弱い人が多く住んでいます、どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。３つまで選んでください。

	計	高齢者	韓国 朝鮮人	中国・東南 アジア 出身者	沖縄 出身者	同和地区 住民
西成区就労者 アンケート	179 100.0%	68 38.0%	26 14.5%	9 5.0%	0 0.0%	43 24.0%

	日雇 労働者	ひとり親 家庭	障害者	野宿 生活者	零細 商工業者
西成区就労者 アンケート	111 62.0%	5 2.8%	21 11.7%	150 83.8%	35 19.6%

問４－１：あなた個人の経験についてお聞きします。西成区で働いていることによって、あなたは直接に冷やかされたりしたことがありますか、あるいは西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか、以下の設問に「ある」「ない」などの回答を選んでください。

	計	ある	ない	覚えていない
西成で働いていることを 冷やかされた	182 100.0%	35 19.2%	135 74.2%	12 6.6%
西成の地域や人々への 差別を見聞きした	182 100.0%	76 41.8%	89 48.9%	17 9.3%

問４－２：上記設問４－１で「就労冷やかしある」と回答された方に聞きます、それはどのような社会関係や場所の出来事ですか、当てはまるもの全てを選んでください。

	計	友人から	学校などの 先生から	行政機関 窓口で	職場仲間 上司から	営業取引 などの中で
西成区就労者 アンケート	35 100.0%	29 82.9%	2 5.7%	0 0.0%	7 20.0%	7 20.0%

	冠婚葬祭 の場で	サークル的 活動の中で	宗教行事 などで	自宅の周り で	その他
西成区就労者 アンケート	0 0.0%	2 5.7%	0 0.0%	5 14.3%	2 5.7%

問４－３：上記設問４－１で「就労冷やかしある」と回答された方に聞きます、それはどのような内容のものでしたか、覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

	冷やかし 経験者数	自由記述者数
西成区就労者 アンケート	35 100.0%	30 85.7%

問４－４：上記設問４－１で「就労冷やかしある」と回答された方に聞きます、それらの差別や偏見を聞いたり読んだりした時、あなたはどのように思いましたか、思ったもの全てを選択してください。

	計	不愉快に 思った	腹が 立った	悲しく 思った	その通り だと思 った	やむを 得ないと 思った	相手を 問いただし 反論した	何とも 思わな かった	その他
西成区就労者 アンケート	35 100.0%	12 34.3%	4 11.4%	5 14.3%	1 2.9%	20 57.1%	2 5.7%	4 11.4%	4 11.4%

問４－５：上記設問４－１で「就労冷やかしある」と回答された方に聞きます、その場合あなたはどのように対処しましたか、当てはまるもの全てを選んでください。

	計	家族や 親戚に 相談	友人に 相談	人権 活動家 に相談	行政に 相談 連絡	差別者に 抗議し 話合った	何も しなかつた	その他
西成区就労者 アンケート	35 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	4 11.4%	28 80.0%	3 8.6%

問４－６：上記設問４－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます、それはどのような方から、あるいはどこで見聞きしましたか、当てはまるものを選んでください、複数の回答がある時は全てを選択してください。

	計	家族 から	親戚 から	近所 の人 から	学校・職場 の友達から	マスコミ から	学校先生 職場上司 から	公共の場 で他人の話を 聞いた	はっきり 覚えて いない
西成区就労者 アンケート	68 100.0%	10 14.7%	5 7.4%	10 14.7%	24 35.3%	30 44.1%	9 13.2%	10 14.7%	11 16.2%

問４－７：上記設問４－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます、それはどのような内容のものでしたか、覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

	差別見聞 経験者数	自由記述者数
西成区就労者 アンケート	76 100.0%	48 63.2%

問４－８：上記設問４－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます、それらの差別や偏見を聞いたり読んだりした時、あなたはどのように思いましたか、思ったもの全てを選んでください。

	計	不愉快に 思った	腹が 立った	悲しく 思った	その通り だと思 った	やむを 得ないと 思った	相手を 問いただし 反論した	何とも 思わな かった	その他
西成区就労者 アンケート	98 100.0%	25 25.5%	9 9.2%	17 17.3%	2 2.0%	27 27.6%	2 2.0%	11 11.2%	5 5.1%

問４－９：上記設問４－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます，その場合あなたはどのように対処しましたか，当てはまるもの全てを選んでください。

	計	家族や 親戚に 相談	友人に 相談	人権 活動家 に相談	行政に 相談 連絡	差別者に 抗議し 話し合った	何も しなかった	その他
西成区就労者 アンケート	71 100.0%	1 1.4%	5 7.0%	1 1.4%	2 2.8%	3 4.2%	55 77.5%	8 11.3%

問４－１０：あなたは西成に対する偏見や差別が社会に広まっていると思いますか，いずれかを選択してください。

	計	はい	いいえ	わからない
西成区就労者 アンケート	176 100.0%	45 25.6%	47 26.7%	84 47.7%

問４－１１：上記設問４－１０で「はい」と回答された方に質問します，「西成に対する差別や偏見がある」，この理由は何にあると思いますか，率直な意見をお書きください。

	偏見あると 思う回答者数	自由記述者数
西成区就労者 アンケート	45 100.0%	42 93.3%

問４－１２：あなた自身あるいはお子さんが就職して西成区で働くことになった場合，あなたはためらいを感じますか，当てはまるものを選んでください。

	計	はい	いいえ	何とも 言えない	わからない
西成区就労者 アンケート	182 100.0%	10 5.5%	109 59.9%	50 27.5%	13 7.1%

問４－１３：あなた自身あるいはお子さんが結婚して西成区で住むことになった場合，あなたはためらいを感じますか，当てはまるものを選んでください。

	計	はい	いいえ	何とも 言えない	わからない
西成区就労者 アンケート	182 100.0%	29 15.9%	86 47.3%	49 26.9%	18 9.9%

問４－１４：これまでの西成区での経験を踏まえて，あなたは西成区に住んでみたいと思いますか，当てはまるものを選んでください。

	計	住んで みたい	住みたく はない	わからない
西成区就労者 アンケート	182 100.0%	16 8.8%	72 39.6%	94 51.6%

問４－１５

西成に対する差別を無くしていくには、どのようなことをすれば良いと思われますか、３つまで選んでください。なお、よくわからない場合は「わからない」を選択してください。

	計	市民が差別を学習する	マスコミが良い面を宣伝する	行政による啓発活動の推進	大規模集客施設建設	区民が差別を無くす自助努力をする
西成区就労者アンケート	179 100.0%	29 16.2%	45 25.1%	23 12.8%	28 15.6%	42 23.5%
	区画整理などまちづくりを推進	弱者にやさしい施策を推進	日雇労働者の多い地区への施策を推進	同和地区外国籍住民施策を推進	その他	わからない
西成区就労者アンケート	67 37.4%	33 18.4%	61 34.1%	23 12.8%	11 6.1%	41 22.9%

問４－１６：西成に対する差別や偏見を無くするための、取り組みや行事があれば参加しますか、いずれかを選んでください。

	計	積極的に参加する	機会があれば参加してもよい	側面から援助したい	参加しない	わからない
西成区就労者アンケート	179 100.0%	7 3.9%	65 36.3%	24 13.4%	44 24.6%	39 21.8%

3. 西成区民アンケートの集計結果

アンケート配布数・返送数および回収率。

	計	西成区民 アンケート I	西成区民 アンケート (在日韓国・朝鮮人)
アンケート配布数	2409	2309	100
アンケート返送数	330	303	27
アンケート返送率	13.7%	13.1%	27.0%

注：以下では「在日韓国・朝鮮人」を「在日」と略して表記している。

問1-1：あなたの年齢は満何歳ですか。

	計	-20代	30代	40代	50代	60代	70代-
計	321	37	46	33	55	75	75
	100.0%	11.5%	14.3%	10.3%	17.1%	23.4%	23.4%
西成区民 アンケート	294	35	44	30	45	69	71
	100.0%	11.9%	15.0%	10.2%	15.3%	23.5%	24.1%
在日区民 アンケート	27	2	2	3	10	6	4
	100.0%	7.4%	7.4%	11.1%	37.0%	22.2%	14.8%

問1-2：あなたの性別は男女どちらですか。

	計	男	女
計	329	160	169
	100.0%	48.6%	51.4%
西成区民 アンケート	303	143	160
	100.0%	47.2%	52.8%
在日区民 アンケート	26	17	9
	100.0%	65.4%	34.6%

問1-3：あなたの世帯の種別は以下のどれに当てはまりますか、以下の中から1つを選んでください。

	計	1人暮らし	夫婦 2人だけ	夫婦と 子ども	親と同居	夫婦と 子どもと 夫婦の親	その他
計	327	61	67	96	42	25	26
	100.0%	18.7%	20.5%	29.4%	12.8%	7.6%	8.0%
西成区民 アンケート	300	60	68	84	40	24	24
	100.0%	20.0%	22.7%	28.0%	13.3%	8.0%	8.0%
在日区民 アンケート	27	1	9	12	2	1	2
	100.0%	3.7%	33.3%	44.4%	7.4%	3.7%	7.4%

問1-4：あなたは西成区で生まれましたか、それとも転入してきたのですか。また転入してきたのは何年前ですか。いずれかを選んで、「転入」を選んだ場合は転入後の居住年数を書いてください。

	計	西成区内 出生	転入
計	328	94	234
	100.0%	28.7%	71.3%
西成区民 アンケート	301	84	217
	100.0%	27.9%	72.1%
在日区民 アンケート	27	10	17
	100.0%	37.0%	63.0%

(「転入」を選んだ場合は転入後の居住年数を書いてください)

	計	-5年未満	10年未満	20年未満	30年未満	50年未満	50年以上-
計	232 100.0%	23 9.9%	24 10.3%	32 13.8%	28 12.1%	82 35.3%	43 18.5%
西成区民 アンケート	215 100.0%	23 10.7%	24 11.2%	28 13.0%	24 11.2%	73 34.0%	43 20.0%
在日区民 アンケート	17 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 23.5%	4 23.5%	9 52.9%	0 0.0%

問1-5：あなたは現在、西成区のどこに住んでおられますか、町名をお書きください。

	西成区民 アンケート	在日区民 アンケート	計		西成区民 アンケート	在日区民 アンケート	計
計	295 100.0%	27 100.0%	322 100.0%	鶴見橋	14 4.7%	7 25.9%	21 6.5%
旭	11 3.7%	5 18.5%	16 5.0%	出城	6 2.0%		6 1.9%
岸里	8 2.7%		8 2.5%	天下茶屋	16 5.4%		16 5.0%
岸里東	8 2.7%		8 2.5%	天下茶屋 北	3 1.0%		3 0.9%
北津守	18 6.1%		18 5.6%	天下茶屋 東	5 1.7%		5 1.6%
北開	2 0.7%		2 0.6%	天神ノ森	5 1.7%		5 1.6%
山王	13 4.4%	2 7.4%	15 4.7%	長橋	12 4.1%	3 11.1%	15 4.7%
潮路	11 3.7%		11 3.4%	中開	6 2.0%		6 1.9%
聖天下	5 1.7%		5 1.6%	梅南	8 2.7%		8 2.5%
千本北	19 6.4%		19 5.9%	萩ノ茶屋	4 1.4%	3 11.1%	7 2.2%
千本中	9 3.1%		9 2.8%	花園	1 0.3%		1 0.3%
千本南	8 2.7%		8 2.5%	花園北	7 2.4%		7 2.2%
太子	9 3.1%		9 2.8%	花園南	4 1.4%		4 1.2%
橋	10 3.4%		10 3.1%	松	8 2.7%	4 14.8%	12 3.7%
玉出	8 2.7%		8 2.5%	南津守	21 7.1%	1 3.7%	22 6.8%
玉出中	6 2.0%		6 1.9%	南開	7 2.4%		7 2.2%
玉出東	5 1.7%		5 1.6%	寝屋川市	1 0.3%		1 0.3%
津守	17 5.8%	2 7.4%	19 5.9%				

問1-6：あなたの現在のお住まいは、どのような形態ですか、以下の中から1つを選んでください。

	計	持家 一戸建	賃貸 一戸建	分譲 マン ション	公営住宅	民間賃貸 マン ション	アパート 文化住宅	社宅 官舎	寮 間借り	その他
計	327 100.0%	154 47.1%	18 5.5%	17 5.2%	29 8.9%	26 8.0%	52 15.9%	3 0.9%	4 1.2%	24 7.3%
西成区民 アンケート	300 100.0%	142 47.3%	16 5.3%	16 5.3%	27 9.0%	23 7.7%	49 16.3%	3 1.0%	4 1.3%	20 6.7%
在日区民 アンケート	27 100.0%	12 44.4%	2 7.4%	1 3.7%	2 7.4%	3 11.1%	3 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 14.8%

問１－７：あなたは収入のあるお仕事に就いていますか、それとも就いていませんか。以下の中から１つを選んでください。

	計	自営	家族 従業者	会社員 民間企業	公務員	パート バイト 派遣	日雇 臨時雇	学生	専業 主婦	無職	その他
計	328	59	15	54	8	33	6	11	36	87	19
	100.0%	18.0%	4.6%	16.5%	2.4%	10.1%	1.8%	3.4%	11.0%	26.5%	5.8%
西成区民 アンケート	301	53	13	51	8	30	3	10	33	82	18
	100.0%	17.6%	4.3%	16.9%	2.7%	10.0%	1.0%	3.3%	11.0%	27.2%	6.0%
在日区民 アンケート	27	6	2	3	0	3	3	1	3	5	1
	100.0%	22.2%	7.4%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	3.7%	11.1%	18.5%	3.7%

問１－８：仕事に就いている方にお聞きします、あなたの年間所得はいくらぐらいでしょうか、あてはまるものを選んでください。

	計	300万円 未満	600万円 未満	900万円 未満	900万円 以上
計	172	83	62	15	12
	100.0%	48.3%	36.0%	8.7%	7.0%
西成区民 アンケート	155	74	59	12	10
	100.0%	47.7%	38.1%	7.7%	6.5%
在日区民 アンケート	17	9	3	3	2
	100.0%	52.9%	17.6%	17.6%	11.8%

問１－９：仕事に就いている方にお聞きします、あなたの就労場所はどこですか。

	計	居住区内	それ以外の 大阪市内	大阪市外
計	171	91	65	15
	100.0%	53.2%	38.0%	8.8%
西成区民 アンケート	154	79	61	14
	100.0%	51.3%	39.6%	9.1%
在日区民 アンケート	17	12	4	1
	100.0%	70.6%	23.5%	5.9%

問２－１：あなたは「西成」に対してどのような感じを持っていますか、次の全ての項目について当てはまるものを選んでください。

問２－２：また、各項目の中で「そう思う」・「そう思わない」と、特に強く感じられているものは何でしょう、２つを選んで答えてください。

区民アンケート	計	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	わから ない	特に強く 思う	特に強く 思わない
特に強く感じるの 回答数						232 100.0%	230 100.0%
庶民的である	285 100.0%	243 85.3%	25 8.8%	6 2.1%	11 3.9%	167 72.0%	0 0.0%
歴史や伝統が 感じられる	278 100.0%	65 23.4%	94 33.8%	99 35.6%	20 7.2%	15 6.5%	24 10.4%
活気がある	277 100.0%	77 27.8%	94 33.9%	92 33.2%	14 5.1%	15 6.5%	60 26.1%
こわいところ である	277 100.0%	57 20.6%	88 31.8%	120 43.3%	12 4.3%	33 14.2%	57 24.8%
豊かである	277 100.0%	15 5.4%	93 33.6%	155 56.0%	14 5.1%	2 0.9%	64 27.8%
安心して 暮らせる	282 100.0%	79 28.0%	121 42.9%	72 25.5%	10 3.5%	17 7.3%	28 12.2%
閑静なところ である	279 100.0%	31 11.1%	73 26.2%	169 60.6%	6 2.2%	6 2.6%	74 32.2%

老朽住宅が 密集している	280 100.0%	149 53.2%	78 27.9%	38 13.6%	15 5.4%	66 28.4%	8 3.5%
公園や緑が多い	283 100.0%	37 13.1%	73 25.8%	160 56.5%	13 4.6%	13 5.6%	70 30.4%
交通の便がよい	287 100.0%	214 74.6%	36 12.5%	34 11.8%	3 1.0%	114 49.1%	21 9.1%
公共の施設や サービスが充実	283 100.0%	49 17.3%	103 36.4%	101 35.7%	30 10.6%	8 3.4%	34 14.8%

在日アンケート	計	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	わから ない	特に強く 思う	特に強く 思わない
特に強く感じるの 回答数						25 100.0%	23 100.0%
庶民的である	26 100.0%	23 88.5%	2 7.7%	0 0.0%	1 3.8%	15 60.0%	0 0.0%
歴史や伝統が 感じられる	24 100.0%	2 8.3%	4 16.7%	14 58.3%	4 16.7%	0 0.0%	2 8.7%
活気がある	26 100.0%	4 15.4%	10 38.5%	11 42.3%	1 3.8%	1 4.0%	12 52.2%
こわいところ である	26 100.0%	4 15.4%	13 50.0%	7 26.9%	2 7.7%	3 12.0%	3 13.0%
豊かである	26 100.0%	2 7.7%	4 15.4%	17 65.4%	3 11.5%	1 4.0%	7 30.4%
安心して 暮らせる	26 100.0%	6 23.1%	13 50.0%	6 23.1%	1 3.8%	0 0.0%	2 8.7%
閑静なところ である	25 100.0%	1 4.0%	7 28.0%	16 64.0%	1 4.0%	0 0.0%	6 26.1%
老朽住宅が 密集している	26 100.0%	21 80.8%	3 11.5%	2 7.7%	0 0.0%	10 40.0%	1 4.3%
公園や緑が多い	27 100.0%	2 7.4%	10 37.0%	14 51.9%	1 3.7%	0 0.0%	7 30.4%
交通の便がよい	26 100.0%	22 84.6%	4 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	15 60.0%	0 0.0%
公共の施設や サービスが充実	25 100.0%	3 12.0%	7 28.0%	9 36.0%	6 24.0%	2 8.0%	4 17.4%

区民・在日計	計	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	わから ない	特に強く 思う	特に強く 思わない
特に強く感じるの 回答数						257 100.0%	253 100.0%
庶民的である	311 100.0%	266 85.5%	27 8.7%	6 1.9%	12 3.9%	182 70.8%	0 0.0%
歴史や伝統が 感じられる	302 100.0%	67 22.2%	98 32.5%	113 37.4%	24 7.9%	15 5.8%	26 10.3%
活気がある	303 100.0%	81 26.7%	104 34.3%	103 34.0%	15 5.0%	16 6.2%	72 28.5%
こわいところ である	303 100.0%	61 20.1%	101 33.3%	127 41.9%	14 4.6%	36 14.0%	60 23.7%
豊かである	303 100.0%	17 5.6%	97 32.0%	172 56.8%	17 5.6%	3 1.2%	71 28.1%
安心して 暮らせる	308 100.0%	85 27.6%	134 43.5%	78 25.3%	11 3.6%	17 6.6%	30 11.9%
閑静なところ である	304 100.0%	32 10.5%	80 26.3%	185 60.9%	7 2.3%	6 2.3%	80 31.6%
老朽住宅が 密集している	306 100.0%	170 55.6%	81 26.5%	40 13.1%	15 4.9%	76 29.6%	9 3.6%
公園や緑が多い	310 100.0%	39 12.6%	83 26.8%	174 56.1%	14 4.5%	13 5.1%	77 30.4%
交通の便がよい	313 100.0%	236 75.4%	40 12.8%	34 10.9%	3 1.0%	129 50.2%	21 8.3%
公共の施設や サービスが充実	308 100.0%	52 16.9%	110 35.7%	110 35.7%	36 11.7%	10 3.9%	38 15.0%

問２－３－１：「西成」という言葉を聞いた時、すぐに浮かぶ感じは、プラスあるいはマイナスいずれのものでしょうか、また、それに関連する以下の設問にお答えください。

	計	プラス	どちらとも いえない	マイナス	わからない
計	315 100.0%	10 3.2%	101 32.1%	176 55.9%	28 8.9%
西成区民 アンケート	289 100.0%	9 3.1%	95 32.9%	160 55.4%	25 8.7%
在日区民 アンケート	26 100.0%	1 3.8%	6 23.1%	16 61.5%	3 11.5%

問２－３－２：上記設問２－３－１で「プラス」あるいは「マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを象徴する事柄（地名・駅名・社会集団や出来事などを自由記述）は何ですか、３つまででお答えください。わからない時は「わからない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	181 100.0%	150 82.9%	31 17.1%
西成区民 アンケート	165 100.0%	135 81.8%	30 18.2%
在日区民 アンケート	16 100.0%	15 93.8%	1 6.3%

（象徴事柄の上位まとめ）

順位	西成区民 アンケート	在日区民 アンケート
1	あいりん 17.5%	あいりん 13.5%
2	釜ヶ崎 8.9%	暴動 8.1%
3	ホームレス 6.3%	テント村 5.4%
4	同和 4.4%	社会集団 5.4%
5	西成 3.9%	以下同率 多数

問２－３－３：上記設問２－３－１で「プラス」あるいは「マイナス」を選んだ方にお聞きします。それを感じるようになったのはいつ頃からと思われますか、何年頃、何年前、何歳の時、万博があった頃とか（自由記述）でお答えください。覚えていない方は「覚えていない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	177 100.0%	122 68.9%	55 31.1%
西成区民 アンケート	160 100.0%	112 70.0%	48 30.0%
在日区民 アンケート	17 100.0%	10 58.8%	7 41.2%

問２－３－４：上記設問２－３－１で「プラス」あるいは「マイナス」を選んだ方にお聞きします。そのように感じるようになったきっかけは何でしょうか、自由に記入してください。よくわからない場合は「わからない」を選択してください。

	計	自由 記述者数	わからない
計	169 100.0%	135 79.9%	34 20.1%
西成区民 アンケート	153 100.0%	123 80.4%	30 19.6%
在日区民 アンケート	16 100.0%	12 75.0%	4 25.0%

問２－４：全体的に西成区はあなたにとって住み易い町ですか、当てはまるものを選んでください。

	計	住み心地 がよい	何とも 言えない	やや住み 心地が悪い	わからない
計	316 100.0%	162 51.3%	102 32.3%	48 15.2%	4 1.3%
西成区民 アンケート	289 100.0%	150 53.0%	93 32.9%	42 14.8%	4 1.4%
在日区民 アンケート	27 100.0%	12 44.4%	9 33.3%	6 22.2%	0 0.0%

問２－５：あなたはこれからも西成区で暮らしていこうと思いませんか、当てはまるものを選んでください。

	計	住み 続けたい	転出 したい	どちらでも よい	わからない
計	317 100.0%	149 47.0%	53 16.7%	91 28.7%	24 7.6%
西成区民 アンケート	290 100.0%	140 48.3%	48 16.6%	81 27.9%	21 7.2%
在日区民 アンケート	27 100.0%	9 33.3%	5 18.5%	10 37.0%	3 11.1%

問２－６：あなたは以下の「西成」に関する事柄について、どの程度知っていますか、以下の項目について知っている程度を選んでください。

区民アンケート	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	276 100.0%	148 53.6%	87 31.5%	41 14.9%
少女マンガ 「フレンド」事件	267 100.0%	47 17.6%	31 11.6%	189 70.8%
てんのじ村	275 100.0%	73 26.5%	121 44.0%	81 29.5%
じゃりん子チエ	269 100.0%	153 56.9%	59 21.9%	57 21.2%
勝間なんきん	274 100.0%	73 26.6%	77 28.1%	124 45.3%
釜ヶ崎暴動	286 100.0%	221 77.3%	54 18.9%	11 3.8%
ふたりっ子	278 100.0%	168 60.4%	65 23.4%	45 16.2%

在日アンケート	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	27 100.0%	25 92.6%	0 0.0%	2 7.4%
少女マンガ 「フレンド」事件	25 100.0%	3 12.0%	3 12.0%	19 76.0%
てんのじ村	24 100.0%	9 37.5%	5 20.8%	10 41.7%
じゃりん子チエ	25 100.0%	12 48.0%	7 28.0%	6 24.0%
勝間なんきん	25 100.0%	5 20.0%	9 36.0%	11 44.0%
釜ヶ崎暴動	27 100.0%	21 77.8%	3 11.1%	3 11.1%
ふたりっ子	26 100.0%	19 73.1%	2 7.7%	5 19.2%

区民・在日計	計	よく 知っている	名称だけ 知っている	まったく 知らない
皮革産業が盛ん	303 100.0%	173 57.1%	87 28.7%	43 14.2%
少女マンガ 「フレンド」事件	292 100.0%	50 17.1%	34 11.6%	208 71.2%
てんのじ村	299 100.0%	82 27.4%	126 42.1%	91 30.4%
じゃりん子チエ	294 100.0%	165 56.1%	66 22.4%	63 21.4%
勝間なんきん	299 100.0%	78 26.1%	86 28.8%	135 45.2%
釜ヶ崎暴動	313 100.0%	242 77.3%	57 18.2%	14 4.5%
ふたりっ子	304 100.0%	187 61.5%	67 22.0%	50 16.4%

問２－７：西成区には社会的に立場の弱い人が多く住んでいます、どのような人々の問題が一番深刻であると思いますか。３つまで選んでください。

	計	高齢者	韓国 朝鮮人	中国・東南 アジア 出身者	沖縄 出身者	同和地区 住民
計	320 100.0%	182 56.9%	62 19.4%	10 3.1%	3 0.9%	80 25.0%
西成区民 アンケート	293 100.0%	167 57.0%	49 16.7%	9 3.1%	3 1.0%	74 25.3%
在日区民 アンケート	27 100.0%	15 55.6%	13 48.1%	1 3.7%	0 0.0%	6 22.2%

	日雇 労働者	ひとり親 家庭	障害者	野宿 生活者	零細 商工業者
計	181 56.6%	21 6.6%	34 10.6%	264 82.5%	68 21.3%
西成区民 アンケート	172 58.7%	19 6.5%	33 11.3%	241 82.3%	60 20.5%
在日区民 アンケート	9 33.3%	2 7.4%	1 3.7%	23 85.2%	8 29.6%

問３－１：あなた個人の経験についてお聞きます。西成区で働いていることによって、あなたは直接に冷やかされたりしたことがありますか、あるいは西成の地域や人々に対する差別や偏見を、見たり聞いたりしたことがありますか、以下の設問に「ある」・「ない」などの回答を選んでください。

区民アンケート	計	ある	ない	覚えていない
区民であることを直接差別された	282 100.0%	68 24.1%	195 69.1%	19 6.7%
西成への差別を見聞きした	284 100.0%	171 60.2%	100 35.2%	13 4.6%

在日アンケート	計	ある	ない	覚えていない
区民であることを直接差別された	25 100.0%	8 32.0%	14 56.0%	3 12.0%
西成への差別を見聞きした	27 100.0%	19 70.4%	4 14.8%	4 14.8%

区民・在日計	計	ある	ない	覚えていない
区民であることを直接差別された	307 100.0%	76 24.8%	209 68.1%	22 7.2%
西成への差別を見聞きした	311 100.0%	190 61.1%	104 33.4%	17 5.5%

問３－２：上記設問３－１で「直接差別ある」と回答された方に聞きます、それはどのような社会関係や場所の出来事ですか、当てはまるもの全てを選んでください。

	計	友人から	学校などの先生から	行政機関窓口で	職場仲間上司から	営業取引などの中で
計	77 100.0%	43 55.8%	12 15.6%	8 10.4%	33 42.9%	7 9.1%
西成区民アンケート	67 100.0%	40 59.7%	11 16.4%	7 10.4%	29 43.3%	6 9.0%
在日区民アンケート	10 100.0%	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	4 40.0%	1 10.0%

	冠婚葬祭の場で	サークル的活動の中で	宗教行事などで	自宅の周りで	その他
計	5 6.5%	13 16.9%	2 2.6%	7 9.2%	17 22.1%
西成区民アンケート	4 6.0%	13 19.4%	2 3.0%	6 9.0%	16 23.9%
在日区民アンケート	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%

問３－３：上記設問３－１で「直接差別ある」と回答された方に聞きます、それはどのような内容のものでしたか、覚えていることで結構ですから、自由に書いてください。

	直接差別経験者数	自由記述者数
計	76 100.0%	72 94.7%
西成区民アンケート	68 100.0%	65 95.6%
在日区民アンケート	8 100.0%	7 87.5%

問３－４：上記設問３－１で「直接差別ある」と回答された方に聞きます，それらの差別や偏見を聞いたり読んだりした時，あなたはどのように思いましたか，思ったもの全てを選択してください。

	計	不愉快に 思った	腹が 立った	悲しく 思った	その通り だと思 った	やむを 得ないと 思った	相手を 問いただし 反論した	何とも 思わな かった	その他
計	79 100.0%	50 63.3%	34 43.0%	34 43.0%	10 12.7%	30 38.0%	11 13.9%	3 3.8%	8 10.1%
西成区民 アンケート	70 100.0%	43 61.4%	28 40.0%	31 44.3%	10 14.3%	29 41.4%	9 12.9%	3 4.3%	8 11.4%
在日区民 アンケート	9 100.0%	7 77.8%	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%

問３－５：上記設問３－１で「直接差別ある」と回答された方に聞きます，その場合あなたはどのように対処しましたか，当てはまるもの全てを選んでください。

	計	家族や 親戚に 相談	友人に 相談	人権 活動家 に相談	行政に 相談 連絡	差別者に 抗議し 話し合った	何も しなかつた	その他
計	78 100.0%	5 6.4%	6 7.7%	2 2.6%	4 5.1%	15 19.2%	44 56.4%	15 19.2%
西成区民 アンケート	68 100.0%	4 5.9%	5 7.4%	2 2.9%	4 5.9%	11 16.2%	39 57.4%	15 22.1%
在日区民 アンケート	10 100.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 40.0%	5 50.0%	0 0.0%

問３－６：上記設問３－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます，それはどのような方から，あるいはどこで見聞きしましたか，当てはまるものを選んでください，複数の回答がある時は全てを選択してください。

	計	家族 から	親戚 から	近所 の人 から	学校・職場 の友達から	マスコミ から	学校先生 職場上司 から	公共の場 で他人の話を 聞いた	はっきり 覚えて いない
計	172 100.0%	46 26.7%	31 18.0%	65 37.8%	70 40.7%	67 39.0%	18 10.5%	36 20.9%	8 4.7%
西成区民 アンケート	153 100.0%	43 28.1%	27 17.6%	56 36.6%	63 41.2%	61 39.9%	17 11.1%	28 18.3%	7 4.6%
在日区民 アンケート	19 100.0%	3 15.8%	4 21.1%	9 47.4%	7 36.8%	6 31.6%	1 5.3%	8 42.1%	1 5.3%

問３－７：上記設問３－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます，それはどのような内容のものでしたか，覚えていることで結構ですから，自由に書いてください。

	差別見聞 経験者数	自由記述者数
計	190 100.0%	136 71.6%
西成区民 アンケート	171 100.0%	122 71.3%
在日区民 アンケート	19 100.0%	14 73.7%

問３－８：上記設問３－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます、それらの差別や偏見を聞いたり読んだりした時、あなたはどのように思いましたか、思ったもの全てを選んでください。

	計	不愉快に 思った	腹が 立った	悲しく 思った	その通り だと思 った	やむを 得ないと 思った	相手を 問いただし 反論した	何とも 思わな かった	その他
計	178	109	47	69	20	60	8	11	18
	100.0%	61.2%	26.4%	38.8%	11.2%	33.7%	4.5%	6.2%	10.1%
西成区民 アンケート	160	94	38	62	19	53	8	10	17
	100.0%	58.8%	23.8%	38.8%	11.9%	33.1%	5.0%	6.3%	10.6%
在日区民 アンケート	18	15	9	7	1	7	0	1	1
	100.0%	83.3%	50.0%	38.9%	5.6%	38.9%	0.0%	5.6%	5.6%

問３－９：上記設問３－１で「見聞ある」と回答された方に聞きます、その場合あなたはどのように対処しましたか、当てはまるもの全てを選んでください。

	計	家族や 親戚に 相談	友人に 相談	人権 活動家 に相談	行政に 相談 連絡	差別者に 抗議し 話し合った	何も しなかつた	その他
計	172	17	19	4	5	12	113	22
	100.0%	9.9%	11.0%	2.3%	2.9%	7.0%	65.7%	12.8%
西成区民 アンケート	154	15	16	4	4	7	106	19
	100.0%	9.7%	10.4%	2.6%	2.6%	4.5%	68.8%	12.3%
在日区民 アンケート	18	2	3	0	1	5	7	3
	100.0%	11.1%	16.7%	0.0%	5.6%	27.8%	38.9%	16.7%

問３－１０：旅行先などで「大阪のどこから来たの」と問われたら、「西成（区）からです」と答えられますか、当てはまるものを選んでください。

	計	躊躇無く 答えられる	少し躊躇は あるが 答えられる	答えられな い	わからない
計	311	155	109	38	9
	100.0%	49.8%	35.0%	12.2%	2.9%
西成区民 アンケート	284	138	100	37	9
	100.0%	48.6%	35.2%	13.0%	3.2%
在日区民 アンケート	27	17	9	1	0
	100.0%	63.0%	33.3%	3.7%	0.0%

問３－１１：上記設問３－１０で「答えられない」を選んだ方に聞きます、過去にそういった経験をお持ちですか、あてはまるもの１つを選んでください。

	計	持っている	持って いない	答えたく ない
計	38	27	6	5
	100.0%	71.1%	15.8%	13.2%
西成区民 アンケート	37	26	6	5
	100.0%	70.3%	16.2%	13.5%
在日区民 アンケート	1	1	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%

問３－１２：あなたは西成に対する偏見や差別が社会に広まっていると思いますか、いずれかを選択してください。

	計	はい	いいえ	わからない
計	294	137	49	108
	100.0%	46.6%	16.7%	36.7%
西成区民 アンケート	267	124	45	98
	100.0%	46.4%	16.9%	36.7%
在日区民 アンケート	27	13	4	10
	100.0%	48.1%	14.8%	37.0%

問３－１３：上記設問３－１２で「はい」と回答された方に質問します、「西成に対する差別や偏見がある」、この理由は何にあると思いますか、率直な意見をお書きください。

	差別見聞 経験者数	自由記述者数
計	137 100.0%	132 96.4%
西成区民 アンケート	124 100.0%	119 96.0%
在日区民 アンケート	13 100.0%	13 100.0%

問４－１：あなたは地元で行われている事業やイベントに参加したことがありますか、あてはまるものを選んでください。

区民アンケート	計	よく 参加する	たまに 参加する	参加した ことがない
区民祭	272 100.0%	66 24.3%	84 30.9%	122 44.9%
伝統的な地域の 祭りや行事	266 100.0%	77 28.9%	78 29.3%	111 41.7%
町内会や校区 などでの催し	267 100.0%	65 24.3%	96 36.0%	106 39.7%
福祉などの ボランティア活動	253 100.0%	38 15.0%	41 16.2%	174 68.8%
人権に関する 学習会	256 100.0%	30 11.7%	44 17.2%	182 71.1%
その他	205 100.0%	16 7.8%	25 12.2%	164 80.0%

在日アンケート	計	よく 参加する	たまに 参加する	参加した ことがない
区民祭	26 100.0%	4 15.4%	14 53.8%	8 30.8%
伝統的な地域の 祭りや行事	21 100.0%	2 9.5%	7 33.3%	12 57.1%
町内会や校区 などでの催し	23 100.0%	4 17.4%	10 43.5%	9 39.1%
福祉などの ボランティア活動	20 100.0%	2 10.0%	3 15.0%	15 75.0%
人権に関する 学習会	20 100.0%	0 0.0%	4 20.0%	16 80.0%
その他	15 100.0%	2 13.3%	1 6.7%	12 80.0%

区民・在日計	計	よく 参加する	たまに 参加する	参加した ことがない
区民祭	298 100.0%	70 23.5%	98 32.9%	130 43.6%
伝統的な地域の 祭りや行事	287 100.0%	79 27.5%	85 29.6%	123 42.9%
町内会や校区 などでの催し	290 100.0%	69 23.8%	106 36.6%	115 39.7%
福祉などの ボランティア活動	273 100.0%	40 14.7%	44 16.1%	189 69.2%
人権に関する 学習会	276 100.0%	30 10.9%	48 17.4%	198 71.7%
その他	220 100.0%	18 8.2%	26 11.8%	176 80.0%

問４－２：あなたが西成区民であることで、誇りに思うことは何ですか、当てはまるもの全てを選んでください、無いと思う方は「ない」を選択してください。

	計	庶民的な 下町である	芸能・文化を 育んできた 町である	地場産業 伝統産業 がある	歴史的遺産や 史跡がある	多様な人が 暮らす生活 文化がある	ない
計	303 100.0%	211 69.6%	44 14.5%	35 11.6%	48 15.8%	108 35.6%	69 22.8%
西成区民 アンケート	276 100.0%	196 71.0%	43 15.6%	27 9.8%	47 17.0%	93 33.7%	62 22.5%
在日区民 アンケート	27 100.0%	15 55.6%	1 3.7%	8 29.6%	1 3.7%	15 55.6%	7 25.9%

問５－１：あなたは、あいりん地域（釜ヶ崎）を訪れたことがありますか、あるいは住んでいるのですか、いずれかを選んでください。

	計	訪れた ことがある	住んでいる	いずれでも ない
計	313 100.0%	217 69.3%	25 8.0%	71 22.7%
西成区民 アンケート	288 100.0%	199 69.1%	22 7.6%	67 23.3%
在日区民 アンケート	25 100.0%	18 72.0%	3 12.0%	4 16.0%

問５－２：上記設問５－１で「訪れたことがある」と回答された方へお聞きします、その場所を訪れた理由は何ですか、以下の中から当てはまるもの全てを選んでください。

	計	買い物	親戚・友人 宅の訪問	勤務地が ある	営業など 仕事で訪問
計	221 100.0%	50 22.6%	20 9.0%	6 2.7%	31 14.0%
西成区民 アンケート	196 100.0%	41 20.9%	17 8.7%	4 2.0%	28 14.3%
在日区民 アンケート	25 100.0%	9 36.0%	3 12.0%	2 8.0%	3 12.0%

	娯楽・遊び	福祉・学習 施設の利用	散策・散歩	興味深い ところだから	その他
計	33 14.9%	15 6.8%	65 29.4%	16 7.2%	53 24.0%
西成区民 アンケート	30 15.3%	15 7.7%	62 31.6%	14 7.1%	49 25.0%
在日区民 アンケート	3 12.0%	0 0.0%	3 12.0%	2 8.0%	4 16.0%

その他の回答のほとんどは「西成警察」だった。

問５－３：あなたは、あいりん地域（釜ヶ崎）をどのように思いますか、思うもの全てを選んでください。

	計	汚い	活気がある	庶民的
計	300 100.0%	194 64.7%	26 8.7%	70 23.3%
西成区民 アンケート	274 100.0%	175 63.9%	25 9.1%	65 23.7%
在日区民 アンケート	26 100.0%	19 73.1%	1 3.8%	5 19.2%

	自分達とは 異質な人々 の街	どこか他の区に 移転して欲しい	日雇労働者の 街として再生 して欲しい	野宿生活者の人権と 生活を守る政策を 実施して欲しい
計	90 30.0%	56 18.7%	159 53.0%	179 59.7%
西成区民 アンケート	85 31.0%	50 18.2%	142 51.8%	164 59.9%
在日区民 アンケート	5 19.2%	6 23.1%	17 65.4%	15 57.7%

問６－１：西成に対する差別を無くしていくには、どのようなことをすれば良いと思われますか、３つまで選んでください。なお、よくわからない場合は「わからない」を選択してください。

	計	市民が差別を学習する	マスコミが 良い面を 宣伝する	行政による 啓発活動の 推進	大規模 集客施設 建設	区民が 差別を無くす 自助努力をする
計	314 100.0%	68 21.7%	134 42.7%	59 18.8%	66 21.0%	89 28.3%
西成区民 アンケート	288 100.0%	58 20.1%	124 43.1%	55 19.1%	62 21.5%	78 27.1%
在日区民 アンケート	26 100.0%	10 38.5%	10 38.5%	4 15.4%	4 15.4%	11 42.3%

	区画整理など まちづくりを 推進	弱者に やさしい 施策を推進	日雇労働者の 多い地区への 施策を推進	同和地区 外国籍住民 施策を推進	その他	わからない
計	106 33.8%	133 42.4%	110 35.0%	48 15.3%	28 8.9%	42 13.4%
西成区民 アンケート	95 33.0%	121 42.0%	102 35.4%	39 13.5%	26 9.0%	39 13.5%
在日区民 アンケート	11 42.3%	12 46.2%	8 30.8%	9 34.6%	2 7.7%	3 11.5%

問６－２：西成に対する差別や偏見を無くするための、取り組みや行事があれば参加しますか、いずれかを選んでください。

	計	積極的に 参加する	機会があれば 参加してもよい	側面から 援助したい	参加しない	わからない
計	308 100.0%	22 7.1%	118 38.3%	41 13.3%	43 14.0%	84 27.3%
西成区民 アンケート	283 100.0%	21 7.4%	105 37.1%	36 12.7%	42 14.8%	79 27.9%
在日区民 アンケート	25 100.0%	1 4.0%	13 52.0%	5 20.0%	1 4.0%	5 20.0%

